

千葉県所在古墳詳細分布調査報告書

平成2年3月

千葉県教育委員会

文化財課

千葉県所在古墳詳細分布調査報告書

平成2年3月

千葉県教育委員会

序

首都圏に位置する本県では、近年のめざましい経済、社会の発展に伴い、開発事業が特に著しく、その波は県内各所に及んでいます。そのため、地理的景観や歴史的風土に急激かつ大きな変貌が見られ、埋蔵文化財の保存にも大きな影響を及ぼしています。

このような状況の中で、埋蔵文化財の保護を徹底するためには、その所在を正確に把握し、その重要性を一般に十分周知徹底することが必要です。このような観点から本県においては、埋蔵文化財周知地図の整備に努め、各市町村別及び全県版の周知地図の整備をほぼ完了しました。その結果、全県で2万か所余りの所在が確認されましたが、一部を除いて、正確な範囲や時代、性格など個々の詳細な内容までは把握されていないのが現状です。そこで、千葉県教育委員会では一歩前進した周知事業として、遺跡の種類別の詳細分布調査を計画し、国庫補助を受けて第1期に貝塚（昭和55～57年度）、第2期に生産遺跡（昭和58～60）の調査を実施し、その成果を公刊してきました。

昭和61年度からは第3期目の事業として、「王賜」銘鉄剣の発見などで一般の関心も急速に高まりつつある古墳（横穴古墳を含む）を対象とする調査を開始し、4か年をかけて調査を終了しました。その結果、多くの新発見古墳を含め、12,000基にのぼる古墳を確認し、立地、規模、墳形など詳細な内容を記録した調査カードを整備し、実態を把握することができました。

このたび、その成果を報告書として刊行する運びとなりましたが、本書が埋蔵文化財保護のための基礎資料として、また学術的資料としても、広く活用されることを願ってやみません。

終わりに、文化庁を始めとして、御協力いただいた各調査委員の皆様、各市町村教育委員会、各地区文化財センター等の関係者各位に心からお礼申し上げます。

平成2年3月31日

千葉県教育庁文化課長 福田 誠

例 言

1. 本調査報告書は、千葉県教育委員会が国庫補助を得て、昭和61年度から平成元年度にかけて実施した千葉県所在古墳詳細分布調査の結果をまとめたものである。

2. 調査は、千葉県教育委員会が主体となり、委嘱した調査指導委員、調査員の他、各市町村教育委員会等の協力を得て実施したものである。

3. 本書に掲載した地図は国土地理院発行の2万5千分の1地形図を5万分の1に縮小し、複製したものである（承認番号平2 関復、第103号）。

4. 地図の掲載順序は千葉県の北から東へとし、地図名の前に番号をつけた。なお、紙面の都合上、部分的な使用をしたものがあるが、地図名は原因のままである。

5. 各古墳の名称は、原則として旧来からの呼称を用いた。

6. 古墳番号は各市町村ごとに1から通し番号を付している。

7. 分布地図における古墳の表記は下記のとおり、墳形別にしてある。なお、消滅したものについては白抜きにして表現してある。

古 墳 ● 円墳 ■ 方墳 ▲ 前方後円墳 ■ 前方後方墳

古 墳 群 ● ■ ▲

横穴

横穴群

8. 原稿の執筆は、第2章、第3章、第4章については調査指導委員及び調査員が分担した。それ以外は、県文化課職員が執筆した。

9. 本調査報告書の編集は千葉県教育庁文化課で行った。

目 次

序 文 例 言 目 次

第1章 調査の方法と古墳分布の概略	1
第1節 調査の目的と意義	1
第2節 調査の方法	2
第3節 調査結果のとりまとめ	4
第2章 地区別古墳分布の解説	6
第1節 東葛飾地区	古 谷 毅 6
第2節 印旛地区	有 沢 要 10
第3節 香取地区	萩 悦 久 16
第4節 海匝地区	萩 悦 久 19
第5節 山武地区	福 間 元 22
第6節 長生地区	福 間 元 26
第7節 千葉地区	田 中 清 美 29
第8節 市原地区	田 中 清 美 31
第9節 君津地区	小 沢 洋 37
第10節 夷隅地区	戸 倉 茂 行 52
第11節 安房地区	戸 倉 茂 行 54
第3章 房総の古墳の特質	58
第1節 房総における高塚古墳について	杉 山 吾 作 58
第2節 房総における横穴墓について	根 山 林 雄 64
第3節 房総における方形周溝墓等について	山 岸 良 二 73
第4節 房総の古墳の特質について	大 塚 初 重 83
第4章 千葉県内古墳一覧	87
古墳一覧表	88
分布地図	182

第1章 調査の方法と古墳分布の概略

第1節 調査の目的と意義

埋蔵文化財の所在を一般に周知徹底することは、その保護対策の基本であり、最も重要な施策である。このため、千葉県教育委員会では、国庫補助金や県単独の補助金などにより、市町村別の埋蔵文化財周知地図の作成を推進し、その整備をはば終了するとともに、これらの成果を基に、独自の補足調査を加えた全県版の周知地図（4分冊）の刊行を、国庫補助を得て昭和62年度に終了した。さらに平成元年度からは、新たな周知事業として、埋蔵文化財の所在を現地において明示する標柱の設置を計画的に行うこととし、これに要する費用の県費による助成を開始したところである。

これらの埋蔵文化財分布調査の結果、本県においては約23,000か所の遺跡の所在が確認され、上記の周知地図は、各種の開発事業と埋蔵文化財保護との調整における基本資料として重要な役割を果たしている。しかしながら、所在の周知に止まらず一歩前進して、数多くの遺跡の性格や範囲を正確に把握し、その中で特に重要で、なおかつ開発による現状変更のおそれのあるものについては、史跡指定を初めとする具体的な保護措置を講じる等、より積極的な埋蔵文化財保護対策も急務となってきた。

このような観点から、千葉県教育委員会では、昭和55年度以来、種類別の遺跡詳細分布調査を開始し、既に貝塚（昭和55～57年度）、生産遺跡（昭和58～60年度）の調査を行い、その成果を公表してきた。

これらに続く第3期の調査として、昭和61年度から「古墳」を対象として詳細分布調査を実施することとなり、当初3か年計画で事業を開始した。ところが、山林の荒廃により調査の進捗が著しく阻害されたことなどの理由から、期間を4か年に延長し、このたびようやく報告書刊行の運びとなった。

県下の古墳数は、従来約1万基（横穴を含む）とみられてきたが、近年の各種開発の急速な伸長に伴って、発掘調査後に消滅するものが急増している。一方、古墳発生期の鍵をにぎる遺跡として注目された市原市の神門古墳群や、「王賜」銘鉄剣の出土でマスコミにも大きく取り上げられた同じ市原市の稻荷台1号墳などの発掘調査によって、全国的にも房総の古墳文化の重要性と特異性が注目され、一般県民の関心も高まっている。このような状況の中で、古墳の所在状況の実態を把握し、その結果に基づく保護対策を策定していくことは必要不可欠な事業となっている。

今回の調査では、記録保存後に消滅したものも含め12,748基（古墳8,665、横穴4,083）の所在が確認された。未調査のまま消滅し把握しようのないものもかなり存在するであろうこと、従来古墳とされてきたもので踏査の結果古墳ではなく信仰上の「塚」と認められ除外したものも多いことを考えると、本来の所在数はこれよりかなり多かったと見るべきであろう。（詳細な現地確認の結果、中近世のいわゆる塚が、古墳として登録されていたケースもかなりあった訳であるが、これらのデータについても、本報告書に記載したいと考えていたが、紙数の制約もあり果たせなかった。将来において、このような塚についての詳細分布調査も実施する必要性を感じている。）

踏査の及ばなかったものも若干はあると思われるが、本報告書に記載されたものが、千葉県において現存するか又は内容の知られる古墳のほぼ全てと理解して差支えないと思われる。ただし、未調査のままで失われた多数の古墳の存在（実数は今のところまったく押えることができない）を考慮すると、実際に築造された数は、高塚古墳だけで1万基前後に達するものであった可能性は高いと思われる（方形周溝墓は含まない）。

この報告書には、現在において作成した調査カードの内容のごく一部しか掲載できず、古墳分布の概況を示すにとどまった。今後、今回作成した基礎データを基にした個別調査を積み上げ、より充実した古墳資料を整備していきたい。

第1章 調査の方法と古墳分布の概略

いと考えている。

それにしても、今回の調査を通じて、未調査のまま、また記録保存後であったとしても、失われていく古墳の多いことが改めて痛感させられた。今後、その保護対策の充実が急務であることを訴える事実である。既に、今回の調査成果などを基に、県教育委員会は昭和63年度に市原市神門5号墳と君津市飯籠塚古墳の2基、平成元年度には成田市公津原古墳群(40基)と山武郡松尾町大堀権現塚古墳を県の史跡に指定し、埋蔵文化財保護上の大きな前進を図ったところである。今後とも各種の調査結果を活用して、古墳に限らず各種の重要遺跡について史跡指定等の保護対策を推進していく所存であるが、そのためにも本書が各方面で十分活用されることを期待するものである。

第2節 調査の方法

調査は千葉県教育委員会が調査主体となり、古墳に見識の深い学識経験者5名を調査指導委員に委嘱し、現地調査を実施したが、調査地域が広いため、各年度毎に調査地域に詳しい調査員を併せて委嘱し、現地調査、資料調査の充実と円滑化を図った。

調査指導委員及び調査員名簿

昭和61年度		
(1) 指導委員	有澤 要	鉾田藩市文化財センター
大塚初重	川端弘士	同上
相山林雄	宇佐美義春	
杉山晋作	原田享二	佐原市教育委員会
山岸良二	平野功	小見川町教育委員会
藤下昌信	勝又貴行	多古町教育委員会
(2) 調査員	石橋宏克	佐原市立佐原中学校
湖口淳一	越川敏夫	
菊池健一	荻悦久	県立匝瑳高等学校
菊池健一	八代市教育委員会	
枝川 旬	古谷 毅	国学院栃木大付属高等学校

昭和62年度		
(1) 指導委員	浅野雅則	水更津市教育委員会
大塚初重	小沢洋	鉾田藩市文化財センター
相山林雄	平野雅之	〃
杉山晋作	江江章	〃
山岸良二	豊港幸正	〃
藤下昌信	戸倉茂行	〃
(2) 調査員	藤岡幸司	〃
田中清美	福間元	芝山には博物館
浅利幸一	平山誠一	鉾田藩市南部地区文化財センター
加藤正信	石本俊則	〃
	土屋潤一郎	〃

第1節 調査の目的と意義

昭和63年度

(1) 指導委員	小川和博
大塚初重	藤原均
相山林雄	戸倉茂行
杉山晋作	池田和弘
山岸良二	柴本一郎
藤下昌信	菊池健一
(2) 調査員	古谷 毅
小川力也	有沢 要
鈴木庄一	宇佐美義春
杉山孝則	勝又貴行
松本昌弘	平野 功

平成元年度

(1) 指導委員	(2) 調査員
大塚初重	有沢 要
相山林雄	荻悦久
杉山晋作	小沢 洋
山岸良二	田中清美
藤下昌信	戸倉茂行
	福間 元
	古谷 毅

調査の方法は現地踏査を主体として、既知の古墳の位置、規模、内容等を調査し、調査票を作成した。また、未知の古墳の発見にも努め、新発見古墳についても調査票を作成した。その他、消滅古墳についても文献調査を行い、調査票を作成した。この調査票は、県教育委員会文化課と調査指導委員が合議の上、別図のように定めた。

調査対象地区は広範囲であるため、3か年に分けて実施した。昭和61年度は旧下総地区(東葛飾郡市、千葉市、印旛郡市、香取郡市、海部郡市)、昭和62年度は旧上総地区(長生郡市、市原市、君津郡市)、昭和63年度は旧上総地区(長生郡市、夷隅郡市)と旧安房地区(安房郡市)、それに前2か年分の地区の補足調査を実施した。平成元年度は3か年の現地踏査をもとにして作成された調査票を基礎に、資料調査、分級調査を加えて、報告書の作成をした。

第3節 調査結果のとりまとめ

今回の調査において、古墳の数量は大幅に増大した。昭和60年から昭和63年の4か年におたって実施した『千葉県埋蔵文化財分布地図』と比較すると明瞭である。今回の調査による古墳の総数は8,665基、横穴墓4,129基で、合計は12,794基である。『千葉県埋蔵文化財分布地図』では古墳は7,116基、横穴墓は3,703基で、合計は10,819基であった。1,975基の増加である。その内訳は以下のとおりである。なお、カッコ内は『千葉県埋蔵文化財分布地図』における数量である。前方後円墳644基(567基)、前方後方墳27基、円墳7,015基(5,582基)、方墳777基(533基)、埴形の不明なもの202基(434基)。

市 町 村 別 一 覧 表

下盤點所在古墳調查表

9	駐屯地外 駐屯地	場所 門前、地蔵、新倉（ 之、橋 の傍）
10	内部施設	
11	駐 留 兵	
12	特 別 事 項	
13	保管場所	倉庫 奥側
14	保管状況	品名 信封、郵便物 数量 未調査 単位 個 年 月 日
15	附 属 品	品 名 注 明
16	価 値	1/100,000（ ） 1/100,000（ ）
17	保管の意義と その 他	

市町村名	前年度円	前年度円	円	方	不明	計	欠穴	総計	市町村名	前年度円	前年度円	円	方	不明	計	欠穴	総計
千葉市	32		538	59	1	630	12	642	八日市場市	11		115	11	32	169	49	218
京都市	90	16	1,146	314		1,566	100	1,666	光町	7		35	1		43		43
船橋市			11	1	3	15		15	野栄町			1		1	2		2
川崎市	3		2	1	6		6	東金市	15		208	6			229	118	347
習志野市	2		2			4		4	大網白根町			3			3	118	121
八千代市	2		31	4		37		37	九十九里町								
浦安市									成東町	10		83	6		99	1	100
松戸市			15		13	28		28	山武町	22		218	43	7	290		290
柏市	2		63	3	2	70		70	松尾町	7		77	8		92		92
野田市			12	1	18	31		31	黒瀬村								
流山市	2		21	2		25		25	横芝町	4		36	6		46		46
我孫子市	7	2	115		9	133		133	芝山町	26		251	2		279	4	283
鎌ヶ谷市									茂原市								193
関宿町			2		2	4		4	一宮町	1		6			7	61	68
沼南町	15		232	12	11	290		290	白子町								
佐倉市	13	2	149	10	3	177	3	180	吳羽町	3		2			5	391	396
成田市	27	1	292	44		364	8	372	兵南町	3		15	1	6	25	409	434
西芳道市	10		94	16	1	121		121	睦沢町	4		19	1		24	191	215
酒々井町	5		11	4	1	21	7	28	長生村								
八街町	2		9			11		11	勝浦市								13
富里町			5	4		9		9	大多喜町	2		36			38	49	87
栄町	30		68	6	1	105	2	107	夷隅町	1		3			4	66	70
印旛村	20		185	15	3	223	11	234	御宿町								5
木曽村			57	7	1	65	2	67	大原町								79
印西市	9		43	2	5	59		59	堺町			1			1	86	87
白井町			29			29		29	館山市	1		3		5	9	356	365
佐原市	37		183	8	6	234	110	344	鴨川市			7		1	8	8	16
下総町	25		147	5	8	185	47	232	龍南町						1	66	67
神埼町	12		56	2		70	2	72	富山町	1		2			3	16	
大栄町	8		72	4	10	94		94	富岡町			1			1	82	83
栗源町	8		56	2	1	67	3	70	三芳村			5			5	228	233
小見川町	25	1	42	3	6	77		77	白浜町								
山田町	3		16			19		19	千歳町	1		7			9	29	38
千歳町	10		21		5	36	4	40	大山村	1		3			4	192	196
東庄町	5		75		3	83	13	96	和田町								14
多古町	28		267	24	6	325		325	天津小瀬町					1	1	1	2
銚子市	1		29	11	8	49	14	63	水更津市	32		611	43		686	90	776
海上町	1		30			31	1	32	喜津市	27	2	607	28	2	736	124	860
藤岡町	1	4	14	19	27	46		46	富津市	16		60	7	5	88	727	815
旭市			1		1	2		2	狹ヶ瀬町	14	3	378	49		444		444
								計	644	27	7,015	777	202	8,665	4,129	12,794	

第2章 地区別古墳分布の解説

第1節 東葛飾地区

古 谷 毅

東葛飾地区は、西を江戸川、北東を利根川、南を東京湾に大きく囲まれ、東では概ね阿部沼水系と分水嶺が郡境となっている。小河川はほとんどがこの二大河川と東京湾に流出するが、北東部には大きく手賀沼が侵入し、多くの小河川を集めている。このようなことから、東京湾と手賀沼に流出する河川を東京湾水系・手賀沼水系とし、それ以北の江戸川と利根川に流出する河川を江戸川水系・利根川水系とする。

東京湾水系・手賀沼水系には前方後円墳などの有力古墳が多数分布し、とくに手賀沼水系には古墳の集中が著しい。これに対し、北部の江戸川水系・利根川水系には古墳の分布が希薄であり、有力古墳もきわめて少ないことが特色である。

1 江戸川水系

江戸川と利根川に挟まれ、北西に細長く半島状に延びる台地の西部である。北から五駄沼に流出する小河川、産生川、利根運河、板川などが開析した樹枝状支谷が台地に入り込み、低地を形成している。古墳は各小河川の河口近くか、開析谷奥部の台地上に立地するが、特に群集するものはない。

比較的顕著な古墳としては、五駄沼に面する台地上の香取原古墳群（野-1）と江戸川に向う小支谷を望む中野久木谷古墳（流-10、円）、初石古墳群（流-10付近、円4）、向腹古墳（流-13、方）、板川北岸の三本松古墳（流-21、前方後円墳）、鶴ヶ崎古墳群（流-22、円2）、芝崎古墳群（流-16、円2）、南岸の小金古墳群（松-1、円6）、相模台古墳群（松-19、伝・円）がある。ほかには、塚群とみられるものを除き、円墳が若干散在する。

このうち墳輪を樹立する古墳群は、香取原古墳群・鶴ヶ崎古墳群・初石古墳群で、単独墳では岩名古墳（野-4、円）、門倉古墳（野-6、円）、中野久木谷古墳・三本松古墳がある。このほか、開町関宮跡、野田市金野井並跡、流山市三枝野山下敷敷跡・加町畑跡・キョーマン工場地内でも墳輪が検出されている。なお、顕著な内部施設をもった古墳としては、岩名古墳・北谷津1号墳（流-14、方）で横穴式石室が確認されている。

2 利根川水系

江戸川水系と同じく、細長く半島状に延びる台地の東半部である。北から阿部沼落瀬、八間瀬、江戸川、利根運河などが開析した樹枝状支谷が台地に入り込み、低地を形成する。古墳は利根川を望む台地縁辺か、各小河川流域の開析谷に面した台地上に立地するものが多い。とくに、利根運河とこれに流れ込む江戸川などの支流沿いには、古墳が集中する。

なお、これ以南の利根川沿いの古墳は、分布にやや空白地帯を挟んでいずれも手賀沼との台地地塊部に集中するため、それらの古墳は手賀沼水系に含めて検討する。

利根運河の奥部南岸には、前方後円墳を含む東深井古墳群Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ（流-2・3・4、前方後円墳Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ）、八幡山古墳群（柏-1、円4）に、単独墳や消滅したものを含めると、約40基の古墳が群集していた。また、やや下流の南岸にも、それぞれ下ヶ尾古墳群（流-18、円3）・大山古墳群（柏-3、円5）があり、江戸川両岸にも大塚山

古墳群（野-9、円3）・瀬戸古墳群（野-16、円3）・二ツ塚古墳群（野-14、円8）・鞍の橋台古墳群（野-15、円3）のほか、円墳や方形周溝墓が散在する。

そのうち墳輪を樹立する古墳群は、広義の東深井古墳群と呼べる範囲だけで、東深井古墳群Ⅰ・東深井1号墳（流-1、円）、ノ台古墳（流-5、円）から比較的豊富に出土する。横穴式石室は東深井古墳群Ⅰ・二ツ塚古墳群で確認されている。

3 手賀沼水系 一対岸地域、南岸地帯一

概略、手賀沼を挟んで南北岸に大別されるが、北岸には3地区、南岸には4地区を設定することができる。北岸は東西に延びる狭長な台地であり、西から花野井・我孫子・湖北の3地区がある。これに対し、南岸はやや複雑の大きな小河川によって台地が大きく分断され、それぞれ半島状の小空間を形づくっている。西から、小河川の中では最大規模で柏市・沼南町境を北流して手賀沼に注ぐ大津川の流域と、柏市域で大津川河口左岸の戸塚地区、沼南町域で大津川河口右岸の船戸地区がある。また、さらに東には、西流する栗井入落と金山落によって南北を開析された台地が手賀沼に細長く半島状に突き出している片山地区がある。このほか、手賀沼の西には大堀川・地金堀流域の松ヶ崎地区がある。

まず、北岸地域から見てゆく。

花野井地区は、北からの開析谷と南の地金堀に挟まれた台地地塊部にある。古墳は利根川に面する台地端に有力な古墳が分布するほか、小円墳が点在する。台地北縁から大きく入る支谷が形成する古状台地端には、塚原古墳群（柏-7、前方後円墳Ⅰ・Ⅱ5）・やきつね山古墳（柏-4、円）、鞍の橋古墳（柏-4付近、伝・円）があり、いずれも墳輪を伴っている。また、東方の利根川の面する独立丘には、古式古墳と推定される弁天古墳（柏-12、前方後円墳）が所在するほか、南に入る浅い谷に面する前留古墳群（柏-5、円3）などが点在する。なお、塚原古墳群の大塚古墳は粘土土、庄左・門古墳は割竹形木棺、やまもと古墳は横穴式石室で、顕著な内部施設をもつ。

我孫子地区は、東西に延びる半島状の台地地塊部にあたり、北側で大きく入る樹状の開析谷が広い低地を形成している。南側は沼根が狭まった手賀沼の西半部に面し、対岸の戸塚・船戸地区を指す間に望む位置にある。この手賀沼に面した台地南縁に有力な古墳が集中的に分布する。西から、単独墳の金塚古墳（我-1、円）、日立精機1号墳（我-2、前方後円墳）に続いて、日立精機古墳群（我-3、前方後円墳Ⅱ・Ⅲ1）・根戸船戸古墳群（我-4、前方後円墳Ⅳ4・Ⅳ2）・白山古墳群（我-5、前方後円墳Ⅰ・Ⅱ14）、や離れた子の神古墳群（我-9、前方後円墳Ⅰ・Ⅱ14）・並塚古墳群（我-10、円5）・高野山古墳群（我-11、前方後円墳Ⅰ・Ⅱ8）が集中的に分布する。また、東方には比較的大型古墳の天神山古墳（我-13、前方後円墳）と香取神社古墳群（我-12、方1・円2）・西久保古墳群（我-15、円2）のほか、円墳が散在する。このほか、台地北側の古状台地端には利根川に面して、久寺家古墳群（我-43、円2）がある。墳輪は、子の神古墳群・高野山古墳群・久寺家古墳群と、単独墳の金塚古墳から出土している。また、内部施設は天神山古墳が割竹形木棺で、横穴式石室をもつ古墳は日立精機古墳群・根戸船戸古墳群・白山古墳群・子の神古墳群・高野山古墳群に含まれ、ほかに日立精機1号墳・天神山古墳（我-17、不明）がある。

湖北地区は、半島状の代地東部を占め、南北から多くの開析谷が入る。対岸の代地までは最短でも1.5km以上ある。古墳はこれまでの2地区に比べて顕著な古墳はみられないが、地区西部にはとくに多数の小古墳が群集することが特徴である。まず、西方の南北から開析された地塊部の台地北端には、利根川に面して西原古墳群（我-21、円2）開発戸古墳群（我-22、円9）が位置する。方、や離れた東方の台地には、北から大きく入る開析谷に面して、中峠北古墳群（我-29、円9）・中峠上古墳群（我-30、円10）、台地上には中峠南古墳群（我-28、円11）・中峠下古墳群（我-32、円3）・下中地蔵古墳群（我-33、円3）のほか、小古墳が点在する。また、さらに東方の利根

川・手賀沼に面した台地端には、高根古墳（図-34、円1）・羽黒前古墳（図-38、前方後円墳？）・花輪前古墳（図-40、帆立貝式古墳）などの比較的確率な単独墳が点在することが注意される。埴輪は、岡発戸古墳群・中峠北古墳群と高根古墳・羽黒前古墳で確認されている。また、横穴式石室を内部施設とする古墳は、中峠上古墳群・中峠南古墳群と羽黒前古墳である。

松ヶ崎地区は、手賀沼の西端に流出する大堀川とそれに注ぐ地金堀の流域である。古墳の分布は希薄で、わずかに腰巻古墳群（図-16、円3）・町田古墳群（図-17、円2）・かたぎ山古墳（図-15、円1）が分布するが、詳細は不明である。

一方、南岸地域も西から見てゆくことにする。

戸塚地区は、北を手賀沼、東を大津川に画された台地であるが、対岸までは1km足らずの距離である。古墳の分布はきわめて少なく、手賀沼に面する天神台古墳群（図-18、円5）だけであるが、顕著に埴輪を円説する古墳が多い。このほか、大津川に面した台地端には方形周溝墓・戸張遺跡（図-37、前方後方形周溝墓）が点在するほか、大規模な集落が密集するなど注目される地区である。

大津川流域は、支流の形成した開析谷が樹状に拡がり、流域に幅広い低地を形成しているが、下流は手賀沼の面との標高とはほぼ同等である。古墳はほとんどが中流域や支流の谷を望む台地端、または台地上に集中する。遠く手賀沼を望む下流古墳の突端には浅間古墳（図-1、前方後円墳）が位置し、台地上には道花古墳群（図-2、円3）が所在する。中流域左岸には、北から中山越古墳群（図-20、円3）・組河下古墳群（図-21、円3）・浅間神社古墳群（図-28、円3）・西原古墳（図-17、前方後円墳）が開析谷を望む台地端に、鷺ノ山古墳群（図-23、円3）・上人塚古墳群（図-26、円6）・三ノ台古墳群（図-27、円3）・庚申前古墳群（図-29、円3）が台地上にある。同じく右岸には、北から神明社山古墳（図-11、円2）・関根古墳群（図-12、円5）・宮田原古墳群（図-15、円15）が台地端に、塚崎古墳群（図-8、円2・方2）・中島古墳群（図-13、円9）・小山古墳群（図-14、円5）が台地上にある。埴輪をもつ古墳は認められず、内部施設も不明で、塚である可能性が高いものも多い。

船戸地区は、北を手賀沼、南を染井入港に面した半島状の台地である。対岸の我孫子地区とは、手賀沼を挟んで指の間にある。古墳はほとんどが手賀沼を望む北端に集中し、有力古墳も多い。北から大きく西側に広がる開析谷の谷口部を望む舌状地の突端に、船戸古墳群（図-22、前方後円墳6・円26）・突輪古墳群（図-23、前方後円墳1・円3）が集中的に群在する。同じく東方の台地北縁にも、天神山古墳群（図-29、前方後円墳1・円5）・北ノ内古墳群（図-31、円2）、南縁には道通古墳群（図-27、円2）があるほか、円墳が点在する。なお、須賀古墳（図-30、円1）は低地に立地し、注目される。埴輪は、突輪古墳群・天神山古墳群・北ノ内古墳群の各古墳群で認められ、船戸古墳群では横穴式石室・箱式石棺を内部施設とする古墳がある。

片山地区は、南を金山路に画され、東西に手賀沼に突き出た半島状の台地である。北側からは多くの開析谷が入る。古墳は手賀沼を望むこれらの谷口部の台地端か、染井入港に面する南縁に多く分布する。台地北縁には、西からオウゴン古墳群（図-45、円4）・片山古墳群（図-46、前方後円墳1・円80・方4）・北作古墳群（図-47、前方後円墳1・円1）が群在し、東端には城戸古墳群（図-63、円5）・宮前古墳群（図-64、円4）がある。台地南縁には、染井入港の上流左岸には城之端古墳群（図-49、前方後円墳）に続いて、西から下柳戸古墳群（図-51、前方後円墳1・円4・方1）・南郷古墳群（図-53、円2・方1）・柏作第1古墳群（図-56、円3・方1）・柏作第2古墳群（図-56、前方後円墳1・円7）・原古墳群（図-57、円10）・池田古墳群（図-59、円10）・新堀古墳群（図-61、円2）・布施原古墳群（図-62、円3）が連なり、台地上には原出口古墳群（図-55、円10）がある。また、染井入港の上流右岸には城之端古墳群（図-38、円3）・藤ヶ谷古墳群（図-39、円3、不明）がある。なお、中野古墳群（図-52、円2）はこれらに近接するが、片山古墳群などと同じく北から入る開析谷を望む位置にある。埴輪をもつ古墳

は認められず、片山古墳群の大半のものをはじめ、塚である可能性が高いものが多い。ただし、北作古墳群の2基はいずれも粘土構を有する前期古墳で、注目される。

4 東京湾水系

西を江戸川に画され、東京湾に面して東南に広がる台地で、北は手賀沼水系・江戸川水系、東は印旛沼水系と分水嶺を隔てて接する。東京湾に注ぐ国分川・大和川・海老川が開析した樹状支谷が南から入り、広い低地を形成している。古墳は早くから開発が進んだため、数は少ないものの比較的大型の有力な古墳が国分川と海老川河口付近に集中的に分布する。

まず、江戸川と国分川に挟まれた南北に細長く延びる台地西南縁には、栗山古墳群（図-18、円2）・丸山古墳（市-1、円1）が江戸川に向う開析谷の谷口部に対峙して所在する。やや南方に江戸川を望んで明戸古墳（市-2、前方後円墳）があり、台地南縁には東京湾を望んで弘法山古墳（市-4、前方後円墳）・太鼓塚古墳（市-6、方1）が連なる。さらにこれらの中間の台地上には、法皇塚古墳（市-3、前方後円墳）・真間山古墳（市-5、円1）が所在する。また、国分川上流の低地を望む舌状地端には、河原塚古墳群（図-13、円5）が位置するほか、天神山古墳（図-9、円1）や方形周溝墓、大半が塚である可能性が高いものの円墳が点在している。埴輪は、栗山古墳群（図-18、円2）・丸山古墳・明戸古墳・法皇塚古墳で出土されるほか、低地の菅野付近でも出土しており、その存在が顕著である。また、河原塚1号墳は端部に粘土を置いた木棺直葬墳であり、明戸古墳は箱式石棺、法皇塚古墳は横穴式石室を内部施設としている。

海老川の河口部の台地には、海神古墳（図-10、円1）が支谷の奥部に位置し、周辺にも円墳が点在する。付近の竹ノ越付近でも埴輪の出土が認められ、ほかにも古墳が所在した記録があり、本来相当数の古墳があったものと考えられる。一方、東方の東京湾に向う開析谷の谷口部の台地端には、根神社古墳（市-1、前方後円墳）・鷺沼古墳群（市-2、前方後円墳1・円2）が所在し、鷺沼A号墳では埴輪が検出されている。また、鷺沼古墳群は石室・箱式石棺を内部施設とし、海老川の河口部付近の古墳伝承地でも石室の記録が数多く残っている。

5 まとめ

東葛飾地区の古墳は、大きく江戸川水系・利根川水系・手賀沼水系・東京湾水系に分かれて分布する。全体では、前方後円墳33基、前方後方墳1基、円墳468基、方墳28基（内、方形周溝墓5基・前方後方周溝墓1基）で、合計532基を数える。しかし、それぞれの分布の状況には相違があり、とくに全長50mを超えるような古墳は手賀沼水系・東京湾水系に限られている。

時刻的にも、確実に前期に遡るような古墳は手賀沼水系にしか認められない。中期古墳も明確なものは手賀沼水系・東京湾水系に限られ、全体に後期古墳が主体である。このようなことは前方後円墳などの分布にも表れており、江戸川水系と利根川水系は前方後円墳・前方後方墳が1基づつであることに對して、手賀沼水系は前方後円墳26基、前方後方墳1基、東京湾水系は前方後円墳1基・大型円墳1基を数える。

一方、埴輪の出現は中期末に手賀沼西部において認められるが、その後、出土古墳は手賀沼水系の我孫子地区、利根川水系の利根河川流域、東京湾水系の国分川流域に集中的に分布するほか、各地に点在しており比較的確率な分布を示す。むしろ古墳の分布が顕著であるのに対し埴輪の分布が希薄な地域は、利根川水系の江戸川流域、手賀沼水系の湖北地区・片山地区・大津川流域、東京湾水系の海老川流域であり、横穴式石室墳の分布との関係が注目される。

第2節 印旛地区

有 沢 要

利根川流域には肥沃な水田地帯とともに大小の湖沼が散在するが、千葉県側においては印旛沼、手賀沼を代表的なものとしてあげることができる。本節において対象とする地域は、この印旛沼を中心として分布する11市町村からなる地域であり、千葉県北部においては手賀沼周辺と同様に古墳の分布密度が高い地域として知られている。

印旛沼は現在、北部調整池及び西部調整池に分断され印旛捷水路、中央排水路によってみ結ばれているが、これは江戸時代以降に活発化した干拓の結果であり、本来はW字形の姿を持つものであった。更に時代を通り、古墳時代をみると現利根川、手賀沼、霞ヶ浦と一体となった広大な内海（杵取海）を形成していたものと考えられており、印旛沼はこの内海の入江の一つ（印旛淵）を形成していたものと思われる。

道跡の分布状況を見ると地域全般において確認されているものの、分布密度には偏りがみられ豊富な水源を持つ印旛沼周辺に多くの道跡が存在するのに対して、分水嶺となる台地上においては稀薄となることからわかる。当該地域の西部には東葛地区、東部には香取、山武地区、南部には千葉地区の各道跡集束地区が存在し、分水嶺となる地域にベルト状に連なる道跡疎疎地域の存在は、当該地域が古代においてある意味で一つの独立していた空間を形成していた可能性を示唆しているものと思われる。

今回の分布調査によって地域全体で1000基を超える古墳が確認されているが、その分布状況には道跡と同様の著しい偏りがみられ、印旛沼に面する地区に多くの古墳が造営されるのに対して、分水嶺となる八街町、富里町においてはそれぞれ10基程度の古墳しか確認されていないことがわかる。このことは前述した空間の足踏を補足するものと考えられ、古墳時代においても独自の空間を形成していたことを示唆している。

古代において水系の持つ役割は極めて大きいものと理解され、集落跡・古墳群形成の背景には生活基盤としての水系の存在があることは従来より指摘されているとおりである。以下、当該地域の古墳時代の様相を理解する一助とするために地形及び古墳の集束度からいくつかの水系を設定し、各水系の概要について記すことにしたい。

当該地域の水系を大別すると印旛沼北岸、南岸、西岸に分けられ、北岸は更に現利根川に面する印西・本埜地区（印西地区）、印旛沼に半島状に突き出す印旛村を中心とする地区（印旛地区）、印旛沼と根木川に挟まれた半島状の地区（栄地区）、根木川右岸地区（荒巻地区）に、西岸は成田・西ヶ井地区（成田地区）、南岸は印旛沼と高崎川に挟まれた半島状の地区（佐倉地区）、荒川川流域の地区（千代田地区）、荒川川と新川に挟まれた地区（八千代地区）の8地区に細分される。

1. 手賀沼水系 一東岸地域—

内湾で開けた印旛沼に半島状に突き出たと思われる当該地区は、西側に手賀沼を擁し、東西から入る小河川によって開析された支谷によって複雑な地形を形成している。

古墳の分布は手賀沼方向から入る開析谷口部である大森・宮内付近と小林・笠神付近に大別される。前者には大結台古墳（印西1）、瀨部古墳（印西5）、後山山古墳群（印西13）、和泉古墳（印西11）、大森古墳（印西16）、上宿古墳（印西15）などがある。いずれの古墳も群を形成せずに単独の古墳として散在する点に特徴を持つ。墳形は円墳を主体とし、前方後円墳は大森古墳が挙げられるにすぎない。一方、小林付近には全長45mを超える前方後円墳を主体として他は3基の前方後円墳を擁する道作古墳群（印西26）、馬場古墳（印西27）、駒形古墳（印西28）、埴輪を樹立する小林古墳群（印西31）、当該地区においては古式に比定されると思われる特殊埴輪、五領式土器を利用した事情を

持つ跡塚古墳（印西30）などが存在する。なお、本埜村地域においては、従前より竜額寺古墳群（本埜9）などが知られていたが、今回の調査の結果をみ限りにおいてはその大半が塚の可能性が高いものと判断された。大森地区に比較すると盟主的な性格を持つ古墳を中心に群の形成がみられることがわかる。

2. 印旛沼水系 一北岸地域—

当該地区は全域を印旛沼に半島状に張り出していたものと考えられ、東西に長い半島状の台地に直交するように大小の開析支谷が入り込み、南北方向に狭長な樹枝状台地が形成され、複雑な地形を呈している。

古墳は半島状に突き出た先端部分にあたる吉高・平賀地区及び半島状に突き出した台地基部にあたる吉田・岩戸地区に多く分布する。吉高地区には埴輪を持つ前方後円墳として著名な吉高山王古墳（印旛26）、吉高家老古墳群（印旛32）、3基の前方後円墳を擁する吉高三角山古墳群（印旛34）などが印旛沼に面して存在する。また、印旛沼から入る小支谷に面して埴輪を有していたといわれる瀬尻古墳（印旛30）、吉高戸横穴群（印旛28）などが存在する。

平賀地区東部には印旛沼に面する独立台地状に営まれ前方後円墳1基を含む11基の古墳からなる平賀化島古墳群（印旛46）、平賀神津古墳群（印旛47）、南部にはそれぞれの支群中に盟主的な前方後円墳を含む平賀鈴堂古墳群（印旛49）、平賀吉井戸古墳群（印旛51）の支群の他、平賀駒形古墳（印旛53）、平賀神ノ台古墳（印旛54）などの有力墳が存在する。各古墳及び古墳群は近接しているものの、それぞれが異なった台地上に占拠している。これらの造墓の背景にある集団が単一であるか、有意的な紐帯関係を持った諸集団であるのか現段階では明らかではないが、今後調査例の増加にもともなって明確にすべき意味深い課題であろう。これら有力古墳の平賀山ノ下塚群（印旛50）、平賀復台古墳群（印旛52）など小円墳の集中する地区があるが、規模が極めて小さく当該時代より後出のものであると思われる。

平賀地区の西、北側から支谷の入る山田地区に支谷に面して前方後円墳1基を含む13基からなる山田稲荷前古墳群（印旛39）、同じく前方後円墳2基を含む山田上懸倉古墳群（印旛38）があり、当該地区からは支谷開析口方向に前述した吉高地区の古墳群を望むことができる。以上、山田地区を含めた平賀・吉高地区は、印旛沼北岸地区における一つの中心的な地区に位置づけることが可能であろう。

一方、W字状を呈する印旛沼の西部部分において、北側から台地を張り出す岩戸・吉田地区をみると、吉田地区に前方後円墳2基を含む西ノ原古墳群（印旛11）、小支谷を挟んだ岩戸地区には岩戸百保古墳群（印旛2）、岩戸壁天古墳群（印旛5）、岩戸黒壁古墳群（印旛9）などの古墳群がみられる。

平賀地区及び岩戸地区の間には瀬戸、鎌刀、戸戸地区などがあるが、鎌刀屋敷古墳群（印旛14）、鎌刀炭焼古墳群（印旛16）などの小規模な古墳群が散在するのみであり、注目すべき古墳は存在しない。

3. 印旛沼 一北東岸地域—

印旛沼が現利根川と合流し、最も潮層を広げる部分の東岸に存在する北に張り出す台地上に位置するものが栄町の全塚及び成田市の一部を包括する本地域である。台地東側には根木川によって開析された大きな支谷が入り込むとともに、小河川によって開析された小支谷が変化のある地形を形成している。印旛沼に面する安食、酒直、松崎地区及び根木川によって開析された支谷に面する南羽島地区に多くの古墳が分布する。北に張り出した狭長な台地先端部分にも北辺田古墳群（栄6）、上原古墳群（栄7）、竜台古墳群（成田1）などがあるが、印旛沼に面して造営された古墳群とは比較すべきでない。

安食地区には武者塚古墳（栄1）、三峰古墳（栄2）、小台古墳群（栄3・4）、上町古墳（栄5）がある。小台古墳群は宅地造成に先行して調査が実施されている。2基の古墳はいずれも前方後円墳であり「変則的古墳」としての

性格を有している。本文中では副葬品の内容から6世紀末葉に位置付けられている。酒原地区には酒直道跡群(栄10)、竜角寺尾上遺跡(栄11)、竜角寺古墳群(栄13・成田3)、上堀田古墳群(成田4)、大竹古墳群(成田5)などが集中的に存在する。酒直道跡群は地味造成に先行して調査が実施されており円墳1基、方形周溝遺構遺基5基が検出されている。このうち円墳は後述の竜角寺古墳群に包含されるものと考えられる。竜角寺尾上遺跡(竜角寺尾上古墳)は狭い舌状台地に所在し、長方形を呈する周溝からなる。確認時点において既に墳丘の大半を失っており、周溝外のはうが周溝より高まっているという。周溝に囲まれた中央部には5m×5m、深度3.5mの大きな土壌内には多量の焼土と大きな炭化材の塊が観察された。焼土、炭化材とはに投げ込まれたものではなく、土壌内において何らかの目的のものと焼かれたことが明確である。また、土壌内からは長さ30cmを越す鉄釘数本が検出されている。本遺構の性格については今後検討されることとなるが、注目される遺構である。

竜角寺古墳群は千葉県内にあっても有数の基数を誇る著名な群集墳であり、栄町竜角寺、成田市大竹にまたがる広大な地域に広がる古墳群は前方後円墳36基、方墳6基、円墳71基からなる。竜角寺古墳群造営の時期については概ね6世紀初頭から7世紀後葉と考えられている。また、本古墳群に隣接して存在する法起寺式の伽藍配置を持つ竜角寺が本古墳群の終焉の時期に前後して創建されていることも古墳群造営の背景にある集団の変化を想起する上で興味深い事象である。竜角寺古墳群中には全国的にも最大級の規模を持つ岩屋古墳(栄13-105)、ミツ岩屋古墳(栄13-106)などの方墳、浅間山古墳(栄13-111)に代表される前方後円墳が存在する。岩屋古墳の造営時期については7世紀初頭から後葉までの諸説があるが、現段階では確定することにはいたっていない。浅間山古墳は本古墳群に造営された前方後円墳中で最大の規模を誇る古墳で全長66mを測る。他の前方後円墳の規模が概ね40m以下であるのに対して隔絶した存在であることがわかる。竜角寺古墳群には県内においても最大級の群集墳とそれを支えた背景である集団の性格、全国的にも最大級の終末期古墳である岩屋古墳とその系譜の上に創建されたと考えられる竜角寺の存在など、当該地域のみならず古墳時代から律令時代への変遷を理解する上で欠かすことのできない多くの問題が包摂されており、今後の検討課題となる。

上堀田古墳群は前方後円墳2基、方墳2基、8基からなる古墳群である。上堀田古墳(成田4-7)、上堀田古墳13号墳(成田4-13)は共に岩屋古墳と同様の石材によって構築された横穴式石室を擁している。

一方、南羽島地区には南羽島古墳群(成田2)がある。前方後円墳2基を含む34基の古墳からなる古墳群であり、開闢された支谷に亘って広く分布するため古墳群としてのまとまりを欠くように思われる。小さな小支谷の西側に存在する前方後円墳を含む支谷と東側の小支谷に面する円墳を主体とする支谷におけることが可能であろう。

4. 根本名川水系

根本名川によって開闢された広い支谷から東に向かって尾羽根川、荒海川、取香川によって開闢された各支谷が存在し、支谷に沿って小古墳群が存在する。最も北に位置するのは12基の円墳からなる磯部古墳群(成田24)であり、尾羽根川によって開闢された支谷を挟んで香取地域の古墳に対峙する。荒海川によって開闢された支谷に沿って荒海・土室地区には荒海古墳群(成田34)、土室古墳群(成田25)がある。荒海川と取香川によって開闢された支谷に挟まれた芦田・野毛平地区には西側より新妻古墳群(成田27)、八幡台古墳群(成田26)、関戸古墳群(成田33)、東金田古墳群(成田32)、浅間台古墳群(成田31)、長田古墳群(成田30)、瀬ノ内古墳群(成田29)などが支谷に沿って展開している。小支谷に沿ってやや台地内部に入った部分には野毛平古墳群(成田28)が存在する。南側部分の川原・古倉地区に順を転ずると川原台古墳群(成田35)、成田古墳群(成田36)がある。本地域に展開する古墳群はいずれも円墳を主体とする小支谷であり、野毛平古墳群中に含まれる前方後円墳である掘出し古墳(成田28-4)以外に特筆すべきものは存在しない。

5. 印旛沼水系 一 東岸地域一

成田=ニュータウンが造成された印旛沼から入り込む小支谷の大半が埋め立てられてしまったが、本来は根本名川、江川などによって開闢された小支谷が台地に深く入り込み複雑な崖線を呈していた。古墳は北須賀・台方地区、八代・公津地区、下岩橋・上岩橋地区に多く分布する。特に八代・公津地区に展開する公津原古墳群(八代・瓢箪・船塚古墳群の総称)は、竜角寺古墳群と並び称される大古墳群として注目される。

北須賀地区は江川により開闢された支谷によって八代・公津地区と隔絶され、印旛沼に向かって陸続きとなって突き出す狭長な台地上に占地する。古墳群は台地に沿うように展開し、北側から全長40mを越す前方後円墳3基を含む6基からなる勝福寺古墳群(成田18)、五郎古墳群(成田19)の古墳群が認められる。台方地区は北須賀地区の基部にあたる台地上に占地し、台方古墳群(成田20)、大塚古墳(成田21)、道場台古墳群(成田22)がある。台方古墳群中には石枕を出土した台方1号墳(成田20-1)、埴輪を有する同4号墳(成田20-4)が存在する。また、大塚古墳も内容は不明な点が多いが鏡・玉璽を伴出しており、大古墳群に近接して営まれる小古墳群としての性格が注目されることである。

八代・公津地区には八代台古墳群(成田11)、天王・船塚古墳群(成田12)、瓢箪古墳群(成田13)が連続して存在する。各古墳群の区画設定については問題があり、大きな古墳群(公津原古墳群)を設定した上で小支谷を設定する手法が有効であると思われる。八代古墳群は前方後円墳2基を含む27基で、天王・船塚古墳群は前方後円墳である天王船塚1号墳(成田12-1、通称船塚古墳)、前方後円墳である天王船塚31号墳(成田12-31、通称天王塚)を盟主とする37基で、瓢箪古墳群は瓢箪5号墳(成田13-5)を盟主とする43基で構成されていた。成田=ニュータウンの造成に先行して大規模古墳を除く多くの古墳が調査されている。

本地区の西側に位置し、根本名川支谷に面する山口地区及び日吉倉地区に山口古墳群(成田15)、殿倉遺跡(成田16)、日吉倉遺跡群(富里1)がある。日吉倉遺跡群には海敵電報機を伴出した松ノ木台2号墳(富里1-1)、横羽阪新留短甲を伴出した鳥山2号墳(富里1-3)は富里町における稀少な当該時代の遺跡であると共に、その内容によっても注目する必要がある。

下岩橋・上岩橋地区には下岩橋仁爾古墳群(西ヶ井1)、宗吾・飯仲古墳群(成田23、西ヶ井2)、伊藤石堂古墳(西ヶ井3)などが存在する。前方後円墳4基を含む18基の古墳で構成される宗吾・飯仲古墳群は勝福寺古墳群、台方古墳群などと同様に公津古墳群との関連を考慮しながら検討すべき性格を持つ古墳群と理解される。また、印旛沼の湖水面に近い沖原野平地区には上岩橋大鷲神社古墳(西ヶ井5)、上岩橋和田ノ原古墳群(西ヶ井4)が存在する。印旛沼に面して造営された古墳の大半が沼を眼下に望む台地上に占地していたのに対し特異な印象をあたえる。

6. 印旛沼水系 一 南東岸地域一

印旛沼に向かって半島状に突き出す東西に長い狭長な台地上に本地域は存在する。南には荒島川より分岐する高崎川によって開闢された支谷が広がり、小支谷とあいまって複雑な崖線を形成している。古墳は岩名、西ヶ井地区といった印旛沼に面した地区及び六崎・天辺・墨地区といった高崎川支谷に面した地区に多く分布している。

印旛沼に突き出た台地の先端部にあたる飯野地区には土坪桜花古墳(佐倉14)、飯野見通し古墳(佐倉17)などの円墳と萩山古墳群(佐倉18)、飯野郷之内古墳群(佐倉19)などの円墳を主体とした小古墳群が点在し、将門・西ヶ井地区といった台地基部付近には将門2号墳(佐倉50)、鬼塚古墳(西ヶ井8)、狐塚古墳(西ヶ井9)などの前方後円墳が印旛沼に面して点在している。高崎川支谷左岸には支谷に面して山崎ひょうたん塚古墳(佐倉25)、並木古墳(佐倉26)、本佐倉西屋上り古墳(西ヶ井10)といった前方後円墳が単独で造営されているほか、黒小盛田古墳(西

々井13)、墨八石古墳(酒々井14)などの方墳が存在する。墨小庭田古墳は酒々井総合公園内に復元されている長方形を呈する古墳であり、箱式石棺の主体部を有している。平面形態は竜角寺尾上遺跡の長方形遺構に類似している。

高崎川支右岸には弥生時代の塚集落として著名な大崎台遺跡(佐倉27)が存在する。大崎台遺跡においては弥生時代の遺構と共に五畿期に比定されると思われる方形周溝墓が検出されている。同様の遺構は隣接する棒作遺跡(佐倉28)、高崎川を挟んで対峙する高岡大山遺跡(佐倉53)においても確認されており、高塚古墳との関係を探る上で貴重な資料を提供している。高崎川支谷をさらに進むと石川古墳(佐倉32)、高崎跡木内1号墳(佐倉54)、天辺内山1号墳(佐倉60)などの前方後円墳のほか寒風後作1号墳(佐倉55)、重弥寺古墳群(佐倉59)、八木野原1号墳(佐倉56)、馬橋繁尾山1号墳(酒々井15)、墨六所神社古墳(酒々井16)などの円墳が点在する。高崎川支谷における最南部には尾上平台1号墳(酒々井11)、尾上平台2号墳(酒々井12)があるが、以後分水嶺となる富里町域には古墳は所在しない。

7. 印旛沼水系 一南岸地域一

鹿島川は北総地域において最大の流域をもつ河川である。千葉市土気付近に端を発する鹿島川は千葉市、四街道市、佐倉市の市境付近を流れ、印旛沼の湖畔に近い寺崎地区で高崎川と合流し、印旛沼に注ぐ。流域には本流によって開析された支谷のほか本流に注ぐ小河川によって開析された小支谷が発達している。本地域は鹿島川及び隣接して流れる手線川によって開析された支谷に沿って南北に長い台地上に占拠している。古墳は鹿島川支谷の大塚塚地区、馬渡地区、手線川支谷の下志津地区、千代田地区に多く存在する。

印旛沼に面する地区には光勝寺観音塚古墳(佐倉13)、臼井小笹台古墳群(佐倉12)、江原台遺跡(佐倉62)などがある。光勝寺観音塚古墳は石枕を出土したことで著名であり、近接する臼井小笹台古墳群では既に墳丘は失っていたものの埴輪を持つ前方後円墳、方墳、円墳が並んだ状態で検出されている。江原台遺跡においては方形周溝墓が検出されている。鹿島川支谷をのぼると大塚塚地区に古墳の集中をみることで、大塚塚西台古墳群(佐倉33)、大塚塚東台(佐倉34)を代表的なものとして挙げる事ができる。鹿島川を挟んで対峙する馬渡地区に形勢地輪を出土したことで著名な飯倉古墳(佐倉36-6)を盟主とする馬渡浅間古墳群(佐倉36)が存在する。飯倉地区には飯倉15号墳(佐倉42-15)を盟主とする飯倉古墳群(佐倉42)、宮内戸古墳群(佐倉43)が存在する。宮内戸古墳群は前方後円墳1基を含む10基からなり、従来飯倉古墳群のみで論じられていた当該地区の古墳時代の様相を知る貴重な資料を提供するものと考えられる。鹿島川支谷に沿って開析された小支谷沿いには佐倉第3工業団地造成に先行して調査された立山遺跡(佐倉65)、向原遺跡(佐倉66)、池田遺跡(佐倉67)が存在する。調査された古墳は140基以上であり、方形周溝式遺構も60基を超すといわれる。いわゆる「変則的」古墳が多く含まれている。用原地区には古前1号墳(八幡6)、摩理塚1号墳(八幡7)が存在する。共に帆立貝形の埴土をもち、箱式石棺、横式石室の主体部を擁している。八幡町域において初めて調査された古墳であり、八幡町における古墳文化を明確にするために寄与することとなる。当該支谷から台地に入る小支谷沿いにはこれら古墳群のほかには川戸古墳群(四街道15)、西畑古墳群(四街道13)、和田古墳群(四街道14)、相ノ谷古墳群(四街道16)などが所在するが、相ノ谷古墳群に前方後円墳1基が含まれるのみであり、注目すべき古墳は存在しない。

手線川支谷に眼を転ずると下志津地区に飯塚作遺跡(佐倉9)がある。飯塚作遺跡からは前方後円墳2基、方墳2基、方形周溝墓23基が検出されているが、このうち前方後円墳1基と方墳2基、方形周溝墓5基はそれぞれ周溝を共有して造営されている。重複する遺構の前後関係は明確であり、前方後円墳、方墳、方形周溝墓の順に築かれた墓の形式差及び規模の差は被葬者の性格を反映しているものと考えられている。千代田地区には御山遺跡(四街道2)、清水遺跡(四街道3)、新久遺跡(四街道4)、出口遺跡(四街道5)、物井古墳群(四街道7)、千代田遺跡(四街道

9)、池花南遺跡(四街道8)などが集中的に営まれている。池花南遺跡を除く6遺跡は本来同一古墳群を形成しているものと考えられる。前述した飯塚作遺跡が当該地域における初現の位置を占めるのに対し、本遺跡は古墳時代後期における代表的な古墳群に位置付けられよう。

8. 印旛沼水系 一西岸地域一

印旛沼の西部に流入する新川は神野地区において神崎川と分岐し、南方向に向かって広い開析谷をつくる。この開析谷沿いの両岸に展開するのが本地域である。古墳は先崎・神野地区、平戸・桑納地区、萱田・村上地区に点在する。印旛沼の西端に近い先崎・神野地区には湖面に近く微高地に存在し石枕を出土したと伝えられる先崎高塚1号墳(佐倉1)、神野芝山古墳群(八千代16)、保品黒谷古墳群(八千代17)などがある。神野芝山4号墳は未調査のまま消滅したが、粘土郭の主体部を持ち径40mほどの円墳であったと伝えられ石枕、鏡などの副葬品のほか、形象埴輪を擁していたと伝えられている。先崎高塚1号墳と共に当該地域においても古い段階に比定されると考えられる。新川に神崎川が合流する平戸地区には平戸台古墳群(八千代1)、田原盛古墳(八千代2)、真木野古墳(八千代3)、間見穴古墳群(八千代4)などが存在する。いずれも規模の小さな円墳を主体とするものである。前記した古墳が占拠する台地の南端の支谷に面して桑納古墳群(八千代6)がある。帆立貝形を呈する桑納2号墳(八千代6-1)と円墳1基からなる古墳群であるが、桑納2号墳からは形象埴輪、円筒埴輪など八千代市内で唯一の埴輪が検出されている。

新川を挟んで対峙する萱田・村上地区には菅ノ台古墳(八千代7)、井戸向遺跡(八千代11)、ワザル山遺跡(八千代12)、七百余所神社古墳(八千代8)、根上神社古墳(八千代9)、村上古墳群(八千代10)、村上第1号古墳(八千代15)などが点在している。村上第1号墳は横穴式石室を持つ方墳であり、豊富な副葬品を擁していたことで著名である。

9 ま と め

以上、順繰りであったが印旛沼周辺地域を8水系に分けその概要を記してきた。その結果、当該地域の古墳分布状況は以下の3類型に分類することが可能であると結論に達した。

1. 盟主的な古墳を中心とした長期間にわたる大きな古墳群を形成する地域。
 2. 開析谷に沿って盟主的な古墳の回りに基数は少ないものの古墳群を多く形成する地域。
 3. 地域を代表する古墳が多くの場合単独で存在し明確な古墳群を形成しない地域。
- の3類型である。1は竜角寺古墳群、公津原古墳群に代表され、広い地域に影響を及ぼす力を持った集団を背景に成立したと考えられる。2は印旛地域、千代田地域に点在する古墳群に代表され、地域的に限られた集団を背景に造営されたと考えられる。3は印旛地域、佐倉地域、八千代地域に点在する古墳に代表されるものである。

各類型が何を意味するものであるかは今後更に検討を続けていきたいと思う。

第3節 香取地区

萩 悦 久

香取地区は水系によっていくつかの小地域に分けることができる。ここでは下総町周辺・大須賀川流域・小野川流域・黒谷川流域・東庄町周辺の各小地域ごとに記述することとし、文化圏を簡便して銚子市の利根川沿いもここで扱う。また、栗山川流域は海部地区の項にゆずる。

1. 根本名川流域

根本名川の支流、尾羽根川に面して若干の分布が見られるが、多くは利根川に臨む台地縁辺に占地する。

大日山古墳群は前方後円墳1、円墳2で構成される。2号墳は54mの前方後円墳で木炭部を内部主体とし、棺内より剣・短冊形鉄斧・玉環などを出土している。5世紀初頭までの築造と推定され、当地では最古の古墳であるが、次の首長墓は見えていない。この古墳は常陸に通じる水上交通の要衝に位置しており、そのことが古墳造営を促したものと考えられる。

利根川の砂堤上には馬場古墳（鎌倉神社古墳）をはじめ、数基の古墳が築かれている。馬場古墳は石枕・剣・石製模造品を出土しており、5世紀後半でも比較的古い時期に位置づけられる。当地では、この頃になって低地に古墳が造られるはじめたのではないかと考えている。

高倉古墳は尾羽根川に位置するが、墳形・規模・内部主体とも不明である。石枕・鉄製三葉環頭頸飾・石製模造品などが伝わっている。5世紀後半の古墳で、環頭頸飾からは勢威の面が窺えるものの、周辺に有力な古墳群は見当たらず、継続的な古墳の築造はなかったと考えられる。

滑川坂ノ上古墳群は前方後円墳2基を含み、うち4号墳は全長70mとこの地域最大規模である。前方部の発達した、最終段階の前方後円墳と考えられている。後期末のものとしては、下総でも有数の古墳である。

横穴では滑川横穴が目目される。土器を出土し、横穴にも有力なものがあることを示している。

この地域では、首長墓系列を追うことができないことを確認しておきたい。

2. 大須賀川流域

大須賀川左岸には、鶴崎古墳群中の天神台古墳は30mの中型円墳で、剣・石製模造品を出土した。直刃鐔の模造品を含むこと、また石製刀子の編年観から5世紀前半の築造と考えられる。この時期の古墳は比較的小さいため、天神台古墳の存在は注意される。

西部田1号墳（堀之内1号墳）は径18m、石枕・立花・鉄鍬などを5世紀後半の円墳である。西部田古墳群中には、この時期の古墳が数基含まれているものと思われる。

舟原原4号墳は全長45mを測る中型前方後円墳である。内部主体は判然としないものの箱形石棺と予想され、土器から6世紀中葉の古墳と考えられる。舟原原古墳群は、4号墳以降、後期を通じて造営が続けられた古墳群と考えている。

大須賀川左岸では、6世紀前半の古墳は不明だが、5世紀前半の鶴崎天神台古墳以降後期末までの古墳が認められ、それらが下流域に集中していることが窺われる。

大須賀川右岸では、中流に壺間渡古墳群が形成される。発掘調査時には小規模な方墳2基が残っていた。いずれも4世紀後半の古墳と考えられるが、墳形・装飾品が在地的な古墳のあり方を示している。支谷を生産基盤と

した豪族の古墳であろう。

大須賀川・利根川に面する台地上に大戸天神台古墳群が立地する。この古墳群は前方後円墳2、円墳4、長方墳1、方墳1で構成される。天神台古墳は全長60mの前方後円墳で、前方部が低平な古式な墳形から、4世紀末の年代が与えられている。宮作1号墳は19×16m、石枕・立花・剣・石製模造品などを出土した5世紀後半の古墳である。方墳の2号墳も年代に大きな開きはないものと思われる。他の前方後円墳・円墳については未調査で年代の決め手はないが、5世紀末から6世紀初頭までのものとする見解も提示されている。

天神台古墳群から谷を隔てて東側の台地に、円墳3、長方墳4、方墳2からなる山之辺手ひろりが古墳群が所在する。3号墳は20×14mの長方墳で、遺物の出土状態など不明な点が多いが、注目すべき内容を備えている。石枕・立花・硬玉製勾玉・雲玉製管玉・三環鈴・鉄鍬などが出土しており、石枕から管玉は同一の内部主体に伴うようである。石枕は定式化以前のものと考えられる。立花は勾玉四個を繫結した順をみない形態をとり、袋造りの脚のものを含む。袋造りの脚をもつ立花は茨城県鏡塚古墳にみられ、本例は鏡塚古墳例より後出的だという。勾玉には両面穿孔の丁子頭のものを含み、管玉も細身のもので、玉環には古い様相が認められる。以上の伴出遺物の年代観から、本墳の築造は5世紀初頭から前葉とおさえてよいであろう。三環鈴は小形の四分の一・有脚式で、原例の少ないものである。大原府七輪古墳は5世紀前半代にまで遡るが、他の二例は後半に下る。本例が金環製であるとすれば、5世紀後半とするのが妥当であろう。鉄鍬は脇持片刃矢式で、やはり5世紀後半代と考えられる。とすると、先に想定した築造年代との開きが大きすぎるが、その解釈は正式報告をまて行いたい。また、2号墳（8mの方墳）からは焼成後底部穿孔の小形が出土し、4世紀後半の基制を示すものとして注目される。

5世紀後半、低地に前方後円墳が出現する。森戸古墳群権現前古墳は前方部周溝の一部を確認しただけで焼痕は不明だが、出土した埴輪は次に挙げる大法寺古墳例に先行するとされる。5世紀後半の古墳と判断される。埴輪をもつ前方後円墳であり、天神台古墳群の系譜上にある首長墓と考えられる。同古墳群大法寺古墳は、埴輪を樹立した60mの前方後円墳である。表層された埴輪は全て円筒埴輪で、薄手の大形品である。台形のしっかりしたタガをもち、外面調整は一次タテケのみで二次調整は施されない。こうした埴輪の特徴や、後述の禰島寺古墳とのかねあひから6世紀初頭頃の築造と考えている。

森戸大法寺古墳の後、西に1.3kmほど離れて禰島寺古墳が築造される。推定全長60mの前方後円墳である。画文帯・鏡・武器・武具・馬具など副葬品は優れた内容をもち、香取海の拠点や占めた武人の姿を彷彿とさせるものがある。6世紀前葉の所産と考えられる。このように、5世紀後半から6世紀前葉まで、三代に亘って大須賀川の低地に前方後円墳を築いた勢力が他に卓越していたことは認めてよいであろう。

6世紀中葉から後葉の古墳は低地に認められながら、次の塚越古墳の存在を考えれば低地に築かれていた可能性も否定できない。塚越古墳は禰島寺山古墳の西1.2kmに位置する。墳形・規模とも不明だが、馬蹄が伝わっている。突縁を用いた点・金輪塚古墳例に通ずるものがあり、6世紀末から7世紀初葉の年代を考えている。

大須賀川右岸、片野の台地上にも古墳群が形成される。前方後円墳15・円墳33で構成される有力な古墳群である。出土古墳は特定できないが群中出土の石枕があり、古墳群の形成は5世紀代にまで遡ると考えられる。しかし、以後連続と築造が続いたのではなく、古墳造営が活発になるのは6世紀中葉以降のことと予想している。片野新林古墳群には60m・50mの2基の前方後円墳がある。いずれも後円部径と前方部幅がほぼ等しく、6世紀後半の古墳と考えられる。南北約3.5kmの狭長な台地の両側に谷があり、生産の場になっていたものと想像される。また、小野川水系や太平洋に至る栗山川水系も至近距離にあり、このことも古墳群形成の背景にあったと考えている。

大戸白幡古墳群や毛玉古墳群も注意されるが、内容に不明な点が多いため、ここでは触れない。

開率時横穴群は、総数100基以上と考えられる大規模横穴群である。3号横穴からは関東で初めて金剛製押出仏が出土した。貴重な発見であり、横穴も看過し得ないことを如実に物語っている。

大須賀川右岸では、4世紀後半、在地的な方墳（長方墳）が出現し5世紀後半まで残る。一方、4世紀末頃定型的化した前方後円墳が出現し、5世紀後半に低地に進出して6世紀末から7世紀初頭まで首長墓系が続くとみている。

3. 小野川流域

小野川下流の沖積地に、前方後円墳と円墳の古墳群が形成されている。

仁井宿十三塚からは石枕が出土し、5世紀代から古墳が築造されていたことが知られる。浅間神社古墳は全長70mの前方後円墳で、タガがくずれた埴輪をもつ。6世紀後半でも新しい時期のものと考えられる。

神道山古墳群も小野川水系に属すると思われる。前方後円墳1・円墳11からなり、神道山古墳は全長47m。後円部径と前方部幅がほぼ等しい形状からは、6世紀後半の年代が考えられる。

小野川流域は古墳の絶対数が少ないが、6世紀後半になると浅間神社古墳のような有力古墳が出現するのである。

4. 黒部川流域

黒部川流域には多くの古墳が認められる。

一之分目古墳は正確な位置が知られず、墳形・規模も不明。石製模造品が伝わるだけだが、刀のつくりや短冊鉄弁の模造品を含むことから5世紀初頭までの所産と考えられる。

利根川砂堤上の三之分目古墳群は、前方後円墳5基を中心とした極めて有力な古墳群であり、一之分目古墳の系譜をひくものと思われる。三之分目1号墳は60～70mの前方後円墳と考えられているが、年代を知る手がかりはない。大塚山古墳は全長118mを測る下総第一の古墳である。長方形石棺を内部主体とすることが明らかとなっているが、副葬品は知られない。埴輪は黒瓦をもつもので、蓋部をつくらない成形技法など茨城県舟橋山古墳例と共通する点が多い。本墳の年代は、舟橋山古墳に与えられている5世紀中葉と考えられておく。大塚山古墳は常陸に通じる水上交通の要衝に立地しており、その掌握によって畿内王権と結びついたものと考えられる。富田1～3号墳はいずれも40m前後の前方後円墳で、主軸方向は大塚山古墳に共通するようである。3基とも埴輪をもつが詳細は不明で、築造時期の比定も困難である。ただ、特に古い様相は認められず、6世紀中葉頃までは下るのではないかと予想している。

6世紀後半になると、城山の台地上に前方後円墳7基をふくむ城山古墳群が形成される。1号墳は、埴輪をもつ68mの前方後円墳である。片袖の横穴式石室から、船載三角縁神鏡をはじめ武器・武具・馬具・天冠などの副葬品を出土した。その豊富な内容は、大塚山古墳からの系譜を想定するものに充分である。須恵器蓋はTK43a・TK209期のものであり、6世紀後半でも末に近い時期の古墳と考えられる。また、三角縁神鏡が前期古墳に特徴的な遺物であることからすれば、4世紀中葉頃から当地の豪族は畿内王権との関係をもっていたものと考えられる。

黒部川右岸では阿玉台北A-007号墳が最も遅い時期の古墳である。全長25.5mの前方後円墳で、内部主体は失われていたが、4世紀後半頃のものと思われる。支谷を基盤にした勢力であろう。

沖積地を見渡す場所に形成された野台古墳群は、前方後円墳1・円墳3からなる。3号墳は28mの前方後円墳で、前方部北側の張り出しから小乳歯面角付背・横板板飯留短甲が出土している。5世紀後半の築造と考えられるが、次代の首長墓は見当たらない。

この地域には、船載三角縁神鏡の配布を受けた首長から、一之分目古墳・大塚山古墳・富田古墳群・城山古墳群と、時期的な消長はあるが有力な古墳を築造した勢力があった。その勢力は畿内王権と結び、後期までは下総でも最も力をもっていたと考えられるのである。

5. 利根川下流南岸地域（東庄町）

当地は、古墳分布が比較的希望の地域である。

羽計古墳群・寺台古墳群の前方後円墳は後期後半のものと考えられるが、いずれも小規模である。

橘古墳群は円墳主体の群集墳で、本来はかなりの基盤だったと思われる。後期に築造が開始された古墳群と考えている。

馬場・瓶を出土した東今泉古墳は利根川の砂堤上に立地する。削平されて墳形・内部主体とも不明だが、小型の古墳ではなかったようである。採集した埴輪はタガがくずれ、6世紀末頃の年代を示している。

6. 利根川下流南岸地域（鏡子市）

利根川沿いにくつ古墳群が存在する。

西栗古墳群は小規模な円墳・方墳が多いが、1号墳は径38mの大円墳である。発掘調査時にはすでに半壊しており、内部も残骸は検出されなかった。報文では常陸型古墳を想定しているが、これほど大規模なものは例がない。再検討の余地があるように思われる。

大八ヶ横穴群は利根川下流域に特有の構造をとっており、当地がその文化圏に属していたことを示している。

7 まとめ

以上、小地域ごとに古墳分布の概要を述べたが、香取市全体をみると、利根川に面する台地上に偏在していることが窺われる。また、利根川の砂堤上にも古墳がみられ、それらに有力なものが多いことも注目される。このことは、香取海が水上交通路として重要な役割を果たしており、その掌握こそが豪族の優位性を保証するものであったことを物語っているように思われる。

また、この地の豪族のうち、大須賀川下流と黒部川下流の勢力が継続的に古墳を築いており、共に三之分目大塚山古墳を擁し畿内と密接な関係をもっていた後者は、極めて優勢な勢力であったと言えよう。

第4節 海匝地区

萩 悦久

香取地区の項で記述した鏡子市の利根川沿いは除き、栗山川水系全体をこてて扱う。栗山川流域・韓国西岸・樟西東岸・鏡子（太平洋岸）・九十九里平野の小地域にかけて記述する。

1. 栗山川水系

栗山川の上流域、常盤川との合流点を俯瞰する台地上に柏船古墳群が営まれる。この地は、栗山川を越れば大須賀川水系に通じ、常盤川に沿って進めば黒部川水系に近い。2号墳（杓子塚古墳）は80mの前方後円墳で、有段石腰室・埴輪をもつ。有段石腰室には土師器と埴輪類のものがあがり、大形で新しい様相をもっている。埴輪は小片でスカシも確認されていないが、房総最古の埴輪として注目される。5世紀末初頭までの築造と考えられる。6号墳（おけ塚古墳）は40mの円墳とされているが、80mクラスの前方後円墳との指摘もあり、踏査の結果その可能性が高いことを確認した。ただし、前方部はすでに崩落している。この古墳には年代の決め手がないが、合流点をよりよく望む古地

をとっていることから、2号墳に先行すると考えたい。このように柏瀬古墳群は二代に亘って有力な古墳を造営した古墳群であるが、次代には見るべき古墳を築いていない。

常盤川に面する台地上に北条塚古墳が築かれる。全長70mと当地においては大型の前方後円墳である。副葬品は知られないが、埴輪はタガがくずれた新しい埴輪をもち、6世紀後半の所産と考えられる。前方埴輪が後円部を上回る墳形からも、上記の年代は支持されよう。北条塚古墳と系譜関係にあるような有力古墳は認められない。

北条塚古墳から常盤川を1.8kmほど離れた台地上に小川・土仏古墳群が営まれている。小川土仏1号墳は40mクラスの中型前方後円墳で、墳形からは6世紀後半のものと考えられる。恐らく、この時期から古墳築造がはじまったのであろう。古墳群の造営主体は、支谷の生産力を背景とした勢力と思われる。

栗山川の支流に面して大塚「古墳」がある。70mほどの円墳あるいは方墳とされているが、事実とすれば提起する問題は極めて大きい。しかし、現地踏査では古墳である確証が得られないどころか、自然地形の公算が大きいと判断された。ここでは自然地形としてこれ以上立ち入らない。

栗山川中流域では、栗山川と多古瀬川の合流点近く、多古瀬川に面して多古台古墳が築造される。19.5mの円墳で、木箱直葬の内部主体から直刀・剣・石製模造品などが出土した。須恵器小型壺はTK208かON46期のものとされており、5世紀後半の古墳と考えられる。この古墳は小規模であり、また、周辺に有力な古墳も見当たらない。歴史的に古墳を造営した勢力ではなかったようである。

中流域左岸には坂並白貝古墳群が形成されている。当地有数の群衆墳で、栗山川に面する台地最辺に偏在する傾向がある。多くは後期後半の小円墳であるが、50mの前方後円墳(29号墳)と35mの円墳(51号墳)を含んでいる。29号墳は、高さでは後円部が前方部を凌駕するものの、後円部径と前方部幅はほぼ等しく、6世紀後半の古墳とされている。51号墳は前方後円墳の可能性があるので、そうすると70mクラスの古墳ということになる。年代・内容は不明である。坂並白貝古墳群の南の台地には淀谷古墳群があるが、これも48mの前方後円墳を中核とした古墳群で、坂並白貝古墳群と同じような性格の古墳群とされている。さらに南に位置する阪上井台古墳群も同様に理解できよう。

栗山川の支流、借当川に面する台地上に原原古墳群がある。1号墳は35mの前方後円墳で、竪溝を受けていたが、粘土を用いた施設から刀子・滑石製扁平勾玉が出土した。5世紀後半の古墳と考えるが、群中の小円墳は後期後半に下るものが多いように思われる。

塚原古墳群より1.5kmほど南、栗山川左岸の山下田原古墳群は6基の前方後円墳を含む古墳群である。しかし、これらの前方後円墳は30mクラスと小規模で、卓越した勢力を露さるものではない。墳形からして、6世紀後半に築造が開始された古墳群と考えている。

下流域左岸には、宝米の台地上に古墳群が営まれる。小円墳主体の群衆墳で、築造は後期後半に下るものと考えられている。

さらに南の小川台古墳群は、前方後円墳6基を含む古墳群である。1号墳は径28mの円墳で、木箱直葬の内部主体が2基検出された。剣・鉄鏃・有孔円板・白玉などが出土しており、5世紀後半の年代が与えられる。5号墳は33.4mの前方後円墳で、形埴輪をもち、木箱直葬の内部主体から直刀・鉄鏃・鏃などを出土している。周溝の模倣杯はTK209に類似し、銅の出土からも6世紀後半の古墳と考えられる。前方後円墳としては小規模だが、鏃の出土には注意される。群中の他の古墳は、後期後半から終末期のものと考えている。とすれば、この古墳群は、5世紀後半に中型の円墳を築いたものの長らく古墳造営が停止し、再び築造が行われたのは6世紀後半になってからということになる。少なくとも、小川台古墳群中に、1号墳以降の首長墓系列を追うことはできない。

芝崎古墳群は栗山川右岸では最南の古墳群で、九十九里平野に面している。前方後円墳を含むが小規模なもので、大きな勢力をもっていたとは考えられない。

栗山川下流の小山田横穴群は数十基と当地最大規模だが、全容が明らかにされないまま消滅したものが多く、調査された横穴は7世紀代のもので、その形態はバラエティに富んでいる。当地の横穴のタイプは、今後の研究課題である。

栗山川は、綾河川でいくつかの支流が注いでおり、それぞれに小流域が形成されている。しかし、これらの小流域で、古墳時代を通じて首長墓を造営し続けた地域はない。栗山川流域全体をみても、5世紀中葉や6世紀前半の古墳は今のところ見当たらない。

2. 梅海西岸地域

鎮木古墳群は前方後円墳7基を含む有力な古墳群である。滝台古墳は58mの前方後円墳で、古式な墳形を採ることから、5世紀初葉までの古墳と考えられる。滝台古墳の後、長く造墓活動は途絶え、次にこの地に古墳が現れるのは6世紀中葉から後葉である。37.2mの前方後円墳、鎮木大神古墳がそれである。副葬品は知られないが、埴輪はタガが低く、上記の年代を示している。以後、6世紀後葉から末葉まで数基の前方後円墳が相次いで営まれるが、いずれも小・中型のものである。御前鬼塚古墳は105mの大型前方後円墳である。遺物が全く知られないため年代比定は困難であるが、壮大な墳丘にもかかわらず埴輪をもたないことからすると、埴輪消滅後の古墳とするのが妥当であろう。6世紀末乃至7世紀初葉の、最終段階の前方後円墳と考えたい。この時期では下給最大規模であり、大いに注目される場所である。鎮木古墳群は梅海に面するが、同時に、背後の常盤川を通じて栗山川に達し、黒部川水系からも至近の距離にある。こうした立地が、古墳築造のひとつの要因であったと考えられている。

真々塚「古墳」は借当川の上流に位置する。直刀・鉄鏃・鏃などを出土し、60mの「墳城」が想定されているが、内部主体は判然としな。鉄鏃は5世紀初葉のものであり、この時期の古墳としては内部主体の構造に難点がある。狭い川面に面する立地も、この時期には相応しくない。ここでは古墳との判断は保留したいが、政治勢力があったことは理解されよう。

広之古墳群も借当川の上流に立地する古墳群で、円墳4基からなる。3号墳は25mの円墳で、直刀・剣・鉄鏃・石製模造品などを出土した。5世紀後半でも新しい時期が想定される。5号墳もほぼ同時期の所産であろう。

関岡古墳は、墳形・規模とも不明だが、砂岩を立てた上に河原石を積んだ特異な横穴式石室をもつ。鉄刀・馬具・銅網などの年代は7世紀前半に下るが、これらは追葬に伴うものであり、築造時期は7世紀初葉までは遡るものと思われる。本墳も鎮木古墳群と同様、梅海に臨みながら、なおかつ借当川で栗山川に達している。

梅海西岸には横穴も多いが、その実態は十分に把握されていない。ただ、共通する形態のものが分布していることを考えると、文化的なまとまりをもった地域であったことは理解できる。それがどのくらいの範囲であったかは、今後の研究に委ねざるを得ない。

この地域には、滝台古墳のような古手古墳もあるが、最も勢力をもったのは御前鬼塚古墳や関岡古墳の築造された後葉末と考えるようであろう。

3. 梅海東岸地域

梅海東岸の北部は、利根川に流入する小河川の最奥部に当たる。この地は古墳の分布そのものが希薄で、有力な古墳は見当たらない。

4. 太平洋沿岸台地(銚子周辺)

この地域では、鶴見川流域に古墳群・横穴群がみられる。

辰松古墳群は現存3基だが、石棺材が散在しており、本来は有力な群集墳であったものと思われる。

5. 九十九里平野

現在では3ヶ所に古墳群を認めるが、本来はもっと多かったのではないかと考えている。宅地化や土地改良事業で消滅したものと思われるが、現在では確かめる術もない。

海浜地区では栗山川流域と樟海西岸に有力な古墳群がみられる。しかし、どちらの地域も継続的な首長墓を営むことはできなかったようである。

第5節 山武地区

福岡元

山武郡は、沖積平野の三日月型の九十九里平野と、粘土層、成田砂層、ローム層からなる下層台地に区別され、西部を占める下層台地を南北に数条の川が断断して谷を造り、九十九里平野を貫流し、太平洋に注いでいる。この山武郡を流れる河川は、北から栗山川及び栗山川の支流高谷川、木戸川、境川・成東川・十文字川（平野部で合流し、作田川となる）、北幸谷川（真亀川）であり、それぞれの河川流域に大小の古墳群が形成されている。

山武郡は、昭和20年代からさかんに古墳の分布調査や大学による学術調査が行われ、その資料が刊行されて、古墳の密集地帯であることは古くから知られていた。又、早くから戸影、平岡和夫氏らが郡内の古墳の分布調査を実施し、武射の国の奥津城の所在が明らかにされてきた。近年には、各市町村教育委員会から埋蔵文化財分布図が発行されて、古墳の分布もより精密なものとなってきている。昨年には、平岡和夫氏が今までの分布調査の集大成とも言える『千葉県九十九里地域の古墳研究』なる書を出版されている。それら多くの先学の業績を後づけし、河川水系ごとの古墳分布と、調査された古墳の概略を見て行きたい。

1 栗山川水系

栗山川は、九十九里を流れる河川の中では最も長く、最も広い流域と奥深い樹状に谷田が入り込んだ様子は、他の河川にみられない大きな特徴である。下流域で横芝町の古墳群の前方後円墳1基、方墳3基、円墳7基の木戸台・町草古墳群、円墳5基の地山古墳群、前方後円墳1基、円墳7基の取立古墳群（寺方古墳群）、円墳1基の長倉古墳が確認されているが、どの古墳群も煙藏・削平されているものが多く、残存状態は良くない。

栗山川の支流・高谷川は、山武郡の最北部にあり、上総町と下総郡をわけて、最上流域には、円墳11基の大里田辺古墳群、円墳7基の栗田（加茂）古墳群、前方後円墳1基、円墳1基の大塚台古墳群があり、大里田辺7号墳は、径45mの円墳としては、芝山町最大の大型円墳である。中流域では、前方後円墳1基、円墳8基の上吹入・林古墳群、前方後円墳1基、方墳2基、円墳2基の谷津古墳群、すでに煙藏してしまっただ数基の吹入横穴群と4基の東風山横穴群が確認されている。下流域の栗山川と合流する付近には前方後円墳4基、円墳15基の殿部田古墳群がある。全長33.3mの殿部田5号墳は、昭和49年、芝山には博物館によって調査され、円筒・人物・馬・家型埴輪などの埴輪群が出土しているが、主体部は不明である。

2 木戸川流域

木戸川は、樹状に侵食を受けた谷田もさほど深くない比較的直線的な川である。上流域には、前方後円墳1基、円墳3基の五十石古墳群、および前方後円墳13基、円墳180基と山武郡最大数の古墳を数える山田・宝馬古墳群、前方後円墳2基、円墳2基以上の高田古墳群がある。特に山田・宝馬古墳群は、現在では、削平され煙藏して地地になっている所が多いが、昭和30年代までは平坦な所が少ない位に古墳だらけであったと言う。したがって調査された古墳も多く、21基を数える。そのすべてを記述する事は出来ないで、主なものの概略を以下に記す。

22号墳は、昭和37年、早稲田大学によって調査され、凝灰砂岩の箱式石棺から直刀3、銀鍍鉄製円筒太刀柄頭、鉄線45以上、銀鍍耳環2などを検出している。

35号墳（宝馬1号墳）は、昭和53年芝山には博物館が調査し、円筒・人物・家型埴輪の列を検出している。主体部は、攪乱されていて、鉄線片を検出したのみであった。

57号墳も早稲田大学が昭和37年に調査し、直刀5、鉄線7、銅鍍金具1、帯金具1、耳環2などを検出している。又、1989年には、純山武郡市文化財センターが、径40mの84号墳を調査し、墳頂部の箱式石棺から直刀、鉄線、ガラス玉などを検出した。この古墳は、墳丘から出土した土師器から6世紀初めの古墳である事がわかった。

103号墳は、千葉県県文化財センターが昭和56年に調査し、主体部は、切り石製の箱式石棺で、鉄線19、耳環1、ガラス玉36、土製小玉などを検出した。

120号墳も千葉県県文化財センターが同時期調査し、直刀2、鉄線21、水晶切子玉10、琥珀製つめ玉16、ガラス小玉349、土製小玉57などを検出している。

164号墳（通称宝馬にあり塚）は、昭和32年に早稲田大学が、昭和62年には千葉県県文化財センターが調査している。埴輪列と箱式石棺を検出しており、直刀、鉄線、銀鍍刀子、帯、銀鍍耳環、ビーズ玉などを出土していると言いが報告が未完のため詳細は不明である。

高田古墳群も坂井利男氏によって昭和40年、3号墳が調査されている。全長40mの前方後円墳からは、円筒・人物・馬型埴輪の列が発見され、主体部は、箱式石棺で、直刀2、鉄線、刀子1、耳環、ガラス玉が出土している。

中流域には、古墳群が多く、円墳4基の小池上人塚古墳群、円墳4基の下ノ内古墳群、円墳5基の三田古墳群、前方後円墳2基、円墳3基の小池古墳群、前方後円墳1基、円墳3基の船塚古墳群、円墳3基の向野古墳群、前方後円墳2基、円墳16基の中台古墳群（芝山古墳群）などがある。舟塚2号墳は、昭和41年早稲田大学によって調査され、主体部は横穴式石室で、直刀、鉄線、小玉、釘などが出土したと言ふ。

中台5号墳（通称船塚）は、昭和31年、後述の6号墳（通称船塚）とともに早稲田大学によって調査され、埴輪列の配列がほぼ原位置を推定させるに足る状態で出土した事により、埴輪研究の進捗に寄与した記念すべき調査であった。主体部は、前方部両側に開口した横穴式石室で、直刀13、方頭太刀1、金銅鍍太刀1、鉄線多数、刀子2、金銅鍍雲珠5、鉄地金銅鍍雲珠1、簪1などを検出している。

中台6号墳（船塚）は、扇形で二重周溝をもった横芝町最大の前方後円墳で、須磨太刀1、直刀5、金銅鍍8、金環6、銅網などを検出し、昭和33年、船塚と共に国の史跡に指定された（6世紀後半から7世紀初頭に築造されたものと思われる）。その他、昭和54年には、千葉県県文化財センターによって、鯉ヶ窪1・2・3号墳（中台16・17・18）が調査されている。

下流域では、円墳12基の大塚古墳群、前方後円墳1基、方墳1基、円墳14基の金尾古墳群、方墳5基、円墳6基の御城内古墳群、円墳16基の上大塚古墳群、円墳2基の下大塚古墳群、方墳1基、円墳6基の黒木台古墳群、前方後円墳4基、円墳14基の黒木古墳群、前方後円墳2基、円墳5基の大塚古墳群、円墳2基の黒尾古墳群の各古墳群がある。

大塚1号墳は、径85mを測る県内でも最大級の円墳である。

熊木1号墳（朝日岡古墳）は、昭和27年、日本大学経部氏によって調査されたもので、横穴式石室は、切石積み構造であったという。円筒・人物・馬型埴輪が出土している。6世紀後半の築造であろうか。

熊木2号墳（熊木5号墳・名城5号墳）も昭和28年、日本大学によって調査され、直刀12、鉄製片、鉄製鍔1、辻金具1、金銅製刀子鞘1、金銅製巾着型器具、が出土している。

大堤1号墳（大堤権現塚）は、全長117mの前方後円墳で、山武郡最大の古墳である。昭和31年日本大学によって調査され、頭槌太刀1、主頭太刀1、直刀1、金銅製刀子片、金箔などを検出している。7世紀前半の築造であろうか。

3 境川流域

作田川の支流・境川の最上流部には、円墳の中津田古墳がある。昭和52年平岡和夫氏によって調査されている。上流域から中流域にかけての左岸は、山武町境谷から成東町真行寺にかけて連続的に古墳群が続き、群集域に検討の余地を残すものの上流域から前方後円墳4基、円墳12基の境谷古墳群、前方後円墳2基、方墳37基、円墳39基の諸木内古墳群、前方後円墳2基、方墳1基、円墳46基、不明4基の胡麻手台古墳群、前方後円墳9基、円墳4基の根崎古墳群、方墳2基、円墳17基、不明3基の麻生新田古墳群、前方後円墳2基、方墳4基、円墳13基の真行寺古墳群、前方後円墳1基、円墳10基の富田古墳群と続いている。

境谷10・11・12号墳は、昭和31年川戸彰氏によって調査されている。径43mの麻生新田3号墳は、通称カブト塚と呼ばれ、昭和41年川戸彰氏によって調査され、馬具などを検出している。

直径45mの新行幸19号墳（盛徳塚）は、山武町と境界を挟んだ成東町の飛び地で、昭和43年から昭和45年にかけて、早稲田大学によって調査された。円墳から円筒・人物・馬・家型埴輪が出土し、主体部は、横穴式石室と箱式石棺の2つで、埋葬施設の変遷を探る上で興味ある調査例である。銀製の主頭太刀や各種の馬具を検出した。7世紀を境とした築造時期が考えられる。

それに反し、境川右岸には見るべき古墳群がなく、わずかに上流域で、方墳1基、円墳4基の坂ヶ谷古墳群、円墳の南坂台古墳、円墳の殿治畑古墳、親田北嶺穴群、前方後円墳1基、円墳4基の市場古墳群などの1基ないし数基の小古墳群が確認されるのみで、極めて対症的で、この地域の特性を際立たせている。

4 成東川流域

もう一つの作田川の支流・成東川流域の古墳群は、上流域に東金市域の前方後円墳1基、円墳20基の極楽寺古墳群、円墳3基の下布田古墳群、山武町域に方墳1基、円墳10基の武勝古墳群があるが、割平、埴輪が壊しく、残存している古墳は、極めて少ない。中流域左岸には、円墳12基の権崎古墳群が確認されているがこちらも保存状態はよくない。左岸の森台地域では、森台古墳群が広範囲にわたり築造されており、4支群にグループ化した。I群は、前方後円墳1基、方墳1基、円墳22基であり、II群は、円墳5基、III群は、円墳8基、IV群は、円墳7基から構成されている。

I群は、昭和53年、青山学院大学によって11基が調査されている。その内の9号墳（7号墳）からは、円筒・人物・馬型埴輪が出土している。

下流域では、成東町で前方後円墳3基、方墳2基、円墳23基の板附古墳群、前方後円墳1基、円墳8基の沼沢古墳群、前方後円墳2基、円墳22基の和田古墳群、円墳3基の宮前古墳群が築かれており、宮前古墳群以外は、いずれも大規模な古墳群である。

板附古墳群は、数度におわたって調査されており、昭和26年には、日本大学によって板附15号墳（不動塚）が調査

され、昭和29年には、同じく日本大学によって13号墳、14号墳（西の台）が調査され、昭和45年には平岡和夫氏ら17号墳（4号）、21号墳（2号）、26号墳（1号）が調査されている。昭和45年には国立歴史民俗博物館の研究調査の一環として、4号墳（駄ノ塚）が白石太一郎、杉山晋作氏によって調査されている。1辺80mの方墳の主体部・横穴石室は盗掘を受けており、金銅製の歩揺付き雲珠などわずかな遺物しか検出しなかったが、検出した須恵器からこの古墳の築造は、7世紀前半と思われる。

5 十文字川流域

十文字川も作田川の支流であるが、流路は短く、西側におもに谷田を遡るという傾向が見られる。上流域では、小規模な円墳6基の榎台古墳群、円墳9基の滝沢古墳群があり、中流域には、円墳4基の菅谷古墳群、円墳10基の馬場古墳群、前方後円墳1基、円墳7基の井戸谷古墳群、方墳1基、円墳4基の焼き山古墳群があるが、いずれも小規模のものである。

下流域になると様相は一度し、前方後円墳6基、方墳4基、円墳54基の家之子古墳群、円墳33基の道庭古墳群と山武郡南部地域では、数の上では最大級の古墳群が築造されている。

家の子古墳群は、昭和42年、川戸彰、丸山真氏によって調査され、道庭古墳群は、有沢要氏によって調査され、報告は未完であるが、東金市で初めての、山武郡最西端の円筒・人物埴輪出土地である。

6 北幸谷川流域

北幸谷川流域では、最上流域、大網白里町で、円墳1基を確認している金谷野A遺跡、円墳2基からなる金谷古墳群、東金市域で、円墳1基の道門坊古墳、円墳3基の養安寺古墳群の小規模な古墳が見られ、下流域では、前方後円墳7基、円墳38基と大規模な油井古塚原古墳群と方墳1基と円墳11基の大豆谷古墳群の両古墳群と対象をなしている。

油井古塚原古墳群は、昭和41年に、川戸彰、下津谷達夫氏により前方後円墳1基と円墳12基を調査している。

又、山武郡南部地域で特筆すべきは、神領平野と接する厚庭能触丘段丘腹の砂質泥岩に穿たれている横穴墓群である。

東金市域では、峰下横穴群、玉崎神社裏横穴群、上行寺裏横穴群、新宿横穴群、岩崎横穴群、谷横穴群、朱塗りの横穴が確認されており、上行寺裏と朱塗りの横穴以外は、10数基から20数基と多い。そのうち、岩崎横穴群に付いては、制山武郡南部地区文化財センターによって、1987年に調査されている。

大網白里町内は、前述の様にわずかに古墳も確認されているが、むしろ長生郡と似て横穴群集域といえる。餅木横穴群、風谷横穴群、小西横穴群、養安寺横穴群、宮谷横穴群、北後谷横穴群、本宿横穴群、熊野神社横穴群、小中横穴群、瑞穂横穴群、瑞穂小学校裏横穴群、永田横穴群が現在までに確認されている。そのうち、北後谷横穴群、本宿横穴群、小中横穴群、瑞穂横穴群については、いずれも山武郡南部地区文化財センターによって調査されている。

第6節 長生地区

福岡元

長生郡は、房総半島のはずれ中央、南北に走る房総丘陵の東側にあり、太平洋岸九十九里浜の南端に位置している。長生郡の中央部は、一宮川水系の大小の支流によって開析された支谷が樹状状に発達し、房総丘陵の裾部と茂原市域を中心に広がる沖積平野とが交錯し、複雑な地形的景観を見せている。

一宮川水系の支流は、北から阿久川、豊田川、一宮川本流、三途川（長南川）、鶴枝川、埴生川、長楽寺川、瑞沢川があり、一宮川本流と埴生川以外は、さほど流路は長くはないのが特徴である。

長生郡市域は、高塚墳墓が極めて少ないと言ふより、ほとんど無いのが最大の特徴であり、茂原市では、阿久川、豊田川、一宮川本流のいずれの流域でも確認していない。

長柄町では、豊田川上流域で、全長20mの前方後円墳、柳作古墳が1基確認されている。また、一宮川上流で、前方後円墳1基と中流域で、要害古墳群の前方後円墳1基と円墳1基を確認している。いずれも未調査の古墳である。

長南町では、埴生川上流域で、円墳1基の大谷古墳と円墳2基の地引古墳群が、中流域では、前方後円墳2基、円墳2基の油断（あぶらでん）古墳群がある。油断古墳群は1号前方後円墳が、昭和49年と昭和50年にわたって墳丘測量と、周溝の調査が早稲田大学によって行われている。調査概報（註1）によると、全長93mの古墳の墳丘裾部から5世紀前後の土師器が出土されており、後述する能満寺1号前方後円墳に続くものとして注目される。

又、長楽寺川下流域には、前方後円墳1基、円墳10基、方墳1基、墳形不明6基の計18基の能満寺古墳群がある。

その内、前方後円墳1基と円墳2基が長南町地域に所在する。

その前方後円墳は、昭和22年11月に、明治大学によって発掘調査されており、当地域のみならず、千葉県を代表する古墳として知られているとともに、県内における前期古墳の最初期調査例として記念碑的古墳であると言える。報告書によると（註2）、全長73.5m、後円部径51m、同高6.5m、前方部幅20m、同高4mを測る。後円部のほぼ中央には、主軸に平行して、長さ7.5m、幅2mの木炭層が埋納されていた。堀内からは、鏡2、鉄剣1、直刀1、ガラス製小玉10、銅鏃8、鉄鏃、鉄斧、ヤリがなど出土されている。又、後円部頂部から埋葬禮用品に供納されたとみられる高杯、器台、底部穿孔甕などを出土したという。これらの出土遺物から本古墳の築造年代を4世紀後半としている。

陸沢町では、長楽寺川上流域で佐賀山部田遺跡で、円墳1基を、中下流域で、全長45mのひな塚前方後円墳1基と能満寺古墳群の方墳1基と円墳が確認されている。

埴生川下流域では、全長42mの大谷木前方後円墳と円墳1基の大塚古墳、前方後円墳2基、円墳2基の富貴堂古墳群があり、両流域いずれの古墳とも未調査である。

瑞沢川上流域では、円墳3基からなる日之子台古墳群、全長27.7mの前方後円墳1基と円墳4基からなる森・長楽寺古墳群がある。下流域では、円墳4基の浅間山古墳群、円墳1基の上市場古墳が確認されている。

その内、浅間山1号墳は、昭和48年12月陸沢町教育委員会によって調査されている土壇2基が検出され、第一主体部からは、変形鏡形鉄剣・剣・直刀・鉄鏃・三輪玉・有孔円板を出土しており、第二主体部からは、剣・鉄鏃・胡弓・鉄具・環状鉄製品が出土している。そして、この古墳の築造年代は5世紀後半と推定される。

また、昭和63年には、陸沢町教育委員会によって、森・長楽寺古墳群の1・4・5号墳が調査されている（註4）。1号墳と4号墳は、全長27.7mを測り、地山彫形された古墳のブローチン式は古式の様相を示すが、この古墳に伴う遺物は検出しなかったという。4号墳は、東西に長い径15.5mの長円墳とも呼ぶもので、自然地形を利用し、一

部盛土をしているという。出土遺物は、須恵器甕片、土師器埴輪がある。5号墳は、東西長10.6mを測る盛土された円墳で、主体部は土壇で、出土遺物は、土器は無いものの、土壇内から、直刀1、刀子1、鉄鏃6、鉄斧1を出土している。築造時期については、調査者は、4号墳を5世紀末頃、5号墳を6世紀末から7世紀初頭としているが、5号墳については、もう少し時期を遡らせてもよいのではないだろうか。

一宮町における高塚墳も瑞沢川下流域の待山古墳群のみである。7基の古墳からなり、そのうち1基は、昭和40年、上智大学によって調査されている。

この調査報告は、上智大学史学会が昭和38年から昭和42年にわたって断続的に行ってきた長生郡の総合調査の一環として、他の長生郡内の横穴墓の分布調査や、発掘調査報告とともに「東上総の社会と文化」という大部な報告書（註5）の中に所収されている。

それによると、徑23m前後の円墳ないし帆立貝式古墳で、円筒埴輪を出土したという。築造時期を示すような遺物は検出しなかった。

以上、一宮川流域の高塚古墳に限って述べたが、長生郡では、極めて多くの横穴古墳が確認されている。阿久川流域には、龍蔵寺裏、神楽坂、河向、藤谷、落ノ下、渋谷、大笹、雪内、土井原、田取、岡坂屋、洞坂、北谷、内谷、八谷、御殿、打越の17ヶ所、計31基の横穴墓群がある。いずれも1基ないし2、3基の小規模なもので、グループとしてのまとまりも雪内谷横穴から北谷横穴の間の地域でわずかに認められるだけである。

豊田川流域には、長柄町のヨシ山、大仏谷、針ヶ谷長房庵谷、山根・喜多谷、桜谷・笠松、桜谷、谷ヶ谷、大正寺裏、大丸・関谷、力丸、茂原市の宿谷、宿、真名、庄吉、押日I群、打越、久下、国府岡、下谷、野本I群、野本II群、押日II群、舟戸、山崎I群、山崎II群、山崎III群、山崎IV群、長谷の27ヶ所、計191基の横穴群がある。この流域の横穴群は、1基のみの単独横穴は、山根・喜多谷と野本横穴のみで、他は数基ないし10数基の横穴群であるという特徴がある。特に、下流に近い国府岡地区付近に集中的に築かれ、山崎横穴群や押日I群、久下、舟戸、長谷横穴群などは、いずれも10数基以上の横穴で構成される大規模なものとなっている。

山崎横穴群は、昭和53年～55年にわたって千葉県文化財センターが46基（註6）、昭和61・62年に茂原市文化財センター（現長生郡市文化財センター）が4基の横穴を調査している（註7）。

一宮川本流は、当然ながら流域面積も広く、流路も長いことから最も多くの横穴が築かれた地域である。長柄町では、那部・月川、那部・八重垣神社、那部・稲塚、金谷・小金谷、針ヶ谷・東谷、立島・斎藤谷、関ヶ谷、桜谷・辻谷、榎本・年初、榎本・太平台、榎本・垣ヶ谷、榎本・和合、徳増・元六谷I群、徳増・元六谷II群、徳増・下谷、円蔵寺裏、大津倉長柳、金谷山山、立島・汲井谷、稲谷・稲谷西部I群、稲谷・稲谷西部II群、万作、中間、谷多郎、宮下、下山ノ谷、宮ノ台、関谷・稲谷東部I群、稲谷・稲谷東部II群、日除、向井、勸免、高山脇谷、松ノ木、高山、寺前、節ヶ谷、須合、近江谷の40ヶ所、334基の横穴がある。

長南町では、和合谷、桜下、殿ヶ谷、長照寺裏、西見田、ホイトド、集会所裏、恒盛、馬場谷、添作谷、七ツやぐら、木植谷の各横穴を稲毛横穴群とし、小谷A、小谷B、大谷横穴を今泉横穴群としている。小平田、三本松、水ノ口、中ノ馬を又富横穴群としている。三ヶ谷横穴群の20ヶ所、109基の横穴がある。茂原市域では、美輪横穴群の7基のみが一宮川本流に含まれ合計61群、450基の横穴を確認することができた。

一宮川本流上流域においては、大規模な横穴は立島・汲井谷の64基が顕出しているのみで、他は、1基ないし数基の横穴がほとんどで、集中する傾向は認められない。それに反し、中流域は、左岸では、稲谷東部、徳増の横穴群が、右岸では、稲毛横穴群、又富横穴群など一宮川本流のみならず、長生郡中でも最も密集した地域である。

又富中ノ馬横穴は、昭和42年8月、上智大学によって2基の横穴を調査している（註8）。

1号墳は、室室部3.75m、高さ2.5mである。天井部は、寄棟平入りの形態をしており、床面は左右2つの床梁を

有している。羨道部は、長さ4mであった。出土遺物は、玄室内には認められず、羨道部入口付近床面から若干の須恵器の破片が出土したという。

2号墳は、玄室の奥行き3.25m、高さ1.8mを測る。天井部は、寄棟平入りの形態をしている。床面は、1号墳と同じ平床で、左右に2つの棺床がある。羨道部は、長さ4mであった。出土遺物は、羨道外の左側に主軸に平行して一列に須恵器の短頸壺が並んでいた。

三途川(長雨川)流域は、一宮川流域では流域面積が最も狭く、谷も浅い支流である。上流から深沢、大関谷、三途台A、三途台Bの4群、9基と少なくとも、中流域は、井山、吹露の2群24基がある。井山横穴は、玄室の小形ながら20基と多い。下流域は米満、堀内、宮田谷の3群、36基の横穴がある。上・中・下流と数こそ少ないものの整然と合計9群、69基の横穴がある。

鶴枝川は、流路が短く、長南町の北東端と茂原市の南西端が接するわずかな部分にのみ横穴墓が築かれている。長南町側、やや上流域では、法華谷東と法華谷西の2群、22基のみで、左岸と右岸に分かれるものの、集中して築かれている。茂原市よりでは、鶴枝川に開闢された谷に沿ってややばらけ、福作谷、一ノ関、大作、大谷、大坪、早野、上浄法寺、穴蔵前、鏡谷、出口、立木、三ヶ谷の12群、29基が確認されている。1基のみのものが5か所あり、この流域では合計14群、51基が確認されたことになる。

鏡谷横穴群の1基は、1983年に調査され、8世紀代の土師器と須恵器が出土したという(註9)。また大坪遺跡からは、五輪塔が検出されている。

増生川流域は、川の蛇行も激しく、一宮川本流と同じように広く開闢されて、谷間は極めて大きい。

長南町地域では、上流から小沢A、小沢B、観音寺、滝ノ口、葛田A、葛田B、地引A、地引B、地引C、地引D、地引E、西瀬、八坂、妙鈴寺、上茂原、久原、永井、八坂、うり谷、木ノ村の20群、117基が確認できる。陸沢町地域では、関戸、大谷木山の神、大谷木米光、大谷木、北山田富士の下、北山田御堂堂、北山田越地、北山田白ヶ谷、北山田北長谷、寺崎風呂屋、寺崎城ノ内、寺崎玄知ノ下の12群、33基の横穴が確認されている。地引横穴は、A群の1・2号、B群の1・2号基が、1965年8月上智大学によって調査されている(註10)。

それによると、A群1号基は、玄室の奥行き3.6m、高さ1.8mで、天井部の形態は壁に接する部分がある平型である。出土遺物は、鉄製の鐙、直刀片、刀子、鉄鏃、歯、須恵器破片、短頸壺があった。

A群2号基は、玄室の奥行き3m、高さ1.8mで、天井部の形態は、アーチ型で、床面の棺床施設は3か所あった。出土遺物は、鉄鏃、耳輪、須恵器横板、短頸壺、杯、碗、土師器であった。

B群1号基は、玄室の奥行き3.2m、高さ1.5mで、天井部は、平形の形態である。棺床施設はない。出土遺物は、鉄鏃、直刀片、小玉、須恵器破片、土師器破片と少ない。

B群2号基は、玄室の奥行き4m、高さ1.7mで、天井部の形態は、1号基と同様に平型であった。棺床施設はない。出土遺物は、須恵器短頸壺、土師器杯、高杯及び人骨と歯が検出された。

以上、報告書にしたがって記載してみると、この4基の横穴墓は、7世紀の前半から8世紀の前半にかけて築造・使用されたものと思われる。

又、陸沢町でも寺崎玄知ノ下横穴1号基が、昭和63年に陸沢町教育委員会によって調査され、短頸壺と壺が出土している。

長楽寺川は、増生川の支流で、長南町と陸沢町の町境、下芝原・芝原郡辺りで増生川に合流している。流路も短く、横穴群の密集もみられず、わずかに中流域に散在しているだけである。次郎谷、佐賀、副平寺、佐賀森ノ谷A、佐賀森ノ谷B、鶴ヶ谷A、鶴ヶ谷B、鶴ヶ谷Cの8群、18基を確認している。いずれも1基ないし2・3基のものである。

瑞沢川も、増生川の支流であり、長楽寺川より下流、下の郷・下宿辺りで増生川と合流しているが、横穴群の分布位置をみると開闢された谷の奥まで築かれており、古代の瑞沢川の流路は、現在の地図でみるよりもかなり複雑に蛇行していたことを察させる。

陸沢町では、上流から大上杉山A、大上杉山B、大上杉山C、房谷、大上坪、長楽寺A、長楽寺B、長楽寺C、大上飯沢、上之郷下山田、上之郷上山田、東谷、上之郷井戸谷、上之郷石川A、上之郷石川B、上之郷ヶ坪A、上之郷ヶ坪B、上之郷神戸、上之郷向ヶ谷、上之郷上天ヶ谷、上之郷安俣A、上之郷安俣B、上之郷橋戸A、上之郷橋戸B、鴨谷A、鴨谷B、下の郷入山津、下の郷宗低谷、下の郷東谷A、下の郷東谷B、下の郷次郎田谷、清水谷、岩井、下の郷小谷、下の郷月代台、岩井塚谷、岩井大谷、岩井谷ノ下A、岩井谷ノ下B、岩井北東行寺A、岩井北東行寺B、岩井修理田A、岩井修理田B、岩井堂谷、大坊谷、池谷田、上市場分塚前の47群の138基の横穴墓を確認している。

いずれも横穴群も1基ないし数基で構成される小規模なもので、次郎田谷横穴群の12基が目立つくらいである。上之郷地区の小支谷に集中しており、その内の東谷横穴墓の1基が、昭和56年、明治大学によって学術調査されている。陸沢町教育委員会から出された報告書(註11)によると、玄室部の奥行き3.5m、高さ1.8mで、天井の形態は、ドーム型をしている。羨道部は、長さ1.8m、幅1.0mで、排水溝が認められる。出土遺物は、土師器杯10、土師器高杯4、須恵器提梁1、鉄鏃1、刀子1、戸井2及び人骨を骨検出した。この1号墳の使用時期は、7世紀の初めより中葉であるという。

一宮町は、王前神社付近から南に延びる支谷沿いにわずかながら横穴群が築かれている。上流から見ると奥谷、柚ノ木、浅間、岡田前、細田A、細田B、小池、東院、西門前谷の9群、61基を確認している。単独の横穴墓は無く、奥谷、西門前谷の2基が最小で、柚ノ木が17基、細田Aが12基を確認している。

柚ノ木横穴群は、昭和39年、上智大学によって4基の横穴墓が調査されている(註12)。

A-1号基は、奥行き2.1m、高さ1.35mで、天井部の形態は、ドーム型で、床面中央に棺床が掘込まれている。出土遺物はすべて羨道部から出土している。管玉1、耳環1、土師器杯1、土師器壺1であった。

A-2号基は、玄室の奥行き2m、高さ1.2mで、天井部の形態は、ドーム型である。中央に棺床が掘込まれている。出土遺物は、須恵器壺1、須恵器横板1、及び貝類と思われる半片が検出された。

A-3号基は、床室は、奥行き2.8m、高さ1.5mで、天井の形態は、ドーム型である。棺床は、2棺床である。羨道部が8.8mときわめて長いのが特徴である。出土遺物は検出されなかった。

B-1号基は、玄室の奥行き3.05m、高さ1.95mで、天井部の形態は、アーチ型である。棺床は、2つの掘込まれている。出土遺物はほとんどなく、須恵器の鈎が出土したのみであった。

この4基の横穴墓の使用された時期は、出土した遺物から7世紀後半から8世紀前半頃であろうか。

第7節 千葉地区

田中 清 美

千葉地区の水系については、北部より花見川水系、鹿島川水系、都川水系、村田川水系の4地域に分けられる。これらの河川は鹿島川(利根川水系)を抜いて、すべて東京湾に流出する。

先づ、花見川水系では、対象地区は、下流域であり、当地域は、他地域に比較すると、古墳群の分布は、希薄である。右岸では、椎崎・武石・大小塚、そして、鉄砲塚、東鉄砲塚などの古墳群が存在するが、東鉄砲塚(前方後円墳

1基、円墳6基)を除けば、ほとんどが、数基のみの古墳群である。左岸は、高台南(前方後円墳)、追命、大山、陣屋台、子安、殿山などの古墳群で、同様に小規模な構成である。

1. 鹿島川水系

鹿島川水系では、対象地区は、上流域に限定され、最上流域では、都川との分水嶺付近に位置する。特に最上部の二塚古墳群などがあげられる。また、上流域に、右岸、左岸の区別も識別が困難であり、姫塚、上人塚、六所などの古墳群は、単に上流域の古墳として踏えておく。それら以外では、右岸、左岸としてとらえることが出来、右岸では、御手野(前方後円墳2基、円墳7基)、水垂、山手志緒、小間子、中道、経塚、ムカニなどの古墳群が存在する。右岸では、浅間ビ、外瀬、花井田、谷部多、権現堂などの古墳群が存在するが、総じて基数は少ない。

2. 都川水系

次に、都川水系では、幾つかの支流が存在し、大きくは、北部の2支流と南側の本流域に分けることが出来る。北部域では、鳩原、草原、宮野木原、塚原、西街道(前方後円墳)、城山、勝田台などの古墳群が存在する。いずれも小古墳群であり、本流域に比較すると希薄である。本流域では、数量等多くなり、右岸では貝殻後、大塚、高品第2、石神、浜道(円墳7基)、戸張作(前方後円墳2基、円墳15基)の古墳群、最下流域に、鷲塚(前方後円墳)、白旗古墳などが存在する。さらに、もう一本の南側の小谷(支流)には、ワリ山、光蓮寺台、上ノ台、家の上、松山台、台、作、台畑(円墳13基)、若塚、立木南、田向南、田前、御所ヶ原などの古墳群が認められる。左岸は、聖天、磯ノ谷、作山、聖人塚、へたの台、台、内野(前方後円墳、円墳11基)、台の坊、妻名、妻名台などが認められる。さらに上流域では、香妻、台畑、塚原、中原(前方後円墳3基、円墳6基)などの古墳群が存在する。さらに、最上流域では、舟塚(前方後円墳)、能真坊、宝善寺山(円墳12基)、東城湊台、長塚などの古墳群が存在している。

市域の最も南側に位置する村田川水系では、数量、規模ともに大きくなる。当地域は、左岸及び、右岸中流域が、市原市に属するため、右岸下流域北側が中心である。下流からは、大覚寺山(全長70m)、七廻り塚、八人塚、赤塚、兼塚、高沢、生沢、馬ノ口、権名崎(前方後円墳3基、円墳14基)、池入、小金沢(前方後円墳2基、円墳12基以上)、姫塚、大膳坊、庚塚、池田、愛宕、柏崎台、大作台、にとな、榎作、赤井などの古墳群が存在する。

古墳の立地については、ほとんどが、洪積台地上に占拠されており、より広い沖積低地を確保できるほど、数量、

千葉市の主要古墳

町名	名称	規模(m)	墳形	流域
1 生実町	大覚寺山古墳	63	前方後円	村田川右岸
2 〃	七廻り塚古墳	54	円	〃
3 上気町	舟塚古墳	44	前方後円	都川、鹿島川分水嶺
4 権名崎町	人形塚古墳	41	〃	村田川右岸
5 平川町	笹目沢2号墳	40	前方後方	鹿島川上流
5 大木戸町	狐塚2号墳	40	〃	村田川上流
7 大蔵寺町	大蔵寺古墳	39	円	村田川右岸(北支流)
8 平山町	中原4号墳	35	前方後方	都川右岸(上流)
8 北谷津町	上ノ台1号墳	35	前方後円	都川右岸
10 生実町	南二重堀4号墳	34.6	円	村田川右岸

規模の大きい古墳群が存在している。したがって、都川、村田川の下流域ほど、濃密な分布を示している。

古墳の規模では、別表のとおり、前方後円墳では、大覚寺山の63mが最大で次に円墳の七廻り塚54m、次に舟塚44m、地割線が確認された人形塚が41mである。規模の面では、村田川流域の大覚寺山と七廻り塚が他に比して特筆される。

また、当地域の前期古墳としては、墳形から大覚寺山古墳が想定されている。また、中期では、石神2号墳より、石枕、石製模造品、鉄器など、七廻り塚古墳から、直刀、剣、鉄斧、鏃、鏃、小型仿製鏡、滑石製模造品、白玉など、上赤塚1号墳より石枕、立花、銅鏡などが出土している。後期では、権名崎古墳群に代表される切石積み横穴石室を主体とする古墳が多く、愛宕山、寛久、舟塚なども同様な埋葬形態を示している。

当地は、隣接する他地域と比較すると古墳分布は、希薄といえるが、村田川流域を主とする一部濃密な分布は、いわゆる菊間国造、さらに都川流域等については、千葉国造に対応する勢力の影響を暗示していると考えられる。

横穴については、現在のところ、4地点が認められているが、量的には少なく、希薄な地域である(別表)。いずれも本格的な調査がなされておらず、不明な点が多い。形態は、複式構造でアーチ及びドーム形天井をもつと推定される。

千葉市域の横穴

	名称	基数	所在地	流域
1	大 椎	2	大椎町西要	村田川上流
2	城 山		小件台町城山	都川北支流
3	乙 弘 込	8	小食士町乙弘込	小中川上流(太平洋出入)
4	南 谷	8	〃 南谷	〃

第8節 市原地区

田 中 清 美

市原地区の水系は、北側に千葉市との境付近を東から西に流れる村田川水系と市原市の中央部を南から北に流れる養老川水系の2流域に大きく分けられる。また、この他に小河川として、村田川と養老川流域に挟まれた北側東京湾寄りの地域(能満川、山田堀川等に代表される水系)と養老川の南側に位置する津津川、片又木川に代表される水系がある。したがって、ここでは、村田川、養老川の二大水系と小河川の2水系の4水系をとりあげて各水系ごとの特色をあげてみたい。

1. 村田川水系

先づ、村田川水系については、右岸では、下流域北側に千葉市域に入るが、大覚寺山等の著名な古墳が存在している。下流域から中流域にかけては、近年、千原台地の造成に伴ない、草刈古墳群を中心とした大規模な調査が実施され多大な成果を上げている。この草刈古墳群は、前方後円墳3基、前方後円墳1基、方墳33基以上、円墳100基以上という規模で、他の古墳群の多くが未調査であるが、当地域の他の古墳群をはるかにしのぐ規模、数量を誇っている。しかし、右岸上流域には、ほとんど古墳分布は、みられなくなり、最上流域(千葉市域)の大木戸町や土気町に至ってわずかに出現してくる様相がみられる。

村田川両域の主な古墳

	名 称	種 類	規模(m)	時 期
1	権 現 山 古 墳	前方後円	90△	5世紀末～6C初
2	洞井戸高野前古墳	"	90△	5世紀?
3	大 蔵 二 子 塚 古 墳	"	63	"
4	大 覚 寺 山 古 墳	"	63	4世紀
5	東 関 山 古 墳	"	61.3	6世紀?
6	杉 山 古 墳	"	60	5世紀?
7	新 皇 塚 古 墳	前方後方	60△	4世紀
8	大 蔵 浅 間 権 古 墳	円	52	"
9	姫 宮 古 墳	前方後円	47	6世紀
10	菊 間 天 神 山 古 墳	円	44	5世紀
11	長 者 塚 古 墳	"	40	6世紀
12	草 刈 1 号 墳	"	38	5世紀
13	草 刈 大 塚 古 墳	"	35	4世紀末～5世紀初
14	千 原 台 A 99 号 墳	前方後方	27	4世紀

左岸では、右岸に比すと、下流域から上流域まで連続と古墳群が存在する。まず、最下流域の東京湾を望む洪積台地上には、菊間古墳群（前方後円墳3基、前方後方墳1基、円墳13基以上、方墳4基以上）その上流域には、下郷、大蔵二子塚（前方後円墳）、大蔵、久々津、天王台（円墳26基以上）、杉山、山王後、小谷、永吉権現山、下野谷古墳群（前方後円墳3基、円墳10基、方墳1基）、東馬ノ原、西馬ノ原、下鈴野、長者塚、高田観音台（円墳45基以上）などの多くの古墳群が存在する。また、中流域の支流神崎川流域には、小田部、荻作、などの小古墳群もみられる。規模は、別表のとおりであるが、菊間権現山と洞井戸高野前の両前方後円墳が推定で長軸90mと考えられている。しかし、両古墳とも、保存状況が悪く、未調査であり、不明点が多い。ついで、大蔵二子塚、東関山、杉山などの60m前後の古墳が存在する。また、右岸に比して規模が大きい点が特筆される。ところで、当地域は、古墳の立地が、河岸段丘の存在により、洞井戸地区付近を中心として3段の古墳が認められる。特に左岸が顕著であり、最も村田川に近い低い段丘上に、高野前、久々津古墳群等が、2段めには、杉山、宿後など、最も高い地点には、菊間古墳群から連続と続く多くの古墳群が立地している。

時期からみると、4世紀頃と推定される古墳として小日部1号墳（東馬系土器、玉類など）、新皇塚（直刀、剣、珠文鏡、石銅など出土）、大蔵浅間権（剣、珠文鏡、石銅など出土）、千原台A99号墳や下鈴野1号墳、川中1号墳などが上げられる。さらに5世紀頃では、大型の前方後円墳のほとんどが当時の築造と考えられる。また、小谷1号墳（前方後円墳）からは、円筒埴輪が42体検出されている。

村田川流域の横穴は、わずかに2ヶ所確認され、いずれも未調査である。十人寄合横穴は、村田川左岸支流の栗木川左岸に4基、柳田横穴は、村田川上流右岸に5基認められている。いずれもアーチ型の天井部をもつ。

当地域は、いわゆる菊間国造の支配中心地として想定されており、特に村田川両岸の中流から下流域に存在する。古墳群は、勢力の強大さを物語るものである。

2. 養老川水系

次に養老川水系については、右岸では、養老川の海岸平野に五井古墳群、御霊目浅間神社古墳（形勢城輪をもつ前方後円墳）が存在する。さらに、下流に最も近い洪積台地上には、昭和47年から昭和63年にかけて国分寺台地区の大規模な調査が実施されている。当流域では、加茂、根田、神門、諏訪台、東間部多、西込、山倉などの古墳群が調査されている。特に諏訪台古墳群は、前方後円墳7基、前方後方墳8基、円墳20基、方墳130基以上を数える。さらに、中流域から上流へと連続と古墳群が続いている。山倉堂谷、壽士、福増、武士、北地台、松崎、大城台、妙香、上原台、浅間山、孝允、米沢、江子田、などが存在し、最奥部に永田と大和田の古墳群が認められる。当地域には、2段の洪積台が存在し、1段めの低い台地には、壽士、武士、松崎、牛久などの古墳群が立地する。

左岸では、当地域を代表するような大規模な古墳群である崎崎古墳群が存在する。前方後円墳を主とする当群は、いわゆる上流国造の支配中心地として想定されている。二子塚は、海岸砂丘に立地し、本来は、幾つかの古墳が存在していたとみられる。最下流を望む洪積台地上には、天神山、釈迦山、山王山などの前方後円墳が占められる。さらに上流には、今富塚山、海保大塚の大型古墳がみられ、海保、引田、安須（円墳26基）、高坂、中高根、観音寺（前方後円墳2基、方墳3基、円墳20基）、佐是（前方後円墳4基、方墳2基、円墳28基）、吉野（前方後円墳4基、方墳4基、円墳34基）などの古墳群が続く。最奥部は、上流域の殿部多、皇野田茂が存在する。当地域の古墳の規模は、別表のとおりである。最大は、前方後円墳の菊間天神山の130m、次が今富塚山の113m、崎崎二子塚の110mである。時期別では、右岸の神門古墳群中の3、4、5号墳が古墳の出現期の問題として注目される遺跡であり、東間部多2号、16号、中流域の牛久1、2号墳なども前期の古墳として考えられている。崎崎古墳群では、天神山→二子塚（5世紀後半）→山王山（6世紀前半）→原1号→鶴籠→六孫王原（7世紀）等の変遷が推定されている。また、諏訪台48号墳からは甕鏡が出土し、5世紀の所産とみられる。市原市内より出土した鏡については、別表のとおりである。さらに、江子田金環塚からは、馬具を主とする出土品が注目され、中流域での勢力の強さが伺える。

横穴では、19群105基が確認されている。別表のとおり、主に中流域に集中している。

3. その他地域

次に、村田川と養老川に挟まれた北側地域の能満川、山田橋川に代表される水系については、稲荷台、南向原、千草山1号、三島台、向原台、定徳込、仙台原、山木などの古墳群が存在する。稲荷台1号墳は、王名族姓で知られているが、当地域は、以前より養老、上流上国造の支配地域との中間地帯として考えられており、それより、稲荷台1号墳の被葬者の様な特殊な人物が出現したと想定されている。三島台、向原台、仙台原、山木は、東京湾を望む台地上に古墳している。いずれにせよ、これらの古墳群は、前方後円墳をもたず、10数基程度の規模をもっている。

養老川の南隣地域の椎津川に代表される地域では、日の宮、永塚、志々瀬、白谷などの小谷に面した古墳群と、袖ヶ浦町との境付近の台地上に立地する椎津系細、中林などの古墳が存在する。これらの古墳も、大規模、大型の古墳はみられない。

養老川流域の主な古墳

前方後円墳

大 字	名 称	規模(m)	時 期	流 域
1 姉 崎	天神山(台の大塚)古墳	130△	4C	養老川下流(左岸)
2 今 富	塚 山 古 墳	113△	4C	養老川下流(左岸)
3 姉 崎	二子塚古墳	110△	5C	養老川下流(左岸)
4 姉 崎	釈迦山古墳	91△	4C	養老川下流(左岸)
5 姉 崎	原 1 号 墳	80△	6C	養老川下流(左岸)
6 姉 崎	山王山古墳	70	6C	養老川下流(左岸)
7 佐 是	佐 是 1 号 墳	60	6C?	養老川中流(左岸)
8 江子田	富士台古墳	56	5C	養老川中流(右岸)
9 中高根	金比羅台1号墳	55	5C	養老川中～下流(左岸)
10 江子田	金環塚古墳	48	6C	養老川中～下流(左岸)

前方後方墳

4世紀型

1 西 瓜	東間部多2号墳	35.5	4C	養老川下流(右岸)
2 西 瓜	東間部多16号墳	22.5	4C	養老川下流(右岸)

7世紀型

1 姉 崎	六張王原古墳	45.4	7C	養老川下流(左岸)
2 村 上	諏訪台古墳	38.8	7C	養老川下流(右岸)
3 村 上	諏訪台古墳	29.5	7C	養老川下流(右岸)
4 西 瓜	東間部多11号墳	25.5	7C	養老川下流(右岸)

円 墳

1 武 士	鍋塚古墳	60米	5C	養老川下流(右岸)
2 松 崎	丸山塚古墳	50?	5C?	養老川中～下流(右岸)
3 村 上	諏訪台10号墳	40	6C	養老川下流(右岸)
4 安 須	安 須 1 号 墳	39.2	5C	養老川中～下流(左岸)
5 西 瓜	持塚1号墳	38	5C	養老川下流(右岸)

市原市内出土の青銅鏡

番号	名 称	遺 跡 名	保 管 場 所
1	珠 文 鏡	新皇塚古墳	千葉県立房総風土記の丘
2	内 行 花 文 鏡		
3	変 形 神 獸 鏡	西瓜モチ塚古墳(持塚1号墳)	千葉県立上総博物館
4	蟬 蟬 文 鏡		
5	変 形 獸 鏡	二子塚古墳	国学院大学
6	鏡 片		
7	変 形 四 獸 鏡	山王山古墳	
8	方 格 鏡 炬 鏡	富士見塚古墳	早稲田大学
9	内 行 花 文 鏡	御霊崎三夜塚古墳	野田市郷土博物館
10	盤 龍 鏡	諏訪台48号墳	市原市文化財センター
11	珠 文 鏡	大蔵浅間塚古墳	市原市文化財センター
12	内 行 花 文 鏡	御林跡遺跡	市原市文化財センター
13	不 明		
14	珠 文 鏡	小田部新地遺跡	市原市文化財センター
15	変 形 獸 形 鏡	草刈24号墳	千葉県文化財センター
16	珠 文 鏡		
17	珠 文 鏡	草刈遺跡C区	千葉県文化財センター
18	珠 文 鏡		
19	鏡 片	草刈遺跡D区	千葉県文化財センター
20	素 文 鏡	根田第6号墳(辺田1号墳)	市原市文化財センター
21	素 文 鏡	西谷18号墳	市原市文化財センター
22	素 文 鏡	草刈六之台遺跡	千葉県文化財センター

養老川流域の横穴墓

	名 称	基 数	所 在 地	
1	浅 間 台	6	上原字浅間台	
2	鹿ノ巣	1	安須字鹿の巣	
3	堂部田山	3	妙香字堂部田山	
4	東代山	1	妙香字東代山	
5	境部多岱	1	米沢字境部多岱	
6	稲荷台	1	米沢字稲荷台	
7	真ヶ谷殿部多	7	真ヶ谷字殿部多	
8	池和田	3	池和田字大宮部田	
9	池和田城	3	池和田字城廻	
10	蔵	2	蔵字石名沢	
11	岩	10	岩字桑沢	1976年調査
12	外部多ヤツ	40以上	外部多字岩井芦他	
13	大和田	8	大和田字縁岡	1986年調査
14	宮原	1	高滝字宮原	
15	西国吉	11	西国岸字玄ノ水作他	8基調査
16	南総中	3	牛久字江子田	1977年調査
17	大城台	1	土字宇大城台	
18	真福寺前	1	米沢字真福寺前	

第9節 君津地区

小 沢 洋

千葉県南西部に位置する君津地区（君津郡域）は、県下でも最も古墳の分布密度が高く、かつ大形古墳の多い地域として知られている。この地域では、小堀川・小糸川の2大河川を中心に顕著な古墳分布が認められ、さらに南部を流れる養川などの流域にも、横穴墓を主体とした古墳分布圏がある。

当地域においては、小堀川下流域の低園・長須賀古墳群、小糸川下流域の内裏塚古墳群を始めとして、明治時代～昭和初期に発掘された古墳も多く、優れた副葬品の出土することから、古墳研究上古い時期から注目を浴びてきた。しかしその反面、木更津の低地部など早くから市街化が進んだ区域では、幾多の重要古墳が学術的な調査の機を逃して遺棄してしまっただけが惜しまれる。一方、近年に至っては、昭和48年暮れに開始された木更津市諸西古墳群の調査を皮切りに、台地・丘陵部に存在する古墳群の本格的な発掘調査が実施されるようになった。とくに昭和50年代後半以降になると、開発区域の拡大に伴って、それまで調査の手がほとんど加えられていなかった小堀川・小糸川下流域の古墳の発掘も相次いで実施され、また分布調査の進展とともに新発見の古墳も増加して、次第にその全体的様相が解明されつつある。

君津地区は現在、袖ヶ浦町・木更津市・君津市・富津市という面積の広い4市町から構成されるが、これらの市町域は近・現代の度重なる町村合併・編入によって形成されたものであり、河川流域を単位とした地理的な区分とは必ずしも一致するものではない。整理上、現在の市町域と水系（古墳分布圏）との対応関係を簡略的に見ると、袖ヶ浦町には主として小堀川下流北岸域が、木更津市には小堀川下流南岸域と矢那川流域が、君津市には小堀川中流域と小糸川流域の大部分が、富津市には小糸川河口部南岸とそれ以南の諸河川（岩瀬川・小久保川・八条川・養川・白飯川・金谷川）の流域が含まれる。

本稿では、君津地区を①小堀川下流域北岸、②小堀川下流域南岸・矢那川流域、③小堀川中流域、④小糸川下流域、⑤小糸川中流域、⑥小糸川以南諸水系の6地域に分けて古墳分布の概要を述べてみたい。

1. 小堀川下流域北岸

清滝山系に源を発する小堀川は総延長75kmを測り、養老川と並ぶ千葉県内最長級の河川である。下流域においては河岸沖積地の幅が広く、その北岸と南岸とを大きく隔てている。地形的、地質的にも北岸と南岸では相違があり、北岸が下総台地の延長というべき平坦面の広い台地地形をなしているのに対し、南岸は河川数の間近まで狭狭な丘陵地形が迫っている。ここで述べる小堀川下流北岸地域は、主として現在の袖ヶ浦町域（中川・富岡地区を除く）であり、小堀川の北を流れる蔵波川などの諸河川流域も包括する。

小堀川下流北岸域における古墳分布の体系的な特色としては、前方後円墳の数が少なく、円墳のみによって構成される古墳群の多いことが挙げられる。また、小堀川下流南岸域・小堀川中流域に比べれば、確認される古墳の絶対数も少なく、一古墳群中に占める古墳数も数基ないし10基前後のものがほとんどとなっている。確認古墳数が相対的に少ない点については、その一因として、この地域では平坦地が広いために耕地面積が早く進み、削平された古墳の数が多くとも考慮する必要がある。鼻欠古墳群・埴古墳群・山王辺田古墳群など、周溝跡の検出によって存在の判明した古墳群が多く認められることも、その一端を示すものである。しかしながら、矢那川下流域の諸西古墳群や小堀川中流域の戸崎古墳群に匹敵するような大規模群集墳が見当たらないことは確かであり、前方後円墳の稀少性とも相まって、小堀川水系の中での相対的な古墳分布上の劣勢は免れない。

浜宿川・久保田川・蔵波川などの小河川が流れる袖ヶ浦町北部の長瀬地区は、養老川水系と小瀬川水系の中間に位置する古墳分布の稀薄な地域であり、古墳は点的に認められているに過ぎない。小規模ながら群として確認されるのは、蔵波川流域の神田古墳群・大谷古墳群の2所に限られる。蔵波川北岸の台地上には美奈古墳・坂下古墳という2基の小規模前方後円墳の存在が知られ、前者は前方部が削平されているが、後者は良好な遺存度を保ち、前方部の狭小な形態を呈する。最近周辺部の発掘調査で方墳跡と見られる遺構も検出されており、本家数基の古墳群をなしていた可能性がある。また蔵波川南岸台地の美奈の地点に「角山古墳」として記載される一辺50mの大方形方墳が存在するが、形状がきわめて整っており、近隣に古墳が認められない点などから見て、中近世の塚の可能性が高い。

小瀬川下流北岸における古墳分布は、主として両岸沖積地に面した台地南縁部に沿って認められる。

その起点的な位置にあり、際立った存在となっているのは、海岸線に面した小瀬川北岸最西端の独立丘陵状をなす台地先端部に占地する前方後円墳・坂戸神社古墳である。田中新史氏らの略測によれば、墳丘全長約63m・後円部径約35m・前方部長約25m・同幅18m以下とされ、現在知られる限りでは小瀬川北岸流域最大の古墳である。前方部が狭長で前端部の開きが小さく、後円部と前方部の比高差が大きい古式のプローションを備えており、小瀬川水系に属した存在する前期前方後円墳の一つとして注目される。立地や墳丘規模（全長・後円部径・前方部長）は、南岸（島田川流域）の手塚古墳とほぼ等しいが、前方部の開きが反対であり、また前方部の幅が手塚古墳よりも一回り狭い点が留意されよう。なお「君津郡誌上巻」には、坂戸神社境内の古墳から勾玉2個が出土したという伝聞が記されている。

この坂戸神社古墳を最西端として、東西に延びる台地縁辺沿いに顕著な古墳分布を認めることができる。このうち、台地縁辺西部の神緒・飯富・下新田地区では、幾つかの古墳が調査されており、その内容の一端が判明している。この地区で注目される古墳としては、二段築成の大形円墳（径36m）で造出しを有する卒土神社南古墳、同じく円墳としてはやや円形の規模をもつお船塚古墳（径28m）などがあり、ともに墳輪を有している。確認調査の行われたお船塚古墳では武器・動物などの形象埴輪の存在も認められ、出土した須恵器・土師器の年代観を合わせて6世紀初葉～中葉の築造と推定される。また卒土神社南古墳から採集された円筒埴輪はこれより幾分古い特徴を示し、6世紀初頭前後の築造年代が考えられる。埴輪をもつ古墳としては、上記の2古墳のほかに、周溝跡のみが調査された後2号墳がある。同古墳の円筒埴輪には2次調整コホケが認められ、卒土神社南古墳にやや先行する5世紀後半の年代を与え得る。小瀬川南岸の清見台A 4・8号墳の埴輪に併行する説降の資料であり、君津地域における古墳をもつ小規模古墳の初現例の一つとして注目される。以上のように、袖ヶ浦台地西部では埴輪を有する古墳が5世紀後半以降断片的に認められている点が特記されよう。

他方、海岸側の台地縁部に築した鼻久古墳群では、周溝跡のみの検出された3～5号墳から、TK23～47型式の須恵器・異形埴輪状鉄鍬・鉄製刀鋸・鉄製釣針などが出土しており、埴輪は有さないながらも1世紀後半代に継続的に築造された一群として捉えられる。ただし同一古墳群中では未調査の1号墳において横穴式石室の存在が確認されており、3～5号墳との時期的な隔りが想定されるとともに、小瀬川北岸では稀少な石室墳となっている。横穴式石室墳としては、他に「君津郡誌」に記載された奈良朝・福王丸塚古墳が知られるが、所在地を特定し得ない。このほか当地区では未調査の古墳として、お船塚古墳と同一の群として括れる相伝谷・仲屋・辻子・谷塚の諸古墳、追坂古墳群・大野台古墳群・鏡ヶ峰古墳群・真黒場古墳群・堂野古墳群などの存在しているが、10～20m級の円墳がほとんどである。このうち独立丘状の高所に占地する飯富・鏡ヶ峰の古墳については「君津郡誌」に鏡の出土が伝えられている。また堂野古墳群中には小規模前方後円墳と目されるもの（5号墳）があるが、円形についてはやや疑問がある。

台地縁辺中部のミツ作・大曾根・岩井地区では、のぞみ野＝ムタケンの造成に先駆けて山王辺古墳群の調査が

実施されている。弥生後期～古墳前期集落と複合する古墳群で、40m級の前期前方後円墳1基と10基以上の円墳・10基前後の方墳が発掘されており、小規模な古墳の多くは調査時すでに墳丘を失っていたと見られる。報告書未刊のため詳細な内容は知り得ないが、前方後円墳の存在を含め、当地地の古墳出現期の様相を考える上で看過し得ない古墳群と云えよう。また山王辺古墳群の北に隣接して、東洋大学考古学研究会による測量調査の実施された高山古墳群があり、このうちの1基に切石積の内部施設の存在が確認されている。横穴式石室かどうかは明確でないが、今のところ鼻久1号墳例とともに北岸域では数少ない石材使用内部施設の確認例となっている。このほか当地区には宮後古墳群・塚家古墳群・大塚古墳群などがあり、最も基数の多い大塚古墳群中に40m級の前方後円墳1基が確認される。

台地縁辺東部の上泉・野基地区には、上泉古墳群・定度古墳群・安宮古墳群・寒沢古墳群・平之台古墳群などがあり、さらに小瀬川支流の松川流域に沿って東側へ奥まった永吉・川原井地区にも小規模な古墳群の分布が認められている。これらの中で注目されるのは、上泉古墳群中に存在する二段築成の大形円墳・上之山古墳である。下段の基底径46mで、卒土神社南古墳よりも一回り大きく、造出し状の突出も観察されるが、現状の形態はやや不整となっている。最近になって確認調査が実施されたが、周溝形態・造出しの存否を明確化するには至らず、埴輪を含めて時期決定の直接的な手がかりとなるような遺物も検出されなかった。他にこの地区では、定度古墳群と同一台地上の打越跡・石積に大野谷を埋めた奈良時代の低墳方形基壇が調査され、終末古墳に後続する基制の実施が明らかにされている。

なお小瀬川北岸の沖積地帯には、新しい時期の塚と考えられるものが点在するのみで、明確な古墳の存在はほとんど知られていないが、南岸河口部における古墳の分布状況が推すと、塚の中に古墳を改築したものを含まれている可能性、あるいは消滅古墳のあった可能性も否定することはできない。

2. 小瀬川下流域南岸・矢那川流域

小瀬川下流南岸は、君津郡域の中でもとくに高塚古墳の分布密度が高い地域である。この地域の古墳分布は、地理的に次の3ないし4つの区域に分けて把握するのが適当と思われる。1は小瀬川河口部南岸の沖積地に立地する古墳群、2は小瀬川本流沿いの丘陵地帯に分布する古墳群、3は小瀬川を南を流れる中級川・矢那川流域に分布する古墳群、4は南西部の海岸線に面した丘陵（島田川・畑沢川流域）に分布する古墳群であり、4については3の矢那川流域に包括して考えることもできよう。このうち2の区域については、中流へと向かっては連続的に古墳分布が認められているため、袖ヶ浦町（旧平川町）と本更津市（旧富永町）の境界付近で便宜的に中流域と区分した。

小瀬川河口部南岸の沖積地には、現在大町が市街化している元新地・長須賀・祇園地区を中心に、首長系古墳と見られる大形・中形の前方後円墳の存在が認められる。高柳鏡子塚古墳・長須賀丸山古墳・金鈴塚古墳・酒盛塚古墳・稲荷森古墳・園部渡間古墳・祇園大塚山古墳などであり、「馬来田園道」の系譜に結びつて歴代の首長墓として理解されている。これらのうち、鏡子塚・丸山・金鈴塚・稲荷森の各古墳は今日墳丘の残骸を残すのみであり、大塚山・酒盛塚に至っては墳丘が全く失われている。また発掘の行われた記録がない園部渡間古墳は、70～80m級前方後円墳の可能性があり、周囲が宅地化し墳丘の変形も著しいため、埴輪には不疑問点が多い。さらに元新地地区には松面古墳・塚の越古墳・祇園地区には小の原古墳・鶴巻塚古墳といった首長系後期円墳（横穴式石室・石棺を内部施設とする）の存在が知られているほか、砂丘沿に沿って幾多の古墳群の存在していたことが記録されている。しかし今日その姿をともめているものはほとんどなく、本来の分布状況を把握することが難しい。

これらの前方後円墳・円墳の多くは明治治平～昭和初期に発掘・破壊されており、昭和25年に調査された金鈴塚古墳からうじて学術的な記録を残しているに過ぎない。今のところ、これらの古墳について周溝確認等の再調査が行

われたものは皆無であり、近年の急遽な再開発・市街地拡大に関連してその実施が急がれる。とくに5世紀代の盟主墓と目される高柳鏡子塚古墳・祇園大塚山古墳の周辺は、現在も幹線として残されているので、充分調査の余地があり、また図形検出古墳を始めとして、丸山古墳・稲荷森古墳など墳丘の一部が残存する古墳については測量図を作成することと急務であろう。

次に小瀬川南岸に接した丘陵地帯に分布する古墳群について見ていきたい。その西部にあたる菅生・笹子地区の丘陵は、総体的に裾根型で関東ローム層の地味が薄く、丘頂部に粘土層・山砂層の露出している場所がしばしば見られる。古墳群は丘陵根に列状に分布し、地山地形によって構築されているものが多い。この地区には小形の前方後円墳、あるいは円墳に造出しを付したと見られる形状の古墳が比較的多く見受けられるが、明確な周溝をもたないために、発掘調査によっても墳形を確定し得なかったものもいくつか存在する。この地区では、清水谷古墳・祝崎古墳群・高千穂古墳群・順礼海道古墳・四箇作1号墳などの調査が行われているが、このうち清水谷・祝崎1、2号・高千穂7号・四箇作1号の各古墳は5世紀中葉～後半代の築造と考えられ、当地区の丘陵上における墓域形成の初現を示唆している。この地区の河岸低地に所在する菅生遺跡からは、古墳中期～後期の遺物が多数出土しており、基本的に低地に集落、丘陵に墓域といった土地利用のなされていたことが窺える。なお、まとまった数の古墳調査が実施された高千穂古墳群では、6世紀後半・末葉に至る顕微的な古墳の造営が明らかにされている。

丘陵群中の樟・滝ノ口地区では、袖ヶ浦・木更津両市域にまたがる古墳群が総数45基を数え、最も規模の大きい古墳群を形成している。古墳は細根根に沿って列状に長く並び、40m級前方後円墳2基を含む。調査は全く行われていないが、当地区の丘陵地帯における古墳群形成の実態を解明する上で、代表的な例となり得る古墳群であろう。また支流・道水川に面した滝ノ口向台古墳群では、最新の発掘調査で前方後円墳・方墳からなる群集域の一端が明らかにされ、前方後方墳を核とする群集型前期古墳の造営形態の一例を提示することとなった。

丘陵群東部の打越・阿部・下根岸・大竹などの地区は、小瀬川流域の中でも古墳分布密度が目立つて高い地区の一つであり、坪作1号墳・北上原3、6号墳・谷畑1号墳・内出原9号墳など40～50m級前方後円墳の数も多い。これらの前方後円墳は、どちらかといえばこの地区で最も北の古墳群に属して認められる。当地区東側の古墳群は「大竹古墳群」という総称のもとに、昭和61年以降ゴルフ場造成に伴う大規模調査を実施中であり、群集域の一端が明らかにされているが、半数以上の古墳が盗土保存の対象となったために、全像像を把握するまでには至っていない。大竹地区の丘陵は、西部・中部の丘陵群に比べ、なだらかで平坦面が広く、古墳も面的な分布を示す。これまでの調査成果によれば、各古墳群（支群）がある程度時期的なまとまりを示しているようにあり、造墓域の移動を窺うことができる。唯一全面調査の実施された又二堀古墳群においては、調査古墳のすべてが低地丘陵を囲った10～15m級の前期方墳であり、副葬品は少数の玉類もしくは土師器のみで、方形周溝の延長線上にある墳墓として捉えられている。三ツ田古墳群では、古式須恵器を伴う円墳数基が調査されており、5世紀を中心とした墓域と考えられる。このうちやや大形の9号墳からは珠文鏡が出土している。また向神納里古墳群では、円筒埴輪を巡らせ周溝内に埴輪棺を埋めた30m級の円墳などが調査されており、6世紀代を中心とした群形成が考えられる。埴輪を有する古墳は尾崎台古墳群中にも一基確認されているが、やはり30m級の大形円墳となっている。大竹地区では、弥生時代中期・須和期の方形周溝墓を初現として、奈良時代の火葬骨を伴う方形墓に至るまで、各時代の墳墓群が直線的に展開しており、集落との関連で巨視的な墓域の変遷を眺めることが可能と思われる。

続いて矢野川流域に目を転じてみたい。矢野川河口部の沖積地、かつて四郎ヶ原と呼ばれていた付近一帯（現在の文島周辺）にも幾つもの古墳が散在していたことが「書部郡誌」等の記載によって知られ、現存するものほとんどない。木更津中学校（現木更津高校）建設の際「石標」が発見されたという記録があり、低地部の古墳には横穴式石室を有するものが多かったことが推測される。中には黒瀬大刀などが出土した古墳もあったとされ、長須賀・元新

地区に達する後期首長系集団の墓域に含まれていたと考えることができよう。

矢野川流域丘陵部の古墳群については、下流北岸・下流南岸・中・上流域に分けて概観してみたい。

下流北岸の太田・清見台地区はすでに市街化しており、現存する古墳は少ない。丘陵の西端である太田山丘陵には、北裾部に島崎古墳、南側丘頂部に太田山古墳が存在する。島崎古墳は発掘調査の結果、全長25mの前方後方墳と判定され、方格規矩坑・石臼・石杵などの遺物が出土し、5世紀前半代の築造と推定されている。太田山古墳は確認調査の結果、全長40mの両側型前方後円墳と推定され、埴輪密着出土の土師器から、やはり5世紀前半頃に造る古墳の可能性が強まった。両古墳とも地山地形によって墳丘を区画しており、とくに太田山古墳の墳形については再考の余地がある。いづれにしても丘陵最西端に占拠するこの2古墳は、前半期における専長系クラスの古墳として注目してよい存在である。

その東側の清見台地区には、造成前に最低22基以上の古墳が確認されていたが、一部の発掘調査が実施されたのみで、多くの古墳が未調査のまま横たわっている。調査古墳のうち、現清見台南4丁目付近に所在したと見られるA支群の4、8号墳から、2次調査ココハケを有する円筒埴輪が出土しており、その他の遺物相から見ても5世紀中葉～後半代を中心とした古墳群であったことが知られる。

さらに東の中尾地区には、小形前方後円墳1基を含む大谷古墳群があるほか、「中尾横穴群」と総称される幾つかの横穴古墳の存在が認められる。このうち発掘調査が行われた西本谷古墳群中の2基は、いずれも平面逆梯形・アーチ型天井で支室前壁をもつ形のものであったが、同一横穴群中には、特異的な尖頭アーチ型天井の横穴も確認される。また西入・金屋敷横穴群中には縁列断面をもつ横穴もある。

矢野川下流南岸の清西地区は古墳分布がきわめて濃密な地区である。清西地区の古墳群は、丘陵を分かつ谷によって大く4群に区切られる。海岸に近い・帷から、渡部古墳群（総数約40基）、塚原古墳群（総数50基以上）、大谷古墳群（総数12基）、清西古墳群（約150基）と称されており、最も大きい清西古墳群は、矢野に属する2群を合わせおよそ10支群に細分される。上記のうち高部古墳群は南端部の2基が調査されているのみであり、詳細が明らかでない。塚原古墳群では土食への影響を有する5世紀代の円墳（池端古墳）、6世紀代の40m級前方後円墳1基と円墳数基及び箱形石棺をもつ7世紀代の方墳などの内容が判明している。大谷古墳群については未調査である。最も調査した古墳が見られる清西古墳群では、土地区画整理事業に先立ち、昭和49～51年にかけて大規模な調査が実施され、その後10年間のプランクを経て、昭和61年から再び本格的な調査を実施中である。これらの調査によって、清西古墳群では次第にその支群構成の実態が解明されつつある。個々についての評述は避けるが、これまでの調査成果を総合すると、概ね次のような墓域の中心の移動を眺めることができるようである。

野城（弥生後期）→庚申塚（弥生末期）→大山台（古墳前期）→鹿島塚（5世紀前半?～中頃）→野城・東山（5世紀後半）→大山台（5世紀末～6世紀前半）→道山谷・山伏作（6世紀後半）→諏訪谷横穴群（6世紀末～7世紀前半）→山伏作（7世紀後半）→東山・大山台（8世紀）

上に示したワウトランは、今後の調査の進展によってなお補足・修正が必要であり、また清西の丘陵に展開する各時期の墓域が果たして一系統の集団によるものであるかどうかについても、周辺の古墳群との関連で再検討する必要がある。いづれにしても集落の推移との関係での墓域の変遷とされる遺跡として、清西古墳群の調査は、今後の当地区の古墳時代研究に重要な意味をもつ。なお鹿島塚支群の丘陵先端部、清西地区では唯一の大形前方後円墳・鹿島塚古墳（14号墳）が存在する。丘頂切断型前方後円墳であり、全長80mという計値が提示されているが、計測の仕方では65～70m規模とも見られる。鹿島塚支群全体の時期相から考えると、平野部の前方後円墳に先行する首長墓となる可能性も高い。

続いて、矢野川中・上流域（矢野地区）の古墳群を概観したい。この地区では未だ発掘調査が行なわれた古墳が少

なく、断片的に内容が知られるのみである。古墳は河岸段丘状の敷地および背後の丘陵地に分布しており、総体的に小規模な円墳が多い。またこの地区は木更津と高倉観音を結ぶ街道筋にあたるためか中近世の塚が多く、古墳として記載されたものの中に相当数新しい時代の塚が混在している可能性がある。数少ない調査古墳の一つとしてこの地区の中程に位置した大原古墳がある。やや大形の円墳であったとされ、鉄鍬・鉄斧・二環輪などともに古式の円筒埴輪が出土しており、5世紀後半～末葉の古墳と見られる。またこれよりやや下った地点にある矢俣1号墳も、鉄剣・石製埴輪等の出土から5世紀後半代の古墳と見做される。今のところ内容が不明なのはこの2基のみで、他の古墳群の実態は不明である。比較的高密度の高い古墳群として、左岸の上中部古墳群、右岸の雨畑・下三光路・下名主ヶ谷古墳群などがあり、これらは流域中央部付近に近接して存在する。この地区には古墳中期～後期の大型集落遺跡である花山遺跡が存在しており、一つの集団領域として括ることが可能であろう。古墳分布はこの付近から上流へ向かうに従って稀薄となり、草敷地区の山・下草敷谷古墳群をもって途絶えている。

最後に南西部海岸側、桜井・大久保・小浜・畑地区の丘陵に分布する古墳群について述べる。旧波岡村域（桜井を除く）に属するこの地区は、小櫃川水系と小永川水系の中間に位置し、古墳時代においては南側の須恵国造の領域に含まれていた可能性もある。

島田川右岸の丘陵地帯には、峯古墳群・西谷古墳群・九反目古墳群などが存在する。このうち、峯古墳群の先端部に位置した瑞穂古墳は、面状石室使用の横式石室をもつ6世紀末葉期の古墳と判明している。乱石積式石室は、当地域では主として低地部の古墳に認められるものであるが、古墳の場合、丘陵の高所に構築された例として今のところ稀少な存在であり、小永川下流北岸地域（坂田・大和田地区）との関連が注目されるところとなっている。また九反目古墳群では、君津中央病院の建設に先立って数基の古墳が消滅したが、その内容は知られていない。

島田川左岸から海岸線側の丘陵地帯には、三角縁神鏡等の出土で著名な前期前方後円墳・手塚古墳（消滅）をはじめ、鶴ヶ岡古墳群・依ヶ谷古墳群・関田塚古墳群・中越古墳群などの存在が知られ、さらに丘陵南縁部の畑川に沿って、浜ヶ谷古墳・畑川埴輪集落・二十歩横穴群・静倉横穴群・石渡横穴群が存在する。この地区では区画整理事業に伴って昭和60年以降いくつかの古墳の調査が行われ、また最近では国道127号線の拡張工事に伴い石渡横穴群が新発見、緊急調査された。このうち、手塚古墳は最も近い丘陵上にある依ヶ谷古墳群では、前期方墳6基・後期円墳1基・単独の埴形石棺1基が調査され、方墳中の1基（4号墳）からは銅文鏡と水晶勾玉等の玉類が出土している。該期の小規模方墳の副葬品としては傑出した内容をもっており、手塚古墳被葬者ととの密接な関係が窺われる。一方、関田塚古墳群は丘陵斜面に構築された2基の終末期方墳で、1号墳は切石横式石室、2号墳は組合せ式箱形石棺を内部施設とする。7世紀後半～末葉の所産と見られ、2号墳の石室は諸地区から山伏作5号墳の石室と構築手法の共通するものであった。また箱形石棺については、手塚古墳の占拠した丘陵の東斜面にも石棺が存在したという伝聞があり、小浜地区の丘陵上に比較的多く存在していたようである。

畑川寄りの丘陵部は、1970年代の初めに宅地造成が行われており、未調査のまま削平された古墳があった可能性もある。しかしこの地区の丘陵は総体的に薄く、むしろ斜面を利用して竈跡や横穴群の構築されていることに特色がある。内裏塚古墳に円筒・形象埴輪を供給したと見られる畑川埴輪集落は竈1基が調査されているのみで、工務所の存否を含めた周辺部の徹底的な調査がなされ得なかったことが惜しまれる。因みに埴輪集落から最も近距離にある浜ヶ谷古墳でも円筒埴輪の存在が認められているが、時期相は当落の埴輪より新しく、6世紀代に下降するものと見られる。

横穴群の中では、畑川団地造成の際に一部が破壊された静倉谷横穴群で家形天井をもつ横穴数基が確認され、人骨や土師器が出土している。また最近調査された石渡横穴群は、数百年の砂埋中に閉ざされたものであったが、意外に遺存度は良く、隔壁（室室前壁）の存在やアーチ型天井・逆梯形を基調とした平面形態等において矢俣川流域の中尾・

西本谷横穴群との共通点が見出される。小櫃川下流・矢俣川水系では、中尾・太田・諸西・大久保の4地区において絶的に横穴群の存在が知られ、それぞれの間に異なった特徴、または共通した特徴が認められる。これらの形勢的な異同が時期的な変化を反映するものかどうか、また横穴群と高家古墳の時間的な併存関係、造営集団の相違など今後注目すべき検討課題は多い。

3. 小櫃川中流域

小櫃川中流域の古墳群については、現木更津市域（旧富来町・旧町域）に属する北部の左岸と右岸、現君津市域（旧小櫃村・上総町域）に属する中南部の左岸と右岸に分けて概観してみたい。

北部左岸の下部・田川地区では、丘陵上に数基ないし数十基単位で古墳群が分布しているが、小規模古墳が主体で前方後円墳は少ない。この地区では、送電線工事・山砂採取事業等に伴って比較的多くの古墳調査が実施されており、点的ながらもその様相の一端を窺い知ることができ。

数後早い時期に調査された下部古墳は、前方部の短い前方後円墳と報告されたが、後世の変形が著しい点から墳形にはやや問題が窺われる。環状鏡板付簀・鹿角波刀等が出土し、6世紀後半代の築造と推定される。また『君津誌』にも所載される石山腰古墳は小規模な前方後円墳と見られ、かつて墳丘上に石材が存在していたという伝言がある。前方後円墳としてはこの2基が知られるのみである。

鉄塔建設に伴う一連の調査古墳のうち、塚に再利用されていた下部出古墳からは、現在房総風土記の丘資料館に展示されている須恵器大甕などが出土し、6世紀後半の築造と見られる。北谷古墳は木炭櫛状の特殊な埋葬施設をもつ低墳丘方墳であり、終末期以降の所産と考えられる。一方、熊野谷・西ノ根谷古墳群では、TK208型式前後の古式須恵器を伴う5世紀中葉～後葉期の円墳（熊野谷・西ノ根谷4号墳）が調査され、隣接する南谷古墳群でも周辺部の調査でTK216型式の須恵器が検出されている。また西ノ根谷5号墳からは、周溝に連続する石櫛状の埋葬施設が検出され、調査時の所見では4号墳に先行する時期の築造と判定されたが、周溝から出土した瓦形の須恵器長頸瓶の屈曲如何に若干の疑問が残されており、むしろ横式石室との関連性も考えなければならない。

山砂採取に先立ってある程度面的な調査が行われた宮脇古墳群では、方墳から円墳への過渡的形態を示す5世紀前半代の古墳と、7世紀代の須恵器を伴う低墳丘方墳が調査され、5世紀と7世紀における小規模群集を基調の連続性に関する問題点を提起することとなった。なお、西ノ根谷・宮脇両地点からは弥生中後期の方形周溝墓、北谷古墳の隣接地（田川遺跡群第1・2地点）からは古墳前期の方形周溝墓が検出されており、これらをめぐってこの地区における集約の推移を理解する必要がある。

中流域の北部右岸地区では、河岸低地に立地する稲荷塚古墳・伴山古墳の2円墳が円筒埴輪の存在が確認されている。これらは三浦・丹波遺跡群の確認調査で明らかにされたものであり、埴輪の特徴では稲荷塚古墳が5世紀末葉、伴山古墳が6世紀前半の様相とする。今のところ小櫃川流域では、これより上流には埴輪を持つ古墳の存在が確認されていない。一方、丘陵部の真真谷地区では調査古墳が皆無であるが、真真谷古墳群中に3基の前方後円墳が確認されており、注目すべき存在となっている。このうち2基は60～70m級の規模を持つが、いずれも地山地形によって墳丘を築成していると考えられ、埴輪範囲を明確には把握し得ない。立地的には前半期の古墳と考えられるが妥当であろうが、君津市域における丘陵上前方後円墳のこれまでの調査例を回顧すると、後期古墳が含まれる可能性も否定できない。

現君津市域に属する中南部は、古墳時代全期間を通じて独自の地域圏を形成していたとも考えられる古墳密度が高い地域であり、小櫃の3大古墳とも称すべき古式の大形前方後円墳も存在する。小櫃川中流域では、下流域と同様に川の右岸側に広く沖積地が開けており、左岸側は段丘状をなして丘陵地形が迫っている。そして古墳分布は右岸の側

第2章 地区別古墳分布の解説

において顯著であり、群集性が高い。

左岸の戸崎地区には脇原・峯・鶴舞・戸崎（上原・城山）古墳群などがあり、矢野川下流域の清西古墳群に匹敵するような古墳の一大密集地を形成する。古墳は低丘陵丘から丘陵上へかけて連続と造営されており、間隔等によって失われたものも相当数あることを考慮するならば、本来の実数は現存総数をさらに大きく上回るものであったと考えられる。前方後円墳は現在、脇原古墳群中に1基、戸崎古墳群中に5基が確認されており、それぞれ30~50m級の規模をもつ。また円墳の中では、戸崎古墳群北部、万福寺裏手に所在する40m級の大形円墳などが注目される。このうち基数の多い戸崎古墳群については従来の遺跡分布図と古墳番号を照合することが困難であったため、今回の分布調査に基づいて独自の仮番号を付した。

戸崎地区の古墳群については、早く東京帝国大学の坪井正五郎・柴田常恵らが注目し、踏査を行うとともに明治42年12月に幾つかの古墳の発掘を行っている。その発掘報告は残念ながら公にされなかったが、『青津郡誌』によれば、戸崎野村の前方後円墳から直刀・馬骨が、戸崎塚の越の石標を持つ古墳から須恵器・鉄鏡・鏝が、戸崎脇原の円墳2基から直刀・須恵器が、戸崎城山の前方後円墳から銅頭が、岡門塚から直刀が、戸崎中山の円墳から剣・鉄鏡の出土したことが記されている。これらの発掘古墳を現在では個々に特定することが難しいが、例えば戸崎（35号）前方後円墳のように十字トレンチ状の発掘形跡のある古墳があり、その一つに該当するものと考えられる。このほか地元民により発掘された古墳も幾つかあったと見られ、地元酒造家・佐藤氏宅には亀甲文を打出した金銅剣・刀装具・石製製造品類など多くの遺物が保管されているという。近年本格的に発掘調査が行われた古墳はないが、戸崎古墳群中に位置する戸崎城山遺跡の調査地内で、雨平された前方後円墳の周溝跡（戸崎30号）墳）が検出されている。この古墳は、古墳時代中期の居住跡群の上に築造されており、周溝の平面形態から見ても後期古墳（6世紀代）と考えられる。このほかの前方後円墳も、墳丘形態から見てその多くが後期のものと推定され、戸崎（31号）墳・（35号）墳のように括れる細い特徴的な形態を示すものもある。

戸崎よりやや南下した岩出地区の丘陵には、中流域最大級の前方後円墳・飯籠塚古墳（岩出4号墳）が存在する。丘陵縁辺部の傾斜面に前方部を北に向けて築造されており、測量調査の結果、墳丘全長100~105m・後円部径50m・前方部幅35mという計測値を得ている。後円部と前方部の比高差は約7mを測り、前方部が狭長で開きの少ない網籠型の形態から、前期古墳であることは疑いないと見られる。また同一丘陵の上部斜面には低丘陵の古墳3基が確認されており、これらは前期型の方墳である可能性が高い。

その南の寺沢地区には、標高100mを越える出戸丘陵の尾根上に低丘陵の古墳が3基、また小櫃川に接した低丘陵上には総数60基以上を数える大群集墳・寺沢古墳群が存在する。寺沢古墳群の中央には大規模な集落跡が建てられているが、かつてはその敷地内にも多くの古墳が存在していたと見られる。寺沢古墳群中には前方後円墳は確認されておらず、大小の円墳および低丘陵方墳から構成される。円墳中最大のもは径35mを測る。発掘調査は、寺沢古墳群西端の一支那といふべき日光古墳群中の円墳2基について実施されているのみであり、いずれも6世紀後半代の築造と判明している。

さらに南の久留里周辺地区では、小櫃川がU字形を描いて蛇行しており、川筋の細長い丘陵上に日輪山・上野台・御膳屋古墳群、段丘上には松葉古墳・松葉東古墳が存在している。前方後円墳は日輪山古墳群中に1基確認されているが、遺存状態は不良であり、やはり括れる細いことを特徴とするものである。また上野台古墳群には帆立貝形の可能性をもつ25~30mの大形円墳がある。これ以外の古墳は概して小規模であるが、上野台・御膳屋の両古墳群に方墳の多いことが注意される。但しその一部には円墳が墳丘の改変を受けたと見られるようなものもある。またこの地区には日輪山穴穴・向郎穴穴といった横穴墓の存在も認められ、ともに日輪山穴穴群では、2期32基のうちの多数の横穴が確認されている。高塚古墳については、今のところこれより上流には確実なもの知られていないが、塚

と称されるものは幾つか点在しており、今後新たに古墳が確認される可能性もあろう。しかし少なくとも群集形態をなす古墳は見当たらないようである。なお横穴墓に関しては、久留里からさらに4km程上流にかけ離れた広岡地区において、戸穴穴穴群（3基）の存在が知られている。

一方、記述は前後するが、中流域中南部の右岸側には、三田浅間神社古墳・萩野台古墳群・長谷川古墳群・館之内白山神社古墳群・上新田古墳群といった古墳群が存在している。これらの古墳群は、久留里線小櫃・使田駅間東部の丘陵を軸心に分布しており、その北側の下部・小櫃間には、丘陵が狭隘であるため古墳の空白地帯が存在し、また南側の使田・久留里間には土砂採取によって丘陵の一部が失われている関係もあって、古墳の存在を確認することができない。

三田浅間神社古墳は、丘陵頂部の高所に単独で位置し、径約40mを測る中流域でも屈指の大形円墳である。地山整形によって墳丘を築成していると見られ、墳頂面は削られて神社の礎石が建っている。萩野台・長谷川古墳群は、丘陵裾根元に造営された円墳群であり、特に規模の大きなものは見られない。

館之内古墳群中の白山神社古墳は、舌状に張り出した丘陵先端部に前方部を西に向けて築造された前方後円墳で、略測による墳丘長76mを測る。前方部が狭長で後円部との比高差が大きい古式の形態であり、地形に制約された扇形周溝が廻っている。後円部頂上に監視状があり、内部施設の残存が危ぶまれているものの墳形は明確で全体的な遺存度は良好である。古墳状況は飯籠塚古墳との共通性が高いが、飯籠塚古墳に比べて前方部がやや開く形態を示すようである。この古墳は別名・小櫃山古墳とも言われ、大友皇子（弘文天皇）の陵墓とする伝承とも絡んで古くから注目されている。後円部後方の階段的位置にある一円墳が明治期に八木三郎平らによって発掘され、海客帯剣・直刀・鉄鏡などの遺物が出土しているが、白山神社古墳との時間的な隔りは大きい。この円墳を含めて、白山神社古墳の周囲に4基、また背後の段丘上には12基の円墳が確認されている。

上新田古墳群に所属する笑輪浅間神社古墳も、前期型前方後円墳の可能性があり、飯籠塚古墳・白山神社古墳とともに小櫃3大古墳の一つに数えられる。古地する場所の標高は3基のうちでも高く、南側に突出した段丘根元の先端部を利用して築造されている。墳頂部が掘り盛られて浅間神社の社殿が建ち、南側へ下る参道両側の土手状の高まりが前方部と考えられる。前記の2古墳とは異なり、墳丘の大半を地山整形によって築成しているため、前方部側面の区画などが明確でなく、現状では前方後円墳と明確に断定することはできない。略測による墳丘長は100~110mを測り、前方後円墳とすれば飯籠塚古墳と並ぶ小櫃川中流域最大クラスの古墳となる。なお当古墳の存在する丘陵の上は比較的低い平坦面となっており、20基以上の円墳が確認される。この中には遺出しを有すると見られるやや大形のものが2基認められている。また同一丘陵上には、石祠を伴う小規模な塚が10基ほど存在しているが、これらも本来は古墳であった可能性がある。なお丘陵上北部には藤竹等が密生して立ち入り不能な区域もあり、古墳数は少なからず増加することが考えられる。

4. 小糸川下流域

小糸川は総延長56kmで、小櫃川よりも流域面積は狭く、河口部の三角洲も一回り小さい。小糸川下流域については、現富津市に属する河部南岸の沖磯村。現津市に属する下流北岸の丘陵・台地・段丘上、下流南岸の台地・丘陵上の3区域に分けて概述してみたい。なお本稿においては、中流域との境界は扇状地が大きく開ける三直・六手付近に設定した。

河部南岸の沖磯村には、内裏塚古墳・九条塚古墳・稲荷山古墳・三条塚古墳など100m以上の大形前方後円墳を始め、大小の前方後円墳・円墳・方墳合わせて30基以上が確認される内裏塚古墳群が存在し、『須恵国志』とそ一族の墓に比定されている。このうち大半の古墳は6世紀後半以降に築造されたものと考えられ、横穴式石室を内部

施設としている。この古墳群については、千葉県教育委員会刊行の測量調査報告書を始めとして、既に多くの文献で詳細が論じられているので、ここでは詳述は避け、最近の調査成果を中心に2、3点を付け加えて置くにとどめた。

この地区においては、戦後急速に無計画な宅地化が進んだ結果、狭小な街路が入り組み、排水路等も整備されないままの状態となっている。近年古墳群の主要部にあたる二間塚地区を中心とした土地地区画整理事業が計画され、それに関連した古墳の範囲確認調査、および宅地造成等に先立つ古墳調査も相次いで実施されている。最近の調査では、古墳群南端部において、L字形プランの横穴式石室をもつ下谷古墳が新たに確認され、武平塚古墳から琴塚古墳へかけての古墳分布の連続性が明らかとなった。未確認の古墳はこのほかにもなお多くあるものと思われ、市街化が進む前の航空写真などを手掛かりとしながら、道路調査を随時行っていくことが必要であろう。また保存整備を前提とした三条塚古墳の調査では、埴輪の存在しないことが改めて確認されたほか、横穴式石室内部の遺存状態が意外に良いことも判明し、一部発掘した石室最前部から銅鏡・馬具・須恵磁などが出土している。この調査により、盟主級前方後円墳の周年序列は、内裏塚→九条塚→稲荷山→三条塚となる蓋然性があきまわった。このほか、最近内部施設の再調査が実施された古墳として、中形前方後円墳の西原古墳と終末期方墳の龜塚古墳がある。

続いて、現在君津市街となっている小糸川下流域北岸は、君津郡内でもとくに隠滅古墳の数が多い区域である。この区域では、昭和30年代後半から大手企業の社宅造成が始まり、引き続く40年代後半までの間に大規模な土地画整理事業が実施されたため、充分な分布調査がなされぬままの古墳が消滅しており、本来の分布状況を復原することが困難となっている。造成と並行して幾つかの古墳調査が実施されているが、各報告書あるいは『君津町誌』掲載の分布図の間で、古墳の位置や名称に関する異同・差乱も少なくない。現存するものは、県指定の大形古墳と市街地外縁部の丘陵に残る一部の古墳に限られる。

海岸線に近い西側の大和田・板田地区の丘陵では、横穴式石室をもつ権現塚古墳・虫神古墳、箱形石棺をもつ東仲田古墳、花置山横穴群などが調査されている。このうち、権現塚古墳の石室はT字形、虫神古墳の石室はL字形のプランを呈し、両者とも自然石乱石積で、対岸に位置する内裏塚古墳群内の一連の横穴式石室との関連が窺われる。横穴式石室でありながら丘陵上・丘陵斜面に占守するという対岸との相違点と合わせ、被葬者の性格が問題とされよう。また東仲田古墳の組合せ式箱形石棺は、距離的にも近い水原市西部の小沢地区で調査されている石棺と近似しており、相互の関係が窺える。横穴群の存在を含め、小櫃川水系と小糸川水系を結ぶ海岸側での後期における墓制の共通性が指摘される。

君津駅東方の久保・北子安地区では、水道山古墳・納戸山古墳・納戸山寺山横穴群・北子安塚古墳・東山古墳群などが調査されているが、径30mの大形円墳と記録される天神山古墳など、未調査のまま消滅している古墳も多い。上記のうち水道山古墳（久保二子安古墳）は丘陵頂に立地する小規模な前方後円墳であったが、内部施設は遺存しなかったと言われる。納戸山周辺の古墳・横穴については『君津町誌』に簡略な記載があるのみで、報告がなされていないため、位置関係を含めて不明な点が多い。なお、この地区の東部の丘陵上に現存する穴谷古墳群中に前方後円墳1基が知られるが、墳形には疑点がある。

丘陵地の縁側面をなす南子安地区には、多数の円墳が群生していたと見られ、区画整理以前の隠匿等によって失われた古墳も多かったようである。調査の行われた古墳として、子安塚古墳・馬門古墳・下谷古墳・南子安古墳は数基がある。このうち、馬門古墳からは円筒・家形埴輪、鉄剣・鉄斧・石埴模造品などが出土しており、群中でも古い5世紀後半代の製造と考えられる。但し埴輪については良好な資料に欠ける。この段丘の南縁部には、40m級前方後円墳の花輪堂古墳が存するが、現在は後円部を残すのみとなっている。また同岸低地部には、鉄剣が出土したとされる主師古墳がある。

東側の八重原台地周辺（外賀輪・内賀輪地区）は、下流域北岸の中でも注目すべき古墳が集中する区域である。舌

状に張り出した台地縁辺部に立地する道祖神裏古墳は、君津郡域で最大の規模をもつ墳丘長56mの前方後円墳であり、確認調査で周溝部から五式土器が検出されている。その南600mの沖積地に、扇形周溝を有する墳丘長86mの大形前方後円墳・八幡神社古墳が存在する。墳丘は中段幅が広い二段築成で、後円部径と前方部幅が拮抗しており、周溝も開きの少ないU字形を呈するという外観から、中期古墳の可能性が高いと見られる。近年後円部側溝の一部が発掘されたが、埴輪を含めて時期決定の手掛かりとなるような遺物は何ら検出されなかった。今のところ、この2基の古墳が内裏塚古墳群形成前後における小糸川水系の最有力首墓として位置づけられる可能性が高い。このほか道祖神裏古墳と同一台地上には、短円2個が出土した径37mの大形円墳・八重原1号墳、中心主体が扇形方墳であったと見られる墳丘長46mの前方後円墳・星谷古墳を始めとして、宇賀貝古墳群・下新田古墳群・野馬木戸古墳群などが存在していたが、現存するのは道祖神裏古墳の至近にある上ノ山古墳（低墳丘方墳）のみで、他はすべて消滅している。また道祖神裏古墳と八幡神社古墳の中間の沖積地にやや大形の円墳（法木作2号墳）が現存しており、その西側にはかつて大形の方墳（法木作1号墳）と考えられる墳丘も確認されていたが、すでに削平されている。以上のように、前・中期に首長級の大形古墳が密集した当地区では、その後も一定の優位性を保つ古墳が継続して造営されていたことが窺われる。

次に下流域南岸へ目を転じてみる。この地域では両岸沖積地に面して平坦な台地が広がっており、三船台古墳群・上野台古墳群・元秋葉台古墳群といった古墳群が分布している。このうち中央の上野台古墳群では、台地縁辺部に沿って2基の前方後円墳（65m、43m）が並んでおり、良好な遺存状態を保つ。また最も古墳の分布密度が高い元秋葉台古墳中には、墳丘長45mを測る帆立貝形古墳（造出し付円墳）1基が存在するほか、隣接して30m級の大形円墳2基が確認される。さらに支谷を隔てて南側の台地にも30m級円墳・中庄台古墳がある。これらの前方後円墳・大形円墳がこの地区における主墳の系列をなすものである。なお元秋葉台の東斜面には横穴群の存在が認められている。この地区では未だ発掘調査はほとんど行われていないが、元秋葉台古墳群中の1円墳（32号墳）が唯一トレンチ調査され、墳頂から5世紀後半の須恵・土師器が出土している。また荘台の台地上には、石製模造品類が出土して祭祀遺跡の可能性が指摘されている下谷台遺跡がある。

一方、これらの台地の背後にある三船山の丘陵上にも、上庄台古墳群・小香古墳群・水ヶ谷北、南古墳など幾つかの円墳群の存在が知られているが、調査は全く行われていない。

5. 小糸川中流域

小糸川中流域は、小糸川の流が北流から西流へと大きく変換する欄干・根本付近を境に大きく2分することができ、この屈曲点以南は右岸側にやや広く平坦地が開けているが、屈曲点以西では左岸側の沖積地が広く占める。古墳分布は、屈曲点以西では左岸（南岸）の方において顕著であり、丘陵のかなり奥まった地区にまで古墳・横穴の分布が認められている。これに対して右岸（北岸）側における古墳分布は、これまで確認されている限りあきまわって散在的である。また屈曲点以南の地域では、両岸に屈曲点にまたがった数の古墳群が分布しているが、数基の上ではむしろ左岸（北岸）側に顕著な分布が認められる。

西部北岸の練木・大塚地区では、小規模ながらも群を形成するものとして大山崎古墳群と近年発見された初山古墳群とがあり、初山古墳群中に70m級前方後円墳の可能性をもつ墳丘が1基確認されている。また大山崎古墳群の南端には径40m級で二段築成と見られる大形円墳がある。ともに北岸では注目される存在と言えよう。このほか過去の分布調査で円墳として登録されているもの（西部・滝ノ台・いご塚など）が孤立点的に認められているが、自然丘と判別し難いようなものが多い。またこの地区には、奥谷・桶田谷・油ノ谷・台といった横穴が数基存在するが、いずれも単基のみの確認となっている。この地区はまだ分布調査が網羅的に行われていないため、今後新たに古墳・横穴の確認

される可能性はあるが、分布密度そのものが稀薄であるという傾向は変わらないものと思われる。

次に西部南岸の状況について西側から順に概観してきたい。国道127号線に面した浜子・小山野地区は丘陵が狭路であり、横穴墓の分布密度がとくに高い。まとまった古墳群としては、河岸沖積地に面した尾根上に分布する中谷古墳群があり、その中程に40m級の大型円墳（4号墳）が1基確認されている。その東側に中谷古墳群があり、さらに南には胡摩伝横穴群・峯谷横穴・小山野古墳群が存在している。このうち5基が確認される胡摩伝横穴群中には、家型宝形造天井をもつもの、コ字形棺台で船形副葬を有するものがそれぞれ認められた。また山崎横穴群は昭和初期に小畑吉蔵が調査して克明な記録を残しており、総数36基にのぼる横穴が知られており、その後の土砂崩れ等により、現在確認できるものは南側群の敷数に限られる。コ・L字形に配された棺台・棺床を有するものが多く存在するほか、家型天井をもつものや、肋骨状に梁を剛接した荘厳な造りの横穴もある。

小山野よりさらに南東に奥まった大山野地区にも幾つかの古墳・横穴群が確認される。まとまった古墳群として宮下西谷古墳群・大山野古墳群があり、前者においてやや大形の円墳が確認されている。横穴群はこれよりも南に隔てて位置しており、放棄地横穴群・折越横穴群などが知られる。この地区の横穴群についても小畑吉蔵による踏査記録があり、放棄地26基・折越谷5基の横穴が記されるが、最近の踏査では放棄地の5基が確認し得るのみである。隔壁・棺床をもつもの、天井部の造作など小山野地区の横穴との共通点が多く、人物等の副葬品が埋められた横穴も存在する。小山野・大山野地区の横穴に見られる特色は、長方形長円形周辺など東上総地域との関係が強く、優れるものである。

再び北側の川沿いに戻って、六手地区の様相を概観したい。この地区では前方後円墳・孤山古墳を中心として、川代古墳群・常代神社古墳・谷田横穴群・奥中谷古墳群・奥中谷横穴群・神楽原古墳・熊野前古墳・六手西谷古墳群・鹿島古墳群などが分布しており、一つのまとまりとして括することができ。孤山古墳は、丘陵端を整形した墳丘長57mの狭小な前方後円墳で、近年行われた確認調査により円筒・形造堀輪が検出され、その年代観によって6世紀中葉前後の築造と考えられる。小糸川中流域では検出した古墳の一つとして位置づけられよう。円筒堀輪は川代古墳群中の30m級円墳（4号墳）からも採集されており、その特徴は孤山古墳よりも古を示す。30m級円墳は丘陵上に存する鹿島古墳・奥中谷古墳群中にも各1基認められている。神楽原・熊野前古墳は河岸段丘上に立地する古墳とともに規模は小さい。常代神社古墳は神社によって隔られた墳丘状の高まりであり、自然丘の可能性もあるが、古墳とすればかなり大きな規模のものとなる。横穴では、奥中谷古墳群中に隔壁をもつものが認められている。

その北側の山・白駒・中島地区には、白山横古墳・反田古墳群・熊野真古墳群・君ヶ作古墳群・横穴・白駒古墳群・竹原古墳群・長町寺古墳群・武勇古墳群・横穴・上武勇古墳群・万崎古墳群・横田横穴群などが知られ、小糸川中流域における古墳分布の中心をなす。白山横古墳は河岸沖積地に面した独立丘陵上に位置し、山形地形による墳丘長35m前後の帆立貝形前方後円墳と目されるが、裾部が崩落しており、墳丘範囲は明瞭ではない。その南西の丘陵細尾根上にある反田古墳群中には円墳1基と方墳2基の存在が確認され、さらに南に奥まった丘陵上には25~30m級の円墳が並び君ヶ作古墳群、前方後円墳1基を含み発掘調査が行われた白駒古墳群の存在が知られている。白駒1号墳は山形地形などとも墳形の整った墳丘長45mの前方後円墳であり、後円部高と前方部高がほぼ等しいながら、前方部幅が狭く、裾部が細いという特徴的な形態を示す。円墳部に二等辺三角形の前方部が連結したようなコノタイプの墳丘形態は、君津郡内各地の同規模後期前方後円墳にしばしば認められるものである。埋葬施設の構造は十分に把握されなかったが、遺物の出土状況から複数の埋葬主体があったと考えられ、副葬品目は大刀・刀子・鉄鏝に限られる。鉄鏝の型式等からは6世紀の中でもやや古い段階に位置づけることが可能と思われる。合わせて調査されたⅡ・Ⅲ号円墳もこれに近い時期の築造と推定される。

丘陵尾根に総数16基が分布する竹原古墳群では、従来の分布調査で東側に2基の前方後円墳が記載されていたが、

いずれも前方後円墳とは見做し難いものであり、これらとは別に西側浅間神社付近において新たに1基の50m級前方後円墳（15号墳）が確認されている。円墳は25m級のものが1基存在するほかは概して小規模である。長町寺・武勇谷・上武勇・万崎古墳群はいずれも円墳のみから構成され、上武勇古墳群中に30~35m級の大型円墳が1基、万崎古墳群中には25m級の方墳の可能性をもつ墳丘が存在する。首塚古墳は河岸段丘上に立地する円墳で、墓地に利用されており、塚の可能性もある。

次の丘陵の奥部の尾車・草牛地区に分布する古墳について見ていきたい。尾車地区には丹後塚・天皇塚の2基の前方後円墳と南丹後塚・北天塚・羽黒下・皿引といった円墳の存在が認められる。丹後塚古墳は丘陵の北側突端部に占地する墳丘長40m前後の前方後円墳で、墳形はやや変形されているが、後円部と前方部の高さが拮抗した裾部幅の狭い墳形を呈する。最近この古墳の周溝の一部が確認調査されている。天皇塚古墳は丘陵頂の狭い平坦面に占地する墳丘長約50mの前方後円墳で、後円部径と前方部幅がほぼ同程度であり、後円部の方が高い。小糸川中流域の前方後円墳の中では良好な保存度を保つものである。一方、草牛地区に孤立して存在する御殿塚古墳は、墳丘長約50mの前方後円墳とされるが、形状は崩れており、大形円墳ないしは自然地形の可能性もある。測量調査による墳形確認が必要であろう。

最後に、上流に近い小糸川屈曲部以南の古墳群について概観したい。西岸の駒久保古墳群中には、最近墳丘測量の行われた前方後円墳・駒久保6号墳が存在する。北側へ出た丘陵突端に前方部を北へ向けて占地し、墳丘長42m・後方部長24m・前方部幅12mという計測値が得られている。後方部頂の平坦面が広く、前方部は低平で開きが小さい。立地状況・形態ともに下流域の道祖神真古墳に近似しており、前方部前縁が山道によって一部削られる以外は概ね良好な保存状態を保つ。またこの古墳の西側に調整されて小規模な方墳1基が確認されていることも注意すべきである。前方後方墳は、当古墳を含め君津郡域に現在6基（山王田2号墳・向台8号墳・岡9号墳・鳥越古墳・道祖神真古墳）が知られるが、鳥越古墳以外はいずれも近接して方墳（またはその可能性が高い墳丘）が認められており、他地域における傾向とも軌を一にする。なお駒久保古墳群中には、このほか現存径28mで墳丘高の高い大型円墳・8号墳・墳丘長50m前後の前方後円墳と見られる10号墳（新確認）等があり、古墳群の形成過程が注目される。

このほか南部西岸には福岡古墳群、また東岸には高塚古墳群・金越古墳群・大井戸八木古墳群・金ヶ谷古墳群・金岡古墳群・大野古墳群といった古墳群が存在し、比較的敷数の多いものが目立つが、前方後円墳を含むものも見当たらない。30mクラスの大型円墳は福岡・金岡・高塚古墳群中に各1基認められている。また大井戸古墳群では、近年実施された確認調査で、低墳丘の多いことが明らかとなり、方墳の割合が大きいことが予測される。横穴では、西岸に総数8基が確認される市瀬横穴群が知られ、周囲を土取りによって隔られた島状の丘陵斜面がからうじて残された状態となっている。

これらの古墳についてさらに上流の旧清和村域にも幾つかの塚が点在しており、その中には「君津郡誌」や「清和村誌」に古墳として紹介されているものもある。しかし近年の分布調査でこれらのほとんどは、規模や形状等から中近世の塚と判定されており、今回も市・県の分布地図によってこれらを古墳として扱わなかった。ただ将来この地区にも新たに古墳が確認される可能性は否定し得ないであろう。なお上流の横塚地区に「ひうたん塚」と称される大形前方後円墳が一部の遺跡地図に登録されているが、現地踏査の結果、自然地形であることが確認されている。

6. 小糸川以南諸水系

小糸川より南には、岩瀬川・小久保川・染川・湊川・白狐川・金谷川といった中小の河川が、厚総丘陵から浦賀水道へ注いでいる。これらの流域は現富津市のうち旧大佐和町・天羽町に属する地域である。この地域には横穴墓が圧倒的に多く、高塚古墳は臨岸寄りを中心に散在的に認められるに過ぎない。上記の河川の中では湊川が最も流域面

墳が広く、横穴とともに高塚古墳もやや多く分布している。以下、小糸川以南地域については、高塚古墳と横穴墓に分けて様相を概観してみたい。

先に述べた内瀬原古墳群の南には、神明山と呼ばれる独立状の丘陵が西側へ張り出しており、富津律の付け根を南北に昇している。この神明山のふもとに低地に円筒埴輪を有するかず原古墳があり、本来小規模な前方後円墳であったとされているが、現状では崩壊が著しい。また神明山の丘陵東端には前方後円墳かと見られる墳丘が確認されていたが、発掘調査の結果2基の円墳と判明し、副葬品は何ら出土しなかった。これより南東へ下って岩瀬川流域の網地区には、やはり前方後円墳であったとされる網橋荷古墳が存在する。現存する部分は後円部と考えられ、墳頂部に神社の社殿が建つ。墳丘上には部鉄底のある砂岩が散在していることから、内部施設は横穴式石室である可能性が高い。

岩瀬川と小糸川が接近して河口部に至る大貫地区には、墳丘長86mの前方後円墳・弁天山古墳が存在する。丘陵端の高まりを利用して築成された古墳と考えられるが、盾形周溝を備え、基本的に低地の大形前方後円墳と同様の整然とした企を有する。昭和初期に国史跡に指定されながら墳丘の崩壊が著しい状態であったが、昭和54年までに復原整備が完了し、往時の容姿を甦らせている。円筒埴輪を有し、天井石に縄文突起を有する特殊な整式石室から、銅盾甲片・鉄剣・鉄鏃・鎌等が回収されており、埴輪の特徴と合わせて5世紀末葉前後の築造と推定されている。孤立した存在であり、内瀬原古墳と九条塚古墳の年代的空間を埋める首長墓として、「須恵川」の5世紀末に及ぶの関係を投げかけた古墳となっている。弁天山古墳の付近には、小糸川を隔てた低地に塩込山という現状方墳の墳丘長10mほどの古墳とされているが、これは自然石の残骸である可能性が高い。また小糸川の河口に近い丘陵上には、向原古墳群という名称で調査された数基のマウンドであるが、遺物は全く検出されず、古墳でない疑いも濃い。これらの横穴群の上部の尾根上に存在しており、横穴に付属したマウンドとの見方もある。同様の横穴上マウンド群は、神明山南東部の丘陵に存在する東風谷・内田・池田横穴群の上部の尾根にも認められており、その実態の解明の関心が持たれる。このほか小糸川上流域に下岩入大塚山古墳という円墳が単独で確認され、古墳的外観を示しているが、周辺に全く古墳が見当たらない現状からは、新しい時期の塚である可能性も大きいと言わざるを得ない。

さらに南に下って、染川（八染川）下流域の佐賀平野には、数基の円墳の群集が確認されている。この内1基である一本松古墳が調査され、直刀が出土したというが、詳細は明らかにされていない。塚田古墳群と称される円墳群の多くは、園地整備に伴って未調査のまま消滅しているが、神社となっている御殿塚古墳がろうじて現存する。墳丘を挟んで数段離れた参道の脇に砂岩墳が覆えており、横穴式石室を有していた可能性が高いと見られる。なお染川の上流域と下流域と呼ばれる丘陵が単独で確認されているが、古墳としての確認に欠けるものもある。

淡川流域では、北岸部の丘陵を中心に比較的多くの古墳が確認されている。下流域には周溝調査の実施された富士見台2号墳があり、5世紀末葉に遡る円筒埴輪が出土している。同一丘陵の南東端部では、岩井古墳の存在が知られていたが、最近の確認調査で、認知されていた古墳とは別に25m規模のやや大形の円筒周溝群の存在が判明した。また大溝横穴群の上部尾根には低墳丘の古墳数基が確認されている。一方下流域低地の水田中には、町田古墳・祖吉原古墳・上北原古墳・塚田古墳があり、このうち、町田古墳は裾部に石材が露呈することから、石室の存在する可能性がある。中流に近・更和地区には、土取りによって崩壊した際に円筒埴輪が出土した高山古墳群の存在が知られる。このほか中流域・桜井地区の丘陵上には、牛瀬原古墳群・児ヶ基古墳群があり、児ヶ基古墳群中に30m級大形円墳1基が認められる。

白狐川下流の竹岡地区には、仲宿・松原の2古墳が知られていたが、仲宿古墳はすでに消滅し、松原古墳も墳丘上に神社が建つて、基底部を残すのみとなっている。部鉄底をもつ砂岩材に礎石前に幾つか置かれていたことから、横穴式石室と内部施設していた可能性が高いと見られる。また中流には萩・作田という円墳が認められていたが、現存しない。さらに白狐川から南西に隔った丘陵地にも朱塚古墳という円墳が確認されているが、古墳かどうかは

定かでない。金谷川流域には高塚古墳は確認されていない。

以上、小糸川以南諸水系における高塚古墳の様相については未だ解明されていない部分が多い。弁天山古墳は例外的な存在としても、富士見台2号墳の調査によって少なくとも5世紀後半代には小規模古墳の築造がなされていたことは明らかであり、その後横穴墓の造営が主体となる趨勢の中で、各河川の河口低地部には横穴式石室をもつ古墳も幾つか築造されていたようである。平地の面積が狭い関係からか、耕作や宅地化に伴って稀少な高塚古墳の多くがすでに崩壊・半壊の憂き目に遭っていることが惜しまれる。

続いて当該地域の主体を占める横穴群の様相について概観してみたい。神明山南東の丘陵斜面には、7群73基確認の大規模横穴群である内田（鹿島）横穴群を中心として、田池・岩崎・下平治・東地谷横穴群があり、谷を隔てて東側の丘陵には表・陣子ヶ谷横穴群がある。内田・池田横穴群については、過去に一部の横穴の実測調査が行われ、内田横穴群内で線刻壁画および「田」の線刻文字などが確認されているが、詳細な調査は実施されておらず、基数についてもさらに増加する可能性がある。線刻壁画は表・陣子ヶ谷横穴群でも確認されている。

岩瀬川・小糸川下流域には数基単位からなる多数の横穴群が密集しているが、このうち向原・山岸横穴群の発掘調査が行われている。両横穴群では無棺台・無棺台タイプの横穴が主体をなし、隔壁を有するものも一部認められる。玄室に貝殻を敷いたものが見られることは、横穴式石室・横穴を問わず岩津郡域における普遍的な特色といえる。また岩瀬川中流域には黒式跡となっている横穴群があり、群中の横穴のすべてが隔壁・無棺床タイプによって占められる。1号横穴に「大同元年」・「許世」、10号横穴に「木」の線刻文字が見られるほか、線刻壁画を有するものも認められている。網地区よりさらに上流では、開口横穴の多い公家町横穴群において、やはり隔壁・無棺床の横穴が主体を占めることが確認されている。一方、小糸川中流域にある岩井作横穴群では、近年の発掘調査の結果、無棺台・無棺床タイプが主であることが判明し、3号横穴において「段文」の線刻文字が発見された。棺床をもたない代わりに区画溝や数石を有する横穴が見られることが本横穴群の特色となっている。総体的に岩瀬川・小糸川の二河川流域では、隔壁を持つものを含めて、棺床を有さない横穴が多いという傾向を認める。

染川流域は、上の2水系に比べれば確認される横穴の総数はやや少なく、亀田C横穴群のうちに消滅してしまったものもある。下流の亀田A1号横穴では、人物・馬・船などを描いたと見られる多彩な線刻壁画が見つかった。中流域南岸の神宿横穴群では発掘調査が実施され、8基全てのものに棺台・棺床が認められている。埋設していたため内部の遺存状態が良く、ほとんどの横穴から人骨・貝殻とともに副葬品が検出され、中でも鏡の出土等が目立つ。出土土器の様相からは、7世紀初頭〜前葉頃の比較的短期間に相次いで造営されたものと考えられる。未調査開口横穴の中では、中流域北岸の清水横穴群において有棺床タイプと隔壁・無棺床タイプの両者が確認されるほか、下流域の古船横穴群では隔壁・無棺床タイプがやや多く見られるようであり、形態頻度の上では、淡川流域と岩瀬川・小糸川流域との中間の様相を示しているとも言えるようである。

淡川流域は、北岸を中心に多数の横穴分布が認められる。大溝横穴群・西山横穴群の発掘調査が行われているほか、牛房茂行氏による開口横穴の綿密な実測調査の成果が公にされており、その様相の概略を知り得る。はな群全体が発掘された西山横穴群では、調査横穴30基のうち6割が棺台・棺床を持ち、2割が無棺台・無棺床であった。大溝横穴群でも、発掘・実測横穴50基余りのうち半数が有棺台・棺床のものによって占められ、無棺台・無棺床は2割未満、隔壁・無棺床は約3割で、棺床（割状式）を付設したものが圧倒的に多く認められる。また隔壁を持つものも、岩瀬川流域の横穴群などとは比較して隔壁高が低く、隔壁・有棺床のものも少く認められるといった特徴が指摘される。有棺床の横穴が多いという傾向は、実測調査が行われた山・崩下横穴群などでも普遍的に見られる。線刻壁画については、大溝横穴群および神宿A横穴群中に数基に描かれたものが認められている。

白狐川・金谷川流域および二河川中間の南岸線にも幾つかの横穴群が分布しているが、遺存状態は総じて悪い。こ

のうち比較的多くの横穴が開く白面川中流域の仲村横穴群では、有棺床の横穴が5基、無棺床のものが2基確認されている。この地域の海岸線には古墳時代の遺物を伴う海蝕洞穴もある。

以上のように、小糸川以南諸水系における横穴群には、それぞれの水系で少しずつ異なった形態的特色・傾向性が認められるようであり、今後時期的な形態変化と地域的な形態差の両軸から該地域の横穴の分類・顕作業を構成してゆく必要があろう。

7. おわりに

君津郡域における古墳・横穴分布の概要について、地図上を彷徨しながら至って羅列的に長々と語ってきた。膨大かつ多様な内容を持つ当該地域の古墳文化をより簡潔に言い尽くそうとすれば、どうしても恣意的・選択的な資料の解釈論に陥り、また筆者のような浅学の良くとめきれるところでもないで、詳細分布調査という本書の主旨に添ってガイドブック的役割に徹すべく、あえてこのような長文を提出する結果となった次第である。未踏の丘陵地帯が多い当管内では、未だ分布調査が徹底されているとは言えず、今後本報告書を基礎として漸次補足・修正の加えられてゆくことが望まれる。なお古墳等の名称は基本的に従来分布地図所載のものを踏襲したが、字名の誤記や不適切なものについては可能な範囲で訂正した。

本稿の執筆過程では、君津市文化財センター職員諸氏ならびに松本勝氏より多くの助言をいただき、また図表作成にあたっては大崎紀子氏の協力を得た。記して感謝の意を表したい。

第10節 夷隅地区

戸倉茂行

夷隅地区は、房総半島の南半部を占める房総丘陵の北東端部に位置する。この房総丘陵は、南から羅山・清流山丘陵、夷隅丘陵、大多喜丘陵に大別でき、勝浦市周辺では海によって侵蝕された海蝕崖が形成されている。この夷隅地区には、房総半島における大内川の一つである全長約55kmの夷隅川が房総丘陵の谷間を流れ、大多喜町、夷隅町、大原町に河段段丘を形成して、下流の低地帯から太平洋へ注いでいる。また、海岸線には低地がほとんどなく、海岸部まで丘が連なっている地域が多い。

このような地形的環境にある夷隅地区の古墳・横穴分布状況等について、南の勝浦市周辺から述べることにしたい。勝浦市周辺は、海岸部まで丘が連なる地形にあり、低地がほとんどなく、見るべき河川が流れていない。5群12基の横穴が散在して、海蝕崖に分布している。この長瀬横穴群（8基）では発掘調査が実施されている。各横穴とも前半部が崩落しているが、逆台形平面の横穴で、出土した土師器、須恵器などの遺物から、少なくとも6世紀末葉から8世紀まで使用され、最盛期が8世紀にあったと考えられている。

大原町の塩田川流域では、岩船台下横穴群（13基）など2群20基が分布しているが、形態などは不明である。

では、夷隅地区を縦横に流れる夷隅川とその支流における古墳・横穴の分布状況について、上流域から述べることにする。上流域では、夷隅川流域に分布せず、支流の西畑川流域に墓下横穴群（5基）など5群10基の横穴が分布するが、古墳は知られていない。中流域の最奥部にあたる夷隅川西岸の大多喜町横山地区には、横山内岡台跡（円墳8基）など4群15基にのぼる小規模な群集墳が散在している。このうち、横山古墳群の1基から直刀と馬具が出土した。明治時代に採集されたものである。馬具には鉄地金剛張の剣菱形赤漆とイ字形鍔板が含まれており、東国において馬具が普及し始めた6世紀初頭頃の築造であろう。また、横山古墳群の3号墳では、周溝内から石製模造品と兎高

I式の土師器が出土した。5世紀末葉〜6世紀初頭頃の築造と考えられる。横穴は、愛宕山横穴群（27基）など3群34基が分布するが、形態などは明らかでない。一方、同地区の東方にあたる下大多喜地区の丘陵上には、円墳20基からなる高谷古墳群や前方後円墳1基と円墳11基からなる古墳群などの群集墳が分布する。古墳群では、前方後円墳の発掘調査が実施され、直刀、土師器、須恵器が出土した。また同古墳群中の円墳1基から、半円方格帯神鏡、馬具、鉄鍔、玉類が採集されている。この半円方格帯神鏡は、埼玉県熊谷市古墳から出土した辛亥年銘鉄剣と伴出した同范鏡として注目されている。この熊谷山古墳は6世紀初頭頃の築造と考えられ、該鏡がそれに近い時期の古墳であろう。次に、やや下った中流域北岸の夷隅町には、上野横穴群（17基）など24群66基の横穴が散在する。能実地区に5群7基、神豊・小高地区に13群35基など小分布域を形成している。このうち、上野横穴群の3基は、袖を有する縦方形・横方形のアーチ形天井を有する横穴で、割製棺床が認められた。また、河岸段丘上に、円墳3基の谷古墳群などが分布している。対岸にある大原町の支流熊川流域では、沢部横穴群（16基）を含む9群57基が分布する。ここに分布する横穴群の多くは、橘口定志氏の論考に紹介されており、これを参考にすると、両袖で逆台形を除く各プランを呈する横穴が認められ、隔壁を有するものが多く、割製棺床主体であった。夷隅川下流域の岬町では、南岸に東前横穴群（25基）など4群35基が分布している。東前横穴群では、5基の発掘調査が実施されている。両袖・横方形の横穴が多く、いずれも隔壁が認められた。並列する2〜4の割製棺床に特徴が認められ、出土遺物から7世紀〜8世紀初頭頃へかけて使用されていた横穴群と考えられている。また、夷隅川流域では、唯一の墳輪を有する三門古墳が低地に単独で分布する。対岸の北岸では、支流熊川流域の岩船地区に3群10基、谷上・椎木地区に5群10基以上の横穴が分布している。このように、夷隅川とその支流では、中流域最奥部に群集墳がやや集中して形成されているのに対して、横穴はいくつかの小分布域が各地域に散在する傾向が認められた。古墳の様相を見ると、夷隅川中流域の北岸では、金剛張の馬具類や半円方格帯神鏡など卓越した副葬品が出土した円墳が点在している。この地域では、これらの円墳の被葬者が当時の地域的な支配者であったと考えられる。また、各古墳の出土遺物から、ここでは各群集墳が6世紀初頭頃に築造が開始されたか盛行していた可能性が認められる。一方、横穴を見ると、袖の存在によって支室と裏室が区別された、いわゆる高床式の裏室を有する横穴が多く、内部施設が割製棺床主体である形態的な地域的特色が、夷隅川流域の全域で認められた。これは、当地域における一般的な様相を示すものと言える。しかし、西方の丘陵地帯を隔てた東上総地区にも、整正系の家型天井を有する横穴は知られていない。この地区と西の形態的な相違に差異は認められるが、隔壁・割製棺床に見られる基本的構造など類似点は多い。このような様相を考えると、短絡的な見方ではあるが、各横穴群の一元的な形成過程が推測できる。背景には、太平洋開港地と考えられ、その時期は東前横穴群に見られるような7世紀代であろう。このように、古墳と横穴の年代差は大きく、相互の関連性は現状では見い出せない。また、「日本書紀」では、安閑元年（534）に大和朝廷の直轄地である伊勢也香が夷隅地区に設置されたと記述されているが、伝承かどうかは別として、その内容に迫るような政治的・社会的情勢が当時の夷隅地区にあったと推測できる。今後は、このような点を改めて踏まえて、古墳・横穴の様相を見い出ることが夷隅地区における古墳史解明の一助になろう。

第11節 安房地区

戸倉茂行

安房地区は、房総半島の南端部に位置する。地形的に見ると、北から鋸山・清湊山丘陵、鴨川低地帯、嶺岡丘陵、鋸山低地帯、安房丘陵に大別することができ、谷床部にあたる地溝帯に沿って多くの中小河川が派生して、東京湾あるいは太平洋に注いでいる。また、鴨川低地帯と鋸山低地帯以外には低い低地帯がなく、樹状状丘陵に挟まれた小さな低地帯が海岸部に多い。

この安房地区は、養老二年（718）に上総国から安房国として独立しているが、その後一時的に併合され、再度独立した経路を経て、現在では安房郡市となっている。しかし、房総丘陵の一つである鋸山・清湊山丘陵により上総国から分離されている地形的要因によって、古くから独立した地域文化圏を形成している。

1. 安房西部地域

さて、このような地形的・歴史的環境にある安房地区における古墳・横穴の分布状況等について、東京南岸にあたる安房西部地区から、各河川流域毎に概要を述べたい。

北から、鋸山に近い保田川流域では、横穴はなく、小円墳の房ヶ谷古墳1基が分布するにすぎない。一方、佐久間川流域では、河口に近い海岸部に横穴9群63基の分布域がある。これが、安房西部地区における横穴分布の北限となる。海岸部に分布するため、風化した保存状況の不良な横穴が多い。大黒山・岩井袋・板井ヶ谷・大栗院横穴群など10〜30基ほどの横穴群が含まれている。このうち、大黒山・大栗院横穴群の敷基が『鋸南町史』で紹介されている。大黒山横穴群については11基しか確認できなかったが、本来約30基にわたる横穴群として知られ、内2基は1基が無袖・横方形・アーチ形天井、1基が右片袖・逆台形・アーチ形天井を呈し、他の横穴はほとんどが無羨道形態で無袖・横方形らしい。大栗院横穴群は、本来24基で、当地区では唯一の両棺合棺床（無縁）を有する横穴1基が含まれていた。やがてに改変された可能性があるが、多くの横穴は無袖・横方形・平形天井を呈する共通性が認められた。その他、板井ヶ谷南横穴と、観音ボラ・大栗院横穴群のうち敷基には、岩盤を横長の袋状に掘削した小形横穴があった。更に、内陸部寄りの佐久間川流域には、堤ヶ谷北・堤ヶ谷南・森越などの横穴が散在する。

岩井川流域は、古墳・横穴の分布が希薄で、北岸に前方後円墳1基・内陸2基の思原古墳群が、南岸には敷基1〜4基の冷水・大谷・岩瀬・鬼ヶ谷横穴群など5群13基が分布するにすぎない。冷水・大谷横穴群では、佐久間川流域に多い無袖・横方形・平形天井の横穴が認められたが、高さが低くなる傾向が窺われた。これらの各横穴は、特に冷水1号横穴の閉塞施設（門穴）の存在から、造基当初から無羨道形態で玄室のみ掘削された可能性を奪取でき、同一形態の横穴も同様であったと考えられる。

富満町の沙入川流域では、豊田地区に12群76基にのぼる横穴が分布しているが、古墳の存在は知られていない。この沙入川流域の低地は狭く、対岸の樹状状丘陵が真近に迫るような地形の支谷毎に、高田南横穴群（12基）・沢又横穴群（4支群23基）とその他の小規模な横穴群が、密集状態で一つの小分布域を形成している。この沙入川流域でも、高田南・高田西など多くの横穴群において、無羨道形態で、無袖・平形天井を呈し、玄室平面形が縦方形・横方形・逆台形の3タイプに分かれる横穴が多数を占めていた。また、高田南2号横穴は、奥壁を掘削した壁内棺床が認められた唯一の事例である。

以上、鋸山・清湊山丘陵から嶺岡丘陵へかけての東京南岸にあたる、鋸南・富山・富満の各町内では、玄室のみ掘削された棺台・棺床などの内部施設がない、無羨道形態の横穴が多数分布するという地形的特色が顕著に認められ、

従来言われている安房タイプの横穴とは異なる存在を示している。また、同本川の南岸にあたる大網町でも、単独で分布していた円墳の大武佐古墳が知られ、造成工事中に直刀、刀子、鉄鏃、須恵器などが出土したが、詳細は不明である。

次に、鋸山低地帯を流れる平久里川、山名川、滝川、沙入川などの中小河川流域における古墳・横穴の分布状況について述べる。まず、平久里川流域では、鋸山低地帯を望む北岸の嶺岡丘陵に二ヶ所の小分布域が認められた。海岸部に近い稲原地区周辺では、菅ノ入横穴群（28基）を含む7群54基の横穴と稲原古墳が分布している。内陸部寄りの正木地区周辺では、上御狩A横穴群（15基）を含む3群23基の横穴と、前方後円墳の上御狩大塚山古墳が分布しているが、詳細は不明である。阿河川の upstream 域では、東岸の嶺岡丘陵に、群66基の横穴群と円墳の明石古墳が分布している。これらの各横穴群は、水系こそ相違するものの、山名川流域の各横穴群と同一の一大分布域を形成している。形態や内部施設など同様で、おそらく共通した形成過程が想定できよう。

そこで、鋸山低地帯から内陸部へ奥深く入った山名川流域の古墳・横穴の分布状況について見ることにしたい。この山名川は、鋸山低地帯へ流れ出て名前を滝川と変えた後、平久里川に合流して、鋸山湾に注いでいる。阿河川が流れる谷は広く、両岸に比較的大きな支谷が開析されており、ここでは北岸を中心とした一定の地域内に数多くの横穴群が群集している。その敷基は17群151基を数え、九山川流域の珠師ヶ谷地区周辺とともに、安房地区における二大分布域を形成している。なお、古墳は、山名川の流れる谷の入口付近に円墳の延命寺古墳1基が分布するのみである。では、このような分布状況を示す各横穴群の概要について述べてみたい。この山名川流域における横穴の分布状況を詳細に見ると、池之内・御庄地区と山名地区を中心とする二ヶ所の集中分布域に分隔可能である。池之内・御庄地区では、池之内横穴群（28基）、在戸横穴群（36基）を含む6群82基が分布する。一方、山名地区では、舟ヶ作横穴群（16基）、鬼ヶ作横穴群（15基）を含む9群60基が分布している。では、両地区における横穴群の形態などについて、平久里・山名川流域の横穴略図調査を実施した策本一郎氏の略図を参考にして、説明を加えたい。池之内・御庄地区では、池之内・在戸横穴群に、平面形がおおそそ逆台形を呈し、玄室と羨道が区別されていないアーチ形天井の横穴が多い。内部施設は、池之内横穴群の判明する全基と、在戸横穴群の多くに壁内棺床が認められた。ここで、壁内棺床について述べる。これは、従来掘台式と言われていた一種の棺床のこと、奥壁が左右両側壁の一部をおおそそ長方形の形状に掘削して、内部を棺室状にして木棺等を安置した内部施設である。この閉塞施設には、壁との間に閉塞板をはめた仕切溝が入り付近に施される「はめ込み式」と、入口の周囲を環状状に掘り込んで閉塞板を押え込んだ「押え込み式」の二種類が認められる。このような内部施設を有する横穴が、いわゆる安房タイプの横穴として知られている。また、在戸横穴群では、その他に奥棺床（無縁棺）や、内部施設のない無棺合棺床の横穴が認められた。次に、山名地区を見ると、北戸妻・年ノ宮神社脇横穴群では、玄室と羨道が明確に区別された両袖・正方形あるいは縦方形の横穴が多く、内部施設を見ると羽状棺床を有する棺台を付けた横穴が12基中5基認められた。谷の最奥部に位置する舟ヶ作横穴群の形態は、池之内・在戸横穴群に類似したが、内部施設には無縁棺床を有する棺台が多いという相違点があった。更に、山名川東岸の江田横穴群は、池之内・在戸横穴群と形態をほぼ同一にしている。以上のことから、前述した平久里川上流域東岸に分布する谷津・六代横穴群など6群の横穴群では、袖の存在や羽状棺床が認められることから、山名地区の北戸妻・年ノ宮神社脇横穴群と形態的な類似点が多く指摘できる。

この山名川下流の瀧川流域を見ると、鋸山低地の中央部付近に、宿内古墳など円墳3基が各々単独で分布する。内陸部へ入った南岸の安房丘陵にも、釜古墳1基が分布しているが、詳細は不明である。横穴は、南岸の安房丘陵に二ヶ所の小分布域が認められる。稲原地区では、岩井作横穴群（16基）を含む3群29基が分布している。このうち、岩井作横穴群には、別名高塚式と言われている隔壁を持つ家型天井の横穴が含まれている。また、安東・水岡地区では、小網横穴群（16基）など5群27基が分布している。

鋸山低地の南端部を流れる沙入川流域は、横穴群が3群散在するのみで、分布は希薄である。大網横穴群では、い

いわゆる整正系で、樫木等を取り形した、隔電を有する横穴が存在しており、安房地区にこのような横穴があることは注目し値しよう。

次に、房総半島先端部に近い安房丘陵を流れる巴川流域を見たい。この流域は滝川流域と同様に分布が希薄で、安房地区における古墳・横穴分布の南限地域にある。古墳は、墳丘に発掘調査が実施された相ノ沢三塚古墳1基のみで、直刀1挺が出土した。横穴は、栗ノ前横穴群（5基）と大塚山横穴群（4基）が分布しており、栗ノ前横穴群には隔電を有する横穴が含まれていた。その他、熊山低地帯には、山名川から遠く外れた熊山角田横穴群がある。ここでも樫木等を取り形した整正系の家型天井を有する横穴が認められた。また、熊山の平砂層を挟む安房丘陵の一角に、倉作古墳が分布している。墳形は明らかでないが、周辺にも1基古墳が分布していた。この倉作古墳の出土遺物は、半鼠の環頭大刀、毛頭大刀など大刀3振、鹿角装刀子、須恵器（高杯、長頸壺、甕）などがあった。6世紀第4四半期の築造と考えられ、被害者など説明すべき点が多い。

2. 安房東部地域

これまで、安房西部地区について触れてきたが、次に太平洋岸の安房東部地区について述べてみたい。

安房丘陵を流れる千倉町の瀬戸川流域では、本郷上ノ古墳群のより前方後円墳1基を含む群集墳、一反田古墳群、大塚山古墳、栗籠寺古墳などが分布している。なかでも、本郷上ノ古墳3号墳は全長35mの帆立貝式前方後円墳で、横穴式石室が外見できる。横穴は、深作横穴群（11基）を含む5群29基が散在している。深作横穴群では、玄室と羨道が袖により区別された形態と無袖で区別されていない形態があり、壁内棺床を有する横穴があった。日向薬師横穴群（5基）では、4号横穴が発掘調査され、7世紀中葉頃の須恵器平盤が出土した。無袖・進台形を呈し、無縁棺床のある棺台を有している。

次に、安房地区における横穴の二大分布域の一つを形成する丸山川流域について見たい。横穴の分布状況を詳しく見ると、およそ三カ所の分布域に分けることができる。内陸部の丸山川東岸にあたる珠跡ヶ谷地区では、14群115基にのぼる横穴群が集中分布域を形成している。下栗野第1横穴群（25基）、大庭横穴群（24基）などが密集状態で存在する。一方、珠跡ヶ谷地区対岸には、安楽寺横穴群（13基）など3群21基が、また同下流域西岸の加茂・安馬谷地区には、塚崎横穴群（17基）など9群35基が、各々広範囲に散在して分布している。横穴の形態は、三カ所の分布域ともほぼ同一であった。無袖で玄室と羨道が区別されていない。進台形平面の横穴が主体であるが、珠跡ヶ谷地区の大庭・石室横穴群対岸の清水・安楽寺横穴群に袖により区別されている能方形の横穴が認められた。天井形態は、主としてドーム形とアーチ形が混在していた。また、内部施設を見ると、安房タイプの壁内棺床を有する横穴が多く、無縁棺床や割柱棺床を有する棺台を造り付けた横穴が少なからず認められた。それから、永野台第1横穴群中には、高さ2.5mの高い隔壁を有する横穴1基が含まれていた。占墳の分布状況を見ると、丸山川東岸に4基が散在している。このうち、永野台1・2号墳では発掘調査が実施されている。同1号墳から、女性人物を含む形象漆器、円筒埴輪、須恵器（短頸壺）が出土しており、5世紀後半の築造と考えられている。同2号墳は、墳丘を削平されていたが、全長25mの前方後円墳と推定されている。この丸山川流域と、次の原川及び加茂川南岸の丘陵地帯は、横間丘陵に含まれる。

和田町の原川流域には、浅地横穴群（6基）など5群14基の横穴が分布している。寺谷横穴群では、両袖・正方形で平形天井を呈する。無縁棺床の横穴1基が認められた。また、筒井・向畑横穴群では、壁内棺床を有する横穴が含まれていた。なお、古墳の分布は知られていない。

鴨川低地に近い曾呂川南岸の河口付近には、阿波太横穴群（3基）など2群4基が分布しているが、形態などは明らかではない。

この鴨川低地を流れる加茂川流域の古墳・横穴の分布状況は、崎崎川流域と同様に希薄で少ない。横穴は、かなり内陸部へ入った加茂川上流北岸に、大山横穴群（4基）が分布しており、この大山横穴群が鴨川低地における唯一の横穴群で、現在までの横穴群は知られていない。形態などは不明で、分布状況や年代も特異な存在である。また、同河川の下流域では、金塚古墳、棚塚古墳、毛無古墳などが散在している。崎崎川北岸の河口付近には、広場北古墳など円墳5基が群集して、一点墳群を形成している。このうち、後広場1号墳では、大正年間に竈かけ突起を有する割柱式石棺が出土し、直刀と鉄鏝が出土した。この鉄鏝は鋤頭式で、6世紀後半から一般化する鍔蓋が認められることから、鉄期以降の築造と考えられる。割柱式石棺の類例は少なく、貴重である。

天津小浜町の二間川流域では、石棺が出土された清澄山麓古墳1基が、内陸部に分布している。同町の大風武川東岸の河口付近には、西宮寺横穴群1基が分布するのみで、鴨川低地とともに、安房東部地区における古墳・横穴分布の北限地域と言える。

3. まとめ

上記のように、安房地区における古墳・横穴の分布状況などについて述べてきたが、古墳の基数が少なく、横穴の基数が古墳を遙かに凌駕している状況を再確認できた。まず、このような分布状況にある古墳についてまとめたい。群集墳としては、岩井川流域の恵田原古墳群（3基）、瀬戸川流域の本郷上ノ古墳群（5基）、丸山川流域の永野台1・2号墳（2基）など前方後円墳1基を含む古墳群や、平里川流域の宝珠院遺跡（3基）、崎崎川流域の広場北古墳を含む5基など円墳のみで構成された古墳群が各河川流域に単独の様相を帯びながら分布しているが、基数はいずれも少ない。その他は、古墳1基が単独墳として各地域に分布する。また、様相がわずかに判明する倉作古墳・永野台1号墳・後広場1号墳など3基を見ると、埋葬施設や副葬品の優秀な点質的内容が他の古墳と大きく相違している。これは、築造時期の差はあるが、各古墳の築造に至る歴史的背景が全く異質であることを反映したものと考えられ、各地域毎に当時の政治的・社会的様相が異なっていたことを示している。

次に横穴を見ると、従来から壁内棺床を有する横穴が安房タイプの横穴と考えられていたが、これとは異なった形態の地域的特色が顕著に認められた地域があった。例えば、安房西部地区の佐久間川から富津町の沙入川流域へかけては、無縁形横穴で玄室のみ掘削された横穴が多数分布していた。また、同西部地区を流れる三芳村の山名川流域では玄室と羨道が区別されておらず、内部に壁内棺床を有する横穴が袖之内地区に多く認められた。しかし、同河川流域の山名川地区から、丘陵を隔てた安房東部地区の丸山川流域へかけての地域では、無縁形横穴が主体を占めているものの、袖により玄室と羨道が区別されている横穴や、無縁横穴が割柱棺床を有する棺台を造り付けた横穴の一部に認められた。このような後者における様相は、周辺地域でも同様であり、安房地区における一般的な様相を示していると言える。その他、特筆すべき点として、熊山低地を望む安房丘陵南岸の滝川・沙入川流域及び周辺地域の一部では、隔電を有する横穴でいわゆる整正系の家型天井を呈するものがいくつか分布している。これまで知られていなく、東上総地方における横穴に極めて類似する。また、各地域における横穴の分布状況を見ると、山名川・丸山川流域は典型的な分布状況を示しており、ある特定の集団を構成する一族が一定の生活圏に集積的・累代的に横穴を造営していった所産と考えられる。判断する材料はないが、そこには、おそらく谷津田開発の成功という強い生活背景が背景にあったと思われる。更に、小地点的な分布状況を示すいくつかの河川流域についても、被害者集団の生活基盤は谷津田と考えられ、小集団による地域開発が背景にある。この時期は不明だが、関東地方における古墳築造が衰退化していった7世紀代主体の造営であった可能性が、上総地区における調査例から窺取できよう。なお、被害者集団を把握することはできないが、いくつかの古代氏族の系譜や氏制階級の交流が、横穴の形態や古墳の埋葬施設に反映されていると考えられ、今後は総部氏など安房地区に遷来した古代氏族との関連性を追っていくことが、安房地区における古代史研究の糸口となる。

第3章 房総における古墳の特質

第1節 房総における高塚古墳について

杉山 晋作

1. 前方後円墳

早期前方後円墳の存在

東京湾に流入する養老川下流域の北岸、市原台地上で神門5号墳・4号墳・3号墳の3基、前方後円墳に似た墳丘を有する墳墓が調査されている。3基に共通して見られる供献土器の比較によって、それらの築造が5号墳・4号墳・3号墳の順に行われたものと判断される。その想定順序に従えば、主丘の後円部に付属する前方部の部位が、通路的構造で前方部の構造へと発達していることとなり、その想定が妥当性を裏付けている。3基とも主丘部が明確に高い盛土で構成され、かつ、主丘の上面が円形である点は、県下他地域の同時期墳墓と異なる点である。同じ市原地域にある小田部古墳が同様の平面形を有するものであったと推定されていることも合わせて、養老川下流域が千葉県下の古墳出現期において特殊な地域であったものと現時点では理解される。神門3号墳は、前期古墳にも見られる武器などが副葬されていて、供献土器の種相も加味すると、狭義の古墳の範囲に含めることには異論が少ないと思われるが、4号墳と5号墳に関しては、土器が示す断続相をもってこれを古墳時代の土器と判断せず、両者を古墳でなくその前段階の墳丘墓であるとする考えも出されている。土器論を展開する余裕はないのでここではさておくとして、4号墳の定角式鉄鏝は近年西日本の各所で認められ始めた初現期古墳出土の鉄鏝に類似する点が多く、その被葬者の活動期を本格的な前方後円墳確立の前夜に求めることが可能である。5号墳の多孔鉄鏝はこれよりさらに古く、その祖型を畿内地方から近江地方にかけて見られる銅鏝に求めるのが妥当と思われる。この両墳の築造期は東日本のみならず西日本においても盛んに地域間交流が行われたと、土器研究からも推測されている。両墳が東日本における地域間交流の結果として出現したものであることは、出土土器に北陸系・東海系要素の認められるものが顕著であることによって理解されよう。日本における古墳時代開始の指標とされる前方後円墳と呼ぶには、埋葬施設に木棺を被覆する壱式石室を、副葬品に三角縁神獣鏡類を、そして明確な前方部を必要とする、という基準からすれば、神門古墳群の3基ははずれるのであるが、畿内において最古式に属するとされる菅基古墳はその内部が明らかでなく、また榑井大塚山古墳に古式の銅鏝が存在することを考慮し、なおかつ、それ以前からも推測される鎌倉石塚古墳の前方部が極めて整然としたものであることを認識するならば、いま囁かれている前方後円墳出現期がさらに遡る可能性もあって、神門古墳群の3基を墳丘墓でなく古墳の築造段階に入った地方における古墳の1つと認識することも許される余地が残されている。千葉県下において調査された前期古墳より古く位置付けられるのが神門古墳群の3基であり、しかも、全国的にも本格的な前方後円墳の確立期あるいはそれ以前にも通る可能性を有している。これらは、主丘をめぐって溝が他の同時期墳墓より幅をもって壮大である。いま、全国的にみても前期前方後円墳より前の段階にも位置付け得るものであるかの議論はさておくとしても、これら市原台地に初現する古墳は、手塚古墳などいくとも房総における典型的な前期古墳として認識されているものより遡る時期に属し、かつ、その様相も異なることが明らかであるので、とりあえずは、房総半島内での適用に限るとして早期前方後円墳と理解したい。

大型前方後円墳の分布とその時期

房総における前方後円墳の規模がどの範囲にもっとも多いのかについては、統計的処理をまたねばならないが、概して、後期に至っては前方後円墳の規模が縮小していくのが一般的であり、大型の基準数値を示すが当時の首長の勢力を比較するに有効とはならない場合がある。しかし、それでもなお、地域内で相対的に卓越した規模を誇る古墳が造営されることがある以上、その卓越の基準を想定して有力首長勢力の盛衰を窺う参考とすることができよう。いま、墳丘を残す前方後円墳の墳丘長が40～60mの例が多く見られることをもって、60m以上の規模を有する前方後円墳が房総各地における卓越した規模の首長墓であることができるが、その場合の数はかなり多くなる。そこで確實を期して、墳丘長が90m前後の規模以上の前方後円墳を卓越した勢力をもった有力首長墓であるという想定で、房総における大型前方後円墳の分布をなめると、そこに房総各地の盛衰を見ることができよう。

まず、東京湾東岸の西部、小糸川下流域南岸には内裏塚古墳群があって、内裏塚古墳をはじめ九条塚古墳・三条塚古墳・稲荷山古墳等の大型前方後円墳が密集して存在する。その北部、小糸川下流域にも南岸の長須賀古墳群に金鈴塚古墳があり、その詳細は不明ながらも大型前方後円墳であったかと推定される鏡子塚古墳や飯塚大塚山古墳がその近隣に所在することをもと、ここにもやはり集中して存在した可能性が高い。この小糸川流域では、中流域でも大型前方後円墳の存在が知られる。白山神社古墳に加えて、最近、飯龍塚古墳が確認され下流域のものより古い時期であることが想定される。さらに北部の養老川流域では下流域南岸の船崎古墳群中に天神山古墳や船崎二子塚古墳・釈迦山古墳などがあって、ここでも南岸の一角に集中していると理解される。近くではあるが、今富塚山古墳がやや離れて存在することにも注意しておく必要がある。その北部、村田川流域では菊岡古墳群にその可能性を残しているが、いまひとつ有力なものが認められない。東京湾東岸ではその他に大型前方後円墳を認めることができない。転じて、内陸部の印旛沼周辺にもまた大型前方後円墳を認めることが困難である。現、利根川流域については、下流域の三分目大塚山古墳が知られる。隣接地域で、太平洋側にある杵沼周辺では御前山塚古墳が大型である。また、九十九里沿岸の中部に位置する山武地域では、大堤権現塚古墳を筆頭として殿塚古墳・西の古台墳などが近接して散在している。そして、九十九里平野の南端部には油殿古墳があるもの、大型としては単独的な存在として知られている。そのさらに南は半島南端部まで大型前方後円墳の存在が知られていない。これらの大型前方後円墳分布地域には、それよりやや規模の小さい前方後円墳も存在している。これらの地が、国造本紀にいう国造の本拠地でないかと推定されていることと矛盾するものでないことは注目される。即ち、小糸川流域を須恵国、小糸川流域を馬来田国、養老川流域を上海上国、村田川流域を菊岡国、印旛沼周辺を印波国、現・利根川下流域を下海国、九十九里地域を武壯国、その南を伊弉国とする推定である。

以上の大型前方後円墳を、従来の時期区分に従って前・中・後期に分けてその継続性をみると、地域差が出てくる。小糸川流域には前期に属するものもなく、中期から後期にかけてほぼ継続して造営されているが、小糸川下流域では中期から後期にかけて、同中流域では前期から中期にかけて造営されたものと推測されている。養老川流域では前期を主として中期にかけて造営されているが、後期には顕著なものがない。利根川下流域においては中期から後期に散在して見られるが継続性をたずねている点が特徴的である。九十九里地域に至っては、前期・中期になく後期に至って継続して見られ、かつ、地域内的小集団間で働いていることを知る。九十九里の南端部では前期のみが知られるにすぎない。

これを有力首長を囲む集団の盛衰と関連づけることができれば、房総各地における各時期の有力集団の隆盛地をみることができよう。前期において最も隆盛を誇ったのは上海上国であり、続いて馬来田国や伊弉国であった。中期に入ると最も盛んな勢力を誇ったのは須恵国であるが、上海上国・馬来田国はその勢力を維持しており、新しく、下海上国が加わる替わりに伊弉国が没落する。そして後期に至っては、武壯国が台頭し、須恵国・馬来田国・下海上国は勢

力を残すが、海上上面が没落することになる。このような状況を見ると、古墳時代の房総各地においてそれぞれの首長を頂点とする政治勢力は、生産基盤の優劣に関わりなく盛衰をくり返していると理解できるのであり、首長を中心とする政治勢力の強弱は、生産基盤とはまた別の要因を加えることによって生成されたことが知られる。

低地造営の前方後円墳

房総の古墳の立地は、半島の地形の特色から、台地上または低丘上に沖積地に分かれている。多くは前者の台地上または低丘上に占地しているものであるが、面積比率は小さいながらも、河川や潮沼に接する沖積地の何かに占地する古墳がある。

小糸川下流域にある内裏塚古墳群は沖積地にあって、中期に形成を開始し後期も継続する。5世紀中葉と推測される内裏塚古墳を最大規模とし、その後、大型前方後円墳のみならず小型の円墳などもまた同じ低地に造営されている。

小櫃川下流域にある長須賀古墳群も低地に位置する。最大規模かと推測される鉢子塚古墳をはじめとし、祇園大塚山古墳・金鈴塚古墳などの大型前方後円墳のほか、ここでも小型の古墳が存在したものと推定されている。

養老川下流域に属する姉崎古墳群は多くが台地上に位置するが、そのうち最大級の姉崎二子塚古墳が低地に造営されている。東京両岸の低地古墳と同じく砂丘上に造営されたものであるが、ここでも小型古墳が存在するものの、後期の大型前方後円墳は再び台地上に占地するようになる。やや離れた今富塚山古墳が低位の河岸段丘上に位置するの大型古墳で、その時期が目まぐるしく変化する。

あとは、利根川下流域に移って、佐原市大戸古墳群など小見川町三之分目大塚山古墳などに低地造営の古墳を見ることができない。佐原周辺での低地の古墳はその実態が未解明であるが後期を中心としており、小見川でのそれは中期に始まるものである。

さて、これら当該地域で低位置に造営された古墳に二つの特色をみることができるといえる。その一つは、各地域の台地や丘陵など高所に造営されていた墳墓が、中期おそく5世紀中葉の段階に低地に降りて造営されることになったその時期である。今富塚山古墳がそれより古く遡る可能性があるという見解もあるが、これを除くとほぼ同時期といえよう。そして、それらが各地における最大規模級の墳墓を有するものであることも注意しておく必要がある。すなわち、各地域において首長の権威がもっとも高揚し最大規模の墳墓をもつ墳墓を造営する段階に至って、その立地も従来と異なった低地に変えることが行われたと推測されるのである。しかし、その後も低地に首長墓を造営し続け得たのは、小糸川下流域と小櫃川流域であり、やはり再びその立地が台地上に戻っている。わずかに利根川下流域で、一部が低地に残って造営されたことが知られるのみである。

後期小型前方後円墳の多数造営

房総においては、後期に小規模の前方後円墳を多く認めることができる。房総における前方後円墳の基数が600基をこえ、関東各地においては全国でも最大数を数えるが、その大半は中後期の後期小型前方後円墳によるものである。これを全国各地の同時期の前方後円墳と同じ政治的・社会的水準でみることは慎重でなければならない。その多さに、家父長制の家族の台頭が進み、多くの家族が形成されたかのような解釈を単純に与えるわけにはゆかない。しかし、全国と同水準の権限を与えることができないにしても、これほどの数を造営し得た意味は重要であり、今後の詳細な検討が必要である。

前方後円墳の長方形周溝と外堤

房総には、前方後円墳の周溝外堤の平面形が長方形を呈する例が数基認められる。香取郡神崎町寺原古墳・匝瑳郡千崎町御前鬼塚古墳・千葉市人形塚古墳・山武郡横芝町殿塚古墳などが知られており、いずれも後期に属すると考えられている。また、山武郡松尾町大堤横塚古墳や山武郡成東町不動塚古墳や山武郡横芝町殿塚古墳など、内周溝の外側には今日も高さを見せる堤をもつものがある。発掘調査による確認が必要であるが、願望に外堤をのこすことは注

目される。

2. 前方後方墳

前期前方後方墳の分布

房総では前期の前方後方墳も永承部に散在する。東京両岸では小糸川流域に道祖神真古墳・小櫃川流域に山王辺田2号墳・鳥越古墳など、養老川流域に東間部多古墳群の1群、村田川流域では草刈99号墳があり、菊岡古墳群中の新皇塚古墳もそれと推定されている。内陸部では印旛沼周辺の飯倉1号墳・2号墳、利根川流域の弁天古墳・下流域の阿玉台北A-2号墳などが知られている。それらには、調査時に封土を消失していたものもあるが、盛土をもって墳丘としたものと推定される。しかし、概して低墳丘であったものと推測され、新皇塚古墳が前方後方墳であれば、それは高い墳丘を有して例外的存在となる。一般的に墳丘規模も小さく、北関東のように大型となるものはほとんどないと推察される。

晩期前方後方墳の造営

また、前方後円墳の造営が停止された後に、築造されたと考えられる前方後方墳も房総には存在する。日立驛機2号墳・六預王塚古墳・鹿訪台K-15号墳（昭和58年度調査）などがそれであり、前2者は横穴式石室を埋葬施設とし、後1者は木棺直葬の埋葬施設であったとされる。いま、それらの築造時期を確定するには明確な根拠は乏しいが、出土遺物に7世紀後半に属するものを含むことによって、7世紀に入ってから築造であったものと推測しておきたい。全国的にも、前方部を付す墳丘が造営されなくなっているにもかかわらず、房総の地にもこのような前期前方後方墳に似た平面形をもつ墳丘が存在するのは特異な現象といえよう。それらを前期以来継続して造営されたものの残形であるとする理解は、その途中の中期から後期の前方後方墳が存在しないことによって否定される。それらが、本来ならば前方後円墳を造営したであろう首長級の墳墓であると認め得るならば、主丘を円形から方形に変えたに過ぎなかったと推測される。つまり、畿内の大首長墓が前方後円墳から方墳へ転換したことに合わせようとしたが、まだ、前方部を付す慣習を維持せねばならなかったため、前方後円墳の後部部を方形に転換したにすぎなかったと考えられるのである。

3. 方墳

晩期大型方墳の造営

しかし、同じ7世紀代に房総でも首長墓を方墳とする地域がある。印旛沼周辺の竜角寺古墳群中の竜角寺岩屋古墳や、山武郡の飯沼古墳群中の飯沼塚古墳などは、当時の日本の大王陵に匹敵するかそれ以上の規模の方墳を造営している。また、小糸川下流域の内裏塚古墳群中の観見塚古墳なども方墳としては平均的規模よりも大きいものである。さきの前方後方墳と同じく前方後円墳後の時期に属するものであるが、墳形は中央における新しい形態の首長墓と同じ墳形を採用することから、房総の他地域より先進的であるといえよう。しかし、前方後円墳と同じ程度に規模が大きいたは、地方における首長の権威の記念物としての墳墓を造営し、その大きさと勢威を誇示するという意識がまだ残っていたと考えよく、方墳造営の時期に至っても古墳を政治的記念物と見ることから脱却する意識革新がまだなかったことを物語っている。この考えで言えば、内裏塚古墳群中の観見塚古墳などは畿内の大王陵より小さい規模を有し、かつ、新しい形態の石室を構築している点で、同じ方墳の岩屋古墳や飯沼塚古墳より先進的であったということになる。前方後円墳後の首長墓として存在する前方後方墳と方墳がその地域を重複してみることが現在のところない。

ところで、房総において前方後円墳造営停止後の首長墓として見られる方墳あるいは前方後方墳の造営期間は、1

代限りではなく2代あるいは3代にわたるかのようによいものも推測される。いま、首長の権威を示す記念物が古墳であり、その造営期間をもって古墳時代と呼ぶならば、房総に限るとしても、前方後円墳の後にまだ首長墓としての方墳などが造営されていることになり、それに替わる墓以外の記念物も顯著に認めないのではその期間を古墳時代のうちに含めることが可能である。房総においては、前方後円墳後に方墳などが顯著に認められ始める時点をもって、それ以後を古墳時代後期から区別し、7世紀後半に新しく巨大な記念物である寺院が各地に建立されるまでの期間を房総の古墳時代晩期と呼ぶことが可能である。

晩期小型方墳の分布

房総の古墳時代晩期には、方墳が多い。しかし、後期の小型円墳が群集するほど多くはない。そこに家父長層の確立を見るとしてよいのかは今後の課題となろう。それは、現在円墳とされている小型墳墓が今後の調査によってどれだけ方墳に変更されるかが関係してくるからである。その中にあって、養老川下流域の市原台地上にある諏訪古墳群では多数の方墳群が確認され、7世紀後半代かと推測されるものには木棺を直葬していることが多く、その密集度と埋葬施設構造に特異性を示している。そこでは、階層差を明確に示すような墳丘規模が超越するものもなく、もはや墳墓造営とその規模をもって被葬者の権威を示そうとする意識は薄れてしまったと理解される。この時期、房総各地で見られる横穴式の様相と相通ずるところがあって興味深い。

4. 埋葬施設

房総において、早期や前期に属する古墳の埋葬施設は木棺を直葬しているものが多い。しかし、その詳細な構造を把握できる例はない。前期古墳の中に、その木棺を粘土で覆い粘土槨とするものがある。手塚古墳・北作1号墳・新島塚古墳などであるが、後期に属する山王山古墳にそれが認められたとされるのは興味深い。粘土を木炭に置き替えた例も認められるが、それは床にのみ敷いただけのものか木棺を覆ったものか不明の例が多い。能満寺古墳・大日山古墳などがある。

中期に入って新しく登場するのが長形石棺である。鏡子塚古墳は全容が知られず、三之分目大塚山古墳のそれは片岩を用いて形態も変化したものである。両者とも中期における地域の首長墓と考え得るものであるが、中期の首長墓がすべて長形石棺を埋葬施設としているわけではない。姉崎二子塚古墳は木棺直葬と推定され、内裏塚古墳は竪穴式石室である。房総において前期の典型的竪穴式石室は認められず、内裏塚古墳のそれは朝鮮半島南部の埋葬施設の影響を受けたものと推測される。同じ小糸川流域に近い弁天山古墳では天井石に竊穴突起をもつ竪穴式石室がある。

後期に入って、横穴式石室が埋葬施設として採用される。多くは6世紀中葉以降に導入され、その初例は首長墓である大型前方後円墳に認められると考えるとよい。横穴式石室の構造も一様でなく、系統の異なるものがある。横穴式石室の構築に用いられる用材は、近隣に産出する石材であることが多い。同じ頃から、箱式石棺も採用され始める。それは房総北部に多く、片岩を用いる石棺が古くて地元産出の凝灰質泥岩を用いる石棺は新しいという傾向がある。片岩は利根川をこえた茨城県の筑波山麓から水運を利用して供給されたものを用いている。なお、房総北部の古墳の埋葬施設となる箱式石棺は墳丘裾部に設置されることの多いのが特徴であり、小さな石棺に多人を埋葬していたことも認められている。東京沿岸の古墳に構築された横穴式石室には、内部に箱式石棺を設置するものがある。金鈴塚古墳の箱式石棺である片岩は、遠く秩父から運ばれたものと推定されているが、内裏塚古墳群中の横穴式石室には石室用材の砂岩と異なる凝灰質泥岩を箱式石棺材として用いていることがある。安房の鴨川市と、木更津市には割技法石棺がある。

晩期に近くなると、横穴式石室の構造が複室構造となる例が認められ、その後、再び単室化にむかう。晩期の後半

には、一部の地域で、木棺を直葬しただけの埋葬施設とする例が見受けられる。

5. 埴輪

墳丘の外表を飾る墓石は、内裏塚古墳に存在するとされる以外は、顯著でない。

埴輪も、前期の古墳には円筒埴輪や形象埴輪も認められない。房総において埴輪が採用されるのは、中期に入ってからである。三之分目大塚山古墳では野焼き焼成とされる黒塗のある埴輪が見られ、房総北部の初例として注目される。一方、東京沿岸では内裏塚古墳に、窯焚き焼成とされる埴輪が見られ、埴輪の採用は一步遅れたかのように見えるが、両墳の年代は余り差がなく、東京沿岸では新しい技法により生産された埴輪が導入されたと考えたほうがよい。この内裏塚古墳の外縁で人物埴輪が発見され、房総のみならず関東でも初期の人物埴輪である可能性が高いことは注目される。

後期に入って、人物埴輪の樹立が多く見られるのも房総の特色である。著名な古墳には、城山1号墳・殿塚古墳・姫塚古墳などがあり、大型前方後円墳に限らず小型古墳にも樹立される。現在のところ、房総北部に最も多く認められるが、その地に埴輪生産窯が集中して存在した可能性は少なく、むしろ、埴輪製作工人在各地を渡り歩いて散発的な供給を行っていたと考えられるのも特色の1つである。その意味で、東京沿岸の山倉1号墳の人物埴輪が埼玉県における製作品と似ているのも興味深い。

第2節 房総における横穴墓について

榎山林 著

1. 横穴墓の呼称と範囲

横穴墓（おうけつぼ）は、山腹あるいは丘陵の傾斜面に横穴を穿ち墓室とした墓の一形式である。「よこあな」と呼んでも差しつかえないが、横穴式石室と呼称する墳丘に構築された石室古墳と区別するために便宜上言及みすることにする。

後に横穴墓の墳丘、また所在する丘陵（山）の持つ意味等についてふれることになるが、基本的には墳丘を構築していない。

また自然の洞窟を利用した墓は洞窟葬として一般には扱っているが、房総の沿岸部には海蝕洞窟に多少手を加えて、利用した横穴墓がある。

一方横穴墓は一般的に遺体を火葬することなく納置するものであるが、時代の新しくなるに従い、火葬骨を納めたものが現われる。さらに中世、鎌倉を中心に「やぐら」と呼ばれる墓が流行する。これは横穴墓の流れを汲むものであるが、仏教の影響が著しく、塔婆（五輪塔、宝篋印塔、板石塔婆）あるいは仏像等を設けて、室内寺院（給骨堂）状を呈するものとなり、明らかに前代の横穴墓と区別できる。しかし、これも既存の横穴墓に手を加えているものもあり、その接点では判別のむづかしい例が見られる。さらにこれらの流れかと思われるが、火葬でない地下式墳が中世後半にみられる。地下式墳あるいは地下式横穴墓は、既に宮城県西部原古墳群などで、五世紀代のものがあり、本県でも横穴墓に混在して数箇所報告されている。これも形状類似、系譜上のつながりはあろうが、一応区別して考えられると思う。

このように横穴墓の範囲を限定して以下房総半島における概要を記してみよう。

2. 研究略史

本県の横穴墓の調査研究あるいは紹介は、その存在が目立っていたため、比較的早く明治19年「上総地方洞穴及私考」『人類学会報告』第9号誌上に黒木安雄が発表して以降、翌年に市原郡下のものが紹介されるなど、継続して盛に墳丘の古墳と共に個々の遺構、遺物が明らかにされて来た。もっとも明治の末年から大正にかけては、ほとんど報告例がない。大正15年大宮町宮谷横穴が『史蹟名勝天然記念物調査』第2輯に報告され、以後「一言町横穴」同第3輯、昭和3年、「高滝村外部田横穴」「鷗崎田和太田横穴」「阿町池和田横穴」「豊房村南条横穴群」及び東長田横穴群「同6輯（昭和4年）など、史蹟として報告保存されるようになって来る。

ここでも明らかにすると、東上総を中心とするもの、これに隣接した養老川上流部と、西上総の当時君津郡下のもの、それに安房地方の例と、三大集中地区があらわれている。小南古墳が現在の君津市小山野地区を中心とした横穴墓群を調査し、鷹野印刷で紹介したのも、この頃と思われる。地下式横穴の紹介、棺台による分類などの試みがされはじめている。三木文雄「上総国長生郡二宮本郷村押田横穴群の研究」『人類学雑誌』261-2も東上総の詳細な研究例としてあげられる。

昭和20年以降、調査も報告も数を増しはじめるが、君津文雄「安房郡における横穴群の分布とその類型学的研究」『房総地理』5、昭和29年では、安房一郡の分布を確認するとともに、岩層の問題、壁面あるいは後の「ヤグラ」への移行などによれ、さらに群の構成も、併列式、階段式と分け、個々の形状も平面図を中心に掘台式、掘槽式、竈式

と分類している。

ここで多少気になるのは「横穴古墳」という呼称であるが「浪花の横穴古墳について」『房総史学』1巻1号、昭和30年等この時期には比較的多用されたように思われる。

その後多くの報告書があるが、東上総では上智大学史学会研究報告として「東上総の社会と文化」昭和43年、「長柄町史」研究編など総合的に検討されたものである。この後者は、昭和52年の同じ年に、斎藤忠により別に「長柄横穴群」について単行本とされ、より詳しい内容が刊行されている。

下総地区では昭和47年渋谷典平『横穴の探究—利根川流域の調査』等があり、西上総では、昭和48年「大瀧横穴群調査報告」に佐藤克巳が分類しており、昭和52年「西山横穴群調査報告書」には、牛房茂行が模式図をあげて形態分類を行い、平面図のみでなく、総合的に分類を試みている。またこの報告書では、淡川流域全体の分布を概観し、吉村光敏は横穴墓の立地と地形、地質の関係を地理学の立場より解明している。さらに文献史料にみえるこの地域社会の状況を福山が紹介するなど、横穴墓群の成立を自然条件、社会的背景等総合的に追求しようと、グループ研究されるようになって来た。

なお今回の全県下調査事業で、これまでの各地区の分布が総合化される。その前段階のものとしては、『千葉県文化財センター研究紀要』4「考古学から見た房総文化—古墳時代—基盤の基礎資料」昭和54年3月があり、文獻品、古墳概要（横穴墓を含む）を地区別にまとめられている。

3. 個別の構造と群構成

形状の分類

横穴墓の形状、構造については、東上総の長柄町所在横穴墓を中心とした斎藤忠、西上総淡川流域中心の佐藤克巳、戸倉（牛房）茂行、利根川流域の渋谷典平等々で模式化され、形式の検討がされている。

「長柄横穴群」では、この地方に特に顕著な玄室部分の高さに注目し、「玄室内における高壇のとりつけによる分類」を行い、天井部の形式は、F型、舟形型、家型、宝形型の四つに分類し、さらに「玄室床面の型式と棺座の数とによる分類」等細分されている。『西山横穴群調査報告書』で牛房茂行は玄室平面形態、棺形形態、棺床形態、天井形態を平、断面図の模式図で示し分類している。玄室平面形態は六つに分け、正方形、横長、縦長、奥壁間口の広い台形、玄門部側間口の広い台形、それに円形あるいは楕円形としている。現状把握の結果このように分けることは必要であろうが、構築の意図を考えると、円形などは如何であろうか、八角形あるいは円形プランは、本来それなりの意味を持つであろうから、退化したものでのみ一形式を独立させる必要はないと思われる。台形についても今少し意識づけがほしい。牛房は「玄室では遺体を何かの形で安置する機能と有し、狭道あるいはその延長部分としての玄室床面と区別され、これから一段高くなる部分がある場合、これを棺台として」この棺台上において、何かの形で保護された遺体や遺体そのものが直接に触れる部分を棺床とした」としている。玄室内の高壇部分のあり方を分けた斎藤忠の分類と類似したもので、これに餘りの状況で四段階に分け、特例として「壁内棺床」（壁面への張り込み、君津文雄の書式）を加え五種にしている。天井形態として家型寄椀平入、家型切妻平入、家型切妻妻入、家型宝形、横アーチ型、アーチ型、ドーム型、平型と分けられている。

横穴墓全体の形態分類としては、この平面図と天井形式の組み合わせた分類が、最も把握しやすいように思う。また基本的な構築意図から横穴が家形以外を考えているか否か、多少疑問が残るが、現在では、家型宝形、及び家型寄椀の退化形としてドーム天井、家型切妻の退化形としてアーチ天井を考えてよいと思われる。これに平入、妻入を組み、別に偏平天井を加えることができる。

尚千葉県内の横穴墓では複室構造は殆んどないが、宮城県、福島県等の装飾横穴墓では複室構造が見られる。また安房地区などで、奥室に棺台部を設けたのか、棺室部として複室構造を意識したのか、詳細な検討を加えなければ判明しないものがある。また前庭部構造が判明していない横穴墓が多いので——多くは埋没している——形態分類は暫定的な部分を含んでいる。

棺部分の状況

既に棺台、棺床にふれたが、横穴内の遗体納置方法には数種類あったと思われる。木棺あるいは布帛、縹物等によって包んだ遗体を床面に置くもの、あるいは木製の棺台上に置くもの、その棺が移動しないように縁を造り出したもの、木棺はほとんど使用せず、衣類、縹物等で包んで、造り出した棺部に納めたもの、こうなると棺部分は深く掘り込まれるようになる。東上総の場合は前者が多く、西上総では後者が多い。埼玉県の吉見百穴など北武蔵でも前者であり、南武蔵になると棺部分の造り出しが非常に少なくなる。西上総の深い棺部分には、その上部に蓋があったと見られ、木製のものは残存しないが、西山横穴で板状切石の蓋をした例が検出されている。

棺部分を造り出した場合、その位置と数により多種多様に分類されている。一棺から四棺であるが、最も多いのは二・三棺である。一棺の場合、静岡県宇藤ヶ谷横穴中央一棺造り出しの例があるが、千葉県内でも奥室に添って主軸直交型の例が数例みられる。主軸並行型では左右いずれかに片寄ることが多く、中央の例はないと言ってよさう。

閉塞の状況

玄室部分の閉塞は、門状の木材を使用して板石等による閉塞が多かったと思われる、この門を挿したと思われる孔が羨道部壁面左右に残されていることが多い。これも羨道入口部分と、羨道奥部分、玄室支門部分等に分けられる。玄室側支門部分には板石を横置きして、落し蓋状に閉塞したと見られる溝の掘られた例もある。特に東上総の玄室部が高い壇状となる場合は、この封鎖方法で板石を使用すると、外部から玄室の存在を隠すことができる。また観音開き、一方開きのドア状の戸を設けたと見られる「はざ穴」が上下に残された例もあり、板石が殆んど残されていないことから、これも木材を使用していたのかもしれない。

南武蔵などによく見られる羨門部を立柱石等を用いて閉塞する方法は、県内では例がないようであるが、大満三群3号横穴のように、羨道を長く造り、羨門部分に縁取りをした例もあるから、この部分へ板状閉塞のあったことも考えられる。また乱石積みによる閉塞、横式石室によく見られるような方法も西上総では所々にみられる。

群の構成については、群在、散在（少数あるいは単基）、と分けられると共に、地形上の主として自然条件からと思われる構成に、多段状（階段状）と単列（君家文雄の併列式）状がある。もっとも多段状を称しても、墓道の失なわれた群では、整然と上段、下段あるいは中段などと別れる場合と単に接触しただけよいと言わなければならない、高低差の異なる場合がある。

また一群の大きさについて、現在の地形によって支群を分けるなどしているが、これまでのものでは最大で5～60基であるが、今度の所在調査を検討すると、より詳細なものが判明しよう。

横穴墓の立地と方向

横穴墓は、基本的には丘陵、山腹の傾斜地であって、掘り易く、崩壊しにくい軟質岩が露頭している場所であり、入口は地形の開けた方向が多い。もっとも一方で南を中心とする方向が選ばれていることから北に開けた谷の場所は複雑になる。

横穴墓と集落立地との関係は複雑な例が末だない。なお前にもふれたが、この立地と方向について、吉村光敏の興味深い考察がある。

4. 調査された横穴と出土品

昭和31年横浜市市ヶ尾の横穴群が和島誠一氏により調査されて依儀、前庭部の調査例が増加することになるが、それと同時に、一基の横穴に対する調査仕事量は倍化してきた。また墓道の存在等、群全体を調査するためには覆っている土砂を全てとり払うことになる。このような形で調査された例は保存されているものは極めて少ない。多くは調査後破壊されている。

東上総では、一宮町袖ノ木、長南町地引、岡町又富中ノ郷等の横穴群が昭和40年前後上智大学により調査されているが、前庭部未調査である。刀、鏃等武器、須恵器、土師器、玉類の他、貝輪が出土している。

北総では、単基のものが多く、昭和47年渋谷興平氏の調査した鏡子市小舟木横穴からは、直刀、刀子、鏃の他、弓の握り部分の鹿角製品が出土している。

西上総の市原市岩槻群は、昭和49年ゴルフ場建設にともない野中徹により10基が調査され、直刀、刀子、鏃等武器類、勾玉、管玉、素玉、丸玉、白玉、ガラス小玉等玉類、須恵器、土師器等土師器もかなり豊富に出土し、緑釉陶器なども出土している。西市愛宕山の西山古墳穴8基が昭和46年杉山晋作氏により調査されているが、出土品は前者と類似している。

富津市湊川流域では更和地先の西山横穴群約30基が土砂取り工事のため昭和51年野中徹氏により調査され、直刀、刀子、鏃、鏃、比較的多くの玉類、須恵器、土師器が見える。同じ流域の岩槻大横穴は昭和27年学習院高等科史学部により調査された。一群1号墓から直刀、鏃の他、鉄製釣針、須恵器、土師器等が出土している。尚、昭和47年三群の一部が調査されたが土師器等遺物は少ない。

小久保下流域では、昭和28年武田宗久氏より岩槻横穴群3基が発見され、直刀、刀子、鏃、鏃、金銅製銅卵形透鏡、金銅製心形香簪、銜、金銅製雲珠等の馬具類、須恵器、土師器等が出土している。

染川上流の宝竜寺神倉横穴は昭和52年野中徹氏により調査され、鏃、鉄斧、鏃、鏃、勾玉、切子玉、丸玉等が出土している。

まとめると須恵器（杯、蓋、長頸瓶、平皿、短頸甕、碗、広口大形甕、高杯、台付長頸甕、琺瑯、大甕、横瓶、土師器（杯、甕、高杯、甕、甕）の他、直刀、刀子、鏃、鏃、弓等武器、鏃、鉄斧、鉋等工具、雲珠、香簪等馬具、漁具としての釣針、勾玉、管玉、切子玉、丸玉、小玉等玉類、金銅耳環、貝輪、銅鏡（印旛郡酒々井町新堀一号出土）等出土し、後期古墳の遺物とはば異なることがない。

5. 地域と分布

分布域は大きく西上総、安房、東上総、下総の四地区に分けて考えられる。

西上総は矢野川流域以南、小糸川、湊川を中心とした地区、安房は平群川、九山川流域を中心とし、東上総では夷隅川、一宮川流域を中心に各々群集している。下総地区のみは小集団のみはみられるものの、大きな群集はなく、利根川南岸、印旛沼沿岸などに点在する。

これらの地区では横穴形態が、互に関係しないながらも、各々の特徴がみられる。西上総では、平面形が方形を基本とし、縦長（奥行が幅に對し大）傾向にあり、天井形も宝形屋根形を基本とするドームが比較的多い、また羨道床面に対し、玄室床面は僅端に落差を持たない。また鏃の握り込みは深いものが多い。これに対し東上総では、南北でその差があるが、基本的には家型平入（寄棟、切妻）を中心とする。つまり、平面は奥行より開口が広い。これの削れた横アーチ、あるいはこれの更に削れた天井部が多い。もっとも柱、棟木等を浮彫り表現し、家屋を明示した例は東上総にかなり多い。玄室羨道の床面差、棺部が棺室、棺床という言葉で表現されるにふさわしい状態である。

下総の例は左右二棟、天井部は崩れたドーム形が多い。安房は東上総に近いようにみられるが、北部に行くに従い、床面、天井部ともに平坦にし、入口部分も整備されない形のもが多くみられるようになる。

6. 年代

横穴墓の個々の穴が、何時掘穿されたか、群をなすに至る経緯、その群内の埋葬順、個々の横穴の利用継続期間等々。遺物量が少ない横穴墓の場合、確実に周年を試みることは甚だ困難である。追跡による遺物のとりかたづけ、逆に持ち込みは、当然行なわれている。

出土須恵器の状況は、習志野花里山二号横穴等で、蓋付杯の身部を見ると、蓋受け立りは、まだしっかりしており、身底部の凹凸が多少あるとは言え陶器Ⅲ（TK10～43の頃）とみられる。渡川流域の西山15号でも蓋付杯蓋部があり他の横穴にこの期の線、壺等もみられる。しかし、この期の土器のみを出土している横穴はなく、次の段階の底部の凹凸がはげしくなるもの、あるいは蓋頂部、身底部ともに偏平になるもの、蓋受けが立たなく退化したものなどが同時に出土している。その後やや小形化した蓋付杯さらには受けの逆転し、蓋につく時期になると（中村Ⅱ6～Ⅱ1）、遺構は確実に増加している。フラスコ型の長頸壺も現れ、県下の横穴利用も最盛期を迎える。引き続き、八世紀前期から前半の宝珠紐付蓋付杯、これに伴うが、やがて行方不明の長頸壺等、東部地方あるいは県内全域の須恵器が検出されて、須恵器利用の最盛期は終るようである。勿論その後、八世紀後半、九世紀以降の土器もあるが造墓はなくなったのではなからうか、少なくとも西上総では、火葬墓に転換して行くようである。富津市神明山横穴群中に、玄室の幅も1m程、天井は1m弱のドーム状で、中央に土器部の長壺が伏せて置かれていた例があり、河原石の丁寧な閉塞をみせていたが、周囲の横穴群中最後のもは現れた。また渡川流域、加藤入山横穴群中に、かつて火葬骨の納められたものがあり、二次的利用ともみられるが、この尾根の裏、岩板地区の台、山田には、これまで二十前後の火葬墓が群集して発見されており、影響あるものと推測される。

土器以外では時期を示す遺物は少ないが、西山横穴群出土の埴土製勾玉などには古いタイプのものがある一方、茂原市山崎18号横穴、西山横穴群の切子玉等時代特有の玉類もみられる。また、富津市岩瀬横穴出土の馬具は、飾馬具としては新しいものであるが、六世紀後半代の資料として考えられる。

この他銅鏡が、酒々井町新堀横穴群第一号横穴から出土している。須恵器平瓶、直刀、鏃、勾玉なども検出されている。

また茨城縣北部から福島県浜通り地方の横穴には、しばしば飾り大刀が出土しているが房総では例が少ない。木更津市太田横穴群から昭和20年代に発見された透形金銅鍍金具などが知られるのみである。

7. 他の埋葬法との関係

1) 横穴式石室

横穴式石室は基本的に先行する形態であるが、一部地域で併行して存在している。

一二例をあげると、木更津市諸西渡訪古横穴群は、八基で一群となり、刀子、鏃、玉類の他、六世紀後半から七世紀前半の須恵器を出土している。これに対し、この横穴の上部台地上に東西大台古墳群が存在し、この南方200mほど、古墳群の最南部に山伏状の支群があり、この五号墳は一辺約22mの二重周溝を持つ方墳で、墳丘は一辺約13～14m、中央に切石組積みの横穴式石室があり、追跡はしていない。須恵器は、東海産を含む、蓋付杯、長頸壺等で、七世紀前半から八世紀初葉のものともみられる。この墳丘より北側に、石室は持たないが、土壇を持ち、二重周溝で、

周溝から五号同様、高台付の身、宝珠つまみの蓋杯を出上して、ほとんど同時期と思われる一群がある。これらは横穴墓の存在を承知しながら造られた墳墓であろう。

富津市内長塚古墳群に属する観見塚、亀塚、森山塚、野々間塚、稲荷口古墳は確認調査された範囲内では、いずれも二重周溝を持つ方墳で、造墓は七世紀中葉から後半と考えられ、炭灰岩切石組積の石室で、特に、森山塚では、玄室床面が築造床面より1.2m高く造られていた。この構造は千葉県内でも他に例のないものであり天井部が失われていたものの、横穴墓の形状を模倣したものではないかと思われ注目された。野々間塚からは統一新羅期の壺が出土し、亀塚からは一群のフラスコ型の須恵器長頸壺が出土している。これらの方墳群の南方は、旧河道の低地を越えて、神明山、網などの横穴群集地の丘陵に對峙している。一方は平地に方墳を築き、一方は山腹に横穴を穿て、双方望みし得た範囲であった。

木更津市諸西の例では、造墓の労力に差があるとはみられないが、ここでは方墳の構造に比すると、横穴式石室の方の方が、かなり小と言えよう。

2) 箱式石棺

板石を利用した箱式石棺が観ヶ浦沿岸地帯から下総地区に多く分布しているが、この地域にも、数は少ないものの横穴群が散在する。

この内、網町西大須賀横穴群は、明治期に早く報告され、45基という最大規模の群をなす。他はいずれも十基以内の群で、天井部は、アーチ形、ドーム形、棺台が左右に設けられる形を基本としているが、立地が異なるためか、箱式石棺と重なることなく、また箱式石棺の影響を受けている様子もみられない。しかし、ほぼ同じ頃の墓制が別々に行なわれていることをみれば、集団の異なりが否か、今後の調査が待たれる。尚これまでに横穴墓の内へ、箱式石棺を組み立てていた例はない。西上総でみられた棺部の圓石1枚を木材、或いは板石を立てて棺としている例とか、掘り込まれた棺部の蓋に板石を構築している例などは、北部の箱式石棺とは全く別のものと思われる。

3) ヤグラ

中世横溝の「ヤグラ」との関係で、特に鎌倉に近い、西上総、安房の地域では、一部で混同もみられる。一方二次的に使用されたり、改変されて利用されたものもある。また、富津市大溝横穴群第三群の1号横穴はヤグラと呼ばれ、2号横穴は朱ダキヤグラと言われていた。この3号横穴の壁面に五輪塔に類する塔が刻みこまれており、納骨孔かと思われる後からの影さ込みもみられる。この横穴の調査中横溝から青石塔婆の破片が検出されたが、江戸期の名主黒坂氏の日記によれば、いづれかの横穴に板碑がまつられていたことが知られる。

今地元で保管されている元徳三年八月日記年録の板碑が、この内の一枚かみられる。この渡川流域では、山崎ヤグラ群中に大形の五輪塔の浮彫があり、佐賀地区の徳法寺義山には元弘三年六月日銘の宝篋印塔はじめ、多くの五輪塔をもつヤグラ群がみられる。さらに相川岩見堂、環の渡辺家墓地などこの付近に集中している。

一方安房では、三芳の地之内、館山市水向に五輪塔等が散乱し、納骨用の孔を穿った例が、数基あり、今後増加すると思われる。これらは玄門部が簡略化されたり、小規模のものもあるが、概して横穴墓のつくりと類似して区分は困難なものが多い。現在までのところ、このヤグラは鎌倉時代を迎えねば発生しないようであり、横穴の造墓の時期とは離れていると言えよう。

しかし横穴の一部には、火葬骨を納めた例がみられるのであり、埋葬利用時期とは、それほど遠くないとも言える。

4) 洞窟葬

房総半島南部の海岸部には部族洞窟が多くみられ、これに埋葬した例が知られている。安房神社洞窟とか、洞口洞窟など数十個という多量の白骨を出したものは、多くは弥生時代以降のものともみられるが、古墳時代の例もあり、鹿角状刀子、鹿角製銅鏃等を出土している。さらに館南地区の洞穴からは、先にふれた岩

井町大黒山横穴群などを合せて、墓地として改造され利用されているようである。ただし一般的には洞穴葬は弥生時代から古墳時代初期のものが多い。

8. 他地方の横穴墓との比較

関東周辺では、相模、南武蔵、常陸、福島県の浜通りから宮城県へと群集している。これらと比べれば、相模、武蔵では、初めものはアーチ状天井、平面形は長方形のようだが、まもなく変化させられて、妻入家形で柱を表現した町田市玉田谷戸横穴墓群なども徐々に奥隅部に高さの最高地点を設け、玄門部に向うにしたがい、幅狭く、背も低くなる傾向となる。柱礎は切り込み表現するものは少なく、玄室床面が段々に高くなるものが多い。

房総では一例もないが、福島県を中心とした美保古墳では横穴構造のものがみられ、これは九州の一部地域のものと類似している。

また東上総を中心とした家屋内表現、柱やたるきの浮彫りは、町田市玉田谷戸や福島県その他にもみられるが、東上総は集中して数多く見られる地区はないであろう。

西上総の横穴が室形造り屋根形で、方形プラン、棺の深い彫り込みを基本としているのに対し、東上総では、平入寄棟、平入切妻の天井部を基本としていたようであり、武蔵の妻入切妻、同寄棟を主とするものなど、それぞれの地域で発展するものもあろうが、九州地区などで、詳細な分布調査が行われると、あるいは特徴のある個々の群との結びつきが生じるかもしれない。

なお北陸、東海等でもかなりの横穴墓群があり、調査がされている。また大阪府の高井田横穴、奈良県の岩屋谷横穴など周囲と隔絶した群が、集団の相違から来る墓群の特質性かとも思われるが、全国的に形状等を比較するためには、個々の群の特徴をつかむ必要があろう。

9. 特殊な横穴墓について

塗彩された横穴

富津市大溝横穴第三群2号横穴は、地元で朱ダカラヤグラと呼ばれ、古くから開口していたが、現在でも赤色顔料が全面に残っている。この横穴は群中最も古いと見られ、淡道床面から玄室床面まで0.7m、ほぼ方形の玄室に二棺が横並びで並び、中心軸線に近い位置のつき方となっている。天井は中央に方形の浅い掘り込みがあり、ここから四方に下り線を示す面取りがあり、方形造りとなっている。群中最高所に位置する3基の横穴の内でも、やや南面して、左に隣接する1号により多少切り取られた可能性もある。

現在までのところ室内全面に赤色顔料を塗布した横穴を他に知らない。千葉県内では美保横穴もなく、横穴式石室でも芝山の殿塚古墳など類似は少ない。県外でもやはり例は少ないが、茨城県カンブリ横穴、同県勝田市の虎塚古墳の横穴式石室など様々とか、物を赤色顔料で描いたものもあるが、全面塗彩はあまりないようである。しかし九州では、横穴石室室はじめ横穴式石室はかなり彩色されたものが多い。

貝を敷いた横穴

横穴式石室や横穴墓で、貝殻を床に敷いてこの上に遺体を安置した例はよく見られる。

光江章が富津市の虫神古墳について紹介した折、古墳7基、横穴墓27基の貝殻敷き例を集め、ハマダリ13例、メタリ9例、ウチムラサキ8例、マガキ8例、サルボウ7例、ベンケイ貝7例、イタヤ貝7例、アカニシ7例等35種の貝名をあげられ集計している。これらの横穴や古墳は、西上総にかなり多く見られ、鏡子市赤塚、東庄町今郡等一部を除き、九割程が富津市域内と言える。これは調査者の知見範囲にかなり影響されているかもしれないが、三島将他

「就二號墳」昭和56年の報告によると、熊本泉、佐賀泉を中心に18例があげられ、この内には「ヤンゴ」あるいは「ヤンゴと石灰墓」などがある。この有明海沿岸地域は房総に類似して、横穴式石室から貝製の馬具の比較的多く出土する地域でもある。昭和56年6月、袖ヶ浦町郷土博物館の館報2号に「貝殻を敷いた墓室」と題して小文を書いたが、この時、柿本麻呂の葬世歌群に、妻、依羅娘子の「今日今日と、わが待つ妻は、石川の、貝に（一）に云ふ、谷に」交りでありと、いはずやもあるいは丹比真人が人麻呂の心をもって「荒波に寄りくる玉を枕に置き、われここありと誰か告げけむ」などの歌を引き、海原延の「底底の歌」に人麻呂が見え隠れに流罪となり、水死刑となったとし、「どうして土に埋めた死体が貝と交わるということがあろうか、貝は水底および水底近くにいるものである…」という語を批判して、持ち運ばれた貝の上に置かれた遺体のあったことをのべ、人麻呂が海に関係する出自であり、海の民にとって貝は、「古事記」の大穴牟遲神は「貝貝ひめ」が「きさげ」あつめ、「給貝ひめ」が水を持って「母の乳汁」と飲ると「麗しき丈夫」に成り出でて遊行したという話しにでてくる貝であり、母なる貝、復活の貝、常世の使であつて、奥津津に海の貝を、あるいはヤンゴを敷きつめて、また波に寄せられた玉石を敷きつめて清らかな上に遺体を置いたのではないだろうか、無論、飾りなどの効果もあったろうが、より強く、清浄、そして海への回帰があつたのではなかろうかとした。

舟の縁刻画が横穴墓の遺構期のものであるか否か、まだ疑問も多いが、房総の横穴の電画としては、舟が最も多い、九州の美保古墳の直弘文が、海の神、龍蛇の紋様であるとすれば（拙稿「直弘文の世界」国学院大学考古学資料館紀要3）これらも含めて考えることができよう。

文字の書かれた横穴

後世のいつら書きや、ヤグラとして供養文を書いたもの等とは別に、横穴墓として使用された折に書き込まれたのではないかとする文字が、富津市の南横穴群に、「許世」「大同元年」（1号）、「木」（10号）等とある。これは果指定史跡となって保存されているが、これより南方小久保川の中流、岩井作横穴群中に「倭文」と漢道兩側に記入された文字が発見され、これは土砂取り地であつたため記録保存となり、文字部分を切り取り保存することとなった。

この「許世」が巨勢氏、「木」は紀氏、「倭文」はより部などに結びつけられ、古代における西上総地方に生活していた氏族であり、その奥津津に書き残されたものとされる。

大同元年は西暦806年とあり、九世紀初頃のこの墓は穿掘されたとする。一步譲って、二次利用の際に書かれたとするとして、9世紀にも使用されていたとする。

但し、大同二年坂上田村麻呂は奥州蝦夷を平定したとし、この年を創立年代とする神社仏閣が関東地方に多いことも事実である。これらの由緒隆起については正しく伝えているものもあろうが、多くはこれにかけて話しているとは思えないものもある。つまり大変狭い年代でもある。今後さらに検討の必要案件であらう。

舟の縁刻

富津市大溝横穴群の一群に大形の帆を張った船、網を引く舟、その他が描かれている。これは報告書で紹介されている。これより約180m離れた水神横穴群中にも、いくつか描かれており、安房地方にもある。これらの舟は、漁船のみでなく、大形の帆を使用していたり、漁船でも網を引くなど、かなり発達がうかがわれ、古代のものとは考えられない。しかし、玄室天井など描きにくい場所にも書かれていて、後世の二次利用時に描かれたものともいえるかもしれない。しかし戸倉の調査によっても相当数の例があり、あるいは一部は横穴の時代に縁で刻まれた可能も捨てきれない。

10. 横穴墓の墓前祭と寺院

富津市大溝横穴群第三群1号横穴は、淡道入口部分が、地山から切り出した方形部によって、トシネルの入口のよ

うになり、その方形部の上には山の傾斜面からくる水を排水するように溝を切り、いかにも門を造っているようであった。この前庭部分について調査した結果、一対の堀り込みを極出したが、それが、柱穴であるか否か、明らかではなく、上部構造を推量することは困難であった。しかしこのような構造は、これまで穴穴では例を知らない。

宮城県の花溝穴で、前庭部に石柱が立っていた痕跡があり、外部構造を持つことが知られている他、群馬県の蛇穴山古墳、あるいは奈良県の文殊院西古墳など終末期古墳の入口部分は墳丘外に露出していた可能性を持ち、入口天井石に切り込み加工されているもので、この前に木造の施設があったと考えられる。七世紀以降は、地方寺院も成立する頃であり、終末期大形墳墓と古代寺との関連も指摘されるようになる。大溝横穴の崖面下の山麓部には、後世寺があったと伝え、御坊井戸と呼ぶ古井戸が二ある。未調査で明らかではないが、大溝寺址と称するのは、横穴群の尾根上平坦地を通常は指して、井戸とは上下離れているが、この付近に将来寺院址が見える可能性がある。いずれにしても、市ヶ尾横穴群以来、前庭部の調査が各地でされるようになり、ここに基削祭の行なわれていることが明らかとなっているが、房総では、まだ発掘例が多いとは言えず、これからさらに好例も増すと思われる。

11. 横穴の墳丘

横穴墓は、本来山腹に穿つものであるから墳丘を持つことはない。しかし横穴がある直上に墳丘があって、これを発掘調査しても発掘と遺物、遺構を持たない場合がある。富津市向原古墳群を発掘し、その報告書を作成した時、第2号墳は、細尾根上に前方後円形をなし、全長約46mの地山を整形しただけのもので、主体部となる土壇一発見されなかったが、この後部部分南西直下に、向原1号横穴が開口し、直刀、刀子、槍先、鏃、青銅製、土師器が出土している。土師器は、須恵皿の蓋付杯の身と蓋を共に埋蔵したもので、身には赤色の塗彩があり、六世紀末頃かと見られる。昭和56年に報告書では、関係を疑いながら墳丘の方が先行するであろうと書いたが、その後、安房三芳村の明石あるいは市原市大和田などで古墳と下部横穴の関係を知り、さらに福岡県竹並横穴群で、墳丘を持つ例が確定となり、注意してみると、やせ尾根の中腹に、群衆してないで穿たれた横穴は、その上部の尾根すじに整形の痕跡が残るようである。蓋七があっても比較的確く、よほど注意しない限り明かにできないようである。茨原市の山崎横穴群の報告書を見ると、この例にあげてよいようである。今後類似が増えれば、見かけの墳丘を持った横穴が知られるようにならう。

さらに、「見かけ墳丘」について言えば、墓の目標物、標山としての性格をもち、墓山の景観上、その岩盤など自然条件に加えて、山形も選択の条件に入っていた可能性がある。

古墳の埋葬主が本来の位置であった墳頂から降って、墳丘の麓や、かたわらに埋められるようになるのと相違する考え方が、この「墓山」に見られると言えよう。

12. 横穴墓群と地域集落

横穴墓の造墓が、房総地区では六世紀後半にはじまり、七世紀に盛期を迎え、その後八世紀にも利用のピークは持続されていたとすると、この造墓、使用は、律令制の成立期と重なり、戸籍などの造られ、定着化していく時期と言える。これまでも房総の横穴に対し、古代氏族構成、人口などについて考察を加えたものがあり、小生も西山横穴群の報告に、天羽地区の例をあげてみたが、現実に当時の集落の調査が伴わず、はがしき禁じえない。今後は横穴墓の西々の調査でなく、広範囲の集落、耕地、景観等々まで含めた調査が行なわれると、横穴墓が、極く上層部の墳墓でないことと合せて、地域史研究に重要な意義を持つであろうことを再認識しておきたい。

第3節 房総における方形周溝墓等について

山岸 良二

1. はじめに

今回の分布調査により古墳時代前期（一部、弥生時代終末期を含む）に該当する周溝墓等の墳墓の主たる類型は別表の如くである。

本県における周溝墓研究史については既に1970年代までは「原土墓制研究」に、それ以降については山岸、築地などの論考にまとめられている。また、1981年春日考古学協会総会で実施された「シンポジウム 関東における古墳出現期の諸問題」をかわりにその後、各地で開催された様々なシンポジウム、研究会などで配布された資料その時点での集約がある。これらの配布資料が単なるデータ集約のみに終始している背景には1977年22遺跡であった本県の全周溝墓類例数がわずかに10年後の1987年には104遺跡にも激増しているといった外因などが挙げられよう。

このようなことは、今日周溝墓検出遺跡数を全国的にみれば、大阪府・埼玉県・滋賀県と並んで本県が突出した数値を示していることから傍証される。

さらに、本県では古墳時代終末期～奈良・平安時代にかけて「火葬墓・再葬墓・洗骨墓」などの改葬墓系の方形周溝状遺構（名称については諸説提起されている）などが多数検出されており、方形を基調とする墓制の流れを弥生時代を上限に連続的に通うことの出来る特異な様相も示している。

以上のような現状の中で本稿では、弥生時代終末期～古墳時代前期頃までの「周溝墓等の墳墓」につき「県内地域別概要」（遺構別概要）などをまとめていることとするものである。尚集成した資料についてはあくまでも主要な遺跡に限り、原則として本報告未刊行・調査中の例などは省いてある。

2. 地域別概要

〔a〕 東葛地区

学史的にかなり古い時期に調査された柏市戸塚山田台遺跡をはじめ2～3基程度の小規模な発見例がほとんどである。立地は谷奥部が河川に臨んだ台地端部に造墓されている例が多く、遺物面でも総体的に貧弱である。

そんな中、1989年度調査の柏市駒込遺跡では1辺の溝内に3基もの「溝内埋葬施設」を持つ例が検出された。周溝跡では溝外にも土壇を持っており、主体埋葬部との差異を考える上で注目される。また、同89年度調査の野田市上三ヶ尾宮前遺跡では7基のバラエティに富んだ周溝墓が検出されている。同時期の集落とも併存しており、その配列関係・占地関係など良好な資料を提供している。

〔b〕 印旛地区

弥生時代の当初からこの地区にはかなりの遺跡が発見されている。さらに、同代後半に入るとこの地区は房総半島における一大拠点となってくることは大塚台、江原台、飯倉台各遺跡などの状況をみれば明らかである。立地は半島状地の先端部、台地平坦部に並んでおり、現在までの知見では印旛沼南地区に集中している。

佐倉市飯倉遺跡では2基の前方後方墳と23基の周溝墓が有机的に配列されている姿が示された。出土遺物面では前方後方墳からガラス玉・銅鏡、周溝墓からは碧玉・ガラス玉・勾玉などが検出されさほどの差は認められない。しかし、調査時点でも顕著なる墳丘高の差が指摘されており、この差をどのように解釈するか未解決の問題である。ま

た、八千代市ヲル山・井戸向・根現後遺跡などでは20軒を超える同時期の集落群と2～3基の平面形態の異なる周溝墓がある程度近接して併存したり、ある程度距離をもって隔絶して存在している。

〔c〕 千葉地区

南部の市原地区との隣接地域に集中している。星久喜遺跡出土の「手あぶり土器」は元来東海地方より伝来した外来系土器と思われ県内でも4～5例しかない貴重な資料といえる。この「手あぶり土器」をはじめ、東海・中部山岳地方から伝来したと考えられる「非在地系土器」は佐倉市臼井南、同江原台遺跡、市原市神門古墳群などからも出土している。

〔d〕 市原地区

急激に頻例数の増加している地区である。ほとんどが8～10基を単位としており、連続はしないものの狭い地域に集合するケースがほとんどである。房総半島では印旛地区と並んで弥生時代中期にすでに居住が始まっており、今回集成のこの時期にはかなりの大集落が各地に広がっていたものと思われる。

本報告が未刊であるが房総台遺跡では、弥生時代中期から古墳時代後半に至るまで連続と様々な墳墓が構築されており動向が注目される。また、溝内から数体の人骨を出土した草刈遺跡では1基の前方後方墳と35基以上の周溝墓がいくつかのグループを成し、土器の分析から大きく3時期に分けて考えられている。

この地区のもう1つの特徴は副葬遺物にある。銅剣を5本づつ両手に着想した人骨を出土した辺田遺跡、鉄剣・刀を出した大坂、東間部多遺跡、ガラス玉などもその数量は大幅に増加し長平台遺跡では15個と13個、大庭遺跡では22個もの出土をみている。

〔e〕 君津地区

本地区も急激に頻例数の増加している地区である。ここでは15年以上前に調査された木更津市跡西遺跡群が注目される。弥生土器を伴う大形のかんりの墳丘を残す「方形墳」が何基か発見され、当時からどう呼ぶか議論されてきた。その後全国的にも「弥生墳丘墓」が各地で報告されるようになったのを踏まえ、近年同遺跡の再調査が実施されている。

この地区では狭谷谷古墳例のように比較的墳丘をよく残す頻例が多く、多量のガラス玉と鏡或後穿孔の甕形土器を伴うケースが認められる。また、山王辺田、滝ノ口台遺跡のように前期の明白な前方後方墳と近接立地しているものもある。

〔f〕 その他の地区

現状では東京湾に注ぎ込む河川流域に今回の集成が集中している。この傾向は基人としての要素（開発・調査頻度等）に左右されていると思われるが、それ以外の地域にも何遺跡か主要な頻例が報告されている。

古い発見である小見川町阿玉台北遺跡では低墳丘の前方後方墳がガラス玉などを伴って発見されており、房総半島南端の千倉町御田遺跡群稲子沢遺跡でも勾玉、管玉、ガラス玉などが伴出している。

また、89年調査の茂原市国府間遺跡では市原市神門古墳と類似した「バチ形の前方後方墳」と方形周溝墓が併存して発見されている。この溝中からは多くの「非在地系」土器が出土されている。

3. 遺構別概観

A. 立地

立地面からみると頻例のほとんどが河岸段丘、丘陵上、台地上に存し、その位置も先端部または丘陵先端部に近い地点に造営されている場合が多い。稀に日吉倉遺跡のように丘陵基部に3基が並んで発見されている例もある。

関東地方における周溝墓の立地面での推移は、弥生時代中期～後期代には台地平坦部全面、低地、丘陵斜面部など様々な立地傾向が認められるが、後期中葉からは徐々に台地先端部、丘陵先端部へと移動していく点が指摘されている。この傾向は前期古墳の立地に相違するものである。

その一方で、埼玉県などには同時期の頻例として低い河岸段丘面や河川の氾濫原上に造営されている遺跡も報告されており注目される。

B. 平面形態

(a) 個別形態

既に知られているように、関東地方における周溝墓の個別形態の変遷は次の通りである。

【第1期】四隅が切れるタイプ中心期——須和田式、宮の台式に該当 規模も大体均等で10メートル内外が多い 4辺の溝深は必ずしも一定では無く地形にも左右されやすい 主体部が検出されやすい

【第2期】多様なタイプの混在期——弥生時代後期 四隅巡るタイプや二隅が切れるタイプが主流 前期のタイプで溝による区画の意義が一段と強められたため陸橋部が減少した 同一時期でも規模に差が出てくる なおこの時期に1～2辺を欠くタイプも出てくるがこれは地形的制約に因る場合が多い

【第3期】四隅巡るタイプ中心期——弥生時代終末～古墳時代初頭期 溝深はコーナー部に近くなると浅くなる たまには検出時一隅が切れているタイプで発見されることも多い また辺中央部が外側に大きく広がる例も出てくる、これは方台部に盛土するための土量確保のためといわれる 一辺の中央に陸橋部が出てくるものもこの時期の特徴 円形ならば全周しない1ヶ所陸橋部を設けるタイプもこれと同じ

今回集成した資料の約8割強は四隅の巡るタイプであり、上記の変遷を十分裏付けている。また、一辺の中央部に陸橋のある例も上二ヶ所尾宮宮遺跡、戸張城山遺跡、東1号墳、東原井遺跡などで検出されている。

同一時期内における規模の格差もこの時期の特色であるが、例えば堤台遺跡では第1号墓が17×14メートル、第2号墓が7.8×7.4メートルというように2倍以上の規模差を示している。また、血野田茂遺跡では第3号墓が16.7×15.2メートル、第4号墓が6×4.9メートルと約2.5倍もの格差が見られている。この差は墳形の差異（前方後方墳と方形）とともに被葬者層の性格などを考える上で重要な点であろう。

(b) 集合形態

周溝墓のそもそもの埋葬形態は、血縁家族を母体とする一墓・複数葬・集団墓が根柢と考えられている。このため、水野、伊藤、山岸らを中心に早い時期から群として把握すべきであるとの意見が提起されてきた。

これらの動向を踏まえて、関東地方における集合形態の変遷を見ると次のようになる。

【第1期】

均等化・連続化を基本とし個々の占有面積に大きな差は無い。溝の共有が見られ、集落設定時に既に墓域を居住域とある程度隔絶することが計画されていた。このため、墓域も余裕をもって占地されており、計画的な造営が行われている。四隅の切れるタイプがこの時期の主流を成しているのは造墓のプランニングと密接に関わっているためと思

われる。

【第2期】

均等化が崩れ出すのはこの墓の被葬者が集落内で限定されてくるためと考えられる。つまり前期では1集落内のか
 たちの人員がこの墓に埋葬される該当者であったため、造墓期間の間隔も緊密であった。しかし、この期になると共
 同体内でも首長層のような限られた集団のみが埋葬されるようになるため、どうしても造墓期間が空くようになる。
 このため、連続もせいぜい2〜3連続程度である。これを2〜3世代（果世）墓とみるか、夫婦・親子墓（家族）と
 みるか、親族墓とみるか意見の分かれる点である。

【第3期】

均等化・連続化は完全に崩れ、存立期間の比較長い集落に関して第2期の傾向が若干残存するようである。また、
 第2期ほど居住域との明確な隔絶が意識されないようになり個々の墓単位で隔絶性を明示する必要性に迫られ、盛土・
 墳丘などの立面指標を意識的に構築していく傾向がみられる。これは、被葬者に集中する権力があることの指標で
 もある。なかには造墓段階で前時期の墓を横すケースも出てくる。

C. 立面形態

近年、盛土・墳丘をもつ周溝墓が全国的に注目を集めているが現在まで発見されている事例中顕かな盛土・墳丘
 をもつのは1割にも満たない。この点について、調査水準の問題であるとか、後世の削平・擾乱されたとか等の意
 見も出ているがやや強引な否めはない。もちろん、平野区画のための溝構築後、その排土を方台部に傾んだこ
 とは容易に想像出来る点であり、旧地表面よりかなりの高まりがあったことは間違いないだろう。

本県でも、諸道遠跡群内の庚申塚例や田川2号墓や飯倉作遠跡例に0.7〜1.2メートルほどの墳丘を持つ例がある。

D. 埋葬施設

(a) 主体部埋葬施設

原則として、素掘り土壇と木棺直葬の2つが挙げられる。木棺の場合、粘土かローム土を壁・床に敷き詰め、その
 中に埋葬することがある。また、土壇では外周する形状を示すものもかなりあり土質に対する掘削道具の雇用に関連
 すると思われる。

周溝墓制全体でみると主体部埋葬が発見される比率は古い時期ほど高いようである。これは前稿でも触れたように、
 第1期は原則として「地上掘り込み」型で第2期以降盛土・墳丘部内に「掘り込む」型が順次出現してくるためと思
 われる。

その一方で同じような状況で発掘調査が実施されているにもかかわらず、主体部埋葬が検出されている例と検出さ
 れない例とが同居する場合もある。例えば、神々道遠跡では全部で5基検出されたが、この内同一地点の4基中1基
 のみ主体部埋葬施設が2ヶ所検出されている。このような事例は全国的にみとかなりある。このために挙げた埋
 葬方法以外にも、地上上・盛土上・墳丘上に棺を「掘え置く」型の方法も採用されていた可能性も指摘されている。
 主体部周辺のいわゆる方台部内に埋葬施設をもつ例もある。県内では弥生時代前期を通じて方台部に「竈格」「東
 棺」などの土器陪葬が例が多々みられる。今回の集成では戸張松山道跡で長方形の土壇内に「合口東棺」が、
 また草刈道跡でも東棺・東棺が発見されている。

(b) 溝内埋葬施設

関東地方に出現してくる早い時期から溝内に意味不明の「落ち込み」「段差」などがあることは一部で注意はされ
 ていたが、積極的にはこの遺構を埋葬施設として解釈していく困難は飯倉作遠跡の調査以降である。同道跡ではD08号、

D09号の2基の溝内に明確な小口板をたてるための溝跡や小孔が検出され、さらにガラス玉、管玉、水晶玉などの遺
 物も付近より発見されている。

この他、馬ノ口道跡第2号墓では北溝内の隅丸長方形の土壇内から玉類5点が検出されている。また、草刈道跡B
 -1（旧称 B-192）号墓の周溝からは成人女性（身長160cm）1体と成人の大腿骨、若者の歯、8歳児の歯、など
 が発見されており、この内成人女性は溝底に約15cmのロームブロックを敷き詰め、両手首に計3個の管玉を装着して
 いた。

このように「溝内埋葬土壇」と思われる例は他に堤台、ヲサル山、長平台、田川、日吉倉道跡などで発見されている。

E. 遺物

(a) 土器

周溝墓で出土する遺物の8割以上は土器である。それら土器の内、底部・胴部などに穿孔するいわゆる「穿孔土器」
 と、朱などに塗布する「朱塗土器」が古くより注目されてきた。南関東地方におけるこれらの土器群の変遷は概ね次
 のように推移する。

【第1期】

穿孔・破砕土器両者の数量的差異はない。穿孔は焼成後で、外側からが主。器形は壺形土器が多いが他の器形もあ
 る。溝内出土の場合、溝底直上層が多い。1基につき1〜2個体にすぎない。1道跡でこの種の土器を伴う周溝
 墓の比率は低い。

【第2期】

穿孔土器が主となり、破砕土器の比率は下がる。穿孔は焼成後で焼成前とが混在する。穿孔は内側より底部に集中。
 器形は壺形土器が大多数。溝内出土の場合、溝底より浮いている。溝のコーナー付近または端部に多い。個体数は少
 ない。1基1個体位。外来系の穿孔土器も出てくる。

【第3期】

穿孔土器がほとんど。同一個体が離れて出土。穿孔は焼成前で底部が主となる。器形は壺形土器で朱塗土器。1道
 跡内で特殊な周溝墓からまともな出土。溝底からかなり浮いて出土。

今回の調査時期は上記の第2〜3期にあたる。例えば、田川1号墓では溝内より42点もの土器が出土しているが、
 それらの内訳は壺形10（内、朱塗7・穿孔5）点、杯形4（朱塗3・穿孔1）点、壺形2（朱塗1）点、壺形22（朱
 塗1・穿孔1）点、高杯形2（朱塗1）点、器台形（朱塗1）点、碗形1点で、穿孔は全て焼成後の内より外への穿
 孔である。また、飯倉作遠跡では土器の本来的な「供献」状態を知る上で良好な資料が提供されている。前方後方
 である2号墳の前方部をさして、南と北両方の溝から同一個体破片が、D06・D19号墓からも北溝と南溝から同一個
 体破片が発見されている。この事実はこの土器が当初は方台部に「供献」されていたものの、その後剥落したこ
 とを示唆している。

(b) 土器以外の遺物

南関東地方への周溝墓制の波及を考えると金銅器の伴出し始める時期は重要なポイントである。今回の集成でも
 「鉄剣」「銅剣」「鉄鏃」などが埋葬施設に伴って検出されている。これら金銅器と溝の1部が切れるタイプの周溝墓
 との関連についてはすでに田中らの論考で指摘されており、本県での現状でも十分追認出来る事象である。

銅剣については、市原市辺田1号墳（根田道跡）の2基からは人骨に着装された状態で5本の銅剣がそれぞれ1
 組ずつ発見されており、同市長平台例や地・浦町久保例とともに小規模な周溝墓からの出土が目立っている。

一方、玉類ではガラス玉の出土例が増加している。市原市長平台道跡では第2号墓の中央主体部に銅剣1、ガ
 ラス玉15、溝内埋葬部からガラス玉13、第1号墳の中央主体部（木棺直葬）から鉄剣1、ガラス玉15を検出している。

また、木更津市諸西遠跡群東中塚遺跡第1号墓からはコパルトブルーのガラス玉14、スカイブルーのガラス玉128という大量の検出をみている。

中部山岳地方では弥生時代後期初葉より玉類と金属器の伴出が指摘されており、本地域にはもう1時期遅れてこの傾向が現れるようである。

最後に周溝墓の溝から時折「すり石」「石鏝」「石皿」などが出る。今回の集成にも1～2例ある。

F. 集落との関係

同時期の集落と併存する事例は必ずしも多くはない。

千葉市馬ノ口遺跡では3基に墓に対して10軒内外の住居址が対応すると考えられ、土器群の観察から第1・2号墓→17・22号住居址、第3号墓→61号住居址との関連を説いている。

また、市原市統谷遺跡では住居址の規模・方位・出土土器群などから149平方メートルの大きさをもつ方形周溝墓と全長26.5mの前方後方墳の造営に関わったであろう住居を特定している。

一方、八千代市井戸遺跡ではタイプの異なる3基の周溝墓に対して、30軒を超える住居群の中に偶然3軒の「ベツ状遺構」を伴う住居址があり両者の関係がある程度推察されている。

一般にこの時期は3～4軒に対し1基の造墓で、弥生時代中期～後期初葉と異なり必ずしも居住域と墓域との明確なる隔絶は認められなくなる。今回の集成でも白井町神々廻遺跡で11軒～5基、木更津市田川遺跡で23軒～2基、野田市奥台遺跡11軒～3基といった数値が示されている。

4. おわりに

弥生時代～古墳時代にかけての墓制をめぐる議論は近年富に活発である。それらの諸説を簡単にまとめてみると次の3説となろう。

【第1説】

農耕社会開始期から酋長権確立期のいわゆる前方後円墳築造期までを全て一括して「墳丘墓」とし、従来の「方形周溝墓」などを「低墳丘墓」、「土墳墓」などを「無墳丘墓」と呼称する。

【第2説】

土器編年表に依拠し畿内における庄内式～布留式への移行を1つのメルクマールと考え、それ以前を「周溝墓」「区画墓」、それ以降を「方墳」「方丘墓」「方形墳」などと呼称する。

【第3説】

弥生時代終末期～古墳時代前期の限られた時期でその地域に確実な前方後円墳が現れるまでの期間、明らかなる墳丘・盛土などをもつ墳墓に「発生期～」「前期型～」「初現期～」と前に時期名を付す呼称をとる。

これらの諸説はそれぞれ提合している部分もある。このような現状を生み出す背景には考古学自体の時代区分論や「古墳」という名称に代表される専門用語の不確実性、さらには地域ごとの発掘調査頻度・精度・精度などのさまざまな諸要素があるためと思われる。

今回の集成は本書自体の編集方針に基づき、あくまでも弥生時代終末期～古墳時代前期の墳墓に限り各報告書の呼称（「方墳」「方形墓」「周溝墓」など）には拘泥せず採出した。最後に上記の諸説を今後整理していくにあたり、今回の分析から注意すべき要点を挙げて結語としたい。

●墳墓自体の形状、規模、配列 ●墳丘、盛土の有無 ●埋葬施設の数と位置 ●穿孔破砕土器の量と焼成前後の違い ●朱塗土器の量と比率 ●金属器などとのセット関係 ●同時期住居の数量的比率と配置関係

番号	遺 跡 名	所在市町名	基 数	備 考
1	東 深 井	流 山 市	1	
2	堤 台	野 田 市	3	溝内埋葬部、焼成後底部穿孔土器5
3	上三ヶ尾宮前	野 田 市	7	主体部3
4	山 田 台	柏 市	2	
5	戸 妻 城 山	柏 市	3	主体部1、方台部合口壘柱1
6	総 台 富 山	松 戸 市	1	主体部1、骨粉、溝内焼土
7	酒 台 富 山	松 戸 市	2	
8	追 花	沼 南 町	1	
9	復 山 谷	白 井 町	6	3基重複・溝外埋葬部1
10	神々廻 B	白 井 町	5	1号→主体部1基、5号→主体部2基
11	酒 直	栄 町	4	
12	夏 見 大 塚	船 橋 市	2	
13	ラ サ ル 山	八千代市	3	溝内埋葬部、ガラス玉44、鉄銅1、硬玉勾玉1、主体部3
14	東山遠跡群久保	八千代市	2	
15	下 高 野 新 山	八千代市	1	
16	井 戸 向	八千代市	3	M065号主体部1
17	権 現 後	八千代市	2	
18	高岡遠跡群大山	佐 倉 市	4	ガラス玉、鉄器
19	大 崎 台	佐 倉 市	6	10号→鉄銅1、鉄鍬1、主体部2
20	白 井 南	佐 倉 市	2	焼成後穿孔土器2
21	棒 作	佐 倉 市	1	焼成前穿孔土器1
22	江 原 台	佐 倉 市	2	焼成後穿孔土器1
23	飯 合 作	佐 倉 市	23	1号墳37m(前方後方)・ガラス玉3・銅鍬2・焼成後穿孔土器1、2号墳36.5m(前方後方)・4号墳・焼成後穿孔土器、D03・焼成後穿孔土器2、D06・焼成後穿孔土器、D07・焼成後穿孔土器2、D08・溝内埋葬部・管玉5・ガラス玉1・水晶玉1、焼成後穿孔土器1、D09・溝内埋葬部、石製勾玉1・ガラス玉1・焼成後穿孔土器2、D11・焼成後穿孔土器2、D13・焼成後穿孔土器2、D19・焼成後穿孔土器1、D21・焼成後穿孔土器1

番号	遺 跡 名	所在市町名	基 数	備 考
24	兼 坂	千葉市	1	
25	和田 前	千葉市	6	
26	馬 ノ 口	千葉市	3	2号→溝内埋葬部、硬玉勾玉1、碧玉製管玉5、土玉3号→土玉、土製勾玉
27	星 久 喜	千葉市	2	手あぶり土器
28	南 二 重 堀	千葉市	4	
61	米 ノ 内	千葉市	1	
29	長平台(加茂C1号)	市原市	15	主体部→銅剣1、ガラス玉15、手あぶり土器、溝内埋葬部4→ガラス玉13、加茂C→鉄剣1
30	天 神 台	市原市	13以上	
31	草 刈	市原市	36	A1(前方後方)、焼成後穿孔、B1溝内埋葬部、人骨9体、重棺、合口壺棺
32	辺 田	市原市	11	銅剣10、ガラス玉、人骨
33	東 1 号 墳	市原市	1	
34	蛇 谷	市原市	2	16号(前方後方)26.5m
35	番 後 台	市原市	2	
36	大 厩	市原市	3	3号→滑石製有孔円板1・5号→鉄剣1・ガラス玉22 9号→ガラス小玉4
37	東 間 部 多	市原市	1	2号墳(前方後方)35.5m、鉄剣・刀・穿孔土器7
38	武 土	市原市	3	
39	雪 解 沢	市原市	8	
40	菊 間 1 号	市原市	1	
41	隈 訪 台	市原市	20以上	33号墳(前方後方)21m、他2基以上が前方後方
42	里 郷 田 茂	市原市	8	円形1→石甕1
43	金 井 崎	袖ヶ浦町	5	
44	西 ノ 窪	袖ヶ浦町	1	磨石1、焼成後穿孔土器2
45	大竹遠跡群二又堀	袖ヶ浦町	8以上	
46	山 王 辺 田	袖ヶ浦町	2	II号墳(前方後方)
47	文 脇	袖ヶ浦町	3	
48	滝 ノ 口 向 台	袖ヶ浦町	6	

番号	遺 跡 名	所在市町名	基 数	備 考
49	尾 畑 台	袖ヶ浦町	1	
50	荒 久	袖ヶ浦町	8	主体部4、銅剣、ガラス小玉
51	俵 ケ 谷	木更津市	6	4号墳→主体部2、管玉3、ガラス小玉49、鏡片1、水晶勾玉1、管玉11、ガラス小玉19、板文鏡1(墳丘下)、5号墳→ヒスイ勾玉1、管玉2
52	蓮 華 寺	木更津市	1	
53	田 川	木更津市	2	溝内埋葬部1、焼成後穿孔土器
54	宮 脇	木更津市	4	主体部4、3号→鉄剣1・ガラス小玉40、4号→ガラス小玉4・焼成後穿孔土器(銅部・底部)
55	膳西遠跡群庚申塚	木更津市	3	1号→主体木棺、2号→主体部1 1号→碧玉製あるいは焼灰岩製玉11・鉄石製管玉8・ガラス玉45・2号→焼灰岩製勾玉3・ガラス小玉128・底部穿孔土器
56	同 野 焼 B	木更津市	4	
57	同 東 山	木更津市	3	
58	同 大 山 台	木更津市	14	7号→底部穿孔土器、主体部1 8号→主体部1、焼灰岩製管玉1、水晶玉1、ガラス玉18、底部穿孔土器 57号→主体部1、鉄釘・刀子
59	同 山 伏 作	木更津市	3	
60	駒 込	柏 市	3	溝内埋葬部3、溝外埋葬部2、底部穿孔土器
62	横 山	大多喜町	7	円形2
63	国 府 岡	茂原市	2	
64	国 吉 倉	富里町	3	
65	阿 玉 台 北	小見川町	10	A-7号(前方後方)25.5m、円3
66	稲 子 沢	千倉町	2	勾玉1、管玉1、ガラス小玉3

番号	遺 跡 名	所在市町名	基 数	備 考
参	神 門 古 墳 群	市 原 市		
	辺 田 1 号 墳	市 原 市	1	円(径33m)、主体部2、小遺棄文銭1、管玉1、素戔瓊大 刀1、大刀1、槍1、剣2、鉋1、底部穿孔、焼成前 臺4

第4節 房総の古墳の特質について

大塚初重

房総は南を太平洋にのぞむ長い汀線と東方は北関東から流れ出る利根川によって区画されている。一方、西方は東京湾によって神奈川県と相対し、各地域は中小の河川によって独特の地形を現出し、河川流域やその下流域の河口附近には沖積低地が形成されている。古代における政治権力者である豪族などの首長層は、もととしてこれら農業生産の発展と展開の過程で、地域政治統制者として成長してきたものであり、従って彼等の墳墓である古墳の分布や、その内容は地域社会の政治・経済・文化のさまざまな要素を示しているものと思われる。

このような観点から房総の古墳を大観すると、まず分布上で大きく3地域に集中していることが指摘できる。第一の地域は房総東岸地域すなわち東京湾に面した千葉市・市原市・袖ヶ浦町・木更津市・習志野市・富津市にかけての沿岸地域である。中でも墳丘規模の大きい主要な前方後円墳が集中して分布するのは市原市から富津市にかけての地域である。千葉市・市原市と若津市における古墳分布数は約1,600基で、中でも富津市内奥塚古墳のように墳丘全長約145mで周濠をもつ大型前方後円墳を含み、東京湾に面したこの地域が、地政学上からも重要な軍事的、経済的な拠点であったと思われる。

房総の古墳分布で第二の主要な地域は印旛沼・手賀沼を中心とした東葛飾地区から印旛村・成田市周辺である。我孫子古墳群をはじめ栄町から成田市にかけの龍角寺古墳群などは総数約1,500基の大小の古墳がみとめられている。東京湾沿岸地域の古墳群が、中核として大型前方後円墳を主軸に形成されている傾向があるのに反して、古墳数は多いものの最大の前方後円墳は、龍角寺古墳群の浅間山古墳の72mであって後期の小古墳が多いという特色を示している。しかしこの龍角寺古墳群の中には一辺約80mという大型方墳の若屋古墳があり、用明・推古2天皇陵を凌ぐ大方墳の存在が注目されている。若屋古墳の築造を7世紀中頃と考えると、白鳳時代の仏像を有する龍角寺との関連性が浮び上がってくる。おそらく印旛湖周辺の支配地域にあたり、若屋古墳の被葬者も国造級的人物であった蓋然性は高い。印旛沼をのぞむ台地上の古墳群こそ北総地帯の政治権力を手中におさめた支配者層の歴史的発展の証しであろう。

房総の第三の古墳分布の集束地帯は山武郡の多古町・芝山町・横芝町・松尾町・成東町などの山武地区である。

山武・海田地区で約1,000基の古墳分布があり、松尾町の黒木古墳群のように、金銅製刀子や巾着形金銅製品を出土した前方後円墳が存在するが大型古墳はむしろ少ない。芝山町の山田・宝島古墳群、高田古墳群、殿部田古墳群など房総地方の中では、人物・動物彫刻がとくに盛行する点に特色がある。とりわけ人物埴輪などの表現にも山武地帯的な個性がみとめられる。近年、成東町の駄ノ塚古墳の調査が行なわれ、一辺60mの大型方墳に横穴式石室がみとめられ、前方後円墳から大型方墳への転換がおこなわれたことが確認である。この地域の最大の前方後円墳は松尾町大堤にある大堤1号墳(権現塚)で墳丘長117mを測る。

房総で第四の古墳分布地域は佐原市・小見川町を中心とした香取地区の一帯である。利根川という経済・軍事両面でもきわめて重要な機能をもっていた河川とその流域地帯の掌握は支配を貫徹するためにもきわめて必要な条件であったと思われる。いわゆる水郷地帯をひかえて、東側には茨城県潮来・鹿島地方の古墳群が分布しており、香取地区の有力な古墳の登場も経済と軍事水郷としての河川の航行をコントロールを掌握しえた首長の出現と関係があるように思われる。小見川町三分目にある大塚山古墳は、墳丘長118m、円筒埴輪列をめぐらし周濠をそなえた大型古墳である。埴輪部には発掘された長持型石棺の椀材がみとめられ、房総の五世紀古墳の中でも畿内的な特色を濃く反映した例として注目されている。またこの小見川町には京都府樟井大塚山古墳出土土鏡と同范の一号墳が存在し、飾大刀

や馬具に優品が多く、畿内の大和政権とのかなり強力なかわり合いがあったと推測される。佐原市にも大戸川中宿にある60mの前方後円墳・押島山古墳のように、木棺直葬なら石枕とともに面文帯鏡、鉄刀などのほか銚子付冑と挂甲、馬具一括が出土していて、近年、佐原市間の峯崎の3号墳からは碧玉製の勾玉、鉄製品とともに金銅製押出仏が出土しており、この地域が4世紀代から7世紀末まで、利根川下流域における有力な首長層の一本地地であったことを証している。おそらく水郷地帯という地勢上の条件から水利権を手中にして、この地域を統治したものであったと思われる。

以上、房総の古墳分布について四地域の特質を指摘したが、各地域の古墳が示す内容には、さまざまな歴史上の問題が含まれている。それらの問題点のすべてに言及する紙数の余裕はないが、とくに重要と思われる二、三の点を指摘しておきたい。

東京湾沿岸地域とくに市原市の神門3・4・5号墳の出現は、それが墳丘墓とするか古墳として把握するかの問題はのこるとしても、定形化した前方後円墳の登場に先がけて出現した墳墓であることは間違いない。神門古墳群の築造年代を3世紀後半に求めるとすれば、出土土器や出土遺物から畿内および東海地方との密接な関係のもとに登場した首長の墳墓であったと思われる。南関東における前方後円墳出現前後の社会状況の表明でもある。東日本における最古の「古墳」という見方もあるが、少なくとも神門古墳群の成立には中央の政治権力と在地首長層との政治連合的な関係が存在したのではないかと推測される。房総地域の中にあっても、この東京湾沿岸の地域が4世紀以後7世紀まで、きわめて畿内の色彩の濃い古墳副葬品を持ち続けているという傾向が見られ、中央の大和政権の政治的な影響力をとくに強力に受けた地域ではなかったかと思われる。こうした事実は大和政権が4世紀以来、東国への支配力を浸透させるための東国経営の拠点として、この東京湾沿岸地域をとくに重視していた結果によるものではないかと考える。これまで日本の考古学では海上交通の手段としての船舶には、舟形埴輪などから構造船の存在をみとめながらも大量の輸送方法としての効果的な船舶の運用について問題にされることが少なかった。大和政権の東国支配の構築として房総の、とりわけ市原市から富津市の地域が、もっとも重要視されていたことは、今や明らかである。

房総の山間部に水源を有し養老川となって東京湾に注ぐこの河川流域には、市原市稲荷台一号墳のように「王陽」銘鉄剣の出土があり、同時に被葬者が武人であることを示唆する鉄製短甲の発見があって、有力豪族に仕える中小豪族との重層的な社会関係を示しているように思われる。5世紀から6世紀段階のこの地域では市原市江子田の金銅塚古墳、崎崎二子塚古墳、山王山古墳など被葬者の新時代的な姿相、たとえば飾大刀や鍔馬具の盛行、金・銀製の装身具や金銅冠の存在など、中央の新しい文化つまり新技法にもとづく甲冑や馬具や装身具の受容は房総の古墳、とりわけ東京湾沿岸に分布する古墳の特質ではないかと思われる。

市原市の山王山古墳は全長約70mの前方後円墳で、葺土層からは金銅冠と金銅装束腰環大刀・鏡などが出土しており、冠や鍔の飾大刀の所有は、山王山古墳の被葬者の地位・身分にかかわることと思われる。

市原市に続く君津市・木更津市・富津市の有力古墳は6世紀以降にますます力を充実させていったと考えられその背後には当然、大和政権の東国経営の戦略が働いていたに違いないと考えられる。木更津市の手古塚古墳が物語するように、この地域ではすでに4世紀後半から畿内の前期古墳と同等の副葬品が含まれており、中央と地方との政治勢力の結びつきの強さを証明している。木更津市の小瀬川下流南岸の祇園大塚山古墳のように、怪奇な動物文様の線刻のある金銅製屈臣冑や800枚の金銅小札・銀製耳環と面文帯四佛四獣像を含む6枚の鏡の鏡の出土など、在地首長の埋葬だとしても、金銅製挂甲や冑の所有は、第一級の地位にある人物のいざば主墳主とさえ考えなければならない。祇園大塚山古墳は5世紀後半と思われるが、6～7世紀の有力古墳もこの地域には多い。木更津市の松岡古墳からは金銅製双魚佩や環状大刀・馬具が出土し、金鈴塚古墳からは1,000点を越える豊富な副葬品が発見された。とくにここでは環状

・垂頭・円頭・方頭・頭椎・鳥首大刀など合計17口の飾大刀と、金銅製環、金銅鈴と承盤付銅網など出土していて、この地域への当代の第一級の優品の集中度が注目される。

木更津市の南の富津市の内裏塚古墳群は100mを超える大型古墳の分布で有名であるが、すでに明治年間の際掘で内裏塚古墳の内容は知られている。主軸長103mの九条塚古墳、102mの稲荷山古墳も占く発掘され若干の遺品が判明している。

以上のように木更津・富津市域における5世紀後半から7世紀におよぶ古墳群の内容は、房総の古墳の中でもきわめて先進的で畿内の古墳副葬品にくらべてもほとんど差異はない。この東京湾沿岸地域の古墳にみとめられる質の高さは、この地域が海上交通の要衝であり拠点となっており、五世紀以来の大和政権の東国経営の拠点であり、一大拠点であったためであると思う。またこのルートが古東海路でもあり房総のみでなく東国の古墳文化の中での、この東京湾沿岸地域の古墳の特質は、大和政権と東国豪族との政治的な関係の濃厚なあらわれであったと見るべきであろう。

第二の問題点としては佐原市・小見川町を中心とした香取地区の古墳に見られる石枕の濃厚な分布である。佐原市・下総町をはじめ、香取・印旛地区に多く出土例がある。中には市原市二子塚古墳出土例のような優品もあり、茨城県下の出土例をも含めて石枕分布圏を形成した地域性を示す氏族集団が想定できるであろう。

第三の問題点としては山武地区の古墳にみられる形象埴輪の盛行である。近年、龍角寺古墳群101号墳の良好な例が加わったが、房総地方全体では利根川流域から山武地区の埴輪のあり方は、毛野や常陸の埴輪のあり方にも匹敵するものであり、埴輪生産体制の問題とともに詳細な地域的研究が期待される。おそらく房総の埴輪については「下総型埴輪」論を基礎として、埴輪工人グループの差によって県内5乃至6群の埴輪分布圏が設定できるであろう。この場合、製作技法上から利根川を軸とし、水郷地帯をも媒介として古墳時代の広域経済技術圏と首長政治支配圏との多面的な比較検討が推進されなければならない。

房総の古墳にみとめられる全般的な特質として指摘できることは、関東およびひろく東国全域の中でも、もっとも早く畿内古墳文化の洗礼を受けていることであり、4世紀以後、継続的に第一級の副葬品がみとめられることは、大和政権にとって房総の地域が重要な拠点でもあったことの証明であろう。そしてとりわけ古東海路ルートの海上からの最初の上陸地帯としては養老川から小瀬川にいたる東京湾沿岸地域であったのである。

第4章 千葉県内古墳一覽

古 墳 一 覽 表

分 布 地 図

■関 宿 町

番号	国号	名称	所在地	地 形	面積 (㎡)	用途	内部施設	備 考	通 車	備 考
1	1A	八幡神社裏古墳	新田785地	円	17				○	
2	1A	廣野井古墳	廣野井106	円	15.5				○	
3	1A	廣野井古墳	水田ノ郷字蔵塚1156	不明	不明				×	
4	1A	志部前古墳	水田ノ郷字志部前399地	不明	不明				×	

■野 田 市

番号	国号	名称	所在地	地 形	面積 (㎡)	用途	内部施設	備 考	通 車	備 考
1	1A	豊取原古墳群	中庄3477				円形、3基			
1-1	1A	豊取原1号墳		円						
1-2	1A	豊取原2号墳		円						
1-3	1A	豊取原3号墳		円						
2	1B	熊手塚古墳	岩前							
4	1B	岩手古墳	岩手				円形			
3	2	宮原遺跡	遺跡古墳							
5	2	横山古墳	横山	方形周溝墓						
9	2	大塚山古墳群	目次大塚山							
6	2	角倉古墳								
2	2	坂台古墳	坂台35							
8	2	坂台高塚古墳	坂台35	方形周溝墓						
10	2	大塚古墳	大塚地大塚	円						
13	2	千歳カントラ古墳	二ツ塚	円	18					
12	2	上沢毛古墳	廣戸							
13	2	二ツ塚古墳群	二ツ塚				8基			
13-1	2	二ツ塚1号墳		円	約10		横穴式石室	傾成器(長頸部)	×	
13-2	2	二ツ塚2号墳			約13			鉄片、灰草器	×	
13-3	2	二ツ塚3号墳						傾成器(短)	×	
13-4	2	二ツ塚4号墳	二ツ塚						×	
13-5	2	二ツ塚5号墳		円	約12		横穴式石室	土師器、灰草器	×	
13-6	2	二ツ塚6号墳								
13-7	2	二ツ塚7号墳								
13-8	2	二ツ塚8号墳								
11	2	三ツ塚遺跡、525号	三ツ塚遺跡ノ鼻							
15	3	熊の崎台古墳群	西三ヶ尾古墳台				3基			
15-1	3	熊の崎台1号墳		円	約12					
15-2	3	熊の崎台2号墳								
15-3	3	熊の崎台3号墳								
16	3	熊の崎台古墳群	熊の崎台				円形3基			
16-1	3	熊の崎台1号墳		円					×	
16-2	3	熊の崎台2号墳							×	
16-3	3	熊の崎台3号墳		円					×	
18	3	下三ヶ尾古墳群	下三ヶ尾				円形3基			
18-1	3	下三ヶ尾1号墳								
18-2	3	下三ヶ尾2号墳								
18-3	3	下三ヶ尾3号墳								
17	3	下三ヶ尾(堀道西側)古墳	下三ヶ尾	方						

■流 山 市

番号	国号	名称	所在地	地 形	面積 (㎡)	用途	内部施設	備 考	通 車	備 考
1-1	3	東原井1号墳	東原井中ノ坪	円	21m	円形			×	
1-2	3	東原井2号墳	東原井中ノ坪	方形周溝墓						
2	3	東原井古墳群	東原井中ノ坪				前方後円形1基、円形12基			

■流 山 市

番号	国号	名称	所在地	地 形	面積 (㎡)	用途	内部施設	備 考	通 車	備 考
2-1	3	東原井1号墳		円						
2-2	3	東原井2号墳		円						
2-3	3	東原井3号墳	東原井中ノ坪	円						
2-4	3	東原井4号墳		円						
2-5	3	東原井5号墳		円						
2-6	3	東原井6号墳		円						
2-7	3	東原井7号墳		円						
2-8	3	東原井8号墳		円						
2-9	3	東原井9号墳		円	21m					
2-10	3	東原井10号墳		円						
2-11	3	東原井11号墳		円						
2-12	3	東原井12号墳		円						
2-13	3	東原井13号墳		円						
3	3	東原井古墳群	東原井中ノ坪	円						
4	3	東原井古墳群	東原井中ノ坪	円						
5	3	東原井古墳群	東原井中ノ坪	円						
10	3	中野久木原古墳群	中野久木	円形周溝墓						
11	3	中野久木古墳		円	16m	円形	木棺直葬			△
13	3	三輪野山内古墳		方	20m		鉄剣、ガラス			×
14	3	北谷津古墳	津台北谷津	方	10m		横穴式石室			×
21	3	三本松古墳	三本松	円						
22	3	三本松古墳群	三本松	円						
22-1	3	三本松1号墳		円	3					
22-2	3	三本松2号墳		円						
16-1	3	芝崎第1号古墳	芝崎大塚	円	15m					
16-2	3	芝崎第2号古墳	芝崎大塚	円	20m					

■柏 市

番号	国号	名称	所在地	地 形	面積 (㎡)	用途	内部施設	備 考	通 車	備 考
1	3	八幡山古墳群	大塚94大塚64-1				円形4基			別称小川古墳群
1-1	3	八幡山1号墳		円	6.5	不明			○	
1-2	3	八幡山2号墳		円	21	不明			○	
1-3	3	八幡山3号墳		円	10.5				○	
1-4	3	八幡山4号墳		円	不明				×	
2	3	小川古墳群	大塚94小川94-1	(円)	6.5					備考?
3	3	大山古墳群	都戸山底野字大山				円形2基(5基?)			
3-1	3	大山1号墳		円	4.5				○	
3-2	3	大山2号墳		円	5				○	
4	3	三つ木古墳群	大塚94大塚94-1	(方)	20	円形			○	
5	3	新宮古墳群					円形73基			
5-1	3	新宮1号墳		(円)	6.5				×	遺跡71982年調査
5-2	3	新宮2号墳		(円)	5(現存)				△	遺跡71982年調査
5-3	3	新宮3号墳		(円)	不明				×	
6	3	西高野古墳	花野井字西高野363	円					×	
7	3	堀原古墳群	花野井字堀原1395							
7-1	3	堀原古墳1		円	20	(方?)	円形、土師器、鉄片、鉄刀、鉄鎧、鉄盾、白土		×	1957年調査
7-2	3	堀原古墳2		円	10				×	1957年調査
7-3	3	やまもと古墳	花野井字山414	不明(円)	不明		横穴式石室		×	1965年調査
7-4	3	佐左衛門古墳		円(方?)	25	青	新石器時代		×	1966年調査
7-5	3	まただ古墳	花野井字まただ1993	円	16(現存)				△	
7-6	3			円						

番号	図号	名称	所在地	形状	面積(㎡)	用途	内部施設	備考	備考
5-3	4	3号墳	円					×	
5-4	4	4号墳	円					×	
5-5	4	5号墳	円					×	
5-6	4	6号墳	円					×	
5-7	4	7号墳	円					×	
5-8	4	8号墳	円					×	
5-9	4	9号墳	円					×	
5-10	4	10号墳	円					×	
5-11	4	11号墳	円					×	
5-12	4	12号墳	円	5(現存)			9号地の跡山 調査はない	△	
5-13	4	14号墳	前方後円					×	
6	4	新古墳	円	10-12 (現存)				○	
7	4	新古墳	円	16-17 (現存)				○	調査あり?
9	4	子の神古墳群					前方後円墳1基、円墳1基		
9-1	4	子の神1号墳	円					×	調査あり
9-2	4	子の神2号墳	円					×	調査あり
9-3	4	子の神3号墳	円?					×	
9-4	4	子の神4号墳	円	15				○	
9-5	4	子の神5号墳	円					○	
9-6	4	子の神6号墳	円					○	調査あり
9-7	4	子の神7号墳	円	15				○	
9-8	4	子の神8号墳	円	8×5				△	
9-9	4	子の神9号墳	円	14				○	
9-10	4	子の神10号墳	円	19 25	有	水稲遺跡2基 第1主体:竪刀(2部)、鉄剣(25本) 第2主体:ペンガラ(数量)		×	調査あり
9-11	4	子の神11号墳	円					×	調査あり
9-12	4	子の神12号墳	円					×	調査あり
9-13	4	子の神13号墳	円					×	調査あり
9-14	4	子の神14号墳	前方後円	30				○	
9-15	4	子の神15号墳	円					×	調査あり
10	4	新古墳群	円	27月			円墳1基		
10-1	4	新古墳1号墳	円?					×	調査あり
10-2	4	新古墳2号墳	円?					×	調査あり
10-3	4	新古墳3号墳	円?					×	調査あり
10-4	4	新古墳4号墳	円?					×	
10-5	4	新古墳5号墳	円?					×	
11	4	高野山古墳群	我孫子				前方後円墳1基、円墳2基		
11-1	4	高野山1号墳	円	35		円墳人物・器・銅物 主体部4基 土師器一(外郭土)		○	調査あり
11-2	4	高野山2号墳	円(孤立?)	18×15		円墳 簡式石棺(横置)		×	調査あり
11-3	4	高野山3号墳	円	15		円墳 簡式石棺		×	調査あり
11-4	4	高野山4号墳	円(群葬)	27×18		円墳 人物 簡式石棺	威刀(3部)	×	調査あり
11-5	4	高野山5号墳	円	20				×	調査あり
11-6	4	高野山6号墳	円	24				×	調査あり
11-7	4	高野山7号墳	円	18				×	調査あり
11-8	4	高野山8号墳	円	24				×	調査あり

番号	図号	名称	所在地	形状	面積(㎡)	用途	内部施設	備考	備考
11-9	4	9号墳	円	22				×	調査はない
12	4	新古墳群	円				方墳1基、円墳2基		
12-1	4	新古墳1号墳	円	26				○	
12-2	4	新古墳2号墳	円	16				○	
12-3	4	新古墳3号墳	円					×	調査あり
13	4	水神山古墳	円	63			土師器(1基) 土師器(1基)	刀子、針、ガラス管玉、磨石等 玉、ガラス小玉、土師器一(外郭土)	調査あり
14	4	新古墳	円					×	
15	4	新古墳	円	19				×	
15-1	4	新古墳1号墳	円	19				○	
15-2	4	新古墳2号墳	円?					○	正確には確認できず
16	4	新古墳	円	17				×	
17	4	水神山古墳	円	9			簡式石棺	×	
18	4	新古墳	円					○	
19	4	新古墳	円	8(現存)				×	調査あり
20	4	新古墳	円	13				○	調査あり
21	4	新古墳	円	8.5 (現存)				○	
21-1	4	新古墳1号墳	円	8.5 (現存)				○	
21-2	4	新古墳2号墳	円	8(現存)				○	
22	4	新古墳	円	20				○	
22-1	4	新古墳1号墳	円	20				○	
22-2	4	新古墳2号墳	円	18				○	
22-3	4	新古墳3号墳	円?	7(現存)				△	
22-4	4	新古墳4号墳	円?					×	
22-5	4	新古墳5号墳	円?					×	調査あり
22-6	4	新古墳6号墳	円?					×	
22-7	4	新古墳7号墳	円	6(現存)				△	
22-8	4	新古墳8号墳	円	7(現存)				○	
22-9	4	新古墳9号墳	円?					×	調査あり
23	4	新古墳	円					×	調査あり
24	4	新古墳	円					×	調査あり
25	4	新古墳	円	7~8 (現存?)				△	
26	4	新古墳	円					×	調査あり
27	4	新古墳	円					×	調査あり
28	4	新古墳	円					×	調査あり
28-1	4	新古墳1号墳	円					×	調査あり
28-2	4	新古墳2号墳	円					×	調査あり
28-3	4	新古墳3号墳	円					×	調査あり
28-4	4	新古墳4号墳	円					×	調査あり
28-5	4	新古墳5号墳	円					×	調査あり
28-6	4	新古墳6号墳	円					×	調査あり
28-7	4	新古墳7号墳	円	3×4 (現存)				△	
28-8	4	新古墳8号墳	円					×	調査あり
28-9	4	新古墳9号墳	円	4.5×5 (現存)				△	
29	4	新古墳	円					×	調査あり
29-1	4	新古墳1号墳	円					×	調査あり

番号	国号	名称	所在地	地型	面積(㎡) (円換算)	用途	内部施設	備 考	通 車 道	備 考
19-1	4	〃	中神宮道中北	円	20	円換 (換算)			〇	
19-2	4	〃 2号墳	〃	円?	15(換算)				△	
19-3	4	〃 3号墳	〃	円	16~18				〇	
19-4	4	〃 4号墳	〃	(円)?					×	
19-5	4	〃 5号墳	〃	(円)?					×	
19-6	4	〃 6号墳	〃	(円)?					×	
19-7	4	〃 7号墳	〃	(円)?					×	
19-8	4	〃 8号墳	〃	円?	15×12				△	
19-9	4	〃 9号墳	〃	円?	12				〇	
30	4	中神上古墳群	中神宮道宿					円換10基		
30-1	4	中神上1号墳	〃	円?	7				〇	
30-2	4	〃 2号墳	〃	(円)?					×	
30-3	4	〃 3号墳	〃	(円)?					×	
30-4	4	〃 4号墳	〃	(円)?					×	
30-5	4	〃 5号墳	〃	(円)?					×	
30-6	4	〃 6号墳	〃	円	約11				〇	
30-7	4	〃 7号墳	〃							
30-8	4	〃 8号墳	〃							
30-9	4	〃 9号墳	〃							
30-10	4	〃 10号墳	〃	(円)?					×	
31	4	下神古墳古墳	中神下神古墳3743 -16	円	16				〇	
32	4	中神下台墳群	中神中山道49地					円換3基		
32-1	4	中神下1号墳	〃	(円)?					×	
32-2	4	〃 2号墳	〃	(円)?					×	
32-3	4	〃 3号墳	〃	(円)?					×	
33	4	下中地地質古墳群	中神下中地地質					円換3基		
33-1	4	下中地地質1号墳	〃	円	7				〇	
33-2	4	〃 2号墳	〃	円?	6×8				〇	
33-3	4	〃 3号墳	〃	円	7				〇	
34	4	高 根 古 墳	中神高根2178地	円	15	円換				
35	4	片 町 古 墳	古7片町177地	円?	19 (換算)	土層跡、銅板跡… (周辺に散在)			△	
36	4	日 野 宮 前 古 墳	日野宮前31	円?					△	
37	4	福 込 古 墳	日野福込327地						△	
38	4	羽 黒 古 墳	新木羽黒前2460地	円?	20	横穴式石室		円換2基		
39	4	荒 沢 古 墳	新木荒沢						〇	
39-1	4	荒 沢 1 号 墳	〃	円	5				〇	
39-2	4	荒 沢 2 号 墳	〃	円	9				〇	
40	4	花 輪 古 墳	市街花輪前1373	軌立(円)? 16(換算)					〇	
41	4	道 祖 神 前 古 墳	市街道祖704	円					×	
42	4	寶 山 東 古 墳	寶山東台155地	円?(方)? 8.5				円換2基	△ 塚A-7	
42-1	4	久 寺 東 古 墳	久寺東台155地						×	
42-2	4	〃 2号墳	〃	円		円換 減算			×	

沼 南 町

番号	国号	名称	所在地	地型	面積(㎡) (円換算)	用途	内部施設	備 考	通 車 道	備 考
2	4	大井 花 古 墳 群	大井字大木戸出口 756	円	8			円換3基		
2-1	4	大井 花 1 号 墳	〃						〇	呼称:古墳群。(5部 共築、2部)
2-2	4	〃 2号墳	大井字大木戸出口 756	円	4				×	
2-3	4	〃 3号墳	大井字大木戸出口 756	円	不明				×	
3	4	大 井 大 塚 古 墳	大井字大木戸出口 1816	円	5				〇	
1	4	長 岡 古 墳	大井字長岡山533- 534	前方後円 墳	26.5 (換算 円換算)				〇	前方部削平
4	4	根 神 古 墳	大井字根神99-3	不 明					×	
5	4	鏡 見 古 墳	大井字鏡見52-32	円	21				〇	
6	4	西 台 古 墳 群	大井字西台					円換3基		
6-1	4	西 台 1 号 墳	〃	円	6				〇	
6-2	4	〃 2号墳	〃	円	4				〇	供申解?
6-3	4	〃 3号墳	大井字	円	2.9				〇	供申解?
7	4	大 井 古 墳	大井字大井509	円	14				×	
8	9	神 神 古 墳 群	神神字中島					方換2基、円換2基		
8-1	9	神 神 1 号 墳	〃	円	3				〇	
8-2	9	〃 2号墳	〃	方	4				〇	
8-3	9	〃 3号墳	〃	方	4.2				〇	
8-4	9	〃 4号墳	〃	円	4				〇	
9	9	家 崎 古 墳 古 墳	家崎字古墳552-3	円	2.5				×	
10	9	家 崎 古 墳 古 墳	家崎字古墳1447	円					〇	
11	9	神 神 古 墳 古 墳	神神字中島					2基(少なくとも1基は円換)		
11-1	9	神 神 古 墳 古 墳	神神字中島	円	5				〇	
11-2	9	〃 2号墳	〃	円	7				×	
12	9	西 台 古 墳 群	西台字西台					円換5基		
12-1	9	西 台 1 号 墳	〃	円	6				〇	
12-2	9	〃 2号墳	〃	円	2.5				〇	
12-3	9	〃 3号墳	〃	円	6				〇	
12-4	9	〃 4号墳	〃	円(方)? 20					〇	
12-5	9	〃 5号墳	〃	円	4				〇	
13	9	中 島 古 墳 群	中島字中島1412					円換9基		塚(7)
13-1	9	中 島 1 号 墳	〃	円	7					
13-2	9	〃 2号墳	〃	円	3					
13-3	9	〃 3号墳	〃	円	4					
13-4	9	〃 4号墳	〃	円	5.6					
13-5	9	〃 5号墳	〃	円	5.6					
13-6	9	〃 6号墳	〃	円	4					
13-7	9	〃 7号墳	〃	円	5					
13-8	9	〃 8号墳	〃	円	7					
13-9	9	〃 9号墳	〃	円	4					
14	9	小 山 古 墳 群	高野字小山					円換5基		
14-1	9	小 山 1 号 墳	〃	円	6					
14-2	9	〃 2号墳	〃	円	2					
14-3	9	〃 3号墳	〃	円	2					
14-4	9	〃 4号墳	〃	円	5					
14-5	9	〃 5号墳	〃	円	7					
15	9	富 田 古 墳 群	富田字新田					前方後円換2基、円換13基		
15-1	9	富 田 1 号 墳	〃	円	4					
15-2	9	〃 2号墳	〃	円	5				〇	
15-3	9	〃 3号墳	〃	円	7					
15-4	9	〃 4号墳	〃	円	4				〇	
15-5	9	〃 5号墳	〃	円	4				×	
15-6	9	〃 6号墳	〃	円	6				〇	
15-7	9	〃 7号墳	〃	円	7				〇	

番号 図号	名称	所在地	形状	面積 (㎡)	用途	内部施設	備考	通 達 方 法	備 考
15-6	宮田東8号棟	高崎字新堀	門 5					×	
15-9	〃 9号棟	〃 前方後門 8							
15-10	〃 10号棟	〃 前方後門 6							
15-11	〃 11号棟	〃 門 3							
15-12	〃 13号棟	〃 門 2							
15-13	〃 13号棟	〃 門 10							
15-14	〃 14号棟	〃 門 10							
15-15	〃 15号棟	〃 門 4							
17	9 西向原古墳(2)	高崎字西向原1634-3	前方後門 31	31				○	
18	9 西向原古墳(1)	高崎字西向原1647-7	方					×	
16	9 高瀬古墳	高崎字高瀬1665-3	?					×	
19	9 向原古墳	高崎字向原1483-1	?	8				×	
20	9 藤打古墳	高崎字藤打1139-1 ~1140	不明					×	
21	9 品川横古墳	高崎字品川横11	門					○	
22	4 船戸古墳群	大井字船戸一帯				前方後門1基、円墳2基			
22-1	4 船戸1号墳	〃 門 10						○	
22-2	4 〃 2号墳	大井字新堀込	門 9					○	
22-3	4 〃 3号墳	〃 門 5						○	4号墳跡か
22-4	4 〃 4号墳	大井字下堀込一帯	前方後門 19					○	
22-5	4 〃 5号墳	〃 門 12				石棺のお封掘出 調査あり		△	
22-6	4 〃 6号墳	〃 門 15				石式石棺?		△	
22-7	4 〃 7号墳	〃 門 12.4						○	
22-8	4 〃 8号墳	〃 前方後門 21.5						○	
22-9	4 〃 9号墳	〃 門 5						○	
22-10	4 〃 10号墳	〃 門 8.5						○	
22-11	4 〃 11号墳	〃 門 4						○	
22-12	4 〃 12号墳	〃 門 (9.5) 寛元鎮						○	
22-13	4 〃 13号墳	〃 前方後門 23						○	
22-14	4 〃 14号墳	〃 門 15.6						○	
22-15	4 〃 15号墳	〃 門 15						○	
22-16	4 〃 16号墳	〃 門 20.2						○	
22-17	4 〃 17号墳	〃 門 9.1						○	
22-18	4 〃 18号墳	〃 前方後門 26.8						○	土取りによる破壊の可能性あり
22-19	4 〃 19号墳	〃 門 11						△	土取りによりほとんど 消滅寸前
22-20	4 〃 20号墳	〃 門 15						○	
22-21	4 〃 21号墳	〃 前方後門 16						○	
22-22	4 〃 22号墳	〃 前方後門 23.5						○	
22-23	4 〃 23号墳	〃 門 5.5						○	
22-24	4 〃 24号墳	〃 門						×	調査あり
22-25	4 〃 25号墳	〃 門						×	調査あり
22-26	4 〃 26号墳	〃 門						×	
22-27	4 〃 27号墳	大井字船戸山2291 ~2292	門? 12~14.8					○	
22-28	4 〃 28号墳	大井字下堀込一帯	門 20					○	
23	4 茨輪古墳群	大井字中台428				前方後門1基、円墳3基			
23-1	4 茨輪1号墳	〃 前方後門 36						○	
23-2	4 〃 2号墳	大井字中台428	門 10					○	
23-3	4 〃 3号墳	大井字中台山下 2695、2696	門					×	
23-4	4 〃 4号墳	大井字中台7289	門 13					○	
24	4 大久保古墳	高崎字大久保361	門 8.5					△ (?)	
25	4 徳ノ口古墳	高崎字徳ノ口409	門 9					△	

番号 図号	名称	所在地	形状	面積 (㎡)	用途	内部施設	備考	通 達 方 法	備 考
26	4 前田古墳群	高崎字前田99、91-3	門 5					○	
27	4 高瀬古墳群	高崎字高瀬1691-1	門 8			方墳1基、円墳1基		○	
27-1	4 高瀬1号墳	〃	門					×	(?)
27-2	4 〃 2号墳	高崎字高瀬259-3	方(円)? 22	有				×	不明
28	4 高内古墳	高崎字高内137-2	門					○	
29	4 天神山古墳群	高崎字天神山486	門			前方後門1基、円墳5基		○	
29-1	4 天神山1号墳	〃	門 17.8					○	
29-2	4 〃 2号墳	〃 491	前方後門 30					○	
29-3	4 〃 3号墳	〃 503	門 10.1					○	(現状埋没)
29-4	4 〃 4号墳	〃 514	門 15					○	
29-5	4 〃 5号墳	高崎字早稲田517	門 13					○	
29-6	4 〃 6号墳	〃 519	門					×	
30	4 高瀬古墳	高崎字高瀬430-2	門 10~14					○	
31	4 北ノ内古墳群	高崎字北ノ内307	門 9.5			1基(少なくとも1基は円墳)		○	
31-1	4 北ノ内1号墳	〃	門					○	
31-2	4 〃 2号墳	〃 325	門 10			円墳跡	石式石棺?	○	墳高30cm、埋葬正五節 向き
31-3	4 〃 3号墳	〃	門					○	
31-4	4 〃 4号墳	〃	門 15.4					○	
35	4 高井古墳	高崎字高井山323	門 5~5.5					○	
32	4 松之木古墳	高崎字松之木301	門					×	
33	4 藤田古墳	高崎字藤田171	不明					×	
36	4 後原古墳	高崎字後原1159	門					○	
37	4 大仏古墳	高崎字大仏山34-2	門 7					×	
39	9 藤ヶ谷古墳群	藤ヶ谷				3基			
39-1	9 藤ヶ谷1号墳	〃	不明					×	
39-2	9 〃 2号墳	〃	〃					×	
39-3	9 〃 3号墳	〃	〃					×	
38	9 松之木古墳群	高崎字松之木				円墳3基			
38-1	9 松之木1号墳	〃	門 8					○	
38-2	9 〃 2号墳	〃	門 7					○	
38-3	9 〃 3号墳	〃	門 7					×	
40	9 高瀬古墳	高崎字高瀬455-486	門 8					×	
41	4 ぶちが神古墳	高崎字ぶちが神259-2	不明					×	
42	4 高井古墳	高崎字高井山2145	不明					×	
43	4 高井古墳群	高崎字高井山76-1				円墳4基			
43-1	4 高井1号墳	〃	門 5						
43-2	4 〃 2号墳	〃	門 4						
43-3	4 〃 3号墳	〃	門 5						
43-4	4 〃 4号墳	〃	門 4						
44	4 切通古墳(新堀込)	高崎字切通 L1365	門 5					○	
45	4 ヨコシ古墳	高崎字ヨコシ				円墳1基			
45-1	4 ヨコシ1号墳	〃	門 7					○	
45-2	4 〃 2号墳	〃	門 3					○	
45-3	4 〃 3号墳	〃	門 8					○	
45-4	4 〃 4号墳	〃	門 10					○	
46	4 片山古墳群	片山				前方後門1基、上円下方墳1基、 方墳4基、円墳9基			
46-1	4 片山1号墳	〃	門 4					○	
46-2	4 〃 2号墳	〃	門 5.7					○	
46-3	4 〃 3号墳	〃	門 5.5					○	
46-4	4 〃 4号墳	〃	門 5.1					○	
46-5	4 〃 5号墳	〃	門 6					○	
46-6	4 〃 6号墳	〃	門 3.3					○	

序号	名称	所在地	房型	建筑面积 (平方米)	周期	结构	内部面积	租金	备注
48-7	片山7号房	片山	房	4					○
48-8	片山8号房	片山	房	3.6					○
48-9	片山9号房	片山	房	3.4					○
48-10	片山10号房	片山	房	4.2					○
48-11	片山11号房	片山	房	5					○
48-12	片山12号房	片山	房	3.1					○
48-13	片山13号房	片山	房	3.5					○
48-14	片山14号房	片山	房	4.2					○
48-15	片山15号房	片山	房	5.3					○
48-16	片山16号房	片山	房	7.5					○
48-17	片山17号房	片山	房	5.1					○
48-18	片山18号房	片山	房	3					○
48-19	片山19号房	片山	房	3					○
48-20	片山20号房	片山	房	4.9					○
48-21	片山21号房	片山	房	11					○
48-22	片山22号房	片山	房	4.4					○
48-23	片山23号房	片山	房	4.3					○
48-24	片山24号房	片山	房	2.4					○
48-25	片山25号房	片山	房	4.5					○
48-26	片山26号房	片山	房	3.2					○
48-27	片山27号房	片山	房	4.2					○
48-28	片山28号房	片山	房	5.7					○
48-29	片山29号房	片山	房	3.6					○
48-30	片山30号房	片山	房	3.8					○
48-31	片山31号房	片山	房	9.5					○
48-32	片山32号房	片山	房	7					○
48-33	片山33号房	片山	房	6.9					○
48-34	片山34号房	片山	房	7.9					○
48-35	片山35号房	片山	房	4					○
48-36	片山36号房	片山	房	7.4					○
48-37	片山37号房	片山	房	6.4					○
48-38	片山38号房	片山	房	4.7					○
48-39	片山39号房	片山	房	4.9					○
48-40	片山40号房	片山	房	6.9					○
48-41	片山41号房	片山	房	7.4					○
48-42	片山42号房	片山	房	5					○
48-43	片山43号房	片山	房	5.7					○
48-44	片山44号房	片山	房	5.6					○
48-45	片山45号房	片山	房	5.1					○
48-46	片山46号房	片山	房	6					○
48-47	片山47号房	片山	房	5.8					○
48-48	片山48号房	片山	房	10.1					○
48-49	片山49号房	片山	房	4					○
48-50	片山50号房	片山	房	5.8					○
48-51	片山51号房	片山	房	5.8					○
48-52	片山52号房	片山	房	11.4					○
48-53	片山53号房	片山	房	6.4					○
48-54	片山54号房	片山	房	7.9					○
48-55	片山55号房	片山	房	4.6					○
48-56	片山56号房	片山	房	8					○
48-57	片山57号房	片山	房	7.6					○
48-58	片山58号房	片山	房	4					○
48-59	片山59号房	片山	房	5					○
48-60	片山60号房	片山	房	5.5					○
48-61	片山61号房	片山	房	5.3					○
48-62	片山62号房	片山	房	8.4					○

地番 番号	名 称	所 在 地	地 形	面積 ㎡(坪)	用途	建築	内部施設	備 考	通行 券
48-53	4 片 山 63 号 墳	片 山	円	4.7					○
48-54	4 " 64 号 墳	"	円	4.9					○
48-55	4 " 65 号 墳	"	円	5.4					○
48-56	4 " 65 号 墳	"	円	6.2					○
48-57	4 " 67 号 墳	"	円	5.6					○
48-58	4 " 68 号 墳	"	円	4.6					○
48-59	4 " 69 号 墳	"	円	7					○
48-60	4 " 70 号 墳	"	円	4.2					○
48-71	4 " 71 号 墳	"	円	6.2					○
48-72	4 " 72 号 墳	"	円	6.2					○
48-73	4 " 73 号 墳	"	円	7					○
48-74	4 " 74 号 墳	"	上円下方?	上円4.2 下方6.8					○
48-75	4 " 75 号 墳	"	円	6.3					○
48-76	4 " 76 号 墳	"	(円)	9.4		(倉庫跡)			○ 西立壁あり、礎
48-77	4 " 77 号 墳	"	円	8.8					○
48-78	4 " 78 号 墳	"	円	6					○
48-79	4 " 79 号 墳	"	円	5					○
48-80	4 " 80 号 墳	"	方?	5.85					○
48-81	4 " 81 号 墳	"	前方後円	15.3					○ 調査区あり
48-82	4 " 82 号 墳	"	方(円)	16 18.4	青				○
48-83	4 " 83 号 墳	"	方	14					○
48-84	4 " 84 号 墳	"	円	7.5					○
48-85	4 " 85 号 墳	"	円	7					○
47-1	4 北ノ作 古墳群	片山平北ノ作							
47-2	4 北ノ作 1 号 墳	"	円	17		竈石跡	前方後円墳1基、円墳1基		
47-2	4 " 2 号 墳	"	前方後円	30		竈石跡2	石刀、刀子、鉄片、鉄、銅線、鉄鏃、勾玉、耳環、土師器	1969年調査	
49	4 六 本 松 古墳	新戸字本松33、332	前方後円	25.1			菅玉、土師器		○ △
50	4 西 原 古 墳 群	新戸字西原					円墳2基		
50-1	4 西 原 1 号 墳	"	円	5					○
50-2	4 " 2 号 墳	"	円	4					○
51	9 下 瀬 戸 古 墳 群	瀬戸字舞台					円墳4基		
51-1	9 下 瀬 戸 1 号 墳	"	円						
51-2	9 " 2 号 墳	"							
51-3	9 " 3 号 墳	"	円						
51-4	9 " 4 号 墳	"	円						
52	4 中 瀬 古 墳 群	瀬戸字中瀬407-1					円墳2基		
52-1	4 中 瀬 1 号 墳	"	円	4					○ 下瀬戸7号墳
52-2	4 " 2 号 墳	"	円	4					○ 下瀬戸6号墳
53	9 南 郷 古 墳 群	郷戸字南郷					方墳1基、円墳2基		
53-1	9 南 郷 1 号 墳	"	円	8					○ 下瀬戸7号墳
53-2	9 " 2 号 墳	"	円	4					○ 下瀬戸4号墳
53-3	9 " 3 号 墳	"	方?	6×8					○ 遺構あり
46	4 小 松 山 古 墳 群	片山字松山					円墳3基		
46-1	4 小 松 山 1 号 墳	"	円	15					× 銅剣・コマンD古銅群
46-5	4 " 2 号 墳	"	円	11					×
46-3	4 " 3 号 墳	"	円	7					×
54	9 仙 作 第 1 古 墳 群	手賀字仙作					方墳1基、円墳3基		
54-1	9 仙 作 第 1、1 号 墳	"	円	7					○
54-2	9 " 2 号 墳	"	円	6					○
54-3	9 仙 作 第 3 古 墳 群	"	円	6					○
54-4	9 " 4 号 墳	"	方	7					○
56	9 仙 作 第 2 古 墳 群	手賀字南郷					円墳6基(不正円1基を含む)		
56-1	9 仙 作 第 2、1 号 墳	"	円	8					○

番号	国号	名称	所在地	地 形	面積(㎡)	用途	内部施設	備 考	通 車	備 考
56-2	9	耕作第2、2号渠	手賀字南郷	不明 (南門部)	12-13 5-6				○	
56-3	9	" 3号渠	"	円	15				○	
56-4	9	" 4号渠	"	円	13				○	
56-5	9	" 5号渠	"	(円)	2				○	
56-6	9	" 6号渠	"	對方後円	2				○	
58	9	耕作古渠	手賀字耕作	円	13.6 24.1		庭刀、刀子、鉄線、鍍金具、白土、 写馬也、炭盆部(炭盆)一辺分	× 1978年無断廃棄		
55	4.9	家 出 口 古 渠	手賀字原出口						○	
55-1	4.9	家 出 口 1号渠	"	円	9.6				○	
55-2	4.9	" 2号渠	"	円	9.8				○	
55-3	4.9	" 3号渠	"	円	10				○	
55-4	4.9	" 4号渠	"	円	7.4				○	
55-5	4.9	" 5号渠	"	円	4				○	
55-6	4.9	" 6号渠	"	円	6.6				○	
55-7	4.9	" 7号渠	"	円	9.2				○	
55-8	4.9	" 8号渠	"	円	2.6				○	
55-9	4.9	" 9号渠	"	円	5.8				○	
55-10	4.9	" 10号渠	"	円	12				○	
57	9	家 古 渠	手賀字部1620地						○	
57-1	9	家 1号渠	"	円					○	
57-2	9	" 2号渠	"	円					○	
57-3	9	" 3号渠	"	円					○	
57-4	9	" 4号渠	"	円					○	
57-5	9	" 5号渠	"	円					○	
57-6	9	" 6号渠	"	円					○	
57-7	9	" 7号渠	"	円					○	
57-8	9	" 8号渠	"	円					○	
57-9	9	" 9号渠	"	円					○	
57-10	9	" 10号渠	"						○	
59	9	龜 田 古 渠	市原						○	
59-1	9	龜 田 1号渠	"	円	6				○	
59-2	9	" 2号渠	"	円	5				○	
59-3	9	" 3号渠	"	円	7				○	
59-4	9	" 4号渠	"	円	4				○	
59-5	9	" 5号渠	"	円	4				○	
59-6	9	" 6号渠	"	円	6				○	
59-7	9	" 7号渠	"	円	5				○	
59-8	9	" 8号渠	"	円	(3)				○	
59-9	9	" 9号渠	"						○	
59-10	9	" 10号渠	"						○	
60	9	水 崎 古 渠	市原字高野604-1	円	4.2				○	
61	9	新 堀 古 渠	市原字新堀						○	
61-1	9	新 堀 1号渠	"	円	8				○	
61-2	9	" 2号渠	"	円	15				○	
62	9	寺 原 東 原 古 渠	市原字東原						○	
62-1	9	寺 原 東 原 1号渠	"	円	10				○	
62-2	9	" 2号渠	"	円	7				○	
62-3	9	" 3号渠	"	円	6				○	
63	4	家 戸 古 渠	市原字西口						○	
63-1	4	家 戸 1号渠	市原字西口	円	7.4				○	
63-2	4	" 2号渠	"	円	9.1				○	
63-3	4	" 3号渠	"	円	4.3				○	
63-4	4	" 4号渠	"	円	5.3				○	
63-5	4	" 5号渠	"	円	5.4				○	
64	4	家 戸 古 渠	市原						○	

番号	国号	名称	所在地	地 形	面積(㎡)	用途	内部施設	備 考	通 車	備 考
64-1	4	家 戸 1号渠	市原	円					○	
64-2	4	" 2号渠	"	円					○	
64-3	4	" 3号渠	"	円	3				○	
64-4	4	" 4号渠	"	円					○	
65	4	方 屋 古 渠	市原字方屋107-1						○	
66	4	池 田 古 渠	市原字島村520地						○	
67	4	名 寄 向 山 古 渠	市原字向山3122地						○	
68	4	中 田 古 渠	市原字中田782						○	
69	9	市 原 向 山 古 渠	市原字向山2400-1						○	
70	9	藤 々 谷 十三 号	藤々谷字十三号						○	
70-1	9	(十三号)古渠	藤々谷字十三号						○	
70-2	9	" ①	"	円	3.5				○	
70-3	9	" ②	"	円	3.5				○	
70-4	9	" ③	"	円	4.2				○	
70-5	9	" ④	"	円	3.5				○	
70-6	9	" ⑤	"	円	4.2				○	
70-7	9	" ⑥	"	円	5.6				○	
70-8	9	" ⑦	"	円	3.5				○	
70-9	9	" ⑧	"	円	3.5				○	
70-10	9	" ⑨	"	円	4.2				○	
70-11	9	" ⑩	"	円	2.6				○	
70-12	9	" ⑪	"	円	3.5				○	
70-13	9	" ⑫	"	円	3.5				○	

■松 戸 市

番号	国号	名称	所在地	地 形	面積(㎡)	用途	内部施設	備 考	通 車	備 考
1	8	小 金 古 渠	小金西原平内山 大谷口中間						○	
1-1	8	小 金 1号渠	小金西原平内山	円	30				○	
1-2	8	" 2号渠	"						○	
1-3	8	" 3号渠	小金西大谷口中間						○	
1-4	8	" 4号渠	"						○	
1-5	8	" 5号渠	"						○	
1-6	8	" 6号渠	"						○	
2	8	久 保 平 古 渠	小金よしヶ丘3 丁目	円	16.5				○	
3	8	新 井 古 渠	八ヶ崎新井						○	
4	8	外 池 水 渠	千駄堀清水						○	
5	8	子 作 渠	市原	円	15				○	
6	8	鉄 砲 渠	上本郷3丁目						○	
7	8	洲 立 渠	五香六東五香新町						○	
8	8	日 暮 古 渠	日暮小山台						○	
9	8	天 神 山 古 渠	松戸新田天神山	円	21	○			○	
10	8	竹 花 古 渠	小堀久保	円					○	
11	8	けいせい 渠	谷間内山						○	
12	8	富 山 渠	谷間内山						○	
13	8	河 原 古 渠	河原古渠 新井古渠						○	
13-1	8	河 原 1号渠	河原古渠						○	
13-2	8	" 2号渠	"						○	
13-3	8	" 3号渠	"						○	
13-4	8	" 4号渠	"						○	
13-5	8	" 5号渠	河原古渠						○	

序号	项目编号	名称	所在地	建筑形式	建筑面积 (平方米)	用途	内部设施	备 注	备注
14	8	观之亭古墳群	紙張渡之台					×	
15	8	新 鶴 台 塚	〃新鶴台		12×21			○	
16	8	观之花渡跡	〃观花・関本	方型周溝墓				×	
17	8	門 雲 古 墳 群	高橋新開内野	円					
17-1	8	門 雲 1 号 跡	〃						
17-2	8	〃 2 号 蹟	〃					×	
17-3	8	〃 3 号 蹟	〃					×	
18	8	崖山古墳群	黄山立出止・佐野・峠上						
18-1	8	崖山 1 号 塚	〃	円	13	○	大刀(供)	○	
18-2	8	崖山 2 号 塚	〃	円	9				
19	8	稻 横 台 古 墳 群	稻横・稻横台			○			

■市 川 市

序号	剧目名称	所在地	类别	演出时间	海报	缩略图	内部播放	照 景	演 员	备注
1	16 乐 山 吉 剧	舞台艺术3559-2	内		内附		士郎御		△ 陈佩文	
2	16 明 声 吉 剧	舞台艺术3567-6	内	40(2)	内附		陈式武		△ 安海平、王福利用	
3	16 陈 德 吉 剧	舞台艺术3511-31	内	30(4)	内附		大九、曹玉、姚斌、周凡、李金海、金、曾玉、尤孟、姚斌、士郎御、李		○ 中内	
4	16 张 德 吉 剧	舞台艺术3560	内	43					○ 中内	
5	16 陈 德 山 吉 剧	舞台艺术3560	内	30					○ 陈旭	
6	16 太 康 吉 剧	舞台艺术35418	内	20			铁刀		○ 陈旭	

■船 橋 市

序号	项目编号	名称	所在地	地形	海拔 (m) GPS点 是否在建	用途	馆藏	内部设施	展 示	备注
1	9	露 作 台 古 蹟	景美町露作台	凹?	不明				X	假滅、道路
2	9	華 盛 龍 站 摩 古 蹟	臺南車站						X	碼頭、海堤
3	9	橋 < 山 吉 蹟	橋<山町	方?	16				X	荒地
4	10	飯 山 滿 古 蹟	高城町芝山	凹?					X	塚々、灌溉、湖地
5	10	大 日 尊 古 蹟	飯山(山)丁	凹?					X	
6	10	前 原 摩 古 蹟	前原4丁目	凹	12				X	林洋藏家、宅地
7	10	既 聖 吉 蹟	夏見2丁目北原池	凹	6.5				O	神社內
8	10	夏 見 吉 蹟	夏見2丁目西原堀	凹	12				O	神社內
9	10	花 庭 摩 古 蹟	夏見2丁目花輪	凹	8			跡大刀、人骨		
12	10	藤 神 吉 蹟	藤神5丁目	凹	50		上野郡		X	空地、住宅群、土庫聚 集、中央直道
11	10	印 市 寄 蹟	印市町出戸	凹	7				△	縣奉順內
13	10	山 野 古 蹟	船和1丁目	凹?					X	荒地
10	10	綿 谷 古 蹟	龜形町屋敷字井田	凹					X	石村、鐵線
14		松 ノ 越 古 蹟				人 命 (溺斃)				船橋市、歷史資料館藏
		佐 竹 ノ 越				人 命 (溺斃)				香川庵氏藏
		從 徑 輪 加 土 地					内溝			66後、船橋市郷土資料 館藏
15		熊倉神下藏出土物					内溝			66前、船橋市郷土資料 館藏

■習志野市

序号	图例	名称	所在地	地形	面积 ($\times 10^4$ 平方米)	周界	库容	内部建设	备 注	备注	备 考
2	17	张 神 社 古 观	蒙 城 1 丁 村	青 瓦 灰 瓦	40					○	石 碑
1-1	17	皇 后 人 物 塑	9 处	青 瓦 灰 瓦	307			甍 式 石 室?	土 雕 塑	○	〈 九 县 〉 在 皇 后 石 祠
1-2	17	“ 五 帝 塑	9	瓦				胎 式 石 棺 $\times 2$	直 刀、刀 矛、铁 钩、白 玉、人 骨	○	
1-3	17	“ C 号 塑	9	瓦							

■八千代市

番号	国名	名 称	所 在 地	墳 形	横径(長さ) 縦径(高さ)	周長	地盤	内部施設	簡 易 図	遺跡 の 備 考	
1	9	平戸古墳群	平戸町上ノ山					円墳6基(10-15m級)、方墳1基、うち円墳2基納藏	△	1971年一基調査	
2	9	田原野古墳	嘉田市田原	円	15			西式石棺	○	1960年調査	
3	9	真木野古墳群	嘉田市真木山台	円	15	○			○		
4	9	関見穴古墳群	嘉田市関見					円墳3基(10-20m級)	○		
5	9	山分古墳	嘉田市山分	円	20				○		
6	17	美納古墳群	美納市美納					帆立貝式、円墳1		1972年調査	
6-1	17	美納1号墳	〃	円	25.5	○	木棺直葬	甕72、射、鉄鍬5以上、鉄地金銅押金金	×	〃	
6-2	17	〃2号墳	〃	帆立貝	34	○	〇	形象埴輪、円筒埴輪	×	〃	
7	17	寛地ノ古墳群	寛田市寛地ノ谷	円	22			甕	○	1967年調査	
8	17	七百倉神社古墳群	松江市宇内	円	15				○		
9	17	横上神社古墳群	松江市日動	前方後円	40	○		神社に、前方部、後部を分離した。	○		
10	17	村山古墳群	村上市黒山台					方形埴輪、円形埴輪2が存在したが、古墳は2基のみ	×	1975年調査	
10-2	17	〃3号墳	〃	円	4	×	木棺直葬	埴輪埴片	×	〃	
10-3	17	〃3号墳	〃	円	11-13.8	×	木棺直葬	甕71、刀子、鉄鍬6、ガラス小皿1個、勾玉1、小玉1	×	〃	
11	17	井戸向遺跡	寛田市井戸向					方形埴輪埴片	×	1960調査	
11-1	17	井戸向遺跡M065遺跡	寛田市井戸向	方形周溝	8.5×8.0	○	木棺直葬	方形埴輪埴片3基	×	1969年調査	
11-2	17	〃M066遺跡	〃	〃	5.3×10.1	○		甕	×	〃	
11-3	17	〃M067遺跡	〃	〃	8.8×11.0	○		土師埴片	×	〃	
12	17	カサ川遺跡	大船橋町ツツヤ山					方形埴輪埴片3基	×	1961年調査	
12-1	17	〃M081号墳	〃	方形周溝	9.7×10.5	○	木棺直葬	鉄鍬、勾玉、瓦土、土師埴器、埴、高杯	×	〃	
12-2	17	〃M082号墳	〃	〃	7.8×8.6	○	木棺直葬(簡便型)	管玉、篋、篋	×	〃	
12-3	17	〃M083号墳	〃	〃	4.7×5.8	○		高杯1、篋片	×	〃	
13	17	上ノ山古墳群	寛田町上ノ山					円墳2基(10-15m級)	○		
14	17	仲山古墳群	勝田市仲山					円墳2基	○		
15	17	村上藩11号墳	村上町上ノ内谷	方	17×22	○		横穴式石室 甕、刀、鉄鍬、勾玉(宝篋印)、鹿刀、鉄刀、金銅器、鉄鍬、勾玉、切子玉、ガラス玉、(前部部)	×	1973年調査	
16	9	神野芝山古墳群	神野市芝山					円墳4基、2基納藏	○	1972年一部調査	
16-1	9	〃1号墳	〃	円			回廊式石棺	琺瑯、刀、人骨(明治前期に盗掘されたと思われる)	×	〃	
16-2	9	〃2号墳	〃	円	30	○	回廊式石棺	刀子、鉄鍬、勾玉、波紋銅製玉、管玉	△	1972年全部調査	
16-3	9	〃3号墳	〃	円	20				△		
16-4	9	〃4号墳	〃	円	16.40	○	回廊式石棺	石枕、鉄、鉄、刀子、形象埴輪	×	1971年土取りの為調査	
17	9	保良黄谷古墳群	保良市黄谷台					円形埴輪、方形埴輪	×	〃	
17-1	9	〃古墳	〃	円			回廊式石棺	刀子、鏡、刀子、鉄鍬、馬具鉄勾玉、波紋銅製玉、ガラス玉	×	1955年主体部の調査	
18	9	おおびた遺跡	保良市御賀	円	25				×	1973年調査	
19	9	栗丸遺跡	大船橋町宇美大台					方墳2基が存在したといふ。回廊式石棺のお台が残る。	×	〃	
20	9	雁台崎古墳群	大和田市雁台崎					回廊式石棺	鉄鍬、鉄鍬、人骨	×	1983年石棺のみの調査
21	9	下高野新山遺跡	下高野町新山	円	18	○		周溝のみ調査		1968年調査	

■白井町

序号	田間 點號	名 稱	所 在 地	境 形	備註 (田間點 不在田內)	周 邊	地 點	內 部 設 施	經 界	備 考
1	8	名 內 古 墳	中野大塚	円						
2	9	何 屋 子 1 号 墳	何屋字草嶺	円						
3	9	何 古 墳 跡	平塚字小嶺	円						
4	9	小 瀧 邊 跡	平塚字小瀧下	円						
5	9	小 瀧 入 口 邊 跡	平塚字小瀧	円						
6	9	中 台 入 口 邊 跡	平塚字太北	円						
7	9	平塚本圖2号邊跡	平塚字北山	円						
8	9	平 塚 邊 跡	"	円						

番号	国名 国番号	名称	所在地	地形	面積 1000平方 メートル	用途	種類	内部施設	備 考	通称	備 考
9	9	＊ 1号道	平野字北口	円							
10		本郷道	平野字本郷	円							
11		本郷2号道	＊	円							
12		＊ 1号道	平野字遠久保地								
13		真木ノ内道	平野字真木ノ内					円3基			
14		武山道	谷田字武山	円							
15		新田道	谷田字新田	円							
16		谷田道	神・畑字横込					円3基			
17		阿高子2号	白井字高田ノ上	円							
18		西道	水字西条	円							
19		木道	＊	円							
20		野口道	水字野口	円							
21		白井道	根平字人塚	円							
22		田井道	根平字谷津	円							
23		白井新田1号	根平字根	円							
24		＊ 2号道	根平字金塚	円							
25		白井木戸道	根平上	円							

■印 西 町

序号	窑址名称	所在地	地形	窑口方位	窑场	窑址	内部构造	窑型	窑底	备注
1	大窑台古窑	高要新田乡大窑台	円	20					○	
2	窑田古窑	塘朗乡田田	円	18			横穴式石室	封土失火。正厅部の一部を復元する	△	
3	石塘台古窑	高要新田乡石塘	円	23	○				○	
4	板塘古窑	白鵝乡神头	円	20					○	
5	塘朗古窑	塘朗乡山下	前方後円	不詳					○	
6	窑作古窑	塘朗乡大窑	円	20					△	
7	松山2号窑	塘朗乡松山下	円	15					○	
8	松山1号窑	塘朗乡中沙里	円	22	○	水坑直井	甕刀、刀子、磨盤、玉柄		×	
9	小窑古窑	小窑乡堤边	円	18					×	
10	兵寨山古窑	大新乡小山岗							×	
11	塘朗古窑	和皮乡棠涌	円	24					○	
12	集古窑	集古	円	8					△	
13	塘朗山古窑	大新乡塘朗					円腹2室		×	1974年調査
13-1	○ 1号窑	○	円	18	○		横穴式石室		×	
13-2	○ 2号窑	○	円	16	○				×	
14	塘朗古窑	大新乡塘朗	円	15	○		横穴式石室?		△	
15	上塘古窑	大新乡上塘					横穴式石室	人骨片、鉄器片、磨盤碎片	△	1972年調査
16	大塘古窑	大新乡塘朗	前方後円	35?			○			
17	八家台古窑	大新乡八家台	円	10				附近に小墓土が存在し、曜の可能性が高い	△	
18	三台古窑	大新乡三台台							×	
19	塘朗古窑	大新乡塘朗	円?						×	
20	坪之内古窑	竹岐乡坪之内	円	18			横穴式石室?		○	
21	水冲古窑	竹岐乡水冲					円腹2室(10×6m)1室南側		○	
22	夏古窑	平岡乡夏	円	10					○	
23	西谷古窑	平岡乡西谷	円	15					○	
24	塘朗古窑	別洞乡塘朗					円腹2室(10-15×6m)		×	
25	张次石洞台古窑	竹岐乡张次石洞台	円	不詳	不詳	不詳			×	
26	道古窑	小塘乡马场					前方後円腹3室、円腹5室(10×18×6m)、方腹1室(18×6)、円腹2室南側		○	
26-1	○ 4号窑	○	前方後円	17					○	
26-2	○ 5号窑	○	前方後円	18					○	
26-3	○ 8号窑	○	前方後円	30					○	
26-15	○ 15号窑	○	前方後円	45			円腹横穴式石室		○	

序号	国名	名称	所在地	形状	用途	種類	内部構造	観 望	保存	備 考
27	10	馬 場 占 墳	〃	前方後円	20			水害は濠作方墳群中に含まれるものと思われる	○	
28	10	駒 形 占 墳	〃	前方後円	20				○	
29	10	硯 田 占 墳 群	小村字磯台						○	
30	10	鶴 塚 占 墳	小村字磯山	円	44	○	木棺直葬3、横棺1	円径21(15×横)。横棺片横置 (墓主横臥、横刀、ガラス玉、(墓主に付)鉄刀、鉄鏃、刀、刀、銅鏃、磁石、ガラス玉、滑石製小玉、(墓主に付)鉄刀、鉄鏃、滑石小玉、磁石、(横棺)滑石製小玉	×	1974年度
31	10	小 村 占 墳 群	小村字磯山							
31-1	10	〃 1 号 墳	〃	円	18.5	○	木棺直葬	直刀、鉄鏃、青瓦、ガラス玉、横玉、小形銅刀(硬玉製)	×	1974年度
31-2	10	〃 2 号 墳	〃	円	14		木棺直葬	銅鏃、ガラス玉	×	〃
31-3	10	〃 3 号 墳	〃	長 円	9.6×12.0				×	〃
31-4	10	〃 4 号 墳	〃	円	10		木棺直葬	鉄鏃	×	〃
32	北ノ内	占 墳 群	越前守字北ノ内	円	12				△	
33	10	東 光 院 占 墳	越前守字/馬	円	15				△	
34	10	寺 岡 占 墳	越前守字大久保	不詳	不詳			主部碑のみ残存というが、現図でみず		
35	10	寺 岡 占 墳	竹炭字寺岡							

■本 塾 町

番号	国名	名称	所在地	地形	建造物 の出現 状況	周壁	垣牆	内部施設	備 考	備考	考
1	10	施 3 号 墳	施	方	8					△	
2	10	内 畑 古 墳 群	竜平内畑						方2段(5~7m級)で構成される。 壁の可能性が高い	○	
3	10	竜 3 号 墳	竜字修正先合							×	
4	10	仙 元 峠 古 墳	竜字仙峠	方	7				壁の可能性が高い	○	
5	10	竜 2 号 墳	竜字登方台	円	13					○	
6	10	竜 1 号 墳	竜字大下町	円	8				壁の可能性が高い	△	
7	10	竜 龍 寺 2 号 墳	竜龍寺字大塚道						円形壁が3段(3~15m級)が連続に並ぶが、中央部へ存在する4mの(円形16m)が遺構か?	○	
8	10	＊ 1 号 墳	竜龍寺	円	18					△	
9	10	竜 龍 寺 古 墳 群	中候字大山								
10	10	天 王 前 方 墳	中候字天王前	円	12				円形壁に12新(3~10m級)、方形礎石(10m)がある。更平古墳群ととらえられているが、壁群の可能性が高い。	○	
11	10	竜 龍 寺 古 墳	中候字古墳	円	15	壁				○	
12	10	天 王 前 古 墳	竜龍寺字天王前西	円	10					○	
13	10	別 母 古 墳	竜龍寺字別母	方	20					○	
14	10	角 田 古 墳 群	角田字角田						円形礎石(3~8m)かななる。	○	
15	10	門 屋 敷 遺 跡	中候字門屋敷						築ありというが中候確認できず。		
16	10	門 屋 敷 遺 跡	中候字荒道						築ありというが確認できず。		
17	10	笠 神 古 墳 群	笠字神衣作西						円形小礎石(2~3m)3基かななる。 更平古墳群ととらえられているが壁の可能性が高い。	○	

■印 旂 村

序号	屋号	名称	所在地	地帯	現存状況	用途	種類	内部形状	概 算	測量	備 考
1	1	庫 / 原古墳跡	吉田寺西ノ原		現存				前方後円墳3基、円墳3基(5.6-15m級)		一部1978年調査
1-2	1	≡ 3号庫		吉方後円	30	○					△
1-3	1	≡ 3号庫		吉方後円	30	○					△
1-5	1	≡ 5号庫	吉田寺御山	円	15						△
2	1	崖戸 蘇志 土庫跡	松戸市古志						円形土庫3基(8m級)、方型土庫(12m)、壁2基からなる。		青山古墳
3	1	崖戸 灰 土古庫	松戸市古志	円	10						
4	1	崖戸 殿用土古庫跡	松戸市古志田						円形土庫4(7-8m級)、矩室土庫2とよからなる。昭和40年調査		

番号	図面番号	名称	所在地	地 形	面積 (㎡)	用途	内部施設	備 考	通 査	備 考
5	10	岩戸聖天古墳群	岩戸聖天				円形6基(10~14m径)、分布地帯上に前方後円墳の土壌があるが今後は掘査されなかった。	○		
6	10	岩戸鳥居古墳群	岩戸鳥居				5基の小墳(3~8m径)からなる。塚の可能性が高い。	○		
7	10	岩戸石井古墳群	岩戸石井				5mの方形墳1基、塚と思われる。2号墳遺構により調査。	○		
8	10	岩戸池ノ下古墳	岩戸池ノ下	円	9			○		
9	10	岩戸鳥居古墳群	岩戸鳥居				円形5基(10.5~16m径)うち1基は墳前部掘査される。	○		
10	10	岩戸市南古墳	岩戸市南					×		
11	10	岩戸前作古墳	岩戸前作	円	8		墳前部に土壌がみつかる。	△	異形、石神様	
12	10	岩戸前作古墳	岩戸前作	方	25			○		
13	10	岩戸前作古墳	岩戸前作	方	18			○		
14	10	藤岡鳥居古墳群	藤岡鳥居				前方後円墳2基、円形4基と記載されているが、今後は円形2基(10m径)を確認したのみである。自然地形の調査あり。	○		
15	10	藤岡山古墳	藤岡山	円	12.5		円形1、方墳1からなる。	○	1985年調査	
16	10	藤岡山古墳	藤岡山	円	12		周辺部分のみ調査、墳址状況保存。	○		
16-1	10	1号墳		円	12			○		
16-2	10	2号墳		方	21	○	地式石棺	○		
17	10	藤岡山古墳	藤岡山				円形2基(11~12m径)	△		
18	10	藤岡山古墳	藤岡山				円形2基(11~12m径)	○		
19	10	藤岡山古墳	藤岡山				円形2基(11~12m径)、方墳2基(8~10、3m径)と記載されている。塚の可能性もある。	○		
20	10	藤岡山古墳	藤岡山				円形2基(12~25m径)	○		
21	10	藤岡山古墳	藤岡山				円形2基(12~25m径)	○		
22	10	藤岡山古墳	藤岡山				円形2基(12~25m径)	○		
23	10	藤岡山古墳	藤岡山				円形2基(12~25m径)、小塚2基(円形4m)	○		
24	10	藤岡山古墳	藤岡山				円形小塚2基(3~5m径)、塚群の可能性が高い。	○		
25	10	藤岡山古墳	藤岡山	円	25			○		
26	10	藤岡山古墳	藤岡山	方	25.4		円形石棺	×	1976年調査	
27	10	青島山王2号古墳		円	10			○		
28	10	青島山王2号古墳					墳穴7基存在。	△		
29	10	青島山王2号古墳					円形7基(5.5~11.5m径)	△		
30	10	青島山王2号古墳						×		
31	10	青島山王2号古墳					直方、人骨	×		
32	10	青島山王2号古墳					円形2基(23~32m)	○		
33	10	青島山王2号古墳					円形2基(12~15m径)うち1基は地式石棺遺構。確認できず。	×		
34	10	青島山王2号古墳					前方後円墳3基、円形15基(7~28m径)	○		
34-1	10	1号墳		方	25			○		
34-2	10	2号墳		方	28			○		
34-3	10	3号墳		方	27			○		
35	10	青島山王2号古墳		円	12			○		
36	10	青島山王2号古墳					円形2基(5~17m径)、1基は塚の可能性あり。	○		
37	10	青島山王2号古墳		円	17			○		
38	10	青島山王2号古墳					前方後円墳2基(20~21.5m径)、円形4基(5~16m径)11基調査。	△		
39	10	青島山王2号古墳					旧藤岡町、市井、西古墳群を結合。前方後円墳1基、円形10基(10~20m径)、方墳2基(15~18m径)からなる。塚群、調査4基。	△	ネトラス管内にあり 鉄線が通む。	
39-1	10	1号墳		方	43	○		△		

番号	図面番号	名称	所在地	地 形	面積 (㎡)	用途	内部施設	備 考	通 査	備 考
40	10	山田山古墳群	山田山				方墳3基(5~9m)古墳と記載があるが、塚の可能性が高い。	△		
41	10	山田山古墳群	山田山				円形2基(4~6m径)	△		
42	10	山田山古墳群	山田山				山田山古墳群	△		
43	10	山田山古墳群	山田山				山田山古墳群	△		
44	10	山田山古墳群	山田山				山田山古墳群	△		
45	10	山田山古墳群	山田山				山田山古墳群	△		
46	10	山田山古墳群	山田山				山田山古墳群	△		
47	10	山田山古墳群	山田山				山田山古墳群	△		
48	10	山田山古墳群	山田山				山田山古墳群	△		
49	10	山田山古墳群	山田山				山田山古墳群	△		
50	10	山田山古墳群	山田山				山田山古墳群	△		
51	10	山田山古墳群	山田山				山田山古墳群	△		
52	10	山田山古墳群	山田山				山田山古墳群	△		
53	10	山田山古墳群	山田山				山田山古墳群	△		
54	10	山田山古墳群	山田山				山田山古墳群	△		
55	10	山田山古墳群	山田山				山田山古墳群	△		
56	10	山田山古墳群	山田山				山田山古墳群	△		
57	10	山田山古墳群	山田山				山田山古墳群	△		
58	10	山田山古墳群	山田山				山田山古墳群	△		
59	10	山田山古墳群	山田山				山田山古墳群	△		
60	10	山田山古墳群	山田山				山田山古墳群	△		
61	10	山田山古墳群	山田山				山田山古墳群	△		
62	10	山田山古墳群	山田山				山田山古墳群	△		
63	10	山田山古墳群	山田山				山田山古墳群	△		
64	10	山田山古墳群	山田山				山田山古墳群	△		
65	10	山田山古墳群	山田山				山田山古墳群	△		
66	10	山田山古墳群	山田山				山田山古墳群	△		
67	10	山田山古墳群	山田山				山田山古墳群	△		
68	10	山田山古墳群	山田山				山田山古墳群	△		
69	10	山田山古墳群	山田山				山田山古墳群	△		
70	10	山田山古墳群	山田山				山田山古墳群	△		
71	10	山田山古墳群	山田山				山田山古墳群	△		
72	10	山田山古墳群	山田山				山田山古墳群	△		
73	10	山田山古墳群	山田山				山田山古墳群	△		
74	10	山田山古墳群	山田山				山田山古墳群	△		
75	10	山田山古墳群	山田山				山田山古墳群	△		
76	10	山田山古墳群	山田山				山田山古墳群	△		
77	10	山田山古墳群	山田山				山田山古墳群	△		
78	10	山田山古墳群	山田山				山田山古墳群	△		
79	10	山田山古墳群	山田山				山田山古墳群	△		
80	10	山田山古墳群	山田山				山田山古墳群	△		
81	10	山田山古墳群	山田山				山田山古墳群	△		
82	10	山田山古墳群	山田山				山田山古墳群	△		
83	10	山田山古墳群	山田山				山田山古墳群	△		
84	10	山田山古墳群	山田山				山田山古墳群	△		
85	10	山田山古墳群	山田山				山田山古墳群	△		
86	10	山田山古墳群	山田山				山田山古墳群	△		
87	10	山田山古墳群	山田山				山田山古墳群	△		
88	10	山田山古墳群	山田山				山田山古墳群	△		
89	10	山田山古墳群	山田山				山田山古墳群	△		
90	10	山田山古墳群	山田山				山田山古墳群	△		
91	10	山田山古墳群	山田山				山田山古墳群	△		
92	10	山田山古墳群	山田山				山田山古墳群	△		
93	10	山田山古墳群	山田山				山田山古墳群	△		
94	10	山田山古墳群	山田山				山田山古墳群	△		
95	10	山田山古墳群	山田山				山田山古墳群	△		
96	10	山田山古墳群	山田山				山田山古墳群	△		
97	10	山田山古墳群	山田山				山田山古墳群	△		
98	10	山田山古墳群	山田山				山田山古墳群	△		
99	10	山田山古墳群	山田山				山田山古墳群	△		
100	10	山田山古墳群	山田山				山田山古墳群	△		

栄町

番号	図面番号	名 称	所 在 地	地 形	面積 (㎡)	用途	内部施設	備 考	通 査	備 考
1	5A	武 蔵 野 古 墳	安食字大台	円	24	円			○	
2	5A	三 嶋 古 墳	安食三嶋	円	18				○	
3	5A	小 台 1 号 墳	永曜字小台	前方後円	37、	○	簡式石棺	直刀、刀子、釵、金環、管玉、小玉、鉄、漆	×	1975年調査
4	5A	小 台 2 号 墳	〃	前方後円	26.5	○	簡式石棺?	土師器、杯、土器	×	〃
5	5B	上 町 古 墳	興隆字上原	円	12				×	
6	5B	北 辺 田 古 墳	興隆字北辺					内径1番からなっていたという。径約1番(10～15m)	×	
7	5B	上 原 古 墳	興隆字上原					内径4番(10～20m)域、1番部露出	×	
8	5B	〃 下 占 墳	興隆字下占			○	簡式石棺	直刀、釵玉、勾玉	×	
9	5B	円 城 中 央 穴 郭	竜馬寺字円城寺					径4.2m四方	○	
10	11	西 宮 道 古 墳	西宮	前方後円	21				×	
10-1	11	〃 K-2 号 墳	〃	円	21	○	木棺蓋部	直刀、刀子、土玉	×	最古年代推定?号墳
10-2	11	西宮道跡第1地点 方形周溝状遺構-1	〃	方 形 周 溝	19.00			土師器、埴	×	
10-3	11	〃 2	〃	方 形 周 溝	7.6-9.4	○			×	
10-4	11	〃 3	〃	方 形 周 溝	12.4× 15.3		木棺蓋部		×	
10-5	11	〃 4	〃	方 形 周 溝	6.7	○			×	
10-6	11	方形周溝状遺構-5	西宮	方 形 周 溝	2220× 2680	○		土師器、釵、杯、土玉、鈎環、高杯	×	1980年調査
11		竜 内 寺 尾 上 道 跡	竜内寺字尾上	方		○			×	1980年調査
12	11	新 方 古 墳	竜内寺字新方	円					×	

番号	図号	名称	所在地	形状	面積 (㎡)	用途	内部施設	備考	備考
13-11	11	東向寺古墳群	東向寺大字	円形	30	○		東向寺にまたがる古墳群(13の5、 400m以内の範囲に存在する(北方後門 第28、方後5、円後32))	○
13-12	11	1号墳	南方後門	30	○		13-1参院の事	○	1980年調査
13-13	11	2号墳	南方後門	32.5	○	円			○
13-14	11	4号墳	南方後門	19	○	円			○
13-15	11	5号墳	南方後門	36	○	円			○
13-16	11	9号墳	南方後門	39	○	円			○
13-17	11	19号墳	南方後門	42	○	円			○
13-18	11	21号墳	南方後門	27	○	円			○
13-19	11	24号墳	南方後門	28	○	円			○
13-20	11	25号墳	南方後門	21	○	円			○
13-21	11	30号墳	南方後門	16	○	円			○
13-22	11	31号墳	南方後門	26	○	円			○
13-23	11	37号墳	南方後門	31	○	円			○
13-24	11	42号墳	南方後門	22	○	円			○
13-25	11	44号墳	南方後門	19	○	円			○
13-26	11	47号墳	南方後門	26	○	円			○
13-27	11	48号墳	南方後門	32	○	円			○
13-28	11	50号墳	南方後門	46	○	円			○
13-29	11	56号墳	南方後門	28	○	円			○
13-30	11	57号墳	南方後門	48	○	円			○
13-31	11	58号墳	南方後門	25	○	円			○
13-32	11	65号墳	南方後門	14.4- 18.9	○	円			○
13-33	11	66号墳	南方後門	19	○	円			○
13-34	11	68号墳	南方後門	30	○	円			○
13-35	11	70号墳	南方後門	43	○	円			○
13-36	11	71号墳	南方後門	27	○	円			○
13-37	11	72号墳	南方後門	30	○	円			○
13-38	11	73号墳	南方後門	19	○	円			○
13-39	11	74号墳	南方後門	22	○	円			○
13-40	11	75号墳	南方後門	22	○	円			○
13-41	11	77号墳	南方後門	34	○	円			○
13-42	11	104号墳	方	35	○	円			○
13-43	11	105号墳	方	78	○	円			○
13-44	11	106号墳	方	35	○	円			○
13-45	11	108号墳	方	17	○	円			○
13-46	11	110号墳	方	26	○	円			○
13-47	11	111号墳	南方後門	66	○	円			○
13-48	11	112号墳	方	30	○	円			○

佐倉市

番号	図号	名称	所在地	形状	面積 (㎡)	用途	内部施設	備考	備考
1	18	光崎高塚1号墳	光崎字久保山	円	13	○		石段が出土したと伝えられる	△ 宇南高、④-1
2	18	光崎花作1号墳	光崎字花作	円	9	○			○
3	18	光崎宮ノ崎1号墳	光崎字宮ノ崎	円	10	○			○
4	18	小竹吉原東古墳群	小竹字吉原東	円	8	○			○
5	18	岸野成山1号墳	岸野字成山	円	12	○			○
6	18	上志摩大塚1号墳	上志摩字大塚	円	12	○			○
7	18	八幡古墳群	白井字八幡台	円	30	○			○
7-1	18	八幡台1号墳	方	○	○				○
7-2	18	2号墳	方	○	○				○

番号	図号	名称	所在地	形状	面積(㎡)	周長	築造	内部施設	備考	備考	備考
8	18	神楽崎古墳群	下志摩市、新井					円形5基(8-12m級)	△		
9	18	板橋作古墳群	下志摩市板橋					前方後円墳3基、方墳2基、方形周溝墓23基		1976年度	
9-1	18	板橋作1号墳	下志摩市板橋	前方後円	25	35.5	○	木柵直葬	(主身体部)ガラス玉、(剣玉、周溝)銅鏡、藍唐胡乳白磁土器	○	県指定史跡
9-2	18	" 2号墳	"	前方後円	29.5	36.5	○	未調査	墓、銅鏡、小形埴土器、香炉、甕、高杯、銅製唐大刀	○	"
9-3	18	" 3号墳	"	方	9.5-12		○	"	墓、小形埴土器	○	"
9-4	18	" 4号墳	"	方	9-11		○	"	墓、小形埴	○	"
9-5	18	板橋作連塚D-01	下志摩市板橋	方	4.8-6.0		○	鏡	○	縣指定史跡	
9-6	18	" D-02	"	方	3.8-4.0		○	"	○	"	
9-7	18	" D-03	"	方	6.5-7.0		○	小形埴土器、甕、高杯	○	"	
9-8	18	" D-04	"	方	6.2-6.5		○	甕	○	"	
9-9	18	" D-05	"	方	4.7-5.5		○	"	○	"	
9-10	18	" D-06	"	方	16.5		○	甕、香炉、小形埴	×	"	
9-11	18	" D-07	"	方	18.5-20		○	甕、鏡、小形埴	×	"	
9-12	18	" D-08	"	方	4.9-5.2		○	周溝内土坑(組合式式土坑)	×	"	
9-13	18	" D-09	"	方	7.0-9.0		○	周溝内土坑	×	"	
9-14	18	" D-10	"	方	7.0-7.9		○	(周溝内土坑)勾玉、水石製玉、ガラス玉、香玉、(周溝)	×	"	
9-15	18	" D-11	"	方	8.0		○	小形埴土器	×	"	
9-16	18	" D-12	"	方	9.7-10.3		○	甕、小形埴	×	"	
9-17	18	" D-13	"	方	12.8-13.0		○	甕	×	"	
9-18	18	" D-14	"	方	9.3		○	甕	×	"	
9-19	18	板橋作連塚D-15	下志摩市板橋	方	7.2-8.7		○	甕	×	"	
9-20	18	" D-16	"	方	9.5-9.8		○	鏡、香炉	×	"	
9-21	18	" D-17	"	方	10.2-11.0		○	"	×	"	
9-22	18	" D-18	"	方	15.8-17.1		○	甕	×	"	
9-23	18	" D-19	"	方	10.8-10.3		○	甕、甕	×	"	
9-24	18	" D-20	"	方	10.1-11.9		○	甕、台付埴	×	"	
9-25	18	" D-21	"	方	11.0		○	甕、甕	×	"	
9-26	18	" D-22	"	方	7.0		○	"	×	"	
9-27	18	" D-23	"	方	6.5		○	"	×	"	
10	18	石神古墳群	日井台字石神					前方後円墳1、円墳2、方墳2	×	1973年度	
10-1	18	石神1号墳	"	円	21.5	31.0	○	"	×	"	
10-2	18	" 2号墳	"	円	12	32.0	○	周溝内土坑木柵直葬	×	"	
10-3	18	" 3号墳	"	前方後円	14.5	?	○	"	×	"	
11	18	日井井戸東古墳群	日井台字井戸					2基、供食皿、人骨	×	"	
12	18	日井小塚古墳群	日井小塚台					前方後円墳1、方墳1、円墳1	×	1989年度	
12-1	18	日井小塚台1号墳	日井小塚台	前方後円	29.0	34.0	○	円	×	1989年度	
13	18	光崎寺東古墳群	日井台字光崎	前方後円	現存12			タケノコに隠し石造出土	△		
14	18	上野成山古墳群	土師字小塚	円	11			"	△		
15	18	上野成山1号墳	土師字二峰	円	8			"	△		
16	18	" 2号墳	"	円	6			"	△		
17	18	飯野見通し古墳	飯野見通し	円	30			"	△		
18	18	飯山古墳群	飯山寺町字上山					円形1基(8-25m級)、半径が15m程度の	○		
19	18	飯野堀ノ内古墳群	飯野堀ノ内					円形1基(7-12m級)	○		
20	18	飯野神古墳群	飯野神町					円形2基(8m級)	△		
21	18	飯山小塚古墳群	飯山寺町字小塚	円	24		○	直刀、鉄鏡	○	1981年度	
22	18	飯山古墳群	飯山寺町					円形2基(8-16m級)	○		
23	18	飯田1号墳	飯田町	円	9			"	○		
24	18	飯田下新田古墳群	飯田町下新田					円形6基(7-20m級)	○		

番号	名称	所在地	形状	面積(㎡)	用途	内部施設	備考	備考
25	山崎のようたん墓古墳	下郷字上代	前方後円墳	37	○	伝説的に門があったと云う	○	市指定文化財
26	木 宮 墳	並木町高在	前方後円	現存13			△	
27	大崎古墳、C地区古墳	六崎大崎台				方形周溝墓13基のうち発生家一斉掘削調査、毛織成地先行して調査済	△	1989年調査
27-18	大崎古墳8号方形周溝墓	六崎大崎台	方形周溝	7.0~7.78	○		×	
27-19	〃 9号方形周溝墓	〃	方形周溝	14.4	○	水鏡遺跡	×	
27-10	〃 10号方形周溝墓	〃	方形周溝	15.8	○		×	
27-11	〃 11号方形周溝墓	〃	方形周溝	8.3~8.5	○	台石葺	×	
27-12	〃 12号方形周溝墓	〃	方形周溝	14.0~16.6	○		×	
27-13	〃 13号方形周溝墓	〃	方形周溝	27.2~28.2	○		×	
28	柿 作 遺 跡	六崎字柿作	方形周溝	13.8	○		×	1984年調査
29	鉢木園跡会1号墳	鉢木園跡会	円	16			△	
30	鉢木園跡会2号墳	六崎字平台	円	10			△	
31	石川古墳	六崎字石川		20		円 周		
32	石川1号墳	石川字大塚	円	21~27	○	築式石葺	×	1972年調査
33	大崎塚古墳古墳群	大崎塚字西台				前方後円墳、円墳1	○	1982年調査
33-1	大崎塚古墳1号墳	〃	前方後円	35			○	
33-2	〃 2号墳	〃	円	30			○	
34	大 崎 塚 古 墳	大崎塚字上代	前方後円	30	○	築式石葺	×	1979年調査、大崎塚2号墳
35	小崎塚八幡前古墳群	小崎塚字八幡前				円墳2、方墳1	○	別称上人塚、市指定文化財
35-1	小崎塚八幡前3号墳	〃	方	22			○	
36	高屋古墳群	高屋字北間				前方後円墳、円墳8基(10~20m級)	○	1958年調査
36-1	高 宮 古 墳	高宮字高宮	前方後円	23	○	築式石葺	×	
37	高屋古墳山台古墳群	高屋古墳山台				円墳2(15~25m)	○	
38	坂戸字北塚1号墳	坂戸字北塚	円	18			○	
39	坂戸字北塚2号墳	坂戸字北塚	円	14			○	
40	坂戸字北塚3号墳	坂戸字北塚	円	29			○	
41	岩宮古墳山台古墳群	岩宮古墳山				円墳6(8~15m級)	○	
42	藤 原 古 墳	内田字向山					○	
42-1	〃 7号墳	〃	円	18	○		△	1974年調査
42-2	〃 15号墳	〃	前方後円	38			△	
42-16	〃 16号墳	〃	円			築式石葺	×	
43	宮内字平古墳群	宮内字平				石葺内には朱塗りがされていると云われる。竪穴	×	
43-1	〃 1号墳	〃	前方後円	35	○	前方後円墳1、円墳8(8~24m)	○	
44	高宮本村古墳群	高宮字本村				前方後円墳1、円墳8(10~15m)	○	
44-1	〃 8号墳	〃	前方後円	26			△	
45	七曲古墳1号墳	七曲字古墳	円	15			○	
46	七曲古墳2号墳	七曲字古墳	円		○		×	
47	西郷門所古墳古墳群	西郷門所古墳				円墳2(10~12m)	△	
48	西郷門所古墳1号墳	西郷門所古墳	円	30			△	
49	西郷門所古墳2号墳	西郷門所古墳	円	24			△	
50	神 門 2 号 墳	神門字古谷	前方後円	16	○		×	
51	新 山 古 墳 群	上代字新山				鉄剣、勾玉、形勢墓、円形周溝	×	遺物東京国立博物館
51-1	新 山 1 号 墳	〃	方	20.1	○	水鏡遺跡	×	
51-2	〃 2号墳	〃	方	20.3	○	水鏡遺跡、古鏡(美濃産)等出土	×	1964年調査
52	上代権成古墳1号墳	上代字権成	円	10			△	
53	高 岡 大 山 遺 跡	高岡字大山				方形周溝墓4基	△	1989年調査
53-1	〃 1号方形周溝墓	〃	方形周溝		○		×	
53-2	〃 2号方形周溝墓	〃	方形周溝		○	水鏡遺跡	×	
53-3	高岡大山古墳群跡	高岡字大山	方形周溝		○		×	
53-4	〃 4号方形周溝墓	〃	方形周溝		○		×	

番号	名称	所在地	形状	面積(㎡)	用途	内部施設	備考	備考
54	高岡大山1号墳	高岡字大山	前方後円	15			△	
55	高岡大山2号墳	高岡字大山	円	14			△	
56	八木字古墳1号墳	八木字古墳	円	8			△	
57	下郷田古墳1号墳	下郷田古墳	円	10			△	
58	下郷田古墳2号墳	下郷田古墳	円	10			△	
59	下郷田古墳3号墳	下郷田古墳	円	10			△	
60	天辺内山古墳群	天辺内山				1基、1基開口	△	
60-1	天辺内山1号墳	〃	前方後円	35			△	
60-2	〃 2号墳	〃	円	13			△	
61	上郷田古墳1号墳	上郷田古墳	円	8			△	
62	上郷田古墳2号墳	上郷田古墳	円	8.6~9.2			△	
62-1	〃 1号方形周溝墓	〃	方形周溝	11	○		×	
62-2	〃 2号方形周溝墓	〃	方形周溝	11	○		×	
63	向山古墳1号墳	向山古墳	円	12.5	○		×	
64	新代古墳群1号墳	新代古墳	円	11.9~12.2			×	
65	立 山 遺 跡	立山遺跡	円	25.3	○		×	
65-1	〃 1号墳	〃	円	25.3	○		×	
65-2	〃 2号墳	〃	円	23.5	○		×	
66	立 山 3 号 墳	立山古墳	円	25.5	○		×	
66-1	〃 1号墳	〃	円	22.7~23.2			×	
66-2	〃 2号墳	〃	円	22~26			×	
66-3	〃 3号墳	〃	円	15.1	○		×	
66-4	〃 4号墳	〃	円	26.8	○		×	
66-5	〃 5号墳	〃	円	22.2	○		×	
67	高 岡 大 山 遺 跡	高岡字大山					×	
68	高 岡 大 山 遺 跡	高岡字大山					×	

美々井町

番号	名称	所在地	形状	面積(㎡)	用途	内部施設	備考	備考
1	下 郷 田 古 墳 群	下郷田古墳	円	20			△	
2	伊 藤 石 古 墳 群	伊藤石古墳	円	30			△	
2-1	〃 1号墳	〃	前方後円	30			△	
3	伊 藤 石 古 墳 群	伊藤石古墳	円	30			△	
4	上郷田古墳古墳群	上郷田古墳	円	30			△	
5	上郷田古墳古墳群	上郷田古墳	円	30			△	
6	伊 藤 石 古 墳 群	伊藤石古墳	円	30			△	
7	伊 藤 石 古 墳 群	伊藤石古墳	円	30			△	
7-1	〃 1号墳	〃	前方後円	30			△	
8	伊 藤 石 古 墳 群	伊藤石古墳	円	30			△	
9	伊 藤 石 古 墳 群	伊藤石古墳	円	30			△	
10	伊 藤 石 古 墳 群	伊藤石古墳	円	30			△	

番号	図号	名 称	所 在 地	構 形	面積 (㎡)	形状	内部施設	備 考	備考
13-21	11	＝ 21号墳	＝	円	15	平円状 ○		横置石棺(円蓋内)	×
13-22	11	＝ 22号墳	＝	円	17-18.5	○	木棺蓋葬	焼酎1、刀子1	×
13-23	11	＝ 23号墳	＝	円	10	○	＝	刀子1、鉄鏝1	×
13-27	11	＝ 27号墳	＝	円	22-25	○	横穴式石室	鉄片1、金銅片1(石室内)、鉄鏝20、 鉄鍬部(板蓋内)	×
13-28	11	＝ 28号墳	＝	円	14	○	木棺蓋葬	銅、刀子1、鉄鏝20	×
13-29	11	＝ 30A号墳	＝	円	14	○			×
13-30	11	＝ 30B号墳	＝	円	14.5	○			×
13-31	11	＝ 31号墳	＝	円	15				×
13-32	11	＝ 32号墳	＝	円	26	○	(照主)木棺蓋葬 (照主)木棺蓋葬	石枕1、立花片1、刀子2、鉄鏝4、鍬 1、刀子1(照主)、鋸片1、鋸片1、 刀子1(照主)、人物埴輪、鳥形埴輪、 円蓋埴輪	×
13-33	11	＝ 33号墳	＝	円	16-18	○	木棺蓋葬	刀子1、銅刺1、鉄鏝14	×
13-34	11	＝ 34号墳	＝	円	11	○		鉄鏝1	×
13-35	11	＝ 35A号墳	＝	円	8	○	木棺蓋葬	鉄鏝4	×
13-36	11	＝ 35B号墳	＝	円	9.3	○		鉄鏝3、鉄片1	×
13-38	11	＝ 36号墳	＝	方	11	○	横穴式石室	人骨(石室内)、横置石片葬1、平皿1	×
13-39	11	＝ 38号墳	加良郡丁目	方	22-29	○	横穴式石室	金銅1(石室内)、横置石片葬1(石室内)	×
13-40	11	＝ 39号墳	＝	方	20	○	＝	刀子1、鉄鏝数個、円蓋状鉄片付 1、鉄片2	×
13-40	11	＝ 40号墳	赤坂2丁目	方	10×14	○	円蓋式石棺	方横穴式(石室内)、木石金銅葬1 1、鉄片数個1、金木48(石室内)、 鈴、 足環1、鉄鍬部2(石室内)	×
13-41	11	＝ 41号墳	加良郡丁目	方	12×16	○	横穴式石室	重刀1、鉄鏝10、銅片1、横置部平皿 2、鉄鍬1(石室内)、金銅類数個1、 やちふ丸、鉄鍬部、鉄片1、引手 2、銅片1	×
13-42	11	墓 塚 42号墳	加良郡6丁目	方	13	○	＝	横置部平皿1(石室内)	×
13-43	11	＝ 43号墳	円	1	8	○		×	×
13-44	11	＝ 44号墳	中谷6丁目	方	11.5×12	○	横穴式石室	横置部平皿数個1(横置部)	×
13-45	11	＝ 45号墳	加良郡6丁目	方	13	○		土師器(横置部)	×
13-46	11	＝ 46号墳	横置台1丁目	方	18	○	木棺蓋葬	白土41	×
13-47	11	＝ 47号墳	＝	方	16	○		銅1、刀子1、白土1	×
13-48	11	＝ 48号墳	＝	方	18	○		鉄鍬(射土中)	×
13-49	11	＝ 13号墳	赤坂2丁目	方	18	○	木棺蓋葬		×
14	11	横 置 台 穴 葬 墳	横置台	横 穴				4基	○
15	11	山 口 古 墳 群	山口平天神台					円形墓(10-20基)	○
16	11	熊 倉 遺 跡	土屋字熊倉	円	21	○			○
17	11	千 幡 堂 遺 跡	台方字千幡					方2基	○
17-1	11	千 幡 1号墳	＝	方	36	○	(照主)横穴式石室 (照主)横穴式石室		○
18-1	11	勝 徳 寺 古 墳 群	北高賀					前方後円蓋3基、円蓋2基、横置1基	○
18-2	11	勝 徳 寺 2号墳	＝	前方後円	54			横置部に玉座部のものと思われる 骨片群あり。	○
18-3	11	＝ 3号墳	＝	前方後円	38				○
18-5	11	＝ 5号墳	＝	前方後円	48				○
19-1	11	丘 部 台 古 墳 群	台方字江川能					円墳1(25m径)、方墳1(32m)	○
20-1	11	台 方 1号墳	＝	円				円墳12基(10-15m径)	○
20-4	11	＝ 4号墳	＝	円	10.5	○		15号墳前に溝渠、銅、石枕が出土し、 成田屋宝樹に所蔵されたという	×
21	11	大 塚 古 墳	大字字牧谷	円	20			円形横置石棺、極めて大塚であっ たと見られる。	△
22	11	大 塚 古 墳 遺 跡	大字字池田					横、玉座	△
23	11	宗 宮、原 方 連 跡	宗宮、原村					横置1基(10m径)	○
23-1	11	宗宮、原村方1号墳	宗宮二丁目	前方後円	70			横置1基(10-15m径)	△
23-2	11	＝ 2号墳	＝	前方後円	30			横置1基(10-15m径)	△
23-3	11	＝ 3号墳	＝	前方後円	35	○	円蓋式石棺	横刀1、鉄鏝7点(横置部立骨等物類)	○
23-4	11	＝ 4号墳	＝	円	35	○		横置1基(10-15m径)	○

序号	项目编号	名称	所在地	地形	面积(公顷)	周长	结构	内部面积	建 筑	备注	备 考
24	5-B	藤 部 古 墳 群 土藏	藤部					円形12基(10~20m 横)		○	
25	11	土 堀 古 墳 群 土藏	土堀					円形3基(10~15m 横)		○	
26	11	八 幡 台 古 墳 群 芦田	芦田					円形14基(10~20m 横)		◎	
27	11	新 聖 古 墳 群 新聖	新聖					円形3基(10~15m 横)		○	
28	11	野 毛 平 古 墳 群 野毛平、余目3	野毛平、余目3					南方後門頂上、円形22基(内4基調査後消滅)			
29-1	11	≡ 001号墳	余目三毛瓦屯地	円	11.7	○		土師器底(周縁内)	×		
29-2	11	≡ 002号墳	≡	円	14.6	○			×		
29-3	11	≡ 003号墳	≡	円	19	○		土師器、埴、石製紡錘車(周縁内)	×		
29-4	11	≡ 跡田1号墳	≡	前方後円	21.7	○		甬式石棺	葦刀6、鉄劍14	×	
30-1	11	堀ノ内古墳群 堀之内	堀之内					円形6基(15m 横)		◎	
30-2	11	井 田 古 墳 群 井田	井田					円形3基(12~21m)並列式		○	
31	11	坂 間 台 古 墳 群 野毛平丘陵段	野毛平丘陵段					円形7基(10~15m 横)、形別不詳			
31-1	11	≡ 1号墳	≡	円	10	○		粘土棺(砂面磨石付石棺)	銅刀6、刀、大刀1、鉄劍10	×	
31-2	11	≡ 001号墳	≡ 604			○		木棺直葬	菅土、石製鏡道具(紡錘車、笄孔刀、鉄斧、鉄鏃)	×	
32	11	東 金 用 古 墳 群 野毛北寛金班	野毛北寛金班					円形3基(10~15m 横)		△	
33	11	國 戸 古 墳 群 國戸	國戸					円形跡、方墳1基			1980年調査
33-1	11	≡ 201号墳	≡	円	18.5	○		埴、土竹埴(周縁内)		×	
33-2	11	≡ 202号墳	≡	円	21.0	○				×	
33-3	11	≡ 203号墳	≡	円	12.2	○				×	
33-4	11	≡ 204号墳	≡	円	11.5	○				×	
33-5	11	≡ 205号墳	≡	円	13.5	○				×	
33-6	11	≡ 206号墳	≡	円	10.5	○				×	
33-7	11	≡ 207号墳	≡	円	12.5	○				×	
33-8	11	國 戸208号墳	國戸	円	12	○		土師器埴、埴、土師器埴		×	1980年調査
33-9	11	≡ 209号墳	≡	方	14	○					
34	11	廣 瀬 古 墳 群 廣瀬	廣瀬					葦刀内、埴2基		×	
34-15	11	≡ 15号墳	≡	南方後円	27	○		埴象形埴、円形埴輪		×	
35	11	川 原 台 古 墳 群 川原	川原					円形3基残存、一部消失		△	
36	11	久 米 野 古 墳 群 久米野、古釜、山之内	久米野、古釜、山之内					円形8基残存(10~15m 横)			
37	11	松 原 古 墳 群 深町	深町	円						×	
38	11	新 吉 倉 古 墳 群 新吉倉	新吉倉					菅器町にまたがる(富里1号参照)、窺穴1基のみ、他は消滅			

■四 街道市

序号	国号	名称	所在地	地形	面积(公顷)	用途	内部施設	概 要	調査年度	備 考
1	18	舞台 壱 壱	竜崎宇陀台					小規模な4軒かななり、2階を1階と認定する。	△	
2	18	御 山 道 壱	物立山御山					厚木道場、御火道場、田中道場と4に分類するが明確な区分がない。虎立跡、内門1、内方15、規程不明、(うち内門、内方13)と認定後使用済。		1684、85年調査
3-2	18	〃	〃	〃	11	○			×	〃
3-4	18	〃	〃	〃	23	○			×	〃
3-5	18	〃	〃	〃	5.0×5.1	○			×	〃
3-15	18	〃	〃	〃	23	○	階段石階		×	〃
								金剛鉄刀、直刀、刀矛、鉄鉋、勾玉、銅胎玉、管玉、ガラス管、白玉、黒玉	×	〃
2-19	18	〃	〃	〃	12	○			×	〃
2-30	18	〃	〃	〃	15	○			×	一部はブロンズをもつ
3-21	18	〃	〃	〃	20	○	階段石階		×	〃
								直刀、鉄鉋、ガラス玉、管玉	×	〃
2-35	18	〃	〃	〃	3.5	○			×	〃
2-36	18	〃	〃	〃	3.5	○			×	〃
2-31	18	〃	〃	〃	5.6	○			×	〃
2-36	18	〃	〃	〃	15	○	木葺葺葺		×	〃
								鐵刀、鉄鉋	×	〃

番号	図号	名称	所在地	地 形	面積 (㎡)	用途	内部施設	備 考	調査 年度	備 考
2-37	18	〃 OY-837	〃	方	3.8×4.3	〇		〃	〃	〃
2-42	18	〃 OY-842	〃	方	14.5	〇		〃	〃	〃
2-43	18	御山連部OY-843	物弁字御山	方	4.4×4.8	〇		〃	〃	〃
2-47	18	〃 OY-847	〃	方	9.5	〇		〃	〃	〃
2-59	18	〃 OY-850	〃	方	3	〇		〃	〃	〃
2-51	18	〃 OY-851	〃	方	4.5	〇		〃	〃	〃
2-52	18	〃 OY-852	〃	方	6.5	〇		〃	〃	〃
2-54	18	〃 OY-854	〃	方門	18	〇		〃	〃	〃
2-55	18	〃 OY-855	〃	方	7.0×8.0	〇		〃	〃	〃
2-58	18	〃 OY-858	〃					〃	〃	〃
3	18	浦 水 連 部	物弁字浦水					〃	〃	〃
3-1	18	〃 001号墳	〃	前方後円 (枕立瓦)	22	〇		〃	〃	〃
3-2	18	〃 001号墳	〃	前方後円 (枕立瓦)	28.2	〇		〃	〃	〃
3-3	〃	〃 001号墳	〃	前方後円 (枕立瓦)	22.7	〇		〃	〃	〃
3-4	18	〃 004号墳	〃	前方後円	24.2	〇		〃	〃	〃
4	18	新 久 連 部	物弁字新久					〃	〃	〃
4-1	18	〃 001号墳	〃	円	20	〇		〃	〃	〃
4-2	18	新 久 連 部 002	〃	円	15	〇		〃	〃	〃
4-3	18	〃 003	〃	前方後円 (枕立瓦)	26.5	〇		〃	〃	〃
4-4	18	〃 014	〃	方	5.1×5.2	〇		〃	〃	〃
5	18	出 口 連 部	物弁字出口					〃	〃	〃
5-1	18	〃 001	〃	前方後円 (枕立瓦)		〇		〃	〃	〃
5-2	18	〃 002	〃	前方後円 (枕立瓦)		〇		〃	〃	〃
6	18	出 口 連 部	物弁字出口					〃	〃	〃
7	18	物 弁 古 墳 群	物弁字出口					〃	〃	〃
7-1	18	物 弁 1 号 墳	物弁字浦水	円	20	〇		〃	〃	〃
7-10	18	〃 10号墳	〃	円	33	〇		〃	〃	〃
8	18	他 花 南 連 部	内黒田字他花					〃	〃	〃
8-1	18	〃 SX-01	〃	円	12.7	〇		〃	〃	〃
8-2	18	〃 SX-02	〃	円	18.4	〇		〃	〃	〃
8-3	18	〃 SX-03	〃	円	18.2	〇		〃	〃	〃
8-4	18	〃 SX-04	〃	円	11.8	〇		〃	〃	〃
8-5	18	他 花 南 SX-05	内黒田字他花	円	12.8	〇		〃	〃	〃
8-6	18	〃 SX-06	〃	円	8.9	〇		〃	〃	〃
8-7	18	〃 SX-07	〃	円	12.7	〇		〃	〃	〃
8-8	18	〃 SX-08	〃	前方後円? (枕立瓦)	8.4	〇		〃	〃	〃
8-9	18	〃 SX-09	〃	円	6.5	〇		〃	〃	〃
8-10	18	〃 SX-10	〃	円	6.9	〇		〃	〃	〃
8-11	18	〃 SX-11	〃	円	8.8	〇		〃	〃	〃
8-12	18	〃 SX-12	〃	円	7.5	〇		〃	〃	〃
8-18	18	〃 SX-18	〃	円	8.6	〇		〃	〃	〃
9	18	千 代 田 連 部	千代田、27日					〃	〃	〃

番号	図号	名称	所在地	地 形	面積 (㎡)	用途	内部施設	備 考	調査 年度	備 考
9-1	18	〃 A-1	〃	円	18.4	〇		〃	〃	〃
9-2	18	〃 A-2	〃	円	22.8	〇		〃	〃	〃
9-3	18	〃 A-3	〃	円	14.4	〇		〃	〃	〃
9-4	18	〃 A-4	〃	円	18.8	〇		〃	〃	〃
9-5	18	〃 A-5	〃	円	21.8	〇		〃	〃	〃
9-6	18	千 代 田 連 部 B-1	千代田、27日	円	19.0	〇		〃	〃	〃
9-7	18	〃 B-2	〃	円				〃	〃	〃
9-8	18	〃 B-3	〃	円	17.5	〇		〃	〃	〃
9-12	18	千 代 田 1 2 号 墳	千代田1丁目					〃	〃	〃
9-14	18	〃 14号墳	物弁字浦水	円	15			〃	〃	〃
9-17	18	〃 17号墳	〃	円	18	〇		〃	〃	〃
10	18	小 屋 / 内 連 部	物弁字小屋/内	円	23	〇		〃	〃	〃
11	18	入 / 谷 連 部	長岡字入/谷					〃	〃	〃
11-1	18	〃 1号墳	〃	円	17	〇		〃	〃	〃
12	18	大 部 山 下 古 墳 群	極山字大部山下					〃	〃	〃
13	18	西 津 古 墳 群	西津古墳群					〃	〃	〃
14	18	和 田 古 墳 群	和田古墳群					〃	〃	〃
15	18	川 戸 古 墳 群	山崎字川戸					〃	〃	〃
15-4	18	〃 4号墳	〃	円	15	〇		〃	〃	〃
16	18	相 / 谷 古 墳 群	川戸字相/谷					〃	〃	〃
16-1	18	相 / 谷 1 号 墳	川戸字相/谷	前方後円	22	〇		〃	〃	〃
17	18	西 戸 井 古 墳 群	西戸井古墳群					〃	〃	〃
18	23	西 / 内 古 墳 群	小名木字西/内					〃	〃	〃
19	23	廣 / 家 古 墳 群	古岡字廣/家					〃	〃	〃
20	23	外 野 古 墳	吉岡字外野	円	18			〃	〃	〃

■八 街 町

番号	図号	名称	所在地	地 形	面積 (㎡)	用途	内部施設	備 考	調査 年度	備 考
1	24	内 / 谷 古 墳 群	内谷字内/谷					〃	〃	〃
2	24	内 / 谷 古 墳 群	〃					〃	〃	〃
3	24	新 地 古 墳 群	新地字新地					〃	〃	〃
4	24	吹 煙 古 墳 群	吉岡字吹煙	円	14			〃	〃	〃
5	24	廣 家 古 墳 群	古岡字廣/家	円	12			〃	〃	〃
6	24	吉 岡 1 号 墳	吉岡字吉岡	前方後円 (枕立瓦)	29.5	〇		〃	〃	〃
7	24	廣 家 1 号 墳	吉岡字廣/家	前方後円 (枕立瓦)	50以上	〇		〃	〃	〃

■下 総 町

番号	図号	名称	所在地	地 形	面積 (㎡)	用途	内部施設	備 考	調査 年度	備 考
1	6	大 庭 古 墳 群	名木大庭					〃	〃	〃
2	6	大 庭 古 墳 群	名木大庭					〃	〃	〃
3	6	長 崎 古 墳 群	名木長崎					〃	〃	〃
4	6	廣 家 古 墳 群	名木廣家					〃	〃	〃
5	6	不 光 寺 古 墳 群	名木不光寺					〃	〃	〃
6	6	前 原 古 墳 群	名木前原					〃	〃	〃
7	6	大 庭 山 古 墳 群	森田山					〃	〃	〃
7-2	6	大 庭 山 2 号 墳	〃	前方後円	54			〃	〃	〃
8	6	高 古 墳 群	高古					〃	〃	〃
9	6	後 岡 古 墳 群	後岡					〃	〃	〃

番号	名称	所在地	地 形	面積(㎡)	用途	内部施設	備 考	通 達	備 考
10	宮 作 古 墳 群	高家台				前方後円墳2、円墳2	高台台地群		
11	宮 台 1 号 墳	高家台985	前方後円	28			○ 高台14号墳		
12	藤 山 古 墳 群	高家山				円墳2			
13	天 王 山 古 墳 群	小野殿作				円墳9			
14	小 野 殿 山 古 墳	小野殿1056	円						
15	SB 小 山 古 墳	大和郡小山台776	円				○		
16	SB 小 山 古 墳 群	大和郡小中内				前方後円墳1、円墳2			
17	SB 小 野 殿 山 古 墳	小野殿見原914	円						
18	SB 高 家 古 墳 群	小野宮台				円墳5			
19	SB 中 道 古 墳 群	小野中道				前方後円墳1、円墳2			
20	SB 高 家 古 墳 群	大和郡				円墳3			
21	SB 大 和 郡 内 宿 古 墳 群	大和郡内宿				円墳2	塚の可能地大		
22	SB 大 日 台 古 墳	大和郡	円						
23	SB 広 門 古 墳	大和郡広門589				円墳2			
24	SB 藤 山 古 墳 群	小野殿台				円墳4			
25	SB 高 家 古 墳 群	大和郡高家				前方後円墳2			
26	SB 大 和 郡 上 古 墳 群	大和郡上				円墳2			
27	SB 藤 山 古 墳 群	大和郡藤山							
28	SB 高 家 古 墳 群	高家山1444	円			前方後円墳1、円墳2	異域古墳群		
29	SB 高 家 古 墳 群	高家山1444		15			△		
30	SB 高 家 古 墳 群	高家山1444				前方後円墳1、円墳2	異域古墳群		
31	SB 高 家 古 墳 群	高家山1444				前方後円墳1、円墳2	異域古墳群		
32	SB 高 家 古 墳 群	高家山1444				前方後円墳1、円墳2	異域古墳群		
33	SB 高 家 古 墳 群	高家山1444				前方後円墳1、円墳2	異域古墳群		
34	SB 高 家 古 墳 群	高家山1444				前方後円墳1、円墳2	異域古墳群		
35	SB 高 家 古 墳 群	高家山1444				前方後円墳1、円墳2	異域古墳群		
36	SB 高 家 古 墳 群	高家山1444				前方後円墳1、円墳2	異域古墳群		
37	SB 高 家 古 墳 群	高家山1444				前方後円墳1、円墳2	異域古墳群		
38	SB 高 家 古 墳 群	高家山1444				前方後円墳1、円墳2	異域古墳群		
39	SB 高 家 古 墳 群	高家山1444				前方後円墳1、円墳2	異域古墳群		
40	SB 高 家 古 墳 群	高家山1444				前方後円墳1、円墳2	異域古墳群		
41	SB 高 家 古 墳 群	高家山1444				前方後円墳1、円墳2	異域古墳群		
42	SB 高 家 古 墳 群	高家山1444				前方後円墳1、円墳2	異域古墳群		
43	SB 高 家 古 墳 群	高家山1444				前方後円墳1、円墳2	異域古墳群		
44	SB 高 家 古 墳 群	高家山1444				前方後円墳1、円墳2	異域古墳群		
45	SB 高 家 古 墳 群	高家山1444				前方後円墳1、円墳2	異域古墳群		
46	SB 高 家 古 墳 群	高家山1444				前方後円墳1、円墳2	異域古墳群		
47	SB 高 家 古 墳 群	高家山1444				前方後円墳1、円墳2	異域古墳群		
48	SB 高 家 古 墳 群	高家山1444				前方後円墳1、円墳2	異域古墳群		
49	SB 高 家 古 墳 群	高家山1444				前方後円墳1、円墳2	異域古墳群		
50	SB 高 家 古 墳 群	高家山1444				前方後円墳1、円墳2	異域古墳群		
51	SB 高 家 古 墳 群	高家山1444				前方後円墳1、円墳2	異域古墳群		
52	SB 高 家 古 墳 群	高家山1444				前方後円墳1、円墳2	異域古墳群		
53	SB 高 家 古 墳 群	高家山1444				前方後円墳1、円墳2	異域古墳群		
54	SB 高 家 古 墳 群	高家山1444				前方後円墳1、円墳2	異域古墳群		
55	SB 高 家 古 墳 群	高家山1444				前方後円墳1、円墳2	異域古墳群		
56	SB 高 家 古 墳 群	高家山1444				前方後円墳1、円墳2	異域古墳群		
57	SB 高 家 古 墳 群	高家山1444				前方後円墳1、円墳2	異域古墳群		
58	SB 高 家 古 墳 群	高家山1444				前方後円墳1、円墳2	異域古墳群		
59	SB 高 家 古 墳 群	高家山1444				前方後円墳1、円墳2	異域古墳群		
60	SB 高 家 古 墳 群	高家山1444				前方後円墳1、円墳2	異域古墳群		

番号	名称	所在地	地 形	面積(㎡)	用途	内部施設	備 考	通 達	備 考
61	SB 高 家 古 墳 群	高家山	不 明						
62	SB 大 和 郡 内 宿 古 墳 群	大和郡内宿							

神 崎 町

番号	名称	所在地	地 形	面積(㎡)	用途	内部施設	備 考	通 達	備 考
1	高 家 古 墳 群	高家山	円						
2	高 家 古 墳 群	高家山	円						
3	高 家 古 墳 群	高家山	円						
4	高 家 古 墳 群	高家山	円						
5	高 家 古 墳 群	高家山	円						
6	高 家 古 墳 群	高家山	円						
7	高 家 古 墳 群	高家山	円						
8	高 家 古 墳 群	高家山	円						
9	高 家 古 墳 群	高家山	円						
10	高 家 古 墳 群	高家山	円						
11	高 家 古 墳 群	高家山	円						
12	高 家 古 墳 群	高家山	円						
13	高 家 古 墳 群	高家山	円						
14	高 家 古 墳 群	高家山	円						
15	高 家 古 墳 群	高家山	円						
16	高 家 古 墳 群	高家山	円						
17	高 家 古 墳 群	高家山	円						
18	高 家 古 墳 群	高家山	円						
19	高 家 古 墳 群	高家山	円						
20	高 家 古 墳 群	高家山	円						
21	高 家 古 墳 群	高家山	円						
22	高 家 古 墳 群	高家山	円						
23	高 家 古 墳 群	高家山	円						
24	高 家 古 墳 群	高家山	円						
25	高 家 古 墳 群	高家山	円						
26	高 家 古 墳 群	高家山	円						
27	高 家 古 墳 群	高家山	円						
28	高 家 古 墳 群	高家山	円						
29	高 家 古 墳 群	高家山	円						
30	高 家 古 墳 群	高家山	円						
31	高 家 古 墳 群	高家山	円						
32	高 家 古 墳 群	高家山	円						
33	高 家 古 墳 群	高家山	円						
34	高 家 古 墳 群	高家山	円						
35	高 家 古 墳 群	高家山	円						
36	高 家 古 墳 群	高家山	円						
37	高 家 古 墳 群	高家山	円						
38	高 家 古 墳 群	高家山	円						
39	高 家 古 墳 群	高家山	円						
40	高 家 古 墳 群	高家山	円						
41	高 家 古 墳 群	高家山	円						
42	高 家 古 墳 群	高家山	円						
43	高 家 古 墳 群	高家山	円						
44	高 家 古 墳 群	高家山	円						

■大 栄 町

番号 郡番号	名 称	所在地	地 形	面積 (㎡)	用途 (㎡)	内部施設	備 考	備 考
1	6 地蔵堂古墳群	福地山地区東部				円墳7		
2	6 土台古墳群	中野山土台				円墳2		
3	6 内野原古墳群	福地山内野				円墳5、不明1		
4	6 ヤナダ入1号墳	保土サダ入	円	15			○	
5	6 馬場原古墳群	保土馬場原				円墳7		
6	6 福河古墳群	保土福河原				円墳4		
7	6 福河古墳群	福河原				円墳3		
7-1	6 * 1号墳	*	方	15×8		方墳2 小形墳(第二七号墳)	×	
7-2	6 * 2号墳	*	方	10		方墳、有段石段墳2	×	
8	6 福の福古墳群	福野の福				円墳4		
9	6 かのへ原古墳群	村田新堀				前方後円墳1、円墳6、方墳1		
10	6 南台古墳群	村田南台				円墳3		
11	6 天の宮古墳群	村田天宮				円墳3		
12	6 所古墳群	所野口				前方後円墳7、円墳5		
13	6 神楽古墳群	新田神楽				円墳4		
14	6 吉屋古墳群	新田吉屋				墳形不明方墳3		
15	6 大岡古墳群	松子大岡				円墳2		
16	6 伊能古墳群	伊能渡内台				円墳1、不明5		
17	6 毛地下古墳群	伊能毛地下				円墳2		
18	6 藤道1号墳	藤山藤道	円	8			△	
19	6 十倉三1号墳	十倉三393-18	円	25			○	
20	6 一夜山古墳群	一夜山880	方	23			○	塚の可能性大
21	6 米光古墳群	宮岡米光台				円墳7		

■多 古 町

番号 郡番号	名 称	所在地	地 形	面積 (㎡)	用途 (㎡)	内部施設	備 考	備 考
1	12 平山古墳群	出羽平山				円墳3		
2	12 五十嵐古墳群	本三倉・谷三倉				円墳6、方墳2		
3	12 一本松古墳群	次瀬一本松				円墳3		
4	12 山王古墳群	次瀬山王				前方後円墳4、円墳7		
5	13 小三倉古墳群	谷三倉官台				円墳2		
6	13 熊鷹古墳群	熊鷹谷、尾ノ谷				前方後円墳1、円墳5		
6-2	13 * 2号墳	熊鷹谷3761	前方後円	71.5	円	土師器有段石段墳(環状土)	○	拾得古銭 内(子)銅貨
6-6	13 * 6号墳	* 3718	円	40		前方後円墳の可能性があります	○	
7	13 金屋古墳群	東部神金屋				円墳2		
8	13 北条古墳群	北条岡 今谷・福青山				前方後円墳1、円墳1、不明1		
8-3	13 * 3号墳	渡部岡 福青山747-1	前方後円	74	円	不明	○	北条系古墳
9	13 渡部古墳群	渡部岡渡部				円墳4		
10	13 熊古墳群	熊山、天神法				円墳10、不明1		
11	13 土仏古墳群	土仏・馬場ノ花				円墳12		
12	13 花立古墳群	新法花立				円墳3		
13	13 内野古墳群	新法内野				円墳12、方墳4		
14	13 馬場古墳群	新法馬場				円墳4		
15	13 石橋古墳群	次瀬石橋				円墳2		
16	13 西宮古墳群	西宮内宮				円墳3		
17	13 上人塚古墳群	西宮内宮上人塚				円墳2		
18	13 坂白古墳群	南坂白・北中				前方後円墳10、円墳4、方墳2		

番号 郡番号	名 称	所在地	地 形	面積 (㎡)	用途 (㎡)	内部施設	備 考	備 考
18-2	13 * 2号墳	北中太田1309-90	前方後円	50				
18-13	13 * 51号墳	北中太田1309-143	円	35				
19	13 御所古墳群	寺作山ノ下 御所山ノ下				円墳3		
20	12-28 坂古墳群	坂古・山王・山王前 坂古・山王・山王前				前方後円墳2、円墳3、方墳1		
20-2	12-20 * 2号墳	北中太田2467	前方後円	48				
21	12 江崎古墳群	江崎 江崎275-2		14				
22	12 間金古墳群	間金官台				円墳2		
23	12 加茂古墳群	加茂加茂183-6	方	14				
24	12 大蔵古墳群	新太田1372-4	方	20				
25	12 大蔵古墳群	多古寺 上ノ内・大蔵・金山 小蔵				円墳10、方墳3		
26	12 三朝寺古墳群	新太田三朝寺台 田内、新太田、新太田				前方後円墳4、円墳11、方墳1、不明1		
27	12 保宮古墳群	保宮 寺ノ下・寺ノ内 内・新太田				前方後円墳1、円墳1、方墳1、不明1		
28	12 新田古墳群	新田山新田台				円墳2		
29	12 白山古墳群	北中 谷ノ台・大蔵・白山				前方後円墳2、円墳4、方墳1、不明2		
30	12 飯土古墳群	北中飯土古墳 新太田古墳				前方後円墳1、円墳11、方墳4		
30-9	12 * 9号墳	北中飯土古墳2312	方	35				
31	12 芝木古墳群	新太田芝木1579-2	前方後円					
32	12 谷上古墳群	多古谷上・高野前				前方後円墳1、円墳3		
33	12 多古古墳群	多古台	円	19.5		木棺直葬		
34	12 五箇古墳群	五箇五箇				方墳2		
35	12 瓦反古墳群	瓦反瓦反				前方後円墳1		
36	12 下馬古墳群	新太田下馬				円墳4		

■東 瀬 町

番号 郡番号	名 称	所在地	地 形	面積 (㎡)	用途 (㎡)	内部施設	備 考	備 考
1	13 三本古墳群	三本三本331	不 明					
2	13 西野古墳群	西野西野2158				円墳3		
3	13 赤松古墳群	赤松赤松				円墳2		
4	13 外野古墳群	外野外野				円墳5		
5	13 渡部古墳群	渡部渡部				円墳2		
6	13 西宮古墳群	西宮西宮253-2	前方後円					
7	13 大蔵古墳群	新太田大蔵1084-1	円					
8	13 コシヤ古墳群	新太田コシヤ876-6	円					
9	13 谷の古墳群	谷の谷の6508-6628	円			新太田古墳 土		
10	13 美谷古墳群	新太田美谷933	円					
11	13 新野古墳群	新野新野889-32	円					
12	13 陣野古墳群	新野陣野944-1	前方後円					
13	13 野馬古墳群	新野野馬254	前方後円					
14	13 長谷古墳群	新野長谷908	前方後円					
15	13 新野古墳群	新野新野				前方後円墳1、円墳1		
16	13 矢野古墳群	新野矢野				前方後円墳1、円墳9		
17	13 渡部古墳群	新野渡部1185	円			新太田古墳 土		
18	13 長山古墳群	新野長山1034-95	方			新太田古墳 土		
19	13 新野古墳群	新野新野				前方後円墳1、円墳4		
20	13 新野古墳群	新野新野				前方後円墳1、円墳4		
21	13 平山古墳群	新野平山265	方			不明		

序号	类别	名称	所在地	地形	建造年代 (约)	周長	地幅	内部施設	備 考	保存度	備 考
22	古墳	冢十塚古墳群	萩平山					円墳3			多古野五十塚古墳群につづく
23	縄文古墳群	西田畑古墳						円墳6			
24	田 圃	古墳	西田畑南端265	前方後円							
25	大 山	古墳	西田畑大11272	円							
26	古墳	古墳群	西田畑南端					円墳4			
27	新 墓	古墳群	西田畑南端					円墳5			
28	子ノ神塚	古墳	子ノ神776-7					墓数不明			
29	小藤安次	古墳	小藤8311-3					墓数不明			
30	墓	古墳	安次727					墓数不明			

■佐原市

番号	国名	名称	所在地	地形	面積(㎡) (0.5a以上)	用途	植樹	内部施設	備 考	通 風	備 考
1	6	谷 原 田 古 墳	鎌之内原田	円							
2	6	西 部 田 古 墳	鎌之内平台					円環6			
3-1	6	〃 〃 1 号 墳	〃	円	18	〇		木棺直葬	石枕、立花、刀子2、鉄鏝	×	
3-2	6	堀 堀 古 墳	谷中野良道	円				馬蹄		×	
4	6	鳴 島 山 古 墳	大戸川中流	前方後円	60?		円	木棺直葬?	石枕、曲文車輪、直刀、刀、漆器、 銅角付笄、埴手、埴板板付輪、 馬蹄、刺刺形盾、埴子状鉄製品		△
5	6	船 塚 古 墳	大門川	円							
6	6	森 戸 古 墳	森戸					前方後円墳3			
6-1	6	大 法 寺 古 墳	前方後円	60?		円	圓			〇	
7	6	天 神 寺 古 墳	大戸 天神台・宮作						前方後円墳2、円墳3、長方形1、方 墳1		
7-1	6	天 神 寺 古 墳	前方後円	60						〇	
7-2	6	宮 作 1 号 墳	方 (長方)	19×16				木棺直葬	石枕、立花枕、鉄劍、刀子1、古銅 鍔山金刀7丸、埴手和瓦314丸、 碧玉管玉1、琥珀玉2、ガラス玉20		
8	6	山 之 辺 手ひろがり古墳群	山之辺へたの前						円墳3、長方形4、方墳2		
8-1	6	〃 〃 3 号 墳	〃		20×14			木棺直葬4	石枕、立花衣石棺蓋、腰玉勾玉、 三環玉、青石製玉	×	
9	6	玉 造 古 墳	玉造玉作					前方後円墳3、円墳13			
10	6	花 ヲ 台 古 墳	玉造花ヶ台					円墳4			
11	6	玉 三 辺 岡 古 墳	溝					円墳3			
12	6	佐 岡 神 社 古 墳	佐原イ	前方後円	70		円	圓		〇	
13	7A	聖 電 寺 古 墳	仁井宿	前方後円			円	圓			
14	7A	生 聖 寺 古 墳	原	前方後円							
15	7A	仁 井 宿 古 墳	仁井宿								
15-1	7A	仁 井 宿 古 墳	〃						円墳4以上		
16	7A	仁 井 宿 古 墳	〃						石枕		
17	7A	神 道 山 古 墳	香取神道						前方後円墳1、円墳11		
18-1	7A	神 道 山 古 墳	〃	前方後円							
18	7A	新 宮 古 墳	新宮						前方後円墳2、円墳1		
19	7A	大 丁 子 古 墳	イ字山山田						円墳2		
19	7A	大 高 古 墳	大高寺前店	方					フラッシュ形鉄製		
20	7A	又 見 古 墳	香取又見						横穴式石室		
21	7A	大 倉 重 郎 古 墳	大倉重郎家								
22	7A	新 郎 古 墳	新郎所	円							塚の可塑性あり
23	7A	新 ロ シ 古 墳	新羅ロシ								塚の可塑性大
24	7A	新 羅 古 墳	新羅宮殿	円							
25	7A	新 羅 古 墳	新羅	円							
26	6	山 之 辺 反田古墳	山之辺								

番号	国名	名称	所在地	形状	面積(㎡)	用途	種類	内部施設	観 望	遺 跡	備 考
27	6	山王古墳	山王古	円形							
28	6	山王古墳	山王古	円形							
29	7A	大戸古墳群	大戸古	円形							
30	6	大戸古墳群	大戸古	円形							
31	7A	大戸古墳群	大戸古	円形							
32	6	大戸古墳群	大戸古	円形							
33	7A	大戸古墳群	大戸古	円形							
34	6	大戸古墳群	大戸古	円形							
35	6	大戸古墳群	大戸古	円形							
36	6	大戸古墳群	大戸古	円形							
37	6	大戸古墳群	大戸古	円形							
37-1	6	大戸古墳群	大戸古	円形							
37-2	6	大戸古墳群	大戸古	円形							
38	6	大戸古墳群	大戸古	円形							
39	6	大戸古墳群	大戸古	円形							
39-1	6	大戸古墳群	大戸古	円形							
40	6	大戸古墳群	大戸古	円形							
41	6	大戸古墳群	大戸古	円形							
42	7A	大戸古墳群	大戸古	円形							
43	7A	大戸古墳群	大戸古	円形							
44	7A	大戸古墳群	大戸古	円形							
45	6	大戸古墳群	大戸古	円形							
46	6	大戸古墳群	大戸古	円形							
47	6	大戸古墳群	大戸古	円形							
48	6	大戸古墳群	大戸古	円形							
49	6	大戸古墳群	大戸古	円形							
50	6	大戸古墳群	大戸古	円形							
51	6	大戸古墳群	大戸古	円形							
52	6	大戸古墳群	大戸古	円形							
53	6	大戸古墳群	大戸古	円形							
54	6	大戸古墳群	大戸古	円形							
55	7A	大戸古墳群	大戸古	円形							
56	7A	大戸古墳群	大戸古	円形							
57	6	大戸古墳群	大戸古	円形							
57-1	6	大戸古墳群	大戸古	円形							

■小見川町

番号	地区名	名称	所在地	地 形	面積(㎡) 石段長 石段幅	階層	延 敷	内部施設	観 音	遺存品	備 考
1	7A	森 田 古 墳 群	三之分目・深淵						前方後円墳、円墳2		
1-1	7A	三之分目1号墳		前方後円	60~70?					×	
1-2	7A	三之分目大塚山古墳	三之分目大塚	前方後円	118	複式				○	
1-3	7A	富 田 1 号 古 墳	富田第1010	前方後円	40		人 物		墓刀、鉄剣		
2	7A	龍 郷 古 墳 群	一之分目龍郷						前方後円墳2		
2-1	7A	" 1 号 墳		前方後円	30						
3	7A	吉 里 台 古 墳	一之分目 吉里台523-3	円	8					◎	
4	7A	奥 中 原 古 墳	増田 民中坂西545-1	円	5						
5	7A	辻 占 墳	増田 谷91	円	4					◎	
6	7A	旗 山 古 墳 群	小見川・富士・下小集						前方後円墳7、円墳6、不明1		
6-1	7A	" 1 号 墳	小見川	前方後円	68	珍 奇	定片鉾 式内式石室		三角盾持鍬、串劔、草履筒短大刀× 5、円鏡短刀1、腰板短刀1、薙刀1把、 鉄劍、刀子10、曲角付笄、紐甲× 2、圓当文流鏑掛什器、糸鈴子×文香燭、 燭臺、笏板、江太夫、袈裟袋、金銀 飾、金盞、紺玉、ガラス玉、針、 土師焼、須恵器	×	
6-5	7A	" 5 号 墳	小見川 旗山H53-3	前方後円	51	珍 奇	木棺蓋彫		銅鐲、石製飯匙盒(勾玉、多孔円形)、 磁器箱(鉢倉、杯盤)	◎	
6-6	7A	" 6 号 墳		前方後円			Y-A形 横式火石室			×	
7	7A	菅 畑 古 墳 群	虫籠平埜						円墳2		
8	7A	基ノ内古墳	木内基ノ内	円							
9	7A	城ノ台古墳群	木内城ノ台地						方墳?1、円墳1		
10	7A	神 尾 古 墳 群	赤嶺						前方後円墳4、円墳8		
10-1	7A	十 老 山 古 墳	奥郡十老山1376	前方後円	23.4		①木棺蓋彫 ②磨砂石棺	①鉄剣、刀子2 ②流刀2、鉄劍、人骨		×	
11	7A	山 川 古 墳	山山川合山	円	17		木棺蓋彫		鎌?2、須恵器		
12	7A	自 井 古 墳 群	自井						前方後円墳2、不明3		
13	7A	弘 間 更 生 古 墳	下飯田 弘間更生1144-21	円						◎	
14	14	下 飯 田 古 墳 群	下飯田						円墳2、方墳1		
15	14	熊 取 古 墳 群	熊取田						前方後円墳1、円墳2		
16	14	海 占 墳	野布野台						前方後円墳1、円墳3		
16-3	14	" 3 号 墳	"	前方後円					墓刀、鉾、矛、鉄劍、小丸扇鏢和角 付笄、鉄矢筈箭鏃等、銅甲、肩甲	◎	
17	14	天 神 古 墳	五期內天神	前方後円	36.5		木棺蓋彫		墓刀	×	
18	14	五 藤 内 古 墳 群	五期內						前方後円墳1、円墳3		
19	14	小 原 作 止 古 墳 群	和泉小原作						円墳3		
20	14	太 方 古 墳	五期內大方2015						墓刀、鉄劍、人骨	×	
21	14	熊 取 古 墳 群	和泉						円墳2		
22	14	阿 玉 内 北 郭 墳	五期內								
22-2	14	A 0 0 7 号 墳	"	前方後方	25.5	○				○	
23	14	長 庭 古 墳	具美路1479	不 明							
24	14	久 保 古 墳 群	久保						前方後円墳1、円墳2		
25	7A	一 之 分 目	一之分目1-272						石製湯道具(刀子、灰甕付銚子、有 肩斧頭、鉄斧)		

山田町

序号	图例符号	名称	所在地	填形	填高(填土填石)或填方高度	用途	填筑物	内部填筑	填 厚	备注	备 考
1	13	素 野 土 古 堤 填	素野土						前方使用填1、内填3以上		
2	13	神 生 古 堤 填	神生	円						○	
3	13	關ノ台古堤填	山邊關ノ台	円							
4	13	熊 吉 古 堤 填	山邊熊吉	円						○	
5	13	江ノ台堤填	大角	円						○	
6	13	東ノ台古堤填	山吉	円?						×	
7	13	新 屋 古 堤 填	新屋	円							平塚古堤填
8	13	榑 前 古 堤 填	新屋	円						○	
9	13	小 川 古 堤 填	小川						南方使用填2、内填6		

■干 湯 町

序号	编号	名称	所在地	情形	面积(公顷)	海拔	地质	内部设施	概 况	保存 状况	备 考
1	14	宗林庵古坟群	奈良原町						石组1、不明1		
2	14	池原古坟	彼和町甲尾546-1	円	13				円		
3	13	膳戸古坟群	膳原町						円2		
4	13	南郷之内古坟群	南郷之内小塚、和良、原木						円径5、不明2		
5	13	長谷金仏堂古坟	新長谷台375	円	17.3					○ 堀に改装	
6	13	藤木古坟群	藤木1467						詳細不明		
7	13	藤木古坟群	藤木 原部、千木、千 塚、文蔵、民内、 河野、元蔵、河木						南方後円形、円径9		
7-1	13	南南尾塚古坟	藤木高之谷3368	前方後円	105.5	53m					
7-2	13	槐台古坟	藤木高台2827	前方後円	58	○					
7-3	13	藤木大塚古坟	藤木文庫2960-2-2	前方後円	37.2		人 物				
8	13	桂見塚古坟	藤木新堀1224	円	10						
9	13	加々山古坟	加々山1356	円	15						墓の可能性あり
10	13	神野古坟群	藤木神野						墳形不明2		
11	13	坂井廣太郎	坂井上						2基確認		
12	13	御辺ノ上廣久	坂井御辺ノ上								
13	13	内島句廣久	藤木内島句2941								

■東 庄 町

序号	名称	所在地	类型	现状(是否存在)	海拔	结构	内部构造	概 要	备注
1	年能古墳群	姫川						内渠1、内渠1	
2	妙川古墳	姫川1-1906	不明			砂 塚			△
3	姫川原古墳	姫川1-5772	円						◎
4	尾計古墳群	羽計						前方後円墳1、内渠6	
5	寺台古墳群	早山台						前方後円墳1、内渠1	
6	宮ノ下古墳群	高部宮ノ下						円墳3	
7	石出古墳群	羽計・石出・谷津						11基以上	
8	東今泉古墳	今泉	不明			円 墳		海溝、底	×
9	儀古墳群	谷津・宮本・今部・羽計						30基以上	
10	姫河原古墳	宮本御所	前方後円						○
11	洲野古墳	宮本御所	前方後円						×
12	八木山古墳	鹿野八木山	円			踏跡石階		墓刀、鉄鏃、人骨	
13	高根古墳群	鹿野高根						円墳2	
14	神代古墳群	小野野						円墳3	
15	堀河入古墳群	堀河和田人						前方後円墳1、内渠6	
16	西塚古墳群	小塚新田						円墳6	
17	荒野台古墳群	荒野御内	円						
18	小南原古墳群	小南新田						円墳6	
19	谷津横穴群	谷津							
20	今部横穴群	今部岡山							

番号	図記番号	名称	所在地	地形	面積(㎡)	周長	用途	内部施設	概 算	通年費	備 考
21	14	青馬嶺古墳群	有馬茂田					2基開口			
22	14	稲垣入敷古墳群	東和田 稲垣入川					397、6基確認			
23	14	野野古墳古墳群	野野上、成井					2群4基確認			

■鏡子市

番号	図記番号	名称	所在地	地形	面積(㎡)	周長	用途	内部施設	概 算	通年費	備 考
1	14	後原古墳	笠原町	不明			円筒	不明		×	前方後円墳の可能性あり
2	14	神田古墳	保井町	円	15		円筒	不明		△	
3	14	飯戸野古墳群	神神町					後部不明古墳2			東庄町境内に隣接
4	14	飯井町古墳群	保井町					円墳1、後部不明古墳2			
5	14	二重堀古墳	神戸町2093-3	不明				環形石棺		×	
6	14	ホテメ古墳	塚本町	円	7		円筒			○	
7	15A	野成古墳群	野成町・高田町					前方後円墳1、円墳7、方墳3、不明1			
8	15A	舟形古墳群	船本町					円墳2			
9	21B	野黒古墳	神神町	円	8					○	
10	15B	野黒古墳	神神町1188	円	6			不明		○	環の可能性あり
11	15B	大堀古墳	赤坂町43-1	円				環形石棺		×	
12	15B	無田古墳	三宅町1-224	円				不明		?	
13	15B	西台古墳群	安崎町					円墳1現存			
14	15B	西長古墳群	新町566	円				不明		×	
15	15B	西長古墳群	長崎町					円墳4、方墳7			
15-1	15B	e 1号墳	長崎町5-3688	円	38	○				×	
16	15B	台町古墳	台町	円		○		環形石棺			古墳群の可能性あり
17	15B	神田古墳	神小町1002	円				不明		×	
18	15B	藤原古墳	高神町4652	円	19			不明		○	
19	15B	野黒古墳	春日町966	方		○		不明		×	
20	15B	上八幡古墳	二神町	不明				環形石棺			
21	15B	八幡大塚古墳	八幡町八幡大塚	円	12			不明		△	
22	15B	飯坂古墳群	小坂町					円墳3現存、石棺群多数散見			
23	15B	飯坂古墳群	赤坂町110					4基以上			○ 環の可能性あり
24	15B	大堀古墳	赤坂町					2基以上			
25	15B	飯坂古墳群	赤坂町4-2024					3基以上			
26	15B	飯坂古墳群	長崎町5-2746							○	長崎町1号墳
27	15B	大八幡古墳	赤坂町					4基			飯小川古墳

■海上町

番号	図記番号	名称	所在地	地形	面積(㎡)	周長	用途	内部施設	概 算	通年費	備 考
1	14	松ヶ谷古墳群	松ヶ谷山					墓数不明、石棺群が確認される			東庄町小南原古墳群に隣接
2	14	飯坂古墳群	松ヶ谷山	前方後円	20			小南原古墳群		×	
3	14	野井安町古墳群	松井町					5基以上(円墳1基)			
4	21B	平野古墳群	金崎平野					円墳1、不明1			
5	21B	向山古墳群	金崎向山		円	10		不明		○	
6	21B	飯の上古墳群	飯の上					円墳3			
7	14	飯坂古墳群	飯坂					墓数不明			

■飯岡町

番号	図記番号	名称	所在地	地形	面積(㎡)	周長	用途	内部施設	概 算	通年費	備 考
1	21B	三川古墳群	三川	不明				不明		×	
2	21B	飯坂古墳群	飯坂	円				不明		×	
3	21B	飯坂古墳群	飯坂	不明				不明		×	
4	21B	飯坂古墳群	飯坂	不明				前方後円墳1、円墳1			
5	21B	八木古墳群	八木	不明				不明		×	
6	21B	飯坂古墳群	飯坂	不明				不明			
7	21B	飯坂古墳群	飯坂	不明				不明			
8	21B	飯坂古墳群	飯坂	不明				不明			
9	21B	飯坂古墳群	飯坂	不明				不明			
10	21B	飯坂古墳群	飯坂	不明				不明			
11	21B	飯坂古墳群	飯坂	不明				不明			
12	21B	飯坂古墳群	飯坂	不明				不明			
13	21B	飯坂古墳群	飯坂	不明				不明			

■旭市

番号	図記番号	名称	所在地	地形	面積(㎡)	周長	用途	内部施設	概 算	通年費	備 考
2	21A	大堀古墳群	大堀	円	21			不明		△	
2	21B	旭川古墳群	旭川					石棺群を数ヶ所確認			

■八日市場市

番号	図記番号	名称	所在地	地形	面積(㎡)	周長	用途	内部施設	概 算	通年費	備 考
1	21A	大堀古墳群	大堀	円	10			不明		○	
2	21A	大堀古墳群	大堀	円	10			不明		△	
3	21A	大堀古墳群	大堀	円	10			不明		△	
4	21A	大堀古墳群	大堀	円	10			不明		△	
5	21A	大堀古墳群	大堀	円	10			不明		△	
6	21A	大堀古墳群	大堀	円	10			不明		△	
7	21A	大堀古墳群	大堀	円	10			不明		△	
8	21A	大堀古墳群	大堀	円	10			不明		△	
9	21A	大堀古墳群	大堀	円	10			不明		△	
10	21A	大堀古墳群	大堀	円	10			不明		△	
11	21A	大堀古墳群	大堀	円	10			不明		△	
12	21A	大堀古墳群	大堀	円	10			不明		△	
13	21A	大堀古墳群	大堀	円	10			不明		△	
14	21A	大堀古墳群	大堀	円	10			不明		△	
15	21A	大堀古墳群	大堀	円	10			不明		△	
16	21A	大堀古墳群	大堀	円	10			不明		△	
17	21A	大堀古墳群	大堀	円	10			不明		△	
18	21A	大堀古墳群	大堀	円	10			不明		△	
19	21A	大堀古墳群	大堀	円	10			不明		△	
20	21A	大堀古墳群	大堀	円	10			不明		△	
21	21A	大堀古墳群	大堀	円	10			不明		△	
22	21A	大堀古墳群	大堀	円	10			不明		△	
23	21A	大堀古墳群	大堀	円	10			不明		△	
24	21A	大堀古墳群	大堀	円	10			不明		△	
25	21A	大堀古墳群	大堀	円	10			不明		△	
26	21A	大堀古墳群	大堀	円	10			不明		△	
27	21A	大堀古墳群	大堀	円	10			不明		△	
28	21A	大堀古墳群	大堀	円	10			不明		△	
29	21A	大堀古墳群	大堀	円	10			不明		△	
30	21A	大堀古墳群	大堀	円	10			不明		△	
31	21A	大堀古墳群	大堀	円	10			不明		△	

番号	国名	名称	所在地	地	面積	用途	内部施設	概要	通年	備考
32	21A	横 古 墳 群	吉田原	前方後門	35	不明	前方後門内、門内20		○	
32-1	21A	“ 1号墳		前方後門		不明	刀子、石製模造品(勾玉)、李銀土		○	
33	21A	横 野 古 墳 群	吉田原	前方後門		不明	門内4		○	
34	21A	江 川 古 墳 群	吉田江川	前方後門		不明	門内2		○	
35	21A	横 野 神 社 古 墳 群	吉田	門	17	不明			○	
36	21A	小 下 田 原 古 墳 群	吉田	前方後門		不明	前方後門内、門内11、不明5		○	
36-1	21A	“ 1号墳	小下田原、新田	前方後門	25	不明			○	
37	21A	神 岡 古 墳 群	南神岡町	前方後門		不明	前方後門内、門内2、不明1		○	
37-1	21A	“ 1号墳	南神岡町	前方後門	30	不明			○	
38	21A	横 山 古 墳 群	木曽山	前方後門	23	不明	前方後門内、門内3		○	
38-2	21A	“ 2号墳		前方後門		不明			○	
39	21A	水 谷 古 墳 群	水谷	門	5	不明			○	
40	21A	山 王 台 古 墳 群	水谷山王台	門	6	不明			○	
41	21A	水 木 古 墳 群	水木	門	10	不明	門内3		○	
42	21A	水 木 古 墳 群	水木	門	10	不明			○	
43	21A	中 壺 古 墳 群	松山	不明		不明	前方後門		○	
44	21A	生 尾 古 墳 群	生尾	不明		不明	前方後門		○	
45	21A	西ノ内古墳群	西ノ内	不明		不明	前方後門		○	
46	21A	加 和 内 古 墳 群	加和	不明		不明	前方後門		○	
47	21A	石 取 古 墳 群	石取	門	15	不明	前方後門		○	
48	21A	水 谷 古 墳 群	水谷	門	15	不明	前方後門		○	
49	21A	安 岡 古 墳 群	安岡	門	7	不明	前方後門		○	
50	21A	水 谷 古 墳 群	水谷	門	7	不明	前方後門		○	
51	21A	原ノ古墳群	原ノ	門		不明	前方後門		○	
52	21A	大 塚 古 墳 群	大塚	門		不明	前方後門		○	
53	21A	内 山 古 墳 群	内山	門		不明	前方後門		○	
54	21A	九 山 古 墳 群	九山	門		不明	前方後門		○	
55	21A	東 山 古 墳 群	東山	門		不明	前方後門		○	
56	21A	横 山 古 墳 群	横山	門		不明	前方後門		○	
57	21A	長 尾 古 墳 群	長尾	門		不明	前方後門		○	
58	21A	長 尾 古 墳 群	長尾	門		不明	前方後門		○	
59	21A	大 塚 古 墳 群	大塚	門		不明	前方後門		○	
60	21A	山 王 台 古 墳 群	山王台	門		不明	前方後門		○	
60-1	21A	“ 1号墳		門		不明	前方後門		○	
61	21A	山 王 台 古 墳 群	山王台	門		不明	前方後門		○	
62	21A	石 取 古 墳 群	石取	門		不明	前方後門		○	
63	21A	山 王 台 古 墳 群	山王台	門		不明	前方後門		○	
64	21A	山 王 台 古 墳 群	山王台	門		不明	前方後門		○	
65	21A	小 下 田 原 古 墳 群	小下田原	門		不明	前方後門		○	

野 柴 町

番号	国名	名称	所在地	地	面積	用途	内部施設	概要	通年	備考
1	25B	内 裏 古 墳 群	野柴	前方後門		不明	前方後門内、門内1		○	

光 町

番号	国名	名称	所在地	地	面積	用途	内部施設	概要	通年	備考
1	21B	山 王 台 古 墳 群	山王台	門		不明	前方後門		○	
2	20	山 王 台 古 墳 群	山王台	門		不明	前方後門		○	
3	20	山 王 台 古 墳 群	山王台	門		不明	前方後門		○	
3-1	20	“ 1号墳		門	28	不明	前方後門		○	
3-5	20	“ 5号墳		門	33.4	不明	前方後門		○	
4	20	東 山 古 墳 群	東山	門	16	不明	前方後門		○	

番号	国名	名称	所在地	地	面積	用途	内部施設	概要	通年	備考
5	20	東 山 古 墳 群	東山	門		不明	前方後門内、門内2		○	
6	20	東 山 古 墳 群	東山	門		不明	前方後門内、門内4		○	

横 芝 町

番号	国名	名称	所在地	地	面積	用途	内部施設	概要	通年	備考
1	20	中 台 古 墳 群	中台	門		不明	前方後門		○	
1-5	20	“ 5号墳		門	58	不明	前方後門		○	
1-6	20	“ 6号墳		門	88	不明	前方後門		○	
1-8	20	“ 8号墳		門	10.5	不明	前方後門		○	
1-16	20	“ 16号墳		門	28	不明	前方後門		○	
1-17	20	“ 17号墳		門	35.5	不明	前方後門		○	
1-18	20	“ 17号墳		門	18	不明	前方後門		○	
2	20	大 戸 台 古 墳 群	大戸台	門		不明	前方後門		○	
3	20	山 王 台 古 墳 群	山王台	門		不明	前方後門		○	
4	20	山 王 台 古 墳 群	山王台	門		不明	前方後門		○	
5	25B	長 倉 古 墳 群	長倉	門	13.8	不明	前方後門		○	

芝 山 町

番号	国名	名称	所在地	地	面積	用途	内部施設	概要	通年	備考
1	20	山 王 台 古 墳 群	山王台	門		不明	前方後門		○	
2	20	大 塚 古 墳 群	大塚	門		不明	前方後門		○	
2-7	20	“ 7号墳		門	45	不明	前方後門		○	
3	20	大 塚 古 墳 群	大塚	門		不明	前方後門		○	
4	20	大 塚 古 墳 群	大塚	門		不明	前方後門		○	
5	20	山 王 台 古 墳 群	山王台	門		不明	前方後門		○	
5-9	20	“ 9号墳		門	19	不明	前方後門		○	
5-14	20	“ 14号墳		門	31	不明	前方後門		○	
5-22	20	“ 22号墳		門	13	不明	前方後門		○	
5-28	20	“ 28号墳		門	24	不明	前方後門		○	
5-35	20	山 王 台 古 墳 群	山王台	門	27-30	不明	前方後門		○	
5-37	20	“ 37号墳		門	30	不明	前方後門		○	
5-39	20	“ 39号墳		門	17	不明	前方後門		○	
5-65	20	“ 65号墳		門	35	不明	前方後門		○	
5-84	20	“ 84号墳		門	40	不明	前方後門		○	
5-93	20	“ 93号墳		門	11.8	不明	前方後門		○	
5-94	20	“ 94号墳		門	10.5	不明	前方後門		○	

番号	図号	名称	所在地	地形状	面積(㎡)	用途	内部施設	概要	備考
5-95	20	95号墳	〃	円	12.4	〇 ×	不明	土師器	1981年調査 山田山21号墳 金銀47号墳
5-103	20	103号墳	〃	円	22.2	〇 ×	石棺	鉄剣1、高麗1、ガラス小玉3、土製小玉1、鉄器類、土師器、人骨	1981年調査 山田山21号墳 金銀47号墳
5-104	20	104号墳	〃	円	9.4	〇 ×	不明	土師器	1981年調査 山田山21号墳 金銀47号墳
5-106	20	106号墳	〃	円	11.0	〇 ×	不明	土師器	1981年調査 山田山21号墳 金銀47号墳
5-107	20	107号墳	〃	〃	8	〇 ×	不明	土師器	1981年調査 山田山21号墳 金銀47号墳
5-116	20	116号墳	〃	円	15	〇 ×	木棺直葬	土師小玉6	1981年調査 山田山21号墳 金銀47号墳
5-118	20	118号墳	〃	円	20	〇 ×	不明	土師器	1981年調査 山田山21号墳 金銀47号墳
5-119	20	119号墳	〃	円	24.3	〇 ×	不明	土師器	1981年調査 山田山21号墳 金銀47号墳
5-120	20	120号墳	〃	円	27.3	〇 ×	石棺	直刀2、鉄剣21、赤土小玉30、鉄器類、土師器、人骨	1981年調査 山田山21号墳 金銀47号墳
5-126	20	126号墳	〃	円	12	〇 ×	不明	土師器	1981年調査 山田山21号墳 金銀47号墳
5-127	20	127号墳	〃	前方後円	34	〇 ×	不明	土師器	1981年調査 山田山21号墳 金銀47号墳
5-140	20	140号墳	山田山	前方後円	27.8	〇	不明	土師器	1981年調査 山田山21号墳 金銀47号墳
5-154	20	154号墳	山田山	前方後円	40	〇 ×	石棺	直刀2、鉄剣21、赤土小玉30、鉄器類、土師器、人骨	1981年調査 山田山21号墳 金銀47号墳
5-183	20	183号墳	山田山	円	10	〇 ×	木棺直葬	土師小玉6	1981年調査 山田山21号墳 金銀47号墳
5-184	20	184号墳	〃	円	15	〇 ×	土師	土師器	1981年調査 山田山21号墳 金銀47号墳
5-185	20	185号墳	〃	円	10.4	〇 ×	不明	土師器	1981年調査 山田山21号墳 金銀47号墳
5-186	20	186号墳	〃	円	25.3	〇 ×	不明	土師器	1981年調査 山田山21号墳 金銀47号墳
5-187	20	187号墳	〃	円	20.2	〇 ×	不明	土師器	1981年調査 山田山21号墳 金銀47号墳
5-188	20	188号墳	〃	円	26	〇 ×	不明	土師器	1981年調査 山田山21号墳 金銀47号墳
5-190	20	190号墳	〃	円	25	〇 ×	不明	土師器	1981年調査 山田山21号墳 金銀47号墳
5-192	20	192号墳	山田山	円	27	〇 ×	石棺	直刀2、鉄剣21、赤土小玉30、鉄器類、土師器、人骨	1981年調査 山田山21号墳 金銀47号墳
5-193	20	193号墳	〃	円	24	〇 ×	石棺	直刀2、鉄剣21、赤土小玉30、鉄器類、土師器、人骨	1981年調査 山田山21号墳 金銀47号墳
6	20	高田古墳群	高田平水門前	〃	〃	〃	〃	〃	〃
6-2	20	高田2号墳	〃	前方後円	48	〇	〃	〃	〃
6-3	20	高田3号墳	〃	前方後円	40	〇	〃	〃	〃
6-4	20	高田古墳群	〃	円	〃	〃	〃	〃	〃
7	20	上成入・武上	七次入	〃	〃	〃	〃	〃	〃
8	20	小池上人塚	小池上人塚	〃	〃	〃	〃	〃	〃
9	20	谷津古墳群	小池	〃	〃	〃	〃	〃	〃
9-3	20	谷津3号墳	〃	前方後円	30	〇	〃	〃	〃
10	20	龍泉古墳群	龍泉	〃	〃	〃	〃	〃	〃
10-5	20	龍泉5号墳	〃	前方後円	33.3	〇	〃	〃	〃
11-12	20	龍泉12号墳	〃	〃	28.6	〇	〃	〃	〃
11-15	20	龍泉15号墳	〃	〃	37	〇	〃	〃	〃
11-17	20	龍泉17号墳	〃	〃	30	〇	〃	〃	〃
11	20	下ノ内古墳群	小池	〃	〃	〃	〃	〃	〃
12	20	小池古墳群	小池字井戸	〃	〃	〃	〃	〃	〃

番号	図号	名称	所在地	地形状	面積(㎡)	用途	内部施設	概要	備考
12-13	20	13号墳	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
13	20	三山古墳群	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
14	20	東山古墳群	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
15	20	内野古墳群	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
16	20	井原古墳群	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
16-2	20	井原2号墳	〃	前方後円	76	〇	〃	〃	〃

■松尾町

番号	図号	名称	所在地	地形状	面積(㎡)	用途	内部施設	概要	備考
1-25A	25A	大塚古墳群	引越字新塚	〃	〃	〃	〃	〃	〃
1-1	25A	大塚1号墳	〃	円	〃	〃	〃	〃	〃
2	25A	大塚古墳群	八田字新山	〃	〃	〃	〃	〃	〃
3	25A	大塚古墳群	金尾平大和	〃	〃	〃	〃	〃	〃
4	25A	大塚古墳群	小川字新山	〃	〃	〃	〃	〃	〃
5	25A	大塚古墳群	上大塚字宮	〃	〃	〃	〃	〃	〃
6	25A	大塚古墳群	下大塚字宮	〃	〃	〃	〃	〃	〃
7	25A	大塚古墳群	大塚字新山	〃	〃	〃	〃	〃	〃
7-1	25A	大塚1号墳	〃	前方後円	76	〇	〃	〃	〃
7-2	25A	大塚2号墳	〃	前方後円	46	〇	〃	〃	〃
7-4	25A	大塚4号墳	〃	円	〃	〃	〃	〃	〃
7-7	25A	大塚7号墳	〃	前方後円	26	〇	〃	〃	〃
7-10	25A	大塚10号墳	〃	前方後円	27	〇	〃	〃	〃
7-17	25A	大塚17号墳	〃	円	10	〇	〃	〃	〃
7-18	25A	大塚18号墳	〃	円	17~20	〇	〃	〃	〃
8	25A	大塚古墳群	大塚字新山	〃	〃	〃	〃	〃	〃
8-1	25A	大塚1号墳	〃	前方後円	117	〇	〃	〃	〃
8-4	25A	大塚4号墳	〃	前方後円	34	〇	〃	〃	〃
9	25A	大塚古墳群	大塚	〃	〃	〃	〃	〃	〃

■山武町

番号	図号	名称	所在地	地形状	面積(㎡)	用途	内部施設	概要	備考
1	25A	大塚古墳群	中塚	円	22	〇	〃	〃	〃
2	25A	大塚古墳群	新山字新山	〃	〃	〃	〃	〃	〃
2-10	25A	大塚古墳群	新山字新山	円	12	〇	〃	〃	〃
2-11	25A	大塚古墳群	新山字新山	円	24	〇	〃	〃	〃
2-12	25A	大塚古墳群	新山字新山	前方後円	36	〇	〃	〃	〃
2-13	25A	大塚古墳群	新山字新山	前方後円	31	〇	〃	〃	〃
3	25A	大塚古墳群	新山字新山	〃	〃	〃	〃	〃	〃
3-7	25A	大塚古墳群	新山字新山	前方後円	27	〇	〃	〃	〃
3-75	25A	大塚古墳群	新山字新山	前方後円	30	〇	〃	〃	〃
4	25A	大塚古墳群	新山字新山	〃	〃	〃	〃	〃	〃

番号	国名	名称	所在地	地 形	面積(㎡)	用途	内部施設	備 考
4-10	25A	10号墳	新田新田字川戸	前方後円	23			○
4-37	25A	37号墳	新田新田字新ノ原	前方後円	31			○
4-54	25A	54号墳	新田新田字出口	前方後円	30			○
4-55	25A	55号墳	新田新田字	前方後円	30			○
5	25A	横古墳群	戸部字新形				前方後円墳3基(4基併設)、円墳11(24m、1基併設)	○
5-1	25A	1号墳	新田新田字	前方後円	30			○
5-2	25A	2号墳	新田新田字	前方後円	36			○
5-5	25A	5号墳	戸田字大谷	前方後円	30			○
5-6	25A	6号墳	戸田字久原谷	前方後円	30			○
5-7	25A	7号墳	戸田字大谷	前方後円	30			○
5-12	25A	12号墳	戸田字久原谷	前方後円	30			○
6	25A	新古墳群	新田新田字				円墳4基(8~14m)、方墳1基(19.5m)	○
7	25A	新古墳群	新田新田字				円墳12基(4m、11基併設)	○
8	25A	新古墳群	新田新田字				円墳17基(7m、9基併設)、方墳1基(30mの礎、併設)	○
9	25A	新古墳群	新田新田字				円墳17基(6~43m5基併設)、方墳2基(8.5m、31m)、不明1基(2基併設)	○
10	25A	新古墳群	新田新田字				円墳17基(6~43m5基併設)、方墳2基(8.5m、31m)、不明1基(2基併設)	○
11	25A	新古墳群	新田新田字				円墳17基(6~43m5基併設)、方墳2基(8.5m、31m)、不明1基(2基併設)	○
11-2	25A	2号墳	新田新田字	方 墳	31			○
11-3	25A	3号墳	新田新田字	方 墳	43	○	横穴式石室	○
12	24	新古墳群	新田新田字				前方後円墳1基(併設)、円墳2基(9.5~23.5m、11基併設)、方墳1基(11m)	○
12-1	24	新古墳群	新田新田字	円 墳	18	○	石棺	○
12-2	24	1号墳	新田新田字	円 墳	19.5	○	土埴	○
12-3	24	1号墳	新田新田字	円 墳	23.6	○	土埴	○
12-4	24	1号墳	新田新田字	円 墳	16.9	○	土埴	○
12-5	24	1号墳	新田新田字	円 墳	22.8	○	土埴	○
12-6	24	1号墳	新田新田字	円 墳	16	○	土埴	○
12-7	24	1号墳	新田新田字	円 墳	12.63	○	土埴	○
12-8	24	1号墳	新田新田字	円 墳	14.9	○	土埴	○
12-9	24	1号墳	新田新田字	円 墳	26	○	土埴	○
13-10	24	1号墳	新田新田字	円 墳	15.5	○	土埴	○
13-11	24	1号墳	新田新田字	円 墳	17.1	○	土埴	○
13	24	新古墳群	新田新田字				円墳5基(20m)	○
14	24	新古墳群	新田新田字				円墳5基(24m)	○
15	24	新古墳群	新田新田字				円墳7基(7~25m)	○

成 東 町

番号	国名	名称	所在地	地 形	面積(㎡)	用途	内部施設	備 考
1	25A	新田新田字	新田新田字	方 墳	30			○
2	25A	新田新田字	新田新田字	方 墳	30			○
3	25A	13号墳	新田新田字	方 墳	30			○
3-14	25A	14号墳	新田新田字	方 墳	28			○
3-19	25A	19号墳	新田新田字	方 墳	45	○	横穴式石室	○
3	25A	新田新田字	新田新田字	方 墳	30			○
3-3	25A	3号墳	新田新田字	方 墳	30			○
3-4	25A	4号墳	新田新田字	方 墳	60	○	横穴式石室	○
3-12	25A	12号墳	新田新田字	方 墳	15	○	土埴	○
3-14	25A	14号墳	新田新田字	方 墳	90	○	横穴式石室	○
3-15	25A	15号墳	新田新田字	方 墳	63	○	横穴式石室	○
3-17	25A	17号墳	新田新田字	方 墳	15			○
3-21	25A	21号墳	新田新田字	方 墳	20			○
3-26	25A	26号墳	新田新田字	方 墳	20	○	土埴	○
4	25A	新田新田字	新田新田字	方 墳	30			○
5	25A	新田新田字	新田新田字	方 墳	30			○
6	25A	新田新田字	新田新田字	方 墳	30			○
7	25A	新田新田字	新田新田字	方 墳	30			○
7-8	25A	8号墳	新田新田字	方 墳	17	○		○
7-9	25A	9号墳	新田新田字	方 墳	(9.2)	○		○
8	25A	新田新田字	新田新田字	方 墳	30			○

真 金 市

番号	国名	名称	所在地	地 形	面積(㎡)	用途	内部施設	備 考
1	24	新田新田字	新田新田字	方 墳	30			○
2	24	新田新田字	新田新田字	方 墳	30			○
3	24	新田新田字	新田新田字	方 墳	30			○
4	24	新田新田字	新田新田字	方 墳	30			○
5	24	新田新田字	新田新田字	方 墳	30			○
5-1	24	1号墳	新田新田字	方 墳	9			○
5-2	24	2号墳	新田新田字	方 墳	10			○
5-4	24	4号墳	新田新田字	方 墳	20×13			○
5-9	24	9号墳	新田新田字	方 墳	39			○
5-12	24	12号墳	新田新田字	方 墳	26			○
5-13	24	13号墳	新田新田字	方 墳	29			○
5-21	24	21号墳	新田新田字	方 墳	34			○
5-23	24	23号墳	新田新田字	方 墳	27			○
5-26	24	26号墳	新田新田字	方 墳	18			○

番号	国史 番号	名 称	所在地	地 形	面積 (㎡)	周 長	地 輪	内部施設	備 考	備 考
5-28	24	家之子28号墳	家之子字ノ神	前方後円	27				○	
5-28	24	“ 38号墳	“	円	8×10			鉄鍬、須恵器片	1967年調査 59号墳	
5-39	24	“ 39号墳	“	円					×	1967年調査 51号墳
5-42	24	“ 42号墳	“	円	10.2× 12.5					1967年調査 59号墳
5-46	24	“ 46号墳	“	円	19			鉄鍬	1967年調査 24号墳	
5-47	24	“ 47号墳	“	前方後円				須恵器、土師器片	×	56号墳
6-25A		天 野 古 墳 群	家之子現代台					円墳2基(15m)		
7	25A	馬 場 古 墳 群	松之郷字馬場					円墳10基(7~28.5m)		
8	25A	近 庭 古 墳 群	近庭字中道岡					円墳33基(8~33m、28基共筑)		
8-1	25A	“ 1号墳	“	円	16				×	1977年調査
8-2	25A	“ 2号墳	“	円	13.2				×	
8-3	25A	“ 3号墳	“	円	13				×	
8-4	25A	“ 4号墳	“	円	13.7				×	
8-5	25A	“ 5号墳	“	円	10				×	
8-7	25A	“ 7号墳	“	円	10				×	
8-8	25A	“ 8号墳	“	円	10.8				×	
8-9	25A	“ 9号墳	“	円	12.1				×	
8-10	25A	“ 10号墳	“	円	12.5				×	
8-11	25A	“ 11号墳	“	円	10.9				×	
8-12	25A	“ 12号墳	“	円	11.1				×	
8-13	25A	“ 13号墳	“	円	11.8				×	
8-14	25A	“ 14号墳	“	円	10.6				×	
8-15	25A	“ 15号墳	“	円	25.5				×	
8-16	25A	“ 16号墳	“	円	13				×	
8-18	25A	“ 18号墳	“	円	15.3				×	
8-20	25A	“ 20号墳	“	円	22.7				×	
8-21	25A	“ 21号墳	“	円	17				×	
8-27	25A	“ 22号墳	“	円	17.5				×	
8-23	25A	“ 23号墳	“	円	33				×	
8-25	25A	“ 25号墳	“	円	14.3				×	
8-26	25A	“ 26号墳	“	円	19				×	
8-27	25A	“ 27号墳	“	円	9.7				×	
8-28	25A	“ 28号墳	“	円	18.9				×	
8-29	25A	“ 29号墳	“	円	12.2				×	
8-30	25A	“ 30号墳	“	円	20				×	
8-31	25A	“ 31号墳	“	円	11				×	
8-32	25A	“ 32号墳	“	円	11.8				×	
9	28	菅 谷 古 墳 群	松之郷字菅谷					円墳4基(11~18m)		
10	28	井 戸 古 墳 群	松之郷字井戸谷					前方後円墳1基(35m) 円墳7基(13~24m)		
11	28	熊 山 古 墳 群	松之郷字熊山					円墳4基(16.5~24m) 方墳1基(22.5m)		
12	28	他井古墳原古墳群	他井					前方後円墳7基(6基共筑) 円墳33基(11.5~42m、20基共筑)		
12-1	28	“ 1号墳	他井	円	26				×	1982年調査
12-2	28	“ 8号墳	“	円	13				×	1966年調査
12-9	28	“ 9号墳	“	円	15					
12-11	28	“ 11号墳	“	円	42			横穴式石室	横穴式石室、直刀、鉄鍬、金環、琥珀、玉、須恵器	×
12-13	28	“ 13号墳	“	円	12				×	
12-14	28	“ 14号墳	“	円	21			横穴式石室	直刀、小刀、刀子、鉄鍬、銅環	×
12-16	28	“ 16号墳	“	円	21			不明		
12-17	28	“ 17号墳	“	円	12			横穴式石室	直刀、鉄鍬、須恵器	×
12-18	28	“ 19号墳	“	前方後円	45					

番号	国史 番号	名 称	所在地	地 形	面積 (㎡)	周 長	地 輪	内部施設	備 考	備 考
12-22	28	他井古墳原22号墳	“	円	23					
12-23	28	“ 23号墳	“	円	17.5					
12-24	28	“ 24号墳	“	円	15					
12-30	28	“ 30号墳	“	前方後円	43.5					
13	28	大 豆 新 古 墳 群	大豆新					円墳11基(8~20m)、方墳1基(19m)		
14	28	藤 下 新 古 墳 群	藤田					29基		
15	28	玉 崎 神 社 墓 群	“					29基		
16	28	上 行 寺 墓 群	“					7基		
17	28	新 宿 墓 穴 群	新宿					19基		
18	28	若 崎 墓 穴 群	田崎					20基		
19	28	谷 塚 墓 穴 群	谷塚					13基		
20	28	未 成 子 の 墓 穴 谷	谷					1基		
21	28	美 安 寺 古 墳 群	小野十石					円墳6基(7~10.5m、3基は大墳)		
22	28	神 門 古 墳	山田字瀧門野	円	22					

■大網白里町

番号	国史 番号	名 称	所在地	地 形	面積 (㎡)	周 長	地 輪	内部施設	備 考	備 考
1	28	金 谷 野 A 遺 跡	金谷野字金谷野					△		
2	28	金 谷 古 墳 群	金谷野字仙岡					円墳2基(10m)	○	
3	28	新 木 岡 穴 群	小西					7基	○	
4	28	風 谷 墓 穴 群	小西					3基	○	
5	28	小 西 墓 穴 群	小西					12基	○	
6	28	美 安 寺 墓 穴 群	美安寺					12基	○	
7	28	宮 谷 墓 穴 群	大網字宮谷					6基	○	
8	28	北 條 谷 墓 穴 群	金谷野字向谷					1基	×	1987年調査
9	28	本 宿 墓 穴 群	本宿					12基	○	
10	28	神 野 神 社 墓 穴 群	田崎					2基	○	
11	28	小 中 墓 穴 群	小西					4基	×	1987年調査
12	28	稲 穂 墓 穴 群	小西					43基	×	1984年調査
13	28	種 蘭 小 学 校 墓 群	永田					2基	○	
14	28	永 田 墓 穴 群	永田字金谷					22基	○	

■茂 原 市

番号	国史 番号	名 称	所在地	地 形	面積 (㎡)	周 長	地 輪	内部施設	備 考	備 考
1	31A	藤 原 寺 横 穴 墓 群	本納字美沢	横 穴	12.8×0.8 3×0.8 2.5×5.5			横穴横型	○	
2	31A	神 原 墓 穴 群	本納字神原	横 穴						
3	31A	阿 向 墓 穴 群	下太田字阿向	横 穴	2.9×3			2号7ノ字型	2号	○
4	31A	藤 谷 墓 穴 群	本納字藤谷	横 穴	2.5×3			横穴横型	1基	○
5	31A	藤ノ下 墓 穴 群	供谷字藤ノ下	横 穴					3基	○
6	31A	新 谷 墓 穴 群	供谷字新谷	横 穴					2基	
7	31A	大 庭 墓 穴 群	下太田字大庭	横 穴					1基	×
8	31A	蟹 内 墓 穴 群	供谷字蟹内	横 穴					2基	
9	31A	上 井 墓 穴 群	供谷字上井	横 穴					1基	×
10	31A	田 取 墓 穴 群	供谷字田取	横 穴					1基	
11	31A	新 堀 墓 穴 群	長崎字新堀	横 穴					1基	
12	31A	新 堀 墓 穴 群	新堀	横 穴					3基	
13	31A	北 谷 墓 穴 群	藤谷字北谷	横 穴					△	
14	31A	蟹 谷 墓 穴 群	長崎字蟹谷	横 穴					1基	
15	31A	内 谷 墓 穴 群	長崎字内谷	横 穴					1基	
16	31A	八 井 墓 穴 群	長崎字八井	横 穴					3基	
17	31A	新 堀 墓 穴 群	長崎字新堀	横 穴					1基	

番号	国名	名称	所在地	地形	面積(㎡)	用途	内部施設	備 考	備 考
18	31A	藤 沢 大 神	氏名文字谷	横 穴			1~2基		
19	31A	藤 沢 大 神	氏名文字谷	横 穴			4基		
20	31A	花 古 大 神	正古字谷	横 穴			2基		
21	31A	神 日 大 神	神日寺野谷/谷 給谷外	横 穴			4群1基		
22	31A	打 越 大 神	小神字打越	横 穴			1群3基		
23	31A	久 下 大 神	追分町山出	横 穴			3支群12~14基		
24	31A	藤 沢 大 神	追分町	横 穴			6基		
24-1	31A	〃 1号横穴	〃	横 穴	2.5×2		ドーム型	○	
24-2	31A	〃 2号横穴	〃	横 穴	2×3		岩壁掘削 高床式	○	
25	31A	下 谷 大 神	神日字下谷	横 穴			3基(昭和11年調査で第3群3基)	×	
26	31A	野 本 大 神	神田字野本	横 穴	2.5×2		アーチ型	1基	
27	31A	野 本 大 神	神田字野本	横 穴			1群4基、復原部	×	1977年調査
28	31A	神 日 大 神	神日字野谷外	横 穴			4基(昭和11年調査で第1群11基)、重 力	△	
29	31A	熊 戸 大 神	神日字熊戸	横 穴			12基(昭和11年調査で第2群13基)	○	
30	31A	山 崎 大 神	山崎字山崎	横 穴			4支群3基、小横穴3基		1978~1980年調査
30-1	31A	〃 1号横穴	山崎字大和久	横 穴			1~9号横穴、土間部(真岡)、復原部、 小横穴、復原部、切子土		寺谷横穴群
30-2	31A	〃 2号横穴	山崎字大和久	横 穴			12~21号横穴、土間部(真岡)、復原部、 小横穴、復原部、切子土		一部山崎横穴
30-3	31A	〃 3号横穴	山崎字高久、戸崎	横 穴			11、22~30号横穴、土間部(真岡)、復原部、 小横穴、復原部、切子土		一部戸崎横穴群
30-4	31A	〃 4号横穴	山崎字大竹	横 穴			22、40号横穴、土間部(真岡)、復原部、 小横穴		
31	31A	長 谷 大 神	長谷字中谷	横 穴			9群20~29基		
31-1	31A	〃 1号横穴	長谷字中谷	横 穴	2.5×0.6 (2.5)			△	
31-2	31A	〃 2号横穴	〃	横 穴	5×2		ドーム型	○	
32	31A	交 輪 子 二 郎 大 神	〃	横 穴			4群7基		
33	35	野 野 大 神	野野字基本	横 穴			3基		
34	35	上 寺 大 神	上寺字大寺	横 穴			3基	○	
35	35	西 谷 大 神	上永有	横 穴			1~2基	○	
36	35	大 作 大 神	〃	横 穴			1基	○	
37	35	大 藏 大 神	上永有字大藏前	横 穴			1基		
38	35	藤 沢 大 神	上永有字藤谷	横 穴			3基(1基神部)、土間部(真岡)、復原部		1983年調査
39	35	藤 沢 大 神	上永有字藤谷	横 穴			3基	○	
40	35	一ノ岡 大 神	上永有	横 穴			1基(小横穴)	○	
41	35	大 井 大 神	上永有字大井	横 穴			1基(小横穴)	○	
42	35	三 井 大 神	三井字中之坊	横 穴			1群3基		
43	35	田 口 大 神	立木字田口	横 穴			1基		
44	35	立 木 大 神	立木字紅輪谷	横 穴			1群3基		

■長 柄 町

番号	国名	名称	所在地	地形	面積(㎡)	用途	内部施設	備 考	備 考
1	30	〃 山 大 神	船木字〃山	横 穴			8基		
2	30	大 仏 大 神	船木字大仏	横 穴			2基		
3	30	藤 古 大 神	六地蔵字藤古	前方後円	(20×13 ×2)20				
4	30	山 根・喜 多 大 神	山根	横 穴					
5	30	野 々 谷 大 神	野々谷	横 穴			11基		
6	30	野 々 谷 大 神	野々谷	横 穴			3基		
7	30	野 々 谷 大 神	野々谷	横 穴			8基		
8	30	大 正 寺 大 神	千代丸	横 穴			3基		
9	30	明 徳 大 神	明徳	横 穴			1基		

番号	国名	名称	所在地	地形	面積(㎡)	用途	内部施設	備 考	備 考
10	30	明 徳 大 神	明徳	横 穴			3基		
11	30	明 徳 大 神	明徳	横 穴			〃		
12	30	金 谷 大 神	金谷	横 穴			5基		
13	30	野 々 谷 大 神	野々谷	横 穴			2基		
14	30	立 町 大 神	野々谷	横 穴			前方後円		
15	30	立 町 大 神	野々谷	横 穴			立基		
16	30	野 々 谷 大 神	野々谷	横 穴			野々谷		
17	30	野 々 谷 大 神	野々谷	横 穴			野々谷		
18	30	力 丸 大 神	力丸	横 穴			10基		
19	30	力 丸 大 神	〃	横 穴			2基		
20	30	坂 本 大 神	坂本	横 穴			2基		
21	31A	坂 本・大 平 台 大 神	〃	横 穴			3基		
22	31A	坂 本 大 神	〃	横 穴			25基		
23	31A	坂 本・和 合 大 神	〃	横 穴			4基		
24	30	修 徳 大 神	修徳	横 穴			21基		修徳定安寺
25	30	修 徳 大 神	〃	横 穴			13基		
26	30	修 徳 大 神	〃	横 穴			12基		
27	30	修 徳 大 神	〃	横 穴			12基		
28	30	門 庭 大 神	〃	横 穴			〃		
29	30	大 井 寺 大 神	大井寺	横 穴			3基		
30	30	金 谷 大 神	金谷	横 穴			3基		
31	30	立 木 大 神	立木字大木	横 穴			64基		
32	30	野 々 谷 大 神	野々谷	横 穴			5基		
33	30	野 々 谷 大 神	野々谷	横 穴			7基		
34	30	万 作 大 神	万作	横 穴			2基		
35	30	中 間 大 神	中間	横 穴			7基		
36	30	谷 多 郎 大 神	谷多郎	横 穴			3基		
37	30	下 山 大 神	下山	横 穴			〃		
38	30	下 山 大 神	下山	横 穴			〃		
39	30	下 山 大 神	下山	横 穴			〃		
40	30	下 山 大 神	下山	横 穴			〃		
41	30	下 山 大 神	下山	横 穴			〃		
42	30	下 山 大 神	下山	横 穴			〃		
43	30	下 山 大 神	下山	横 穴			〃		
44	30	下 山 大 神	下山	横 穴			〃		
45	30	下 山 大 神	下山	横 穴			〃		
46	30	下 山 大 神	下山	横 穴			〃		
47	30	下 山 大 神	下山	横 穴			〃		
48	30	下 山 大 神	下山	横 穴			〃		
49	30	下 山 大 神	下山	横 穴			〃		
50	30	下 山 大 神	下山	横 穴			〃		
51	30	下 山 大 神	下山	横 穴			〃		
52	30	下 山 大 神	下山	横 穴			〃		

■長 南 町

番号	図号	名 称	所在地	地 形	面積 (㎡)	周長	地 輪	内部施設	備 考	通 査	備 考
1	35	宮田谷 穴 群	本郷字宮田谷	横 穴	1993基						
2	35	本郷 穴 群	本郷字本郷	横 穴	19920基						
3	35	本郷 穴 群	本郷字本郷	横 穴							
4	34	本郷 穴 群	本郷字本郷	横 穴	15995基						
4-1	34	本郷 穴 群	本郷字本郷	横 穴	3基				○		
4-2	34	本郷 穴 群	本郷字本郷	横 穴	5基						
4-3	34	本郷 穴 群	本郷字本郷	横 穴	3基						
4-4	34	本郷 穴 群	本郷字本郷	横 穴	4基				○		
4-5	34	本郷 穴 群	本郷字本郷	横 穴	3基				1基欠存		
4-6	34	本郷 穴 群	本郷字本郷	横 穴	2基				○		
4-7	34	本郷 穴 群	本郷字本郷	横 穴	1基				○		
4-8	34	本郷 穴 群	本郷字本郷	横 穴	8基				○		
4-9	34	本郷 穴 群	本郷字本郷	横 穴	12基						
4-10	34	本郷 穴 群	本郷字本郷	横 穴	2基				○		
4-11	34	本郷 穴 群	本郷字本郷	横 穴	7基				○		
4-12	34	本郷 穴 群	本郷字本郷	横 穴	6基				○	1基欠存	
5	34	本郷 穴 群	本郷字本郷	横 穴							
5-1	34	本郷 穴 群	本郷字本郷	横 穴	2基				○		
5-2	34	本郷 穴 群	本郷字本郷	横 穴	7基						
5-3	34	本郷 穴 群	本郷字本郷	横 穴	3基				○		
6	34	本郷 穴 群	本郷字本郷	横 穴	4936基						
6-1	34	本郷 穴 群	本郷字本郷	横 穴	3基						
6-2	34	本郷 穴 群	本郷字本郷	横 穴	13基						
6-3	34	本郷 穴 群	本郷字本郷	横 穴	11基						
6-4	34	本郷 穴 群	本郷字本郷	横 穴	11基						
7	34	本郷 穴 群	本郷字本郷	横 穴	1844基						
8	34	本郷 穴 群	本郷字本郷	横 穴	1844基						
9	34	本郷 穴 群	本郷字本郷	横 穴	19920基						
10	34	本郷 穴 群	本郷字本郷	横 穴	1873基						
11	34	本郷 穴 群	本郷字本郷	横 穴	1892基						
12	34	本郷 穴 群	本郷字本郷	横 穴	1891基						
13	34	本郷 穴 群	本郷字本郷	横 穴	2393基						
14	35	本郷 穴 群	本郷字本郷	横 穴	19915基						
15	35	本郷 穴 群	本郷字本郷	横 穴	2397基				○	1基欠存	
16	35	本郷 穴 群	本郷字本郷	横 穴	2397基				○		
17	35	本郷 穴 群	本郷字本郷	横 穴	1995基						
18	35	本郷 穴 群	本郷字本郷	横 穴	1993基						
19	35	本郷 穴 群	本郷字本郷	横 穴	2398基						
20	35	本郷 穴 群	本郷字本郷	横 穴							
21	35	本郷 穴 群	本郷字本郷	横 穴	4基						
22	35	本郷 穴 群	本郷字本郷	横 穴	1893基						
23	35	本郷 穴 群	本郷字本郷	横 穴	1891基						
24	35	本郷 穴 群	本郷字本郷	横 穴	1基						
25	35	本郷 穴 群	本郷字本郷	横 穴							
25-1	35	本郷 穴 群	本郷字本郷	横 穴	19915基				○	1975年調査 長指定史跡	
25-2	35	本郷 穴 群	本郷字本郷	横 穴	2397基				○		
25-3	35	本郷 穴 群	本郷字本郷	横 穴	1995基				○		
25-4	35	本郷 穴 群	本郷字本郷	横 穴	1993基				○		
26	35	本郷 穴 群	本郷字本郷	横 穴	9基				○		
27	35	本郷 穴 群	本郷字本郷	横 穴					○		
28	35	本郷 穴 群	本郷字本郷	横 穴	6993基					1966年調査	
28-1	35	本郷 穴 群	本郷字本郷	横 穴	1993基				○		

番号	図号	名 称	所在地	地 形	面積 (㎡)	周長	地 輪	内部施設	備 考	通 査	備 考
28	35	本郷 穴 群	本郷字本郷	横 穴	1993基						
28-1	35	本郷 穴 群	本郷字本郷	横 穴	1993基						
28-2	35	本郷 穴 群	本郷字本郷	横 穴	1993基						
28-3	35	本郷 穴 群	本郷字本郷	横 穴	1993基						
28-4	35	本郷 穴 群	本郷字本郷	横 穴	1993基						
28-5	35	本郷 穴 群	本郷字本郷	横 穴	1993基						
29	35	本郷 穴 群	本郷字本郷	横 穴							
29-1	35	本郷 穴 群	本郷字本郷	横 穴							
29-2	35	本郷 穴 群	本郷字本郷	横 穴							
30	35	本郷 穴 群	本郷字本郷	横 穴							
31	35	本郷 穴 群	本郷字本郷	横 穴							
32	35	本郷 穴 群	本郷字本郷	横 穴							
33	35	本郷 穴 群	本郷字本郷	横 穴							
34	35	本郷 穴 群	本郷字本郷	横 穴							
35	35	本郷 穴 群	本郷字本郷	横 穴							
35-1	35	本郷 穴 群	本郷字本郷	横 穴							
35-2	35	本郷 穴 群	本郷字本郷	横 穴							
35-3	35	本郷 穴 群	本郷字本郷	横 穴							
36	35	本郷 穴 群	本郷字本郷	横 穴							

■陸 沢 町

番号	図号	名 称	所在地	地 形	面積 (㎡)	周長	地 輪	内部施設	備 考	通 査	備 考
1	35	本郷 穴 群	本郷字本郷	横 穴	1993基						
2	35	本郷 穴 群	本郷字本郷	横 穴	1993基						
3	35	本郷 穴 群	本郷字本郷	横 穴	1993基						
4	35	本郷 穴 群	本郷字本郷	横 穴	1993基						
5	35	本郷 穴 群	本郷字本郷	横 穴	1993基						
6	35	本郷 穴 群	本郷字本郷	横 穴	1993基						
7	35	本郷 穴 群	本郷字本郷	横 穴	1993基						
8	35	本郷 穴 群	本郷字本郷	横 穴	1993基						
9	35	本郷 穴 群	本郷字本郷	横 穴	1993基						
9-1	35	本郷 穴 群	本郷字本郷	横 穴	1993基						
9-2	35	本郷 穴 群	本郷字本郷	横 穴	1993基						
10	35	本郷 穴 群	本郷字本郷	横 穴	1993基						
10-1	35	本郷 穴 群	本郷字本郷	横 穴	1993基						
10-2	35	本郷 穴 群	本郷字本郷	横 穴	1993基						
10-3	35	本郷 穴 群	本郷字本郷	横 穴	1993基						
11	35	本郷 穴 群	本郷字本郷	横 穴	1993基						
12	35	本郷 穴 群	本郷字本郷	横 穴	1993基						
13	35	本郷 穴 群	本郷字本郷	横 穴	1993基						
14	35	本郷 穴 群	本郷字本郷	横 穴	1993基						
15	35	本郷 穴 群	本郷字本郷	横 穴	1993基						

番号	国 道 番号	名 称	所 在 地	積 形	敷地面積 (㎡)	用途	建築物	内部施設	備 考	通 車 区	備 考
16	35	上 市 場 古 蹟	小滝下ノ川	横 穴	7.0 2.6						○ 壁の可能性あり
17	35	上 分 庫 古 蹟 群	市場分庫南102	横 穴				2基			
18	35	熊 谷 田 原 穴 群	下之郷字田原1209	横 穴				6基			
19	35	大 井 谷 横 穴 群	下之郷字大井谷 925-1	横 穴				4基			
20	35	香 井 重 谷 横 穴 群	香井字重谷201	横 穴				3基			
21	35	雷 井 北 東 行 寺 横 穴 群 (A)	香井字北東行寺 250-2	横 穴				2基			
22	35	"	香井字北東行寺 258-1他	横 穴				3基			
23	35	香 井 修 聖 田 原 横 穴 (A)	香井字修聖田886	横 穴				1基			
24	35	"	香井字修聖田887	横 穴				1基			
25	35	香 井 谷 ノ 下 横 穴 群 (A)	香井字谷ノ下352-2	横 穴				3基			
26	35	"	香井字谷ノ下358、 363-1、361	横 穴				5基			
27	35	香 井 大 井 横 穴	香井字大井408	横 穴				1基			
28	35	香 井 坂 谷 横 穴	香井字坂谷589	横 穴				1基			
29	35	下 之 郷 月 代 台 横 穴 群	下之郷月代台678	横 穴				3基			
30	35	下 之 郷 小 谷 横 穴	下之郷字小谷418	横 穴				1基			
31	35	浅 間 山 市 境 群	下之郷字浅間5-6他					円形4基			
31-1	35	" 1号墳	下之郷字浅間369-7			15.15 (圓)26.4	附土床	縄文土器(滑石、手山)、弥生式土 器(雲母白)、赤孔円鏡、破片鏡、刀 子、刀、銅鏡、三輪瓦、銅鎧金 具、鉄鍬、鉄尺			1973年調査
32	35	下 之 郷 大 井 田 谷 横 穴 群	下之郷字大井田中谷 211他	横 穴				12基			
33	35	下 之 郷 大 井 谷 横 穴 群	下之郷字清水台 833-4他	横 穴				32基			
34	35	下 之 郷 大 井 谷 横 穴 群 (A)	香井1304	横 穴				1基			
35	35	下 之 郷 大 井 谷 横 穴 群 (A)	下之郷字坂谷645-9他	横 穴				5基			
36	35	"	下之郷字坂谷646他	横 穴				6基			
37	35	下 之 郷 新 井 谷 横 穴 群	下之郷字新井谷178	横 穴				1基			
38	35	上 之 郷 新 井 谷 横 穴 群 (A)	上之郷字新井1312-1他	横 穴				4基			
39	35	"	上之郷字新井1315他	横 穴				2基			
40	35	上 之 郷 安 永 横 穴 群 (A)	上之郷字安永1044	横 穴				1基			
41	35	"	上之郷安永1077	横 穴				2基			
42	35	鳴 谷 横 穴 群 (A)	上之郷字五反田 1379他	横 穴				1基			
43	35	"	上之郷字五反田 1379他	横 穴				6基			
44	35	下 之 郷 入 山 原 横 穴 群	下之郷字御弓108-4	横 穴				3基			
45	35	上 之 郷 石 川 横 穴 群 (A)	上之郷字石川966	横 穴				2基			
46	35	"	上之郷字石川911-1 他	横 穴				4基			
47	35	上 之 郷 赤 井 谷 横 穴 群	上之郷字赤井谷6189	横 穴				1基			
48	35	重 谷 横 穴 群	上之郷字重谷956他	横 穴				5基、土師器(66分)、灰器器、鉄鍬、 刀子、石製品			
49-1	35	" 1号墳	上之郷字重谷401	横 穴	横穴+横 穴873.5x 3.5x1.8	附土床		人骨、高杯、杯、鉄鍬、石製品、刀 子	○		1982年調査
49	35	上 之 郷 向 天 ヶ 谷 横 穴 群	上之郷字向天ヶ谷 1097他	横 穴				7基			
50	35	上 之 郷 上 天 ヶ 谷 横 穴 群	上之郷字上天ヶ谷 1204-2	横 穴				2基			

図面 番号	名 称	所 在 地	墳 形	周長(※ の表示)	周 圍	電 線	内 部 施 設	観 望	透 視 図	備 考
51	35 上之馬神戸穴	上之馬神戸949	横 穴					1基		
52	35 上之馬神戸穴	上之馬神戸957	横 穴					4基		
53	35 上之馬神戸穴	上之馬神戸957	横 穴					6基		
54	35 目之子古墳群	大上字戸の124-1	円					円墳3		
55	35 野谷横穴群	大上字野谷621-1	横 穴	①8.8× A12.5×1.3 ×1.3				2基	○	
56	35 上之馬神戸穴	上之馬神戸山田谷51	横 穴					6基		
57	35 上之馬神戸穴	上之馬神戸山田谷338	横 穴				環壕(1.6m) 排水溝、枕石	1基、人骨	○	
58	35 大野谷横穴	大上字大野谷238	横 穴	2.6 3.6			縦型 排水溝、枕石			
59	35 熊鷹寺古墳群	熊鷹寺/山地272	円	(横)31.3 (縦)16.6				円墳2基、方墳1基		
59-1	35 〃 円墳	熊鷹寺/山地272	円	(横)31.3 (縦)16.6					○	
60	35 〇 古墳古墳	長庚寺上野田164	前方横 円	(横)31 (前方)18 45		○		竪穴門部無彫部	○	
61	35 野谷横穴群(穴)	佐賀字打屋1758他	横 穴					1基		
62	35 〃 〇 〇 〇	佐賀字野田1812他	横 穴					3基		
63	35 〃 〇 〇 〇	佐賀字野田1808他	横 穴					1基		
64	35 熊鷹寺横穴群	佐賀字野田948〇1407	横 穴					2基		
64-1	35 〃 1号墓	〃	横 穴						○	
64-2	35 〃 2号墓	〃	横 穴						○	
65	35 佐賀横穴群	佐賀字横子西谷1256他	横 穴					6基		
66	35 佐賀横穴群(穴)	佐賀字自屋235	横 穴					2基		
67	35 〃 〇 〇 〇	佐賀字大作1932	横 穴					2基		
68	35 長庚寺横穴群(穴)	長庚寺字南谷631他	横 穴					2基		
69	35 〃 〇 〇 〇	長庚寺字南谷657-1	横 穴				東型	1基	○	
70	35 〃 〇 〇 〇	長庚寺字南谷688他	横 穴					3基		
71	35 熊鷹寺古墳群	熊鷹寺32	前方横 円	(横)門 15.3 (前方) 13.6 27.7		不明		前方横円墳1基、円墳4基		
71-1	35 〃 1号墳	〃	円	(高)1.6 (直径)横 2.2×3.5 寛政13.5				縄文土器(加曾利古)、土師器	◎	1988年調査
71-2	35 〃 2号墳	〃	円						○	
71-3	35 〃 3号墳	〃	円	1.25 18.8					○	
71-4	35 〃 4号墳	〃	円	1.5 6.7				弥生式土器(土師器、須恵器)	◎	1988年調査
71-5	35 〃 5号墳	〃	円	1.2 13.7					○	〃
72	35 大野谷横穴群	大上字野谷3057 王字3060	横 穴					3基		
73	35 大野谷横穴群	佐賀字大野谷3222	横 穴					1基		
74	35 佐賀山田谷横穴群	佐賀字山田谷647	円							塚の可動性あり
75	35 大野谷横穴群	大上字川南3342	横 穴	1号全長 2.3				2基	○	
76	35 〃 〇 〇 〇	大上字川南3340	横 穴					4基		
77	35 〃 〇 〇 〇	大上字川南3333-2他	横 穴					1基		

番号	国名	名 称	所 在 地	墳 形	面積(1/10000) 陸域(海内陸外)	用途	内 部 施 設	展 覧	資 料	展示	備 考
83	21	古 墳 群	佐和町台					円墳5基		○	
84	21	墓 木 古 墳	川井町湊木	円	1.5(陸) 5					◎	
85	21	墳 墓 北 古 墳	川井町森根	円						×	
86	21	墳 墓 - 古 墳	野島町輪巻	方?						○	
87	21	天 神 台 古 墳	足尾町天神台	円						×	
88	21	墓 墓 古 墳 古 墳	足尾町伊豆台	円						×	
89	21	墓 久 古 墳	青雲町寛久		3(陸+) 16					×	1951年調査
90	23	防 林 古 墳	最久喜町秋林	円?	3(陸+) 8		御穴式石室の可成 破			◎	
91	23	聖 人 塚 古 墳	仁戸名町中尾会	円	2(陸+) 18			墓刀		○	
92	23	へたの台古墳群	仁戸名町中台					円墳5基		○	1969—70年調査
93	23	作 山 古 墳 群	仁戸名町前作山					円墳3基		○	
94	23	郷 西 古 墳	仁戸名町郷	円						○	
95	23	東 王 郎 古 墳	大宮町東王郎							○	1973年調査
96	23	森 木 古 墳 群	大宮町木末					円墳2基		○	
97	23	榎 本 台 古 墳	大宮町榎本台	円	墳					○	
98	24	小 園 子 古 墳 群	小園子町					円墳2基、方墳2基		○	
99	27	アサダツチ古墳群	五十町アサダツチ					円墳3基以上		○	
100	27	上 人 塚 古 墳	五十町白馬嶺	円	墳					○	
101	27	伊 達 古 墳 群	野長町伊達					円墳4基		○	
102	27	長 塚 古 墳 群	花輪町長塚長岳					円墳15基		○	
103	27	吾 輩 古 墳 群	平山町吾輩					円墳2基		○	
104	27	谷 津 町 古 墳	平山町谷津町	円	1.5(陸) 12					○	
105	27	美 塚 古 墳	仁戸名町美塚	円						△	
106	27	龜 田 古 墳 群	花輪町龜田					円墳5基		○	1981年調査
107	27	中 津 古 墳	花輪町中津	円	2(陸+) 12					○	
108	27	仁 と な 古 墳 群	花輪町仁・谷真作宅					2号(前方後円墳)1基31.5m、円墳5基		○	1972年調査
109	27	大 蔵 寺 古 墳 群	大蔵寺町茂岡					円墳39m		◎	
110	27	飯 塚 古 墳 群	今井町					円墳1基、曾王		○	1964年調査
111	27	飯 崎 古 墳 群	生沢町飯崎台					円墳2基(内1基崩壊)		○	
112	27	愛 宕 古 墳 群	大蔵町愛宕上津原					円墳2基		○	
113	27	赤 井 古 墳 群	赤井町砂坪					円墳3基		○	
114	27	横 作 古 墳 群	赤井町横作					円墳3基以上		○	
115	27	大 作 古 墳 群	赤井町大作台					円墳2基		○	
116	27	藤 名 古 墳 群	平山町藤名台					円墳1基、方墳1基		○	
117	27	藤 名 古 墳 群	平山町古墳群					円墳4基		○	
118	27	台 畑 古 墳 群	平山町台畑					円墳3基以上		○	
119	27	西 木 砂 古 墳 群	平山町西木砂					円墳2基		○	
120	27	平 山 古 墳	平山町木砂	円	1.8(陸) 24			土曜寺、藤原邸(台付長狭墓)		○	1977年調査
121	27	志 丸 古 墳	平山町志丸					円墳2基		○	
122	27	新 山 古 墳 群	平山町新山					円墳5基		○	1977年調査
123	27	立 巻 古 墳	沼田町立巻	円						○	
124	27	藤 本 台 古 墳	赤井町藤本台	円						○	
125	27	沼 田 向 古 墳	沼田町沼田向	円	1(陸+) 9					◎	
126	27	大 野 原 古 墳 群	沼田町大野原					円墳1基、方墳1基		○	
127	27	藤 本 作 古 墳	沼田町	円						×	1977年調査
128	27	藤 原 古 墳 群	平山町宇原原					前方後円墳3基、円墳4基		○	
129	27	中 原 古 墳 群	平山町中原					前方後円墳1基、円墳3基 3号25m、4号25m、5号25m		×	1959年
130	27	下 原 沢 沢 古 墳	平山町下原沢沢	円	4(陸+) 28					◎	

番号	国名	名 称	所 在 地	形 状	得地方法 (所有権)	周長	幅	内部施設	備 考	遺存	備 考
131	2	鎌 取 古 墳 群	鎌取町鎌取子					円形2基		○	
132	2	物 見 塚 古 墳	沼田町内野作	円							
133	2	塚 塚 古 墳 群	生奥町塚塚遺跡口					方墳1基、円墳12基		◎	
134	2	生 沢 古 墳 群	生沢町高沢					円墳4基		×	1982年調査
135	2	生 沢 古 墳 群	生沢町生沢					円墳5基		×	1975～78年調査
136	2	南二重塚古墳群	生奥町南二重塚					4号34.6m方墳8基		×	1979～80年調査
137	2	大 道 古 墳 群	生奥町尾道大道					円墳2基		×	1981～82年調査
138	2	赤 塚 古 墳 群	赤生町上赤塚					円墳5基		×	1980年調査
139	2	上 赤 塚 古 墳 群						円墳2基		×	“
140	2	新 田 古 墳	沢野町新田	円						×	
141	2	新 田 古 墳	“	円						×	
142	2	藤 部 塚 古 墳	村田町藤部	前方後円						×	
143	2	七 垣 塚 古 墳	生奥町時台	円 墳	54			直方、圓形、溝形、楕形、小段形、楕形、横石製墓品、白土、灰和礫石(瓦、小刀、鏃、鏃)	×	◎	1968年調査
144	2	大 覚 寺 山 古 墳 群	生奥町大覚寺峠					前方後円墳1基、円墳3基		◎	
145	2	大 覚 寺 山 古 墳	“	前方後円	62					◎	鳥居定史誌
146	2	龜 甲 北 古 墳	駒生実町龜甲	円	15坪 15					◎	
147	2	八 人 塚 古 墳 群	生奥町八人塚平作					前方後円墳1基30m、円墳4基		○	
148	2	岡 田 古 墳	古町岡田	方 墳						×	
149	2	馬ノ口古墳群						円墳6基、方墳3基		×	1980～81年調査
150	2	新 田 塚 古 墳	高田町新田							×	1954年調査
151	2	神 芝 古 墳	高田町神芝	円						×	1977年調査
152	2	中 藤 第 1 古 墳	新田町中藤	円						×	
153	2	深 木 合 第 5 古 墳	成田町深木	方						×	1975年調査
154	2	根 名 崎 古 墳 群	根名崎町西根					円墳2基		×	1976～77年調査
155	2	根 名 崎 古 墳 群	根名崎町水戸作							×	
156	2	人 形 塚 古 墳 群	根名崎町通物谷					前方後円墳1基、円墳1基		×	
157	2	根 名 崎 B 古 墳 群	根名崎町					円墳7基、前方後円墳2基		×	
158	2	根 名 崎 A 古 墳 群	根名崎町東作					前方後円墳1基、円墳5基		×	1972～1976年調査
159	2	小 金 沢 古 墳 群	小金沢町東堀					前方後円墳7基、円墳12基以上		×	1976～77年調査
160	2	ムツツラ古墳群	大金沢町ムツツラ					円墳7基、方墳4基以上		×	
161	2	穴 瀬 社 所 在 古 墳 群	大金沢町穴瀬田					円墳6基		×	
162	2	穴 瀬 社 所 在 古 墳 群	大金沢町穴瀬田					円墳10基以上		×	1976年調査
163	2	新 堀 合 古 墳 群	小金沢町新堀					円墳10基以上		×	1978～1982年調査
164	2	八 入 古 墳 群	根名崎町					前方後円墳1基、円墳12基		×	
165	2	神 野 池 裏 古 墳 群	小金沢町上ノ台							×	1983～1985年調査
166	2	富 岡 古 墳 群	富岡町富岡					円墳3基、方墳1基		×	
167	2	杉ノ台古墳	中野町中西台富山	円	12					○	
168	2	飯 塚 古 墳 群	大木町戸國塚					円墳2基		○	
169	2	水 羽 古 墳	飯塚町水羽	円	17					○	
170	2	庭 塚 古 墳 群	中野町出戸					円墳4基		○	
171	2	藪 上 古 墳	中野町藪の上	円	3 20					◎	
172	2	飯 塚 寺 古 墳	飯塚町飯塚	円	4 17					○	
173	2	寺 井 田 古 墳	飯塚町寺井田	円	12					△	
174	2	一 本 松 古 墳 群	中野町一本松					円墳3基		○	
175	2	ムカニ古墳群	和泉町ムカニ					円墳4基		○	
176	2	塚之樋古墳群	下大和田町塚之樋					円墳3基		○	
177	2	藤 山 古 墳	下大和田町藤山	方						○	
178	2	新 沢 古 墳	下大和田町新沢	円	4 10					○	
179	2	佐 目 沢 古 墳	平川町佐目沢	前方後方						○	
180	2	宝 尊 寺 山 古 墳 群	平川町宝尊					円墳12基		◎	

番号	国名	名称	所在地	形状	面積(㎡)	用途	内部施設	備 考	備考
180	27	新 興 古 墳 群	下和田町能楽功	円	19		円墳2基	×	○
181	28	新 興 古 墳 群	下和田町能楽功	円	19		円墳2基	×	○
182	28	新 興 古 墳 群	土堤町二ツ塚	円	19		円墳2基	×	○
183	28	中 古 墳 群	土堤町中台	円	19		円墳2基	×	○
184	28	新 興 古 墳 群	土堤町ハヤヒ	円	19		円墳2基	×	○
185	28	東 京 古 墳 群	土堤町東京台	円	19		円墳2基	×	○
186	28	角 野 古 墳 群	土堤町角野	前方後円	15(2)44	二重周溝	前方後円式古墳	1981~83年調査	×
187	28	長 岡 古 墳 群	小倉山町長岡	円	19		円墳2基、方墳1基	×	○
188	28	新 興 古 墳 群	小倉山町長岡	円	19		円墳2基	×	○
189	28	新 興 古 墳 群	新倉町金沢	円	19		円墳2基	×	○
190	28	新 興 古 墳 群	小倉山町南谷	円	19		7基	×	○
191	28	新 興 古 墳 群	小倉山町乙島	円	19		4基	×	○
192	28	向 山 古 墳 群	砂浜町向山	円	19		円墳2基	×	○
193	28	向 山 古 墳 群	下町向山	円	19		円墳2基	×	○
194	28	大 塚 古 墳 群	大塚町大塚	円	19		円墳2基	×	○
195	28	大 塚 古 墳 群	大塚町大塚	円	19		円墳2基	×	○
196	28	北 寺 山 古 墳 群	北寺山町北寺	円	19		円墳2基	×	○
197	28	新 興 古 墳 群	新倉町新倉	円	19		円墳2基	×	○
198	28	新 興 古 墳 群	新倉町新倉	円	19		円墳2基	×	○
199	28	新 興 古 墳 群	大塚町大塚	円	19		円墳2基	×	○
200	28	下 田 古 墳 群	大塚町下田	円	19		円墳2基	×	○
201	28	新 興 古 墳 群	大塚町大塚	円	19		円墳2基	×	○
202	28	南 水 台 古 墳 群	五十子町南水台	円	19		円墳2基	×	○
203	28	大 塚 古 墳 群	大塚町大塚	円	19		円墳2基	×	○
204	28	内 ヶ 崎 古 墳 群	土堤町内ヶ崎	円	19		円墳2基	×	○

市 原 市

番号	国名	名称	所在地	形状	面積(㎡)	用途	内部施設	備 考	備考
1	27	北 山 1 号 墳	草刈町北山	円	19		土師器灰穴、灰穴1	×	○
2	27	中 古 墳 群	草刈町中谷	円	19		円墳2基	×	○
3	27	草 刈 古 墳 群	草刈町中谷	円	19		円墳2基	×	○
3-1	27	草 刈 1 号 墳	草刈町中谷	円	19		円墳2基	×	○
3-2	27	草 刈 2 号 墳	草刈町中谷	円	19		円墳2基	×	○
4	27	中 古 墳 群	草刈町中谷	円	19		円墳2基	×	○
5	27	中 古 墳 群	草刈町中谷	円	19		円墳2基	×	○
6	27	中 古 墳 群	草刈町中谷	円	19		円墳2基	×	○
7	27	中 古 墳 群	草刈町中谷	円	19		円墳2基	×	○
8	27	中 古 墳 群	草刈町中谷	円	19		円墳2基	×	○
9	27	中 古 墳 群	草刈町中谷	円	19		円墳2基	×	○
10	27	中 古 墳 群	草刈町中谷	円	19		円墳2基	×	○
11	27	中 古 墳 群	草刈町中谷	円	19		円墳2基	×	○
12	27	中 古 墳 群	草刈町中谷	円	19		円墳2基	×	○
13	27	中 古 墳 群	草刈町中谷	円	19		円墳2基	×	○

番号	国名	名称	所在地	形状	面積(㎡)	用途	内部施設	備 考	備考
14	27	新 興 古 墳 群	本吉町新井	円	17		円墳1基(円墳3基)	×	○
15	27	新 興 古 墳 群	本吉町新井	円	17		円墳1基(円墳3基)	×	○
15-1	27	新 興 古 墳 群	本吉町新井	円	17		円墳1基(円墳3基)	×	○
16	27	新 興 古 墳 群	本吉町新井	円	17		円墳1基(円墳3基)	×	○
17	27	新 興 古 墳 群	本吉町新井	円	17		円墳1基(円墳3基)	×	○
18	27	新 興 古 墳 群	本吉町新井	円	17		円墳1基(円墳3基)	×	○
19	27	新 興 古 墳 群	本吉町新井	円	17		円墳1基(円墳3基)	×	○
19-1	27	新 興 古 墳 群	本吉町新井	円	17		円墳1基(円墳3基)	×	○
19-2	27	新 興 古 墳 群	本吉町新井	円	17		円墳1基(円墳3基)	×	○
19-3	27	新 興 古 墳 群	本吉町新井	円	17		円墳1基(円墳3基)	×	○
19-4	27	新 興 古 墳 群	本吉町新井	円	17		円墳1基(円墳3基)	×	○
20	27	新 興 古 墳 群	本吉町新井	円	17		円墳1基(円墳3基)	×	○
21	27	新 興 古 墳 群	本吉町新井	円	17		円墳1基(円墳3基)	×	○
22	27	新 興 古 墳 群	本吉町新井	円	17		円墳1基(円墳3基)	×	○
22-1	27	新 興 古 墳 群	本吉町新井	円	17		円墳1基(円墳3基)	×	○
23	27	新 興 古 墳 群	本吉町新井	円	17		円墳1基(円墳3基)	×	○
24	27	新 興 古 墳 群	本吉町新井	円	17		円墳1基(円墳3基)	×	○
25	27	新 興 古 墳 群	本吉町新井	円	17		円墳1基(円墳3基)	×	○
26	27	新 興 古 墳 群	本吉町新井	円	17		円墳1基(円墳3基)	×	○
26-1	27	新 興 古 墳 群	本吉町新井	円	17		円墳1基(円墳3基)	×	○
27	27	新 興 古 墳 群	本吉町新井	円	17		円墳1基(円墳3基)	×	○
27-1	27	新 興 古 墳 群	本吉町新井	円	17		円墳1基(円墳3基)	×	○
28	27	新 興 古 墳 群	本吉町新井	円	17		円墳1基(円墳3基)	×	○
29	27	新 興 古 墳 群	本吉町新井	円	17		円墳1基(円墳3基)	×	○
30	27	新 興 古 墳 群	本吉町新井	円	17		円墳1基(円墳3基)	×	○
31	27	新 興 古 墳 群	本吉町新井	円	17		円墳1基(円墳3基)	×	○
31-1	27	新 興 古 墳 群	本吉町新井	円	17		円墳1基(円墳3基)	×	○
32	27	新 興 古 墳 群	本吉町新井	円	17		円墳1基(円墳3基)	×	○
33	27	新 興 古 墳 群	本吉町新井	円	17		円墳1基(円墳3基)	×	○
34	27	新 興 古 墳 群	本吉町新井	円	17		円墳1基(円墳3基)	×	○
35	27	新 興 古 墳 群	本吉町新井	円	17		円墳1基(円墳3基)	×	○
36	27	新 興 古 墳 群	本吉町新井	円	17		円墳1基(円墳3基)	×	○
37	27	新 興 古 墳 群	本吉町新井	円	17		円墳1基(円墳3基)	×	○
38	27	新 興 古 墳 群	本吉町新井	円	17		円墳1基(円墳3基)	×	○
39	27	新 興 古 墳 群	本吉町新井	円	17		円墳1基(円墳3基)	×	○
40	27	新 興 古 墳 群	本吉町新井	円	17		円墳1基(円墳3基)	×	○
41	27	新 興 古 墳 群	本吉町新井	円	17		円墳1基(円墳3基)	×	○
42	27	新 興 古 墳 群	本吉町新井	円	17		円墳1基(円墳3基)	×	○
43	27	新 興 古 墳 群	本吉町新井	円	17		円墳1基(円墳3基)	×	○

番号	国名 番号	名称	所在地	形状	面積 (㎡)	用途	内部施設	備 考	通年 備考
44	21A	開運日、夜間神社古墳	五井寺山	前方後円	13(約)	○	円形、 形		△
45	26A	二島古墳群	郡山1丁目				円形2基		△
46	26A	郡山南原古墳群	郡山本町				円形1基		△
47	27	南原古墳群	門前町				円形3基		×
48	26A	藤田古墳	加茂町	円	15			1972年調査	×
49	26A	西谷古墳群	加茂町				円形7基、方墳	1980年調査	×
50	30	大天神古墳	加茂町	円	20			1980年調査	×
51	30	秋作古墳群	秋作字輪の内				前方後円墳1基(遺跡)、円墳7基、方墳1基		×
52	30	小田原古墳群	小田原町				円形5基		×
52-1	30	小田原1号墳	小田原町	円	23		五輪、土師器(高野)		×
53	30	藤岡南原古墳群	藤岡町				円形4基(25×2基)		○
54	30	西ノ山古墳群	西ノ山				円形3基(10×6基)、方墳1基(10×8)		○
55	30	十人堂古墳群	大武町				4基		○
56	30	西谷古墳群	秋作字輪の内				円形4基(10×8)		○
57	30	深谷古墳群	深谷	円	15				○
58	30	藤岡古墳群	秋作字輪の内				円形2基(15×8)		○
59	30	東本舞古墳群	東本舞				前方後円墳2基(遺跡)、円墳7基		○
60	30	東本七塚古墳群	東本舞				方墳(5基)、円墳(4基)		○
61	30	山古墳群	山				前方後円墳2基、円墳13基、方墳2基		×
61-1	30	山古墳1号墳	大井町	45	○	円形、 人物	鉄刀、石室、 片蓋蓋平室	1976年調査	×
62	30	藤岡古墳	山	円	20				○
63	30	山古墳群	山				円形7基(10×8)		○
64	30	山古墳群	山				前方後円墳1基、円形7基		○
65	30	山古墳群	山				円形11基		○
65-1	30	山古墳2号墳	山	円	20		鉄刀、石室、 穴式石室	1976年調査	△
66	30	山古墳群	山	円	17		鉄刀、石室、 穴式石室	1976年調査	△
67	30	山古墳群	山	円	17		鉄刀、石室、 穴式石室	1976年調査	△
68	30	山古墳群	山	円	17		鉄刀、石室、 穴式石室	1976年調査	△
69	30	山古墳群	山	円	17		鉄刀、石室、 穴式石室	1976年調査	△
70	30	山古墳群	山	円	17		鉄刀、石室、 穴式石室	1976年調査	△
70-1	30	山古墳群	山	円	17		鉄刀、石室、 穴式石室	1976年調査	△
71	30	山古墳群	山	円	17		鉄刀、石室、 穴式石室	1976年調査	△
72	30	山古墳群	山	円	17		鉄刀、石室、 穴式石室	1976年調査	△
73	30	山古墳群	山	円	17		鉄刀、石室、 穴式石室	1976年調査	△
74	30	山古墳群	山	円	17		鉄刀、石室、 穴式石室	1976年調査	△
75	30	山古墳群	山	円	17		鉄刀、石室、 穴式石室	1976年調査	△
76	30	山古墳群	山	円	17		鉄刀、石室、 穴式石室	1976年調査	△
77	30	山古墳群	山	円	17		鉄刀、石室、 穴式石室	1976年調査	△
78	30	山古墳群	山	円	17		鉄刀、石室、 穴式石室	1976年調査	△
79	30	山古墳群	山	円	17		鉄刀、石室、 穴式石室	1976年調査	△
80	30	山古墳群	山	円	17		鉄刀、石室、 穴式石室	1976年調査	△
81	30	山古墳群	山	円	17		鉄刀、石室、 穴式石室	1976年調査	△
82	30	山古墳群	山	円	17		鉄刀、石室、 穴式石室	1976年調査	△
83	30	山古墳群	山	円	17		鉄刀、石室、 穴式石室	1976年調査	△
84	30	山古墳群	山	円	17		鉄刀、石室、 穴式石室	1976年調査	△
85	30	山古墳群	山	円	17		鉄刀、石室、 穴式石室	1976年調査	△

番号	国名 番号	名称	所在地	形状	面積 (㎡)	用途	内部施設	備 考	通年 備考
86	30	大城古墳群	大字				円形16基		○
87	30	大城古墳群	大字				円形16基、方墳4基(遺跡)		○
88	30	大城古墳群	大字				円形3基		○
89	30	大城古墳群	大字				円形1基、方墳4基、円形1基		○
90	30	大城古墳群	大字				円形1基、方墳4基、円形1基		○
91	30	大城古墳群	大字				円形1基、方墳4基、円形1基		○
92	30	大城古墳群	大字				円形1基、方墳4基、円形1基		○
93	30	大城古墳群	大字				円形1基、方墳4基、円形1基		○
94	30	大城古墳群	大字				円形1基、方墳4基、円形1基		○
95	30	大城古墳群	大字				円形1基、方墳4基、円形1基		○
96	30	大城古墳群	大字				円形1基、方墳4基、円形1基		○
97	30	大城古墳群	大字				円形1基、方墳4基、円形1基		○
98	30	大城古墳群	大字				円形1基、方墳4基、円形1基		○
99	30	大城古墳群	大字				円形1基、方墳4基、円形1基		○
100	30	大城古墳群	大字				円形1基、方墳4基、円形1基		○
101	30	大城古墳群	大字				円形1基、方墳4基、円形1基		○
102	30	大城古墳群	大字				円形1基、方墳4基、円形1基		○
103	30	大城古墳群	大字				円形1基、方墳4基、円形1基		○
104	30	大城古墳群	大字				円形1基、方墳4基、円形1基		○
105	30	大城古墳群	大字				円形1基、方墳4基、円形1基		○
106	30	大城古墳群	大字				円形1基、方墳4基、円形1基		○
107	30	大城古墳群	大字				円形1基、方墳4基、円形1基		○
108	30	大城古墳群	大字				円形1基、方墳4基、円形1基		○
109	30	大城古墳群	大字				円形1基、方墳4基、円形1基		○
110	30	大城古墳群	大字				円形1基、方墳4基、円形1基		○
111	30	大城古墳群	大字				円形1基、方墳4基、円形1基		○
112	30	大城古墳群	大字				円形1基、方墳4基、円形1基		○
113	30	大城古墳群	大字				円形1基、方墳4基、円形1基		○
114	30	大城古墳群	大字				円形1基、方墳4基、円形1基		○
115	30	大城古墳群	大字				円形1基、方墳4基、円形1基		○

番号 図面 番号	名称	所在地	形状	面積 (㎡)	用途	内部施設	備 考	通 寸 法	備 考
116	弥生古墳群	藤原寺古墳				円墳5基	○		
117	今富部古墳群	今富部古墳				円墳5基、方墳1基	○		
118	今富部山古墳	今富部山	前方後円	110		円墳4基	○		
119	今富部山古墳群	今富部山				円墳2基	○		
120	神代古墳群	神代古墳				円墳2基	○		
121	徳島山古墳群	宮前寺山				円墳2基、方墳1基	○		
122	引田山古墳群	引田山				円墳3基	○		
123	分田古墳群	分田山				円墳4基	○		
124	新金田古墳群	新金田				円墳2基	○		
125	山崎古墳群	山崎	円	23			○		
126	上中台古墳群	上中台	円	15			○		
127	松山古墳群	松山	円	17			○		
128	日吉古墳群	日吉				円墳2基	○		
129	志々通古墳群	志々通				円墳3基	○		
130	永藤古墳群	永藤				円墳10基	○		
131	藤原寺古墳群	藤原寺	円	10			○		
132	中井古墳群	中井	円	12			○		
133	山崎古墳群	山崎	円	15			○		
134	谷口古墳群	谷口				方墳1基、円墳2基	○		
135	廣志・門前古墳群	廣志・門前	円	30			○		
136	下入古墳群	下入	円	15			○		
137	下入古墳群	下入	円	12			○		
138	夏元古墳群	夏元	円	10			○		
139	明光古墳群	明光	円	15			○		
140	上里古墳群	上里	円	15			○		
141	藤原寺古墳群	藤原寺	円	10			○		
142	安原古墳群	安原	円	13			○		
143	八幡山古墳群	八幡山	円	13			○		
144	安原古墳群	安原	円	13			○		
145	藤原寺古墳群	藤原寺	円	10			○		
146	安原古墳群	安原	円	13			○		
147	高野古墳群	高野	円	13			○		
148	山崎古墳群	山崎	円	15			○		
149	太田古墳群	太田	円	13			○		
150	中富部古墳群	中富部	円	13			○		
151	外道山古墳群	外道山	円	13			○		
152	上野山古墳群	上野山	円	13			○		
153	宝生古墳群	宝生	円	10			○		
154	新・山崎古墳群	新・山崎	円	16			○		
155	砂子古墳群	砂子	円	16			○		
156	新・山崎古墳群	新・山崎	円	16			○		
157	新・山崎古墳群	新・山崎	円	16			○		
158	新・山崎古墳群	新・山崎	円	16			○		
159	新・山崎古墳群	新・山崎	円	16			○		
160	新・山崎古墳群	新・山崎	円	16			○		
161	新・山崎古墳群	新・山崎	円	16			○		
162	新・山崎古墳群	新・山崎	円	16			○		
163	新・山崎古墳群	新・山崎	円	16			○		
164	新・山崎古墳群	新・山崎	円	16			○		

番号 図面 番号	名称	所在地	形状	面積 (㎡)	用途	内部施設	備 考	通 寸 法	備 考
165	真福寺古墳群	真福寺	円	13			○		
166	真福寺古墳群	真福寺	円	13			○		
167	真福寺古墳群	真福寺	円	13			○		
168	真福寺古墳群	真福寺	円	13			○		
169	真福寺古墳群	真福寺	円	13			○		
170	真福寺古墳群	真福寺	円	13			○		
171	真福寺古墳群	真福寺	円	13			○		
172	真福寺古墳群	真福寺	円	13			○		
173	真福寺古墳群	真福寺	円	13			○		
174	真福寺古墳群	真福寺	円	13			○		
175	真福寺古墳群	真福寺	円	13			○		
176	真福寺古墳群	真福寺	円	13			○		
177	真福寺古墳群	真福寺	円	13			○		
178	真福寺古墳群	真福寺	円	13			○		
179	真福寺古墳群	真福寺	円	13			○		
180	真福寺古墳群	真福寺	円	13			○		
181	真福寺古墳群	真福寺	円	13			○		
182	真福寺古墳群	真福寺	円	13			○		
183	真福寺古墳群	真福寺	円	13			○		
184	真福寺古墳群	真福寺	円	13			○		
185	真福寺古墳群	真福寺	円	13			○		
186	真福寺古墳群	真福寺	円	13			○		
187	真福寺古墳群	真福寺	円	13			○		
188	真福寺古墳群	真福寺	円	13			○		
189	真福寺古墳群	真福寺	円	13			○		
190	真福寺古墳群	真福寺	円	13			○		
191	真福寺古墳群	真福寺	円	13			○		
192	真福寺古墳群	真福寺	円	13			○		
193	真福寺古墳群	真福寺	円	13			○		

■袖ヶ浦町

番号 図面 番号	名称	所在地	形状	面積 (㎡)	用途	内部施設	備 考	通 寸 法	備 考
1	新・山崎古墳群	新・山崎	円	13			○		
2	新・山崎古墳群	新・山崎	円	13			○		
3	新・山崎古墳群	新・山崎	円	13			○		
4	新・山崎古墳群	新・山崎	円	13			○		
5	新・山崎古墳群	新・山崎	円	13			○		
6	新・山崎古墳群	新・山崎	円	13			○		
7	新・山崎古墳群	新・山崎	円	13			○		
8	新・山崎古墳群	新・山崎	円	13			○		
9	新・山崎古墳群	新・山崎	円	13			○		
10	新・山崎古墳群	新・山崎	円	13			○		
11	新・山崎古墳群	新・山崎	円	13			○		

序号	調査年度	名 称	所 在 地	墳 形	横断(土中深部)形状	周堀	地輪	内部施設	墓 所	埋葬年代	備 考	
32	26年	上原 島崎古墳	奈良縣宇上郡島崎	円	6					○		
33	26年	鹿戸 神社古墳	京都府宇治郡山	前方後 円	63				地山露出。前期古墳と推定。	○		
34	26年	土神北原古墳	神納字谷田原	円	36	○	円 周		二段築成。透石入り	○		
35	26年	中辻古墳	神納字若布前	円	5					○		
36	26年	溝久 穴古墳群	神納字溝久						円5基(1号墳保存、2号墳土周を築城、3-4号墳墳址を推定)	○		
36-1	26年	溝久 1号墳	"	円	10			横穴式石室		○		
36-2	26年	" 3号墳	"	円	7	○		(奥室内)刀子・鉄鏝・埴土埴輪、須置部広口甕		○	1980年度末	
36-4	26年	" 4号墳	"	円	13	○		(奥室内)鏡、須置部蓋、虎杯、埴土埴輪等類、短距離、高杯、杯		×	"	
36-5	26年	" 5号墳	"	円	20	○		(奥室内)釣針、七郎笠等、杯		×	"	
37	26年	五部 鹿戸古墳	神納字五郎町	円	30					○		
38	26年	八輪 柳古墳	神納字谷田	円	20	○	円 周		円形墳輪、形迹僅残(甕、甕、大刀等)須置部高杯、脇、杯、土埴輪等	○	1978年確認	
39	26年	龜 形古墳	神納字相田谷	円	11					○		
40	26年	仲 原古墳	神納字仲原	円	13					○		
41	26年	比 子古墳	神納字比子	円	13					○		
42	26年	谷 塚古墳	神納字辻子	円	11					○		
43	26年	瀧 原古墳群	神納字瀧原						円横4基(10-15m級)			
24	26年	大野古墳群	神納字横木沢						円横7基(20-15m級(基、10m未満)基)			
25	26年	新 生古墳	神納字新生	円	14					○		
26	26年	戸ノ宮古墳	熊野字長尾崎	円	20					○		
27	26年	真黒 塚古墳	熊野字真黒崎御道						円横15基(御道直線部を含む、町道横断の位置で7号墳横断4基と相土部を伴う上層1基を新形に確認)		○	1988年、熊野宮(山内野津池)
28	26年	磯ノ峰古墳群	飯高字ノ峰						円横2基(10m級)			
29	26年	堂 野古墳群	下新田字堂野						円横2基(御道北の奥出)		×	1983年度末
29-5	26年	堂 野 5号墳	"	前方後 円	30				前方後円横1基、円横4基(10m級)		○	
30	26年	城 古墳群	下新田字狹戸						円横2基(御道北の奥出)		×	1983年度末
30-1	26年	" 1号墳	"	円	12	○			(奥室)土埴輪等		×	"
30-2	26年	" 2号墳	"	円	12	○	円 周		円横2基(御道南側含む)		×	"
31	26年	三ツ字古墳群	三ツ字宇賀後						円横4基(20-25m級2基)			
32	26年	山王辺田古墳群	大曾根字山王辺田						前方後方墳1基、円横、方墳3基以上		×	1975年度末
32-3	26年	山王辺田2号墳	"	前方後 方	40						×	"
32-12	26年	" 12号墳	"	机 立 真	15						×	"
32-23	26年	" 22号墳	"	方	20				方墳中最大、前方後方墳に類似		×	"
33	26年	嵐 塚古墳群	大曾根字嵐塚						円横2基(10m級)			
34	26年	藤 山古墳群	大曾根字藤山						円横3基(20-30m級)			1970年調査
34-1	26年	" 1号墳	"	円	20			横穴式石室		○		
34-2	26年	" 2号墳	"	円	30			須置部		○		
35	26年	東 台古墳	大曾根字東台	円	10					○		
36	26年	岩井大塚台古墳群	岩井字大塚台						円横3基(10m級)			
37	26年	下大塚台古墳群	下大塚						前方後円横1基、円横13基(25m級)、他12基(10m級)			
37-1	26年	" 7号墳	"	前方後 円	40					○		
38	26年	宮 庭 古墳群	上泉字庭原						円横2基(10m級)			
39	26年	藤 塚古墳群	上泉字藤塚	円	13					○	1985年調査	
40	26年	上 泉古墳群	上泉字寺崎・大坪・大久保台						円横15基以上(大塚円横含む)文庫遺跡調査で周堀状の掘削された古墳あり。		○	1988年確認(上泉1号)調査
41	26年	上 之 山古墳	永寿字上之山	円	46							
42	26年	小 谷古墳群	永寿字小谷						円横4基(10m未満)			
43	26年	寺 野古墳群	川原井字寺野台	円	5				堺の可能性あり			
44	26年	南 畑古墳群	川原井字南畑						円横2基(10m級) 近接して出羽山(山号あり)			

番号	国名	名称	所在地	城郭	建造年代 (西暦)	用途	城域	内部施設	概 算	通行	備考
45	33	豊前台吉城跡	川原平跡字前白					円形跡(10m未満)			
46	33	大谷吉城	川原平大字大谷	円	8			直径17m、深2基			
47	33	盛宕吉城跡	野里字金平					直径17m、深3基			
48	33	所沢吉城跡	吉吉字所沢					円形跡(15m未満、10m深4)、方墳1基(10m深)			1989年確認調査
49	33	藤込吉城	野里字藤込	円	8						
50	33	名草吉城	野里字名草	方	10						
51	33	平之台吉城跡	野里字平之台					円形跡(15-20m深)			
52	33	下向井吉城跡	野里字下向井					円形跡(10m未満)			
53	33	新屋原吉城	三舞字新屋原	円	10					○	
54	33	山谷吉城跡	三舞字山谷					円形跡、方墳(15m)			跡見原1-2号墳
55	33	ふじお華吉城	高谷								
56	33	鹿肥ヶ崎吉城	高谷字鹿肥ヶ崎	方	10						
57	33	松戸吉城跡	高谷字松戸					円形跡(15m深1、5m深1)			
58	33	〃 3-9号墳	鹿ノ口字宝山・御庭・御門・内御台	前方後円	39			新屋45基(前方後円墳2基)、円墳(110m深27基、20m深15基、30m深1基)			熊本県市町村に所属
59-45	33	〃 4-5号墳	〃	前方後円	39						
59	33	大作A吉城跡	鹿ノ口字大作					円形跡(10m深)			鹿ノ口大作跡3と群葬
60	33	大作B吉城跡	鹿ノ口字大作					円形跡(10m深)			鹿ノ口大作跡5と群葬
61	33	丸山吉城跡	鹿ノ口字丸山					円形跡(10m深)			鹿ノ口大作跡6と群葬
62	33	上村吉城跡	鹿ノ口字上村					円形跡1基(10m深6基、10m未満6基)			
63	33	鬼塚吉城跡	鹿ノ口字鬼塚					円形跡(10m深2基、10m未満2基)3基並列状消滅			1979年調査
63-1	33	〃 1号墳	〃	円	18	○		(西側)原形跡、灰、瓦、土師器等		×	1979年調査
64	33	向台吉城跡	鹿ノ口字向台吉城跡					前方後方墳2基、円墳、方墳10基(15m深2、5-10m深8)			
64-8	33	〃 8号墳	〃	前方後方	50					×	
64-9	33	〃 9号墳	〃	前方後方	〃					○	1989年調査
64-10	33	〃 10号墳	〃	方	〃					×	〃
65	33	白根吉城跡	大竹字白根					円形跡(20m深1、10-15m深4、10m未満4)			
66	33	平ヶ作吉城跡	打越字平ヶ作					前方後円墳1基、円形跡7基(30m深1、15m深6)、円形跡高平			
66-1	33	〃 1号墳	〃	前方後円	50						
67	33	北上原吉城跡	打越字北上原					前方後円墳跡、円形跡6基(10-20m深1)、円形跡高平			
67-3	33	〃 3号墳	〃	前方後円	45					○	1982年調査
67-6	33	〃 6号墳	〃	前方後円	47					○	
68	33	岩田吉城跡	細野字岩田					前方後円墳1基、円形跡2基(10m未満)			
69-1	33	〃 1号墳	〃	前方後円	40						
69	33	室谷吉城跡	室谷字室谷山下殿跡字平ノ台					円形跡(20m深3、10m深5)			
70	33	下屋原吉城跡	下屋原字コノ台中谷					前方後円墳1基、円形跡23基(15m深8、16m深15)			1977年調査
70-3	33	下屋原3号墳	〃	前方後円	25					○	
71	33	二又瀬吉城跡	大竹字上又瀬					方墳1基			71-75の部給 1980年より遺跡等々付して鳥居跡認定見取中
71-31	33	〃 (333)号墳	〃	方	15	○	木柱遺跡	土師器			1987年調査区156
71-45	33	〃 (655)号墳	〃	方	10	○	〃	土師器			〃
71-66	33	〃 (666)号墳	〃	方	13	○	〃	土師器			〃
71-67	33	〃 (677)号墳	〃	方	14	○	〃	土師器			〃
71-68	33	〃 (668)号墳	〃	方	15	○	〃	土師器、ガラス小玉			〃
71-101	33	〃 (101)号墳	〃	方	11	○	〃	土師器			〃

番号	国番号	名称	所在地	墳形	横径・ 縦径(円周) 単位	周長	雄略	内部施設	観 望	調査 年度	備 考
71-100	33	=(102)号墳	〃	方	11	〇		土師器	〃		
71-101	33	=(103)号墳	〃	方	8	〇		土師器	〃		
72	33	尾 畑 台 古 墳 群	下関岸字尾畑台					円形跡(30m径、10～15m径4)	〃		
73	33	=(30)号墳	〃	円	31	〇	円 溝 曲輪	鉄環(須恵品)、円周溝	〇		
74-110	33	=(110)号墳	〃	円	12		焼山 塗彩	簀刀、刀子	〃	1989年調査	
74-111	33	=(111)号墳	〃	円	12			〃	〃		
73	33	内 出 原 古 墳 群	下関岸字内出原					前方後円墳1基、円墳4基(20m径2、15m径)	〃		
72-75	33	=(72)号墳	〃	南方後円	49			〃	〇		
74	33	岡 神 原 古 墳 群	大竹市向神原 大竹市神原ノ谷他					円形2基、方墳23基(方形墳並に土を合った)の一種が古墳表のまき墓土葬行	〃		
74-77	33	=(27)号墳	大竹市神神原	円	30	〇	円溝	西廊内に埴輪棺	土師器埴、円周溝	〃	1989年調査
74-78	33	=(73)号墳	大竹市向神神原	円	18	〇		〃	〃		
74-79	33	=(106)号墳	大竹市神神原	円	16	〇		土師器	〃		
74-80	33	=(107)号墳	〃	円	15	〇		土師器	〃		
74-81	33	=(108)号墳	〃	方	8	〇		〃	〃		
74-82	33	=(109)号墳	〃	円	8	〇		須恵器	〃		
74-83	33	=(112)号墳	〃	円	15	〇		須恵器杯、埴、土師器杯、甕	〃		
75	33	三ッ 田 台 古 墳 群	大竹市三ッ田台 中城下郡					円形1基、方墳7基、一基の古墳は土葬行のみまき土葬行	〃		
75-4	33	=(4)号墳	大竹市三ッ田台	円	25	〇		須恵器埴、土師器杯	〃	1988年調査	
75-18	33	=(13)号墳	大竹市中南原	方	16	〇		〃	〃		
76-12	33	=(12)号墳	〃	円	30	〇		木棺直葬?	鉄針、刀子、須恵器杯、土師器埴、甕	〃	1975年調査
75-15	33	=(13)号墳	〃	円	25	〇		木棺直葬?	埴文器、須恵器杯、土師器埴	〃	1988・1989年調査
75-40	33	三ッ田台(40)号墳	大竹市中南原	方	15			石甕	〃	1988年調査	
75-46	33	=(49)号墳	〃	円	25			土師器杯	〃		
76	33	矢ヶ 作 古 墳 群	下関岸字矢ヶ作					円形3基(30m径1、10m径1)	〃		
77	33	飯 倉 古 墳 群	大竹市飯倉					円形3基(10m径)	〃		
78	33	下 飯 倉 古 墳 群	大竹字下飯倉					円形2基(10m径)	〃		
79	33	桑 作 古 墳 群	大竹市桑作					円形2基(30m径)	〃		
80	33	東 原 井 作 古 墳 群	吉富田字東原井作					円形5基(10m径)	〃		
81	33	高 倉 古 墳 群	上富田字高倉					円形4基(15m径2、10m径3、5m径1)	〃		
82	33	上 富 田 古 墳 群	七富田	円	15			〃	〇		

■木更津市

序号	田野调查点名称	所在地	场形	遗址时代 所属文化层	房址	窑址	内部陈设	随葬品	清理层数	备注
1	高柳古城	高柳乡丁村	长方形台	约30					○	
2	姚子堡古城	姚家湾村南	正方形台	610	○	门洞	灰砂砖石棺	铜丝制漆器(鼎、簋、刀子、剑)	△	
3	九山古城	长梁头村南	长方形台	65	○		灰穴式石室	夏刀、匕首、圆镜、铜钱、金饼、勾玉、切玉、磁器、彩陶小片、黑漆木器残片等。瓦片、平底碗、炭碗、环	×	大庄古堆，1988年调查
4	金岭古城	长梁寺村附近	长方形台	95	○		灰穴式石室，内筑石棺	三神鸟纹漆、彩陶四联鼓、琉璃、漆碗、陶罐、方鼎、空罐、为雷大刀、雕刀行刀、刮刀、铁铤、铜钱、圆镜、骨匕、箭镞、耳珰、金铃、金条、金串珠、骨坠、玉琮、象牙器、土漆器	×	
5	酒厂城古城	镇日丁村	方形台	元	(石)	棚	铁、甲冑、刀箭、土漆		×	1912年发现
6	曜公越古城	镇日丁村	月	元	不詳		瓷灯罩残片、金铜制金具、琥珀玉、水晶玉、黄漆彩羽管笙	×	×	1909年发现
7	阮庙古城	镇日丁村	月	10	○		灰穴式石室	琉璃、漆器、刀箭头、铁铤、漆碗、漆皮筒具、金铜制器具类、漆器漆片、瓦片、竹节器、漆木器、漆漆器残片等。	×	1938年调查
8	梅南寨古城	水更镇丁村	南方台	约120			板、重刀、铜钱、水晶切片玉、土漆		×	1861年发现
9	太湖山古城	太湖亭的下	南方台	40	战国时				○	1966年修建调查

序号	国名	名称	所在地	形状	面积(㎡)	用途	内部施設	概要	調査年度	備考
10	32	島崎古墳	太宰市島崎	前方後方	25	×	本棺直葬3	方板直葬基、石白、石付、組立型玉、水金銀器玉、ガラス小玉、鉄製土師器	×	1979年調査
11	32	小の堀古墳	糸井市字小堀	円				銅鏡1面	△	
12	32	島崎古墳	糸井1丁目	円	○		石棺	横文式石棺直葬、神鏡、玉鏡、内盾、大塚大刀、馬具、馬蹄、直刀、鉄鍬、青刀、鉄、鉄製土師器	×	1985年発掘
13	32	大塚山古墳	飯塚市神奈	前方後円	70~100	○	円筒形土	横文式石棺直葬、刀剣装具、金銀製唐刀短刀、金銅製鎧甲小札、鉄製甲小札、鉄製刀装具、鉄鍬、鉄製土師、須石器器	×	1981年発掘
14	32	源茂田古墳	今役法田下	前方後円	60				○	
15	32	清水谷古墳	藤川1丁目	円	×				×	1972年調査
16	32	佐藤古墳群	笠生字笠野	円	16	×	本棺直葬	円筒基(円筒基は調査後消滅)	×	1983年調査
16-1	32	1号墳	〃	円	11	×	本棺直葬	刀装具、鉄剣	×	
16-2	32	2号墳	〃	円	11	×	本棺直葬	(玉作部)鉄剣、青孔刀、唐弓矢、白玉(黄銅)黄銅器、土師器器	×	
17	32	龍向古墳	笠生字千鶴	円	5				○	
18	32	萬千穂古墳群	笠生字千穂南	円	19	○	本棺直葬2	方板後円筒基、円筒基12(内10基は鉄製直葬基、このうち3基は息土と特例)	×	
18-3	32	3号墳	〃	円	19	○	本棺直葬2	①直刀、刀子、鉄鍬(東山)鉄製短刀、	×	1985年調査
18-4	32	4号墳	〃	円	30	○	本棺直葬5	①なし②オサマ小玉③直刀、小刀、鉄鍬、弓鍬、馬具、鉄製短刀、勾玉、オサマ小玉、④小刀、刀子、鉄鍬⑤直葬基、鉄鍬(東山、河内)須石器器、直刀、短刀、馬蹄、鐵、土師器	×	
18-6	32	6号墳	〃	円	18	○	本棺直葬3	①なし②小刀、刀子、鉄鍬③直刀、刀子、鉄鍬(東山、河内)須石器器、直刀、馬、鉄、土師器	×	
18-7	32	7号墳	〃	前方後円	20	○		(直土、黄銅)鉄剣刀、直刀刀、鉄鍬、須石器器、土師器	×	1981年調査
18-9	32	9号墳	〃	前方後円	30	○	本棺直葬2	①直刀、刀子、鉄鍬、赤銅刀、小刀、刀子、鉄鍬(直土、黄銅)鉄剣刀、直刀刀、鉄鍬(直土、黄銅)鉄鍬、短刀、馬蹄、鐵、土師器	×	1985年調査
18-11	32	11号墳	〃	円	20	×		(直土)須石器	×	1983年調査
18-14	32	14号墳	〃	円	16	○	本棺直葬2	①直刀、刀子、鉄鍬②(なし)須石器器、鐵	×	1985年調査
19	32	獅子神社古墳	獅子字日ノ出	円	15	○	本棺直葬	直刀、刀子、鉄鍬、鉄製短刀玉、ガラス小玉	○	
20	32	横川南道古墳	笠生大字南村新部	円	15	○	本棺直葬	直刀、刀子、鉄鍬、鉄製短刀玉、ガラス小玉	×	1979年調査
21	32	和田古墳群	大成字和田	円				円筒基(30m1基、10m1基)		
22	32	下藤古墳古墳	獅子字下藤子	円	10			円筒基(20m1基、20m1基)	○	
23	32	山崎古墳群	獅子字山崎	円				円筒基(30m1基、20m1基)		
24	32	古墳群第1古墳群	獅子字古墳	円				前方後円筒基、円筒基12基、1基直葬基、鉄鍬		
24-1	32	1号墳	〃	円	16		本棺直葬3	①直刀②白土(直土)土師器高杯	×	1987年調査
24-9	32	9号墳	〃	前方後円	30					
25	32	四倉寺第2古墳群	〃	円				円筒基(30m1基、20m1基)		
26	32	神古墳群	獅子字下谷田字上谷田	円				円筒基(20m1基、10m1基)	×	袖ヶ崎町5号参照
27	32	戸越古墳群	獅子字戸越	円				円筒基(20m1基、10m1基)		
28	32	馬場古墳群	獅子字馬場	円				前方後円筒基(7)1基、円筒基(20m1基)1基		
28	32	東明石谷古墳群	獅子字東明石谷	円				前方後円筒基、円筒基		
29-1	32	1号墳	〃	前方後円	40					
30	32	荒木古墳群	獅子字荒木	円				円筒基(20m1基、10m1基)		
30	32	谷田古墳群	獅子字谷田	円				円筒基(15~20m)		
31	32	上谷田古墳群	獅子字上谷田	円				円筒基(10m)		
32	32	野田古墳群	伊豆島字野田	円				円筒基(10m)		
33	32	新田古墳群	獅子字新田	円				円筒基(10m)		
34	32	小谷古墳群	大成字野田伊豆島字小谷	円				円筒基(10m)1基、5m(4基)		

番号	名称	所在地	形状	面積(㎡)	用途	内部施設	備考	備考
35	山王寺古墳群	伊豆島山王谷				円墳3基(5-10m)		
36	松山古墳群	中尾字松山				円墳4基(20m級1基、5-10m級3基)		
37	石神古墳群	伊豆島石神	円	5			○	
38	東谷古墳群	中尾字東谷				前方後円墳1基、円墳7基(30m級1基、20m級3基)		
38-7	7号墳	中尾字東谷	前方後円	25		後円部被褥	○	
39	金屋横穴群	中尾字金屋	横穴			2基(1基横穴、1基横穴入り、2号横穴は横穴(角、竈)あり)		
40	石神横穴	中尾字石神	横穴					
41	西本谷横穴	中尾字西本谷	横穴			2支葬13基(2基横穴)		
41-1	A1号横穴	中尾字西本谷	横穴			2支葬13基(2基横穴)	○	1979年度
41-2	A2号横穴	中尾字西本谷	横穴			2支葬13基(2基横穴)		
41-3	A3号横穴	中尾字西本谷	横穴			2支葬13基(2基横穴)	○	1979年度
42	西入横穴群	中尾字西入	横穴			4支葬9基(円墳に横穴(人物)あり)		
43	東本谷横穴	中尾字東本谷	横穴			4支葬9基(円墳に横穴(人物)あり)	○	
44	谷山横穴群	中尾字谷山	横穴			2基(1基横穴)		
45	高橋横穴群	中尾字高橋	横穴			2基		
46	西谷横穴群	東大田1丁目	横穴			12基(調査済済済)		1978年度
47	東見古墳群	東見谷1丁目				円墳22基以上(5基調査、区画整理中、調査済、多くの調査済が調査済)	×	1968年度
47-3	A-3号墳		円	19	○	円墳	×	
47-4	A-4号墳		円	15	○	円墳	×	
47-5	A-5号墳		円	17	○	円墳	×	
47-6	A-6号墳		円	24	○	円墳	×	
47-10	B-1号墳		円	16	○	円墳	×	
47-12	B-2号墳		円	20	○	円墳	×	
48	文京古墳群	文京5丁目				円墳13基、西面大の出土した古墳あり	×	1939年度、市古墳
49	瑞穂栄光寺古墳群	板井字瑞穂	円			横穴式石室		
50	新古墳群	板井字新				円墳13基(20m級1基、15m級1基、10m級7基、5m級4基)		
51	西谷古墳群	板井字西谷				円墳13基(25-30m級)		
52	辰宮古墳群	板井字辰宮				円墳10基(20m級4基、15m級4基、10m級2基)市井中央病院敷地内に4基横穴		
53	藤ヶ岡古墳群	板井字藤ヶ岡				円墳13基(20m級1基、15m級1基)		
54	平塚古墳群	大久保字中塚				円墳13基(20m級1基、15m級2基、10m級1基)		
55	大久保古墳群	大久保	円	18			○	
56	石塚横穴群	大久保中石塚	横穴			6基(小横穴1基)砂層に横穴、1972年調査、調査済工事により発見、調査済済済		1989年度
56-1	1号横穴					横穴式石室	×	
56-2	2号横穴					横穴式石室	×	
56-3	3号横穴					横穴式石室	×	
56-4	4号横穴					横穴式石室	×	
56-5	5号横穴					横穴式石室	×	
56-6	6号横穴					横穴式石室	×	

番号	名称	所在地	形状	面積(㎡)	用途	内部施設	備考	備考
57	新古墳群	大久保字新古墳	横穴			24基(他多分、確認可能14基)分布を多分に分かれる		新古墳群
57-3	3号横穴					新古墳群	○	
57-4	4号横穴					新古墳群	○	
57-10	10号横穴					新古墳群	○	
57-11	11号横穴					新古墳群	○	
57-12	13号横穴					新古墳群	○	
58	二十歩横穴群	小沢字二十歩	横穴			6基(堤防あり)		
59	二十歩横穴群	小沢字二十歩	横穴			調査の進展状況の可能性強い	×	1988年度
60	田原古墳群	小沢字田原				方型2基、調査済済済		1988年度
60-2	2号墳		方	8	○	横穴式石室(約6m)	×	
60-1	1号墳		方	8	○	横穴式石室	×	
61	横穴横穴群	横穴式大横穴				横穴式石室	×	1973年度
62	横穴横穴群	横穴式大横穴	円	13	○	横穴式石室	×	
63	下古墳古墳群	小沢字下古墳	前方後円	60	×	瓦土層		1973年度
64	横穴横穴群	小沢字横穴の上	小沢字横穴の上			横穴式石室(約6m)	×	1973年度
64-4	4号墳	小沢字横穴の上	方	12	○	横穴式石室	×	1985年度
64-5	5号墳	小沢字横穴の上	方	8	○	横穴式石室	×	
64-7	7号墳	小沢字横穴の上	円	22	○	横穴式石室	×	
64-11	11号墳	小沢字横穴の上	方	9	○	横穴式石室	×	
64-12	12号墳	小沢字横穴の上	方	8	○	横穴式石室	×	
64-13	13号墳	小沢字横穴の上	方	5	○	横穴式石室	×	
64-14	14号墳	小沢字横穴の上	方	11	○	横穴式石室	×	
64-15	15号墳	小沢字横穴の上	方	11	○	横穴式石室	×	
64-16	16号墳	小沢字横穴の上	方	11	○	横穴式石室	×	
64-17	17号墳	小沢字横穴の上	方	11	○	横穴式石室	×	
64-18	18号墳	小沢字横穴の上	方	11	○	横穴式石室	×	
64-19	19号墳	小沢字横穴の上	方	11	○	横穴式石室	×	
64-20	20号墳	小沢字横穴の上	方	11	○	横穴式石室	×	
64-21	21号墳	小沢字横穴の上	方	11	○	横穴式石室	×	
64-22	22号墳	小沢字横穴の上	方	11	○	横穴式石室	×	
64-23	23号墳	小沢字横穴の上	方	11	○	横穴式石室	×	
64-24	24号墳	小沢字横穴の上	方	11	○	横穴式石室	×	
64-25	25号墳	小沢字横穴の上	方	11	○	横穴式石室	×	
64-26	26号墳	小沢字横穴の上	方	11	○	横穴式石室	×	
64-27	27号墳	小沢字横穴の上	方	11	○	横穴式石室	×	
64-28	28号墳	小沢字横穴の上	方	11	○	横穴式石室	×	
64-29	29号墳	小沢字横穴の上	方	11	○	横穴式石室	×	
64-30	30号墳	小沢字横穴の上	方	11	○	横穴式石室	×	
64-31	31号墳	小沢字横穴の上	方	11	○	横穴式石室	×	
64-32	32号墳	小沢字横穴の上	方	11	○	横穴式石室	×	
64-33	33号墳	小沢字横穴の上	方	11	○	横穴式石室	×	
64-34	34号墳	小沢字横穴の上	方	11	○	横穴式石室	×	
64-35	35号墳	小沢字横穴の上	方	11	○	横穴式石室	×	
64-36	36号墳	小沢字横穴の上	方	11	○	横穴式石室	×	
64-37	37号墳	小沢字横穴の上	方	11	○	横穴式石室	×	
64-38	38号墳	小沢字横穴の上	方	11	○	横穴式石室	×	
64-39	39号墳	小沢字横穴の上	方	11	○	横穴式石室	×	
64-40	40号墳	小沢字横穴の上	方	11	○	横穴式石室	×	
64-41	41号墳	小沢字横穴の上	方	11	○	横穴式石室	×	
64-42	42号墳	小沢字横穴の上	方	11	○	横穴式石室	×	
64-43	43号墳	小沢字横穴の上	方	11	○	横穴式石室	×	
64-44	44号墳	小沢字横穴の上	方	11	○	横穴式石室	×	
64-45	45号墳	小沢字横穴の上	方	11	○	横穴式石室	×	
64-46	46号墳	小沢字横穴の上	方	11	○	横穴式石室	×	
64-47	47号墳	小沢字横穴の上	方	11	○	横穴式石室	×	
64-48	48号墳	小沢字横穴の上	方	11	○	横穴式石室	×	
64-49	49号墳	小沢字横穴の上	方	11	○	横穴式石室	×	
64-50	50号墳	小沢字横穴の上	方	11	○	横穴式石室	×	
64-51	51号墳	小沢字横穴の上	方	11	○	横穴式石室	×	
64-52	52号墳	小沢字横穴の上	方	11	○	横穴式石室	×	
64-53	53号墳	小沢字横穴の上	方	11	○	横穴式石室	×	
64-54	54号墳	小沢字横穴の上	方	11	○	横穴式石室	×	
64-55	55号墳	小沢字横穴の上	方	11	○	横穴式石室	×	
64-56	56号墳	小沢字横穴の上	方	11	○	横穴式石室	×	
64-57	57号墳	小沢字横穴の上	方	11	○	横穴式石室	×	
64-58	58号墳	小沢字横穴の上	方	11	○	横穴式石室	×	
64-59	59号墳	小沢字横穴の上	方	11	○	横穴式石室	×	
64-60	60号墳	小沢字横穴の上	方	11	○	横穴式石室	×	
64-61	61号墳	小沢字横穴の上	方	11	○	横穴式石室	×	
64-62	62号墳	小沢字横穴の上	方	11	○	横穴式石室	×	
64-63	63号墳	小沢字横穴の上	方	11	○	横穴式石室	×	
64-64	64号墳	小沢字横穴の上	方	11	○	横穴式石室	×	
64-65	65号墳	小沢字横穴の上	方	11	○	横穴式石室	×	
64-66	66号墳	小沢字横穴の上	方	11	○	横穴式石室	×	
64-67	67号墳	小沢字横穴の上	方	11	○	横穴式石室	×	
64-68	68号墳	小沢字横穴の上	方	11	○	横穴式石室	×	
64-69	69号墳	小沢字横穴の上	方	11	○	横穴式石室	×	
64-70	70号墳	小沢字横穴の上	方	11	○	横穴式石室	×	
64-71	71号墳	小沢字横穴の上	方	11	○	横穴式石室	×	
64-72	72号墳	小沢字横穴の上	方	11	○	横穴式石室	×	
64-73	73号墳	小沢字横穴の上	方	11	○	横穴式石室	×	
64-74	74号墳	小沢字横穴の上	方	11	○	横穴式石室	×	
64-75	75号墳	小沢字横穴の上	方	11	○	横穴式石室	×	
64-76	76号墳	小沢字横穴の上	方	11	○	横穴式石室	×	
64-77	77号墳	小沢字横穴の上	方	11	○	横穴式石室	×	
64-78	78号墳	小沢字横穴の上	方	11	○	横穴式石室	×	
64-79	79号墳	小沢字横穴の上	方	11	○	横穴式石室	×	
64-80	80号墳	小沢字横穴の上	方	11	○	横穴式石室	×	
64-81	81号墳	小沢字横穴の上	方	11	○	横穴式石室	×	
64-82	82号墳	小沢字横穴の上	方	11	○	横穴式石室	×	
64-83	83号墳	小沢字横穴の上	方	11	○	横穴式石室	×	
64-84	84号墳	小沢字横穴の上	方	11	○	横穴式石室	×	
64-85	85号墳	小沢字横穴の上	方	11	○	横穴式石室	×	
64-86	86号墳	小沢字横穴の上	方	11	○	横穴式石室	×	
64-87	87号墳	小沢字横穴の上	方	11	○	横穴式石室	×	
64-88	88号墳	小沢字横穴の上	方	11	○	横穴式石室	×	
64-89	89号墳	小沢字横穴の上	方	11	○	横穴式石室	×	
64-90	90号墳	小沢字横穴の上	方	11	○	横穴式石室	×	
64-91	91号墳	小沢字横穴の上	方	11	○	横穴式石室	×	
64-92	92号墳	小沢字横穴の上	方	11	○	横穴式石室	×	
64-93	93号墳	小沢字横穴の上	方	11	○	横穴式石室	×	
64-94	94号墳	小沢字横穴の上	方	11	○	横穴式石室	×	
64-95	95号墳	小沢字横穴の上	方	11	○	横穴式石室	×	
64-96	96号墳	小沢字横穴の上	方	11	○	横穴式石室	×	
64-97	97号墳	小沢字横穴の上	方	11	○	横穴式石室	×	
64-98	98号墳	小沢字横穴の上	方	11	○	横穴式石室	×	
64-99	99号墳	小沢字横穴の上	方	11	○	横穴式石室	×	
64-100	100号墳	小沢字横穴の上	方	11	○	横穴式石室	×	

序号	塔号	名称	所在地	塔形	层数	周高	结构	内部构造	壁画	通高	备注
71	32	第1号塔	第2号山顶上		18	○	木结构	内雕1座			
71-1	32	第1号塔		内	18	○	木结构	大刀子、(内雕)须臾那等件、土塔尊	×	1974年调查	
71-2	32	第2号塔		内	12	○	木结构	置刀、刀子、铁轴、(内雕)穿孔刀板、须臾那等件、土塔尊	×		
71-3	32	第3号塔		内	12	○	木结构	(内雕)土塔尊	×		
72	32	第4号塔	第2号山腰中					内雕2座、方塔10座			
72-1	32	第4号塔	第2号山腰中	方	13	○	木结构	管三(铁刀、铁石)、(内雕)赤木土塔尊、佛	×	1974年调查	
72-2	32	第2号塔		方	13	○	木结构	蛇纹彩铜刀、(内雕)赤木土塔尊	×		
72-3	32	第3号塔		方	10	○	木结构	(内雕)赤木土塔尊	×	1976年调查	
72-4	32	第6号塔		内	17	○	木结构	底刀、铁轴、(内雕)须臾那等件	×	1974年调查	
73	32	第5号塔	第2号大山台					内雕2座、方塔14座			
73-1	32	第1号塔		内	16	○	木结构	①置刀、铁轴	×	1974、75年调查	
73-4	32	第4号塔		内	9	○	木结构	②大刀子、刀子、铁轴、(内雕)大刀子、铁轴、置刀等件、(内雕)赤木土塔尊	×	1974年调查	
73-5	32	第5号塔		内	23	○	木结构	①大刀子、刀子、铁轴、(内雕)大刀子、铁轴、置刀等件、(内雕)赤木土塔尊	×	1976年调查	
73-6	32	第6号塔		内	13	○	木结构	铁轴、短刀	×	1974年调查	
73-7	32	第7号塔		内	11	○	木结构	(内雕)穿山小塔尊	×		
73-8	32	第8号塔		方	10	○	木结构	置刀等件、水晶刀等、(内雕)短刀等件、(内雕)赤木土塔尊	×		
73-10	32	第10号塔		方	10	○			×		
73-11	32	第11号塔		方	8	○		(内雕)土塔尊、(内雕)土塔尊	×		
73-12	32	第12号塔		方	10	○			×		
73-14	32	第14号塔		内	19	○	木结构	①短刀、大刀子、刀子、铁轴、(内雕)须臾那等件	×		
73-15	32	第15号塔		内	20	○	木结构	②置刀、大刀子、刀子、铁轴、(内雕)须臾那等件	×		
73-16	32	第16号塔		方	8	○			×		
73-21	32	第21号塔		内	23	○	木结构	置刀、大刀子、铁轴、置刀等件、(内雕)赤木土塔尊	×		
73-24	32	第24号塔		内	18	○	木结构	①刀子、(内雕)小刀、(内雕)短刀等件、(内雕)赤木土塔尊	×	1974、75年调查	
73-27	32	第27号塔		内	12	○	木结构	底刀、铁轴、置刀等件、(内雕)赤木土塔尊	×	1977年调查	
73-28	32	第28号塔		内	17	○	木结构	①置刀、铁轴、(内雕)大刀子、刀子	×	1967年调查	
73-29	32	第29号塔		内	20	○	木结构	②置刀、刀子	×	1969年调查	
73-30	32	第30号塔		内	20	○	木结构	①刀子、②置刀、刀子、铁轴	×		
73-32	32	第32号塔		内	9	○		(内雕)土塔尊、置刀等件	×	1974年调查	
74	32	山伏作木塔	第2号山伏作					前方佛内雕1座、内雕7座、方塔1座			
74-1	32	第1号塔		南方佛内	42	○			×	1974、75年调查	
74-4	32	第4号塔		方	13	○	木结构	(内雕)铁轴片、须臾那、阿、石制须臾那	×	1975年调查	
74-5	32	第5号塔		方	13	○	铁穴式石室	土塔尊、须臾那等件、(内雕)赤木土塔尊	×	1974、75年调查	
74-6	32	第6号塔		方	10	○		(内雕)须臾那等件、(内雕)赤木土塔尊	×	1975年调查	
74-7	32	第7号塔		内	18	○			×		
74-8	32	第8号塔	第2号山伏作	方	12	○	木结构	(内雕)土塔尊	×		
74-9	32	A-1号塔		方	7	○		(内雕)石制须臾那、土塔尊、置刀等件	×	1973、74年调查	
75	32	第1号塔	第2号山腰中					前方佛内雕1座、内雕7座、方塔1座			
75-1	32	第1号塔		方	21	一部	木结构	置刀、刀子、铁轴	×	1969年调查	
75-2	32	第2号塔		内	21	○	木结构	置刀等件、(内雕)赤木土塔尊	×		
75-3	32	第3号塔		内	15	○	木结构	小刀、铁轴、短刀	×		
75-4	32	第4号塔		内	21	○	木结构	刀子(内雕)土塔尊	×		
75-5	32	第5号塔		内	31	○	木结构	置刀、铁轴、铁轴、铁轴、置刀、须臾那等件、(内雕)土塔尊	×		
75-6	32	第6号塔		内	27	○	木结构	置刀、铁轴、铁轴、铁轴、(内雕)须臾那等件、土塔尊、佛	×		

序号	图号	名称	所在地	填形	遗址时代 (约公元)	周数	城址	内部施設	主要遺物	备注	備考
79-7	32	龍島塚7号墳	鎌倉市龍島	円	24	○	木棺直葬3	墓刀、刀子、鉄鏃、(角筒)車馬具等	*	1989年調査	
79-8	32	" " 8号墳	"	前方後円	71	○	木炭灰燼4	刀子、鉄鏃、骨玉	*	"	
79-14	32	" " 14号墳	"	前方後円	40~80	○	土山	鉄山	○	1976年新築調査	
79-28	32	" " 28号墳	"	円	21	○	木棺直葬	鉄鍬、刀子	*	1973年調査	
76	32	野根古墳群	鎌倉市野根	"	"	○	"	円環状(5m級3基、10m級1基)	"	"	
76-1	32	" " 1号墳	"	前方後円	71	○	"	刀子、磨盤瓦葺(カラス小玉)、方形角筒蓋と蓋板	*	1989年調査	
76-2	32	" " 2号墳	"	円	"	○	"	短平片、鉄刺、墓刀、刀子、鉄鏃、(角筒)車馬具、土師器類	*	"	
77	32	東山古墳群	鎌倉市東山	"	"	"	"	円環1基(5~15m級)	"	"	
77-6	32	" " 6号墳	"	円	15	○	木棺直葬3	①墓刀、鉄鍬、鉄鏃、白磁勾玉刀、タテ石矢(横置)の銅製玉、土師器、磨盤形蓋、(角筒)刀子、水心鏡板、石板形蓋等、土師杯、須恵器鉢、皿、有段瓦葺	*	1986年調査	
78	32	綱訪古墳大冢	鎌倉市綱訪	横穴	"	"	"	横穴3基	"	"	
78-1	32	" " 1号横穴	"	外輪長方形内輪長方形の二重式	長4.0 幅3.8	"	無階段無椁床	"	"	1976年調査	
78-2	32	" " 2号横穴	"	外輪長方形内輪長方形の二重式	長4.7 幅3.4	"	無階段無椁床	"	"	"	
78-3	32	" " 3号横穴	"	外輪長方形内輪長方形の二重式	長4.6 幅2.3	"	無階段無椁床	刀子、扇形玉、蛇紋勾玉型玉、磨玉管等玉、ガラス小玉、土師器類、人骨	"	"	
78-4	32	" " 4号横穴	"	外輪長方形内輪長方形の二重式	"	"	有横台無椁床跡未検あり	墓刀、刀子、鉄鏃、耳環、水晶勾玉、磨盤形玉、ガラス小玉、磨玉管玉、水晶切子玉、蛤蜊玉、ガラス矢玉、ガラス小玉、供出部、絞痕蓋、フナコ形板、平盤、模範、大盛、人骨	*	1989年調査	
78-5	32	" " 5号横穴	"	両端進歩形7ヶ所天吊	"	"	無横台無椁床跡未検あり	墓刀、水晶切子玉、土師器類、人骨	"	"	
78-6	32	" " 6号横穴	"	両端長方形7ヶ所天吊	"	"	無横台3段階	鉄鏃、耳環、磨盤形蓋、土師器類、人骨	"	"	
78-7	32	" " 7号横穴	"	両端長方形7ヶ所天吊	"	"	無横台無椁床	墓刀、鉄鏃、耳環、溝底形絞痕蓋、小鏡類、人骨	"	"	
78-8	32	" " 8号横穴	"	両端長方形7ヶ所天吊	"	"	有段無椁床	墓刀、水晶切子玉、ガラス矢玉、須恵器瓦葺板、土師器類、人骨	"	"	
79	32	田花咲古墳群	矢部町田花咲	"	"	"	"	円環1基(30m級)、20m級1基、10~15m級2基、他(130m未満)	"	"	
80	32	遠近畑古墳群	矢部町遠近畑	"	"	"	"	円環4基(15m級)	"	"	
81	32	金二岩合古墳群	矢部町金二岩台	"	"	"	"	前方後円環1基、円環2基(15m級1基、10m未満1基)	"	"	
81-2	32	" " 4号墳	"	前方後円	30	"	"	鉄立足みか、円環の可能性もあり	◎	"	
82	32	隈城古墳群	伊豆市隈城ノ沢	"	"	"	"	円環5基(5~10m級)	"	"	
83	32	新宮古墳群	矢部町新宮	"	"	"	"	前方後円環1基、円環2基	"	"	
83-2	32	" " 2号墳	"	前方後円	25	"	"	円環の可能性あり	◎	"	
84	32	箱1親古墳群	矢部町箱1親	"	"	"	"	前方後円環1基、円環2基(40m級1基、20m級1基)	"	"	
84-1	32	" " 1号墳	"	"	円	40	"	"	"	"	
84-4	32	" " 4号墳	"	前方後円	40	"	"	堀尻門段状(28m)、前方裾部平口	"	"	
85	32	受地台古墳群	矢部町受地台	"	"	"	"	円環2基(10~15m級)	"	"	
86	32	火神台古墳	鎌倉市火神台	円	8	"	"	"	◎	"	
87	32	金二岩合古墳群	矢部町金二岩台	円	12	"	"	"	◎	"	
88	32	鎌太前古墳	中島町鎌太前	円	20	"	"	"	◎	"	
89	32	大門古墳群	矢部町大門	"	"	"	"	円環2基(10m未満)	"	"	
90	32	明石口古墳群	久保町下明石口	"	"	"	"	円環3基(30m級1基、10m級3基、5m級1基)	"	"	
91	32	矢部1号墳	矢部町矢部	円	15	"	本館直葬	墓刀、鉄鍬、鉄鏃、滑石勾玉、磨盤形玉	*	1977年調査	
92	32	天神前古墳	相模原市天神前	円	5	"	"	模範に凸凹	"	"	
93	32	鎌倉寺古墳群	矢部町鎌倉寺	"	"	"	"	円環2基(5m級)	"	"	
94	32	上井古墳	矢部町上井	方	10	"	"	"	◎	"	

番号	図号	名称	所在地	墳形	面積 (㎡)	周長	地質	内部施設	概要	通年	備考
95	32	上中岡古墳群	矢野字上中岡						円墳17基(30m径5基、10m径11基、5m径5基)隣接して群葬あり		
96	32	大塚古墳群	矢野字大塚						円墳4基(10~20m径)3基隣接		
96-1	32	“1号墳”	“	円	20		円墳		直方、鉄鍬、鉄鍬、鉄鍬、馬具、二 階式	×	1955、1994年調査
97	32	伊豆山古墳	矢野字伊豆山	円	8					○	
98	32	大塚古墳	矢野字大塚	円	10					?	
99	32	鉄田古墳	矢野字鉄田	円	10					?	
100	32	久保谷古墳群	伊豆島字久保谷						円墳3基(20m径)		
101	32	中保田古墳群	伊豆島字中保田						円墳4基(15m径1基、10m未調査3基)		
102	32	鎌倉古墳	矢野字鎌倉	円	8				副葬品が群葬により削られる	○	
103	32	奥谷古墳	伊豆島字奥谷	円	8					○	
104	32	和田古墳群	矢野字和田						円墳2基(15m径1基、10m径1基)		
105	32	南谷古墳	矢野字上中岡	円	25					○	
106	32	南郷古墳群	矢野字南郷						円墳2基(25m径1基、15m径3基、10m径2基)		
107	32	下山光勝古墳群	矢野字下山光勝						円墳6基(25m径1基、20m径2基、10~15m径5基)		
108	32	三光勝古墳群	矢野字三光勝						円墳2基(20m径1基、10m径1基)		
109	32	中三光勝古墳群	矢野字中三光勝						円墳2基(10m径)		
110	32	花山古墳群	矢野字花山						円墳2基(10m径)		
111	32	新田古墳群	矢野字新田						円墳2基(低墳のみ)		
112	32	谷ノ原古墳	矢野字上中岡	円	17					○	
113	32	下名主ヶ谷古墳群	矢野字下名主ヶ谷						円墳16基(30m径10基、10m径6基)		
114	32	名主ヶ谷古墳群	矢野字名主ヶ谷						円墳5基(20m径1基、15m径1基、小規模墳3基、低墳の可能性あり)		
115	32	上名主ヶ谷古墳群	矢野字上名主ヶ谷						円墳2基(20m径)		
116	32	二重山古墳群	矢野字二重山						円墳2基(5~10m径)		
117	32	根本古墳群	矢野字根本						円墳2基(10m径)		
118	32	上層ノ谷古墳群	矢野字上層ノ谷						円墳2基(低墳のみ)		
119	32	下層田古墳群	矢野字下層田						円墳2基(20m径1基、10m径1基)		
120	36	小美作古墳	伊豆島字小美作	円	10					○	
121	36	田舎古墳群	伊豆島字田舎						円墳3基(10m径)		
122	36	下草敷古墳群	伊豆島字下草敷						円墳2基(10m径)		
123	36	上草敷古墳群	伊豆島字上草敷						円墳2基(20m径1基、5m径1基)		
124	37	上辻古墳	上島田字上辻	円	20					○	
125	37	ノ関古墳群	上島田字ノ関							○	
126	36	宮崎古墳群	伊豆島字宮崎						円墳、方墳8基以上(一部遺跡)他に 木棺方形石室墓を出土		
126-1	36	“2号墳”	“	方	19	○	木棺墓群	副葬		×	1987年調査と52
126-2	36	“3号墳”	“	円	18	○	木棺墓群	①石室②刀子(両面)土師器等		×	“
126-3	36	“7号墳”	“	方	22	○	木棺墓群	①刀子②刀子、(横置)須磨系フラス コ型		×	1988年調査
126-4	36	“8号墳”	“	方		○		部分調査 (両面)土師器等		×	“
127	36	西ノ原古墳群	田川字西ノ原						円墳17基(30m径1基、20m径2基、15m径1基、10m以下3基) 調査後供養		1964年全年度調査
127-1	36	“4号墳”	“	円	7	○	木棺墓群	(両面)土師器等、土師器、土師器		×	1964年調査
127-2	36	“5号墳”	“	円	8	○	木棺墓群	(両面)土師器等、土師器、土師器		×	“
128	36	南谷古墳群	田川字南谷						円墳2基(15~20m径)		
129	36	北谷古墳群	田川字北谷	方	8	○	木棺墓群			×	1979年調査
130	36	新田古墳群	田川字新田						円墳3基(10m径2基、1基未調査)		
130-1	36	“2号墳”	“	円	20	○	木棺墓群	①鉄鍬、鉄鍬②鉄鍬(横置)土師器等 (両面)鉄鍬、土師器等、須磨系刀子 柄、土師器、馬具		×	1964年調査
130-2	36	“3号墳”	“	円	12	○		部分調査(両面)土師器等		○	“
131	36	赤坂古墳	下野字赤坂	円	6					○	

番号	図号	名称	所在地	形状	面積 (㎡)	用途	内部施設	概要	通年 備考
132	33	石神山古墳群	下野字石神	前方後円				円墳8基(30m径2基、20m径3基、10~15m径3基)方墳1基(10m径)	
134	33	下野字山古墳	下野字山	円	23			金環、赤銅大刀、銅、環、環として群葬あり	× 1973年調査
135	33	南谷古墳群	下野字南谷					円墳1基(15~20m径2基、5m径2基)	
136	33	下野字古墳	下野字古墳	前方後円	60		木棺墓群	直方、直方、直方、刀子、刀子、刀子、馬具	× 1950年調査
137	33	石神山古墳群	下野字石神					円墳2基(15~20m径)	
138	33	新田古墳群	下野字新田					円墳16基(30m径4基、20m径5基、10~15m径5基)	
139	33	新田古墳群	上野字新田					円墳17基(20~25m径2基、10~15m径5基)	
140	33	久野古墳	上野字久野	円	20				
141	33	新ノ原古墳	上野字新ノ原	円	15				×
142	33	赤坂古墳群	下野字赤坂					円墳1基(25m径1基、15m径2基、1基未調査)隣接して群葬あり	由野古墳
143	33	新田古墳群	下野字新田					円墳4基(10~15m径2基、5m径1基)	
144	33	天神古墳	下野字天神	円	20				○
145	33	神山古墳	下野字神山	円	15	円墳		出羽三山、周遊より円形土師器出土	○
146	33	西ノ原古墳	下野字西ノ原					円墳3基(30m径1基、20m径1基)	
147	33	新田古墳群	下野字新田					前方後円墳2基、円墳1基(20~30m径5基)	
147-1	33	“1号墳”	“	前方後円	60				○
147-2	33	“2号墳”	“	前方後円	45				○
147-3	33	“2号墳”	“	前方後円	70				○
148	33	新田古墳	西野字新田	円	30				○
149	33	町原古墳群	西野字町原					円墳16基(20m径1基、15m径2基、他120m未調査)	
150	33	田久古墳群	西野字田久					円墳4基(20m径2基、15m径2基)	
151	33	代田古墳	大橋字代田	円	20				○
152	33	新田古墳群	下野字新田	円	10	円墳			
153	33	新田古墳群	下野字新田	円				前方後円墳と書かれた 新田古墳の墓に土師器出土	

■津市

番号	図号	名 称	所 在 地	場 形	面積 (㎡)	用途	場 地	内 部 施 設	概 要	備 考
1	36	三浦古岡神社古墳群	三田字山下	円	40				円墳12基	○
2	36	新野古岡神社古墳群	東古野字新野台						円墳4基	
3	36	長谷川古墳群	長谷川						前方後円墳1基、円墳16基	○ 隣之内古墳群
4	36	熊之内古墳群	熊田字熊ノ内						前方後円墳1基、円墳16基	○ 熊之内古墳群、馬島跡
4-1	36	熊山神社古墳群	○	前方後円	76				新設古墳跡、横刀、短刀、鉄鏝、安部墓等あり	○ 熊之内古墳群、馬島跡
4-2	36	熊之内4号墳	○	円	15				前方後円墳跡、円墳20基以上同一台地上に群葬あり	○ 1000年発掘
5	38	上新田古墳群	上新田字上原 矢野字矢野原						前方後円墳跡、円墳20基以上同一台地上に群葬あり	
5-1	38	矢野古岡神社古墳群	矢野字矢野原	前方後円	1107				小山遺跡と考えられ、輪郭不明瞭、後継者は神社建設立により上部が削られている	○ 上新田1号墳
6	38	駒原古墳群	戸崎字沼田台 西沢字磯坪						前方後円墳1基、円墳23基	
6-1	38	○ 6号墳	戸崎字沼田台	前方後円	30				円墳20基	○
7	38	堀古墳群	戸崎字沼田、堀						円墳20基	
8	38	下台古墳群	戸崎字下台	円	10				円墳4基	○
9	38	鶴舞古墳群	戸崎字鶴舞						前方後円墳5基、円墳15基 古墳群跡は今田の分屯調査番号に添づく	○ 万福寺東古墳(新集)
10	38	戸崎古墳群	戸崎字上原、越山嶺	円	40				前方後円墳1基	○ 万福寺北古墳群
10-1	38	○ 4号墳	戸崎字上原	円	40					
10-5	38	○ 5号墳	戸崎字上原	円	30					

番号	図号	名称	所在地	形状	面積(㎡)	用途	内部施設	備 考	調査年度
10-30	37	跡 30号墳	戸崎字城山	前方後円	43		(周溝)瓦葺	×	1982.83年調査、戸崎城山古墳
10-31	38	〃 31号墳	〃	前方後円	50			〇	
10-32	38	〃 32号墳	〃	前方後円	45			〇	
10-33	38	〃 33号墳	〃	前方後円	40			〇	
10-34	38	〃 34号墳	〃	前方後円	40			〇	
10-35	38	〃 35号墳	〃	前方後円	40			〇	
10-36	38	〃 40号墳	若山字下川	前方後円				〇	
11-38	38	森 下 古 墳	戸崎字森下	円	23			〇	
12-38	38	金 弘 聖 古 墳	岩田字田尻	円	11			〇	
13-38	38	岩 田 古 墳	岩田字田尻、飯島、森下					〇	
13-39	38	森 下 古 墳	岩田字飯島	前方後円	105			〇	1986年調査、岩田4号墳
14-38	38	出 戸 古 墳	寺沢字出戸					〇	
15-38	38	寺 沢 古 墳	寺沢字出戸					〇	
16-38	38	無 光 古 墳	愛宕字无光					〇	
16-39	38	〃 1号墳	〃	円	13	〇	木棺蓋		
16-40	38	〃 2号墳	〃	円	14	〇	木棺蓋		
17-38	38	日 輪 山 古 墳	富田字日輪山					〇	
17-39	38	〃 5号墳	〃	前方後円	50			〇	
18-38	38	日 輪 山 古 墳	富田字日輪山	横 穴				〇	
19-38	38	内 堀 古 墳	内堀	横 穴				〇	
20-38	38	上 町 古 墳	内堀字上町					〇	
20-39	38	〃 9号墳	〃	円	25~30			〇	
21-38	38	藤 原 古 墳	久留里大字藤原					〇	
22-38	38	松 葉 古 墳	向野字松葉	円	15			〇	
22-39	38	松 葉 古 墳	〃	円	13			〇	
23-38	38	戸 穴 古 墳	広瀬字戸穴	横 穴				〇	
24-38	38	泉 神 古 墳	大和町中ビ	円	15			〇	
25-38	38	花 山 古 墳	大和町花山	横 穴				〇	
25-39	38	〃 1号墳	〃	円	15			〇	
25-40	38	〃 2号墳	〃	円	15			〇	
25-41	38	〃 3号墳	〃	円	15			〇	
25-42	38	〃 4号墳	〃	円	15			〇	
26-38	38	無 光 古 墳	愛宕字无光	円				〇	
27-38	38	大 作 古 墳	横田字大作	円	20			〇	
28-38	38	大 作 古 墳	横田字大作	円	10			〇	
29-38	38	南 七 古 墳	横田字南七	円				〇	
30-38	38	木 道 古 墳	横田字木道	円	30			〇	
31-38	38	東 田 古 墳	横田字東田	不 明				〇	
32-38	38	仲 町 古 墳	横田字仲町					〇	
33-38	38	仲 町 古 墳	横田字仲町					〇	
34-38	38	納 戸 古 墳	久保字納戸	円	16			〇	
35-38	38	納 戸 古 墳	久保字納戸	前方後円	40			〇	
36-38	38	納 戸 古 墳	久保字納戸	横 穴				〇	
36-39	38	〃 6号墳	〃	F-A形天井				〇	
36-40	38	〃 7号墳	〃	F-A形天井				〇	

番号	図号	名称	所在地	形状	面積(㎡)	用途	内部施設	備 考	調査年度
36-9	37	〃 8号墳	〃					×	
36-10	37	〃 10号墳	〃					×	
36-11	37	〃 11号墳	〃					×	
37-37	37	寺 山 古 墳	久保字寺山	横 穴				×	
37-38	37	〃 1号墳	〃	F-A形天井				×	1970年調査
37-39	37	〃 2号墳	〃					×	
37-40	37	〃 3号墳	〃					×	
37-41	37	〃 5号墳	〃					×	
38-37	37	上 原 古 墳	北子安字上原					×	
39-37	37	北 子 安 古 墳	北子安字北子	円	11			×	1973年調査
40-37	37	天 神 山 古 墳	北子安字天神山	円	30			×	
41-37	37	夏 岡 古 墳	北子安字夏岡	円	10			〇	
42-37	37	谷 山 古 墳	北子安字谷山	円	15			×	
43-37	37	虎 山 古 墳	北子安字虎山					×	
43-38	37	〃 1号墳	〃	円	15			×	1978年調査
43-39	37	〃 2号墳	〃	円	13			×	
44-37	37	下 打 古 墳	北子安字下打	円	17			〇	
45-37	37	穴 谷 古 墳	北子安字穴谷					〇	
45-38	37	〃 1号墳	〃	前方後円	50			〇	
46-37	37	子 安 古 墳	南子安字子安	円	25			△	1973年調査
47-37	37	上 〓 古 墳	南子安字上〓	円	30			〇	
48-37	37	水 道 古 墳	南子安字水道	円	15			〇	
49-37	37	下 迫 古 墳	南子安字下迫	円				〇	
50-37	37	下 迫 古 墳	南子安字下迫	円	19			〇	
51-37	37	鳥 門 古 墳	南子安字鳥門	円	21			〇	
52-37	37	南 子 安 古 墳	南子安	円	20			〇	
53-37	37	花 輪 古 墳	南子安字花輪	前方後円	40			〇	
54-37	37	無 〓 古 墳	南子安字無〓	円				〇	
55-37	37	仲 野 古 墳	南子安字仲野	円				〇	
56-37	37	仲 野 古 墳	南子安字仲野	円				〇	
57-37	37	上 〓 古 墳	南子安字上〓	円				〇	
58-37	37	上 〓 古 墳	南子安字上〓	円				〇	
59-37	37	上 〓 古 墳	南子安字上〓	円				〇	
60-37	37	野 馬 古 墳	内堀字野馬	円	15			〇	
60-38	37	〃 1号墳	〃	円	15			〇	
60-39	37	〃 2号墳	〃	円	20			〇	
61-37	37	下 新 古 墳	三草字下新	円				〇	
62-37	37	八 重 1号墳	三草字八重	円	37			〇	
63-37	37	〃 2号墳	〃	円	17			〇	
64-37	37	〃 3号墳	〃	円	17			〇	
64-38	37	〃 4号墳	〃	円	20			〇	
64-39	37	〃 5号墳	〃	円	35			〇	

番号	図面番号	名称	所在地	形状	面積(㎡)	用途・機能	内部施設	備 考
64-3	37	・ 3 号墳	・	円	15			×
65	37	・ 山 古墳	外見崎字上ノ山	円	15		方墳の可能性あり、低墳丘	
66	37	・ 山 古墳	外見崎字上ノ山	前方後円	56		土師器類	○
67	37	・ 山 古墳	・	方				×
68	37	・ 2 号墳	・	円	25			×
69	37	・ 山 古墳	外見崎神社	前方後円	86			○
70	37	・ 山 古墳	・	円	17		直刀、鉄剣	○
71	37	・ 山 古墳	・	円	17		直刀、鉄剣	○
72-12	37	・ 1 2 号墳	・	円	45		前方後円墳1基、円墳3基(一部南側)	○
73-12	37	・ 3 2 号墳	・	円	16		前方後円墳1基、円墳3基	○
74	37	・ 山 古墳	・	円	21		前方後円墳2基、円墳3基	○
75	37	・ 山 古墳	・	円	30		前方後円墳2基、円墳3基	○
76-1	37	・ 1 号墳	・	前方後円	65		前方後円墳2基、円墳3基	○
76-2	37	・ 2 号墳	・	前方後円	43		前方後円墳2基、円墳3基	○
77	37	・ 山 古墳	・	円	13		前方後円墳2基、円墳3基	○
78	37	・ 山 古墳	・	円	15		前方後円墳2基、円墳3基	○
79	37	・ 山 古墳	・	円	15		前方後円墳2基、円墳3基	○
80	37	・ 山 古墳	・	円	20		前方後円墳2基、円墳3基	○
81	37	・ 山 古墳	・	円	20		前方後円墳2基、円墳3基	○
82	37	・ 山 古墳	・	円	20		前方後円墳2基、円墳3基	○
83	37	・ 山 古墳	・	円	20		前方後円墳2基、円墳3基	○
84	37	・ 山 古墳	・	円	8		前方後円墳2基、円墳3基	○
85	37	・ 山 古墳	・	円	8		前方後円墳2基、円墳3基	○
86	37	・ 山 古墳	・	円	8		前方後円墳2基、円墳3基	○
87	37	・ 山 古墳	・	円	8		前方後円墳2基、円墳3基	○
88	37	・ 山 古墳	・	円	16		前方後円墳2基、円墳3基	○
89	37	・ 山 古墳	・	円	16		前方後円墳2基、円墳3基	○
90	37	・ 山 古墳	・	円	16		前方後円墳2基、円墳3基	○
91	37	・ 山 古墳	・	円	15		前方後円墳2基、円墳3基	○
92	37	・ 山 古墳	・	円	15		前方後円墳2基、円墳3基	○
93	37	・ 山 古墳	・	円	15		前方後円墳2基、円墳3基	○
94	37	・ 山 古墳	・	円	15		前方後円墳2基、円墳3基	○
95	37	・ 山 古墳	・	円	15		前方後円墳2基、円墳3基	○
96	37	・ 山 古墳	・	円	15		前方後円墳2基、円墳3基	○
97	37	・ 山 古墳	・	円	15		前方後円墳2基、円墳3基	○
98	37	・ 山 古墳	・	円	15		前方後円墳2基、円墳3基	○
99-4	37	・ 4 号墳	・	円	27		前方後円墳2基、円墳3基	○
99	37	・ 山 古墳	・	円	10		前方後円墳2基、円墳3基	○
100	37	・ 山 古墳	・	円	16		前方後円墳2基、円墳3基	○
101	37	・ 山 古墳	・	円	16		前方後円墳2基、円墳3基	○
102	37	・ 山 古墳	・	円	16		前方後円墳2基、円墳3基	○
103	37	・ 山 古墳	・	円	16		前方後円墳2基、円墳3基	○
104	37	・ 山 古墳	・	円	16		前方後円墳2基、円墳3基	○

番号	図面番号	名称	所在地	形状	面積(㎡)	用途・機能	内部施設	備 考
105	37	・ 山 古墳	・	円	15			×
106	37	・ 山 古墳	・	円	15			×
107	37	・ 山 古墳	・	円	15			×
108	37	・ 山 古墳	・	円	15			×
109	37	・ 山 古墳	・	円	15			×
110	37	・ 山 古墳	・	円	15			×
111	37	・ 山 古墳	・	円	15			×
112	37	・ 山 古墳	・	円	15			×
113	37	・ 山 古墳	・	円	15			×
114	37	・ 山 古墳	・	円	15			×
115	37	・ 山 古墳	・	円	15			×
116-1	37	・ 1 号墳	・	前方後円	45		前方後円墳2基、円墳3基	○
116-2	37	・ 2 号墳	・	前方後円	43		前方後円墳2基、円墳3基	○
117	37	・ 山 古墳	・	円	15		前方後円墳2基、円墳3基	○
118	37	・ 山 古墳	・	円	15		前方後円墳2基、円墳3基	○
119	37	・ 山 古墳	・	円	15		前方後円墳2基、円墳3基	○
120	37	・ 山 古墳	・	円	15		前方後円墳2基、円墳3基	○
121	37	・ 山 古墳	・	円	15		前方後円墳2基、円墳3基	○
122	37	・ 山 古墳	・	円	15		前方後円墳2基、円墳3基	○
123	37	・ 山 古墳	・	円	15		前方後円墳2基、円墳3基	○
124	37	・ 山 古墳	・	円	15		前方後円墳2基、円墳3基	○
125	37	・ 山 古墳	・	円	15		前方後円墳2基、円墳3基	○
126	37	・ 山 古墳	・	円	15		前方後円墳2基、円墳3基	○
127	37	・ 山 古墳	・	円	15		前方後円墳2基、円墳3基	○
128	37	・ 山 古墳	・	円	15		前方後円墳2基、円墳3基	○
129	37	・ 山 古墳	・	円	15		前方後円墳2基、円墳3基	○
130	37	・ 山 古墳	・	円	15		前方後円墳2基、円墳3基	○
131	37	・ 山 古墳	・	円	15		前方後円墳2基、円墳3基	○
132	37	・ 山 古墳	・	円	15		前方後円墳2基、円墳3基	○
133	37	・ 山 古墳	・	円	15		前方後円墳2基、円墳3基	○
134	37	・ 山 古墳	・	円	15		前方後円墳2基、円墳3基	○
135	37	・ 山 古墳	・	円	15		前方後円墳2基、円墳3基	○
136-4	37	・ 4 号墳	・	前方後円	42		前方後円墳2基、円墳3基	○
136-5	37	・ 5 号墳	・	前方後円	38		前方後円墳2基、円墳3基	○
137	37	・ 山 古墳	・	円	15		前方後円墳2基、円墳3基	○
138	37	・ 山 古墳	・	円	15		前方後円墳2基、円墳3基	○
139	37	・ 山 古墳	・	円	15		前方後円墳2基、円墳3基	○
140	37	・ 山 古墳	・	円	15		前方後円墳2基、円墳3基	○
141	37	・ 山 古墳	・	円	15		前方後円墳2基、円墳3基	○
142	37	・ 山 古墳	・	円	15		前方後円墳2基、円墳3基	○

序号	图例	名 称	所 在 地	填 形	图例	内部施設	備 考
143		蘇 塚 古 墳	熊本字高塚	円	30	自然丘の可能性あり	
144		金 越 古 墳 群	熊本字金越	円		自然丘	
145		八 坂 古 墳	熊本字大坂	円		2基	○
146		高 塚 古 墳 群	熊本字高塚	円		円形7基	
147		平 田 墓 穴 群	熊本字平田	円			
148		西 郷 古 墳	大津字西郷	円		自然丘の可能性あり	
149		麓 / 谷 古 墳	大鷲野町麓 / 谷	円		自然丘の可能性あり	
150		い - じ 塚 古 墳	大鷲野町い - じ塚	円		自然丘の可能性あり	
151		中 台 古 墳	大鷲野町中台	円			
152		初 山 古 墳 群	大鷲字初山	円		前方後円墳1基、円墳4基	
153		九 塚 古 墳	熊本字九塚	円		自然丘の可能性あり	
154		倉 塚 古 墳	熊本字倉	墳 穴		1基(半環状)	
155		麓 / 谷 塚 古 墳	熊本字麓 / 谷	墳 穴		1基(完全環状)	
156		堀 田 谷 塚 古 墳	熊本字堀田谷	墳 穴		1基(完全環状)	
157		大 山 湖 古 墳 群	三浦字大山湖	円		円形3基	
158		奥 谷 墳 穴	三浦字奥谷	墳 穴	青銅器土器 半環状 円形	左側部突出部状 1基	○
159		神 入 古 墳	三浦字神入	円	15	環状して2基	○

■富津市

[illegible]

番号	国名	名 称	所 在 地	墳 形	横穴式石室の 有無	周長	幅	内部施設	概 要	遺 存	備 考
15	36	亀 塚 古 墳	上飯野手塚南口	円	32	○		横穴式石室 (石室)	(1909年出土)横置型フラスコ型埴輪、 合什具、馬具、銅製鏡、手鏡、加 (1909年出土)銅製鏡、手鏡、加 フラスコ、土師器、須恵器片、門内埴 輪片	×	○ 1909年調査 1909年調査
16	36	熊 野 聖 古 墳	下飯野字熊野口	円	18			横穴式石室		×	
17	36	丸 塚 古 墳	大塚子山山	円	30	○		横穴式石室 (長方形、無飾)	人骨、鹿角、刀子、鉄鏡、金環、 磨玉、磨玉、丸玉、小玉、土師器、須 恵器	×	○ 1974年調査
18	36	白 塚 聖 古 墳	下飯野大字皇塚	円	25			横穴式石室 (長方形)	横置式火刀、円筒火刀、方筒火刀、注 ぎ式火刀、考案火刀、方筒火刀、 横置式火刀、刀子、鉄鏡、金環、 磨玉等玉、磨玉、土師器、須恵器、 有蓋埴、無蓋埴	×	○ 1902年調査 平成元年
19	36	白 鹿 庭 方 古 墳	下飯野字高橋町	円	20	○		横穴式石室(?)		×	
20	36	内 塚 聖 方 古 墳	二階堂字内塚	円	20			横穴式石室(?)	(昭和59年出土)土師器、須恵器	×	○ 1984年調査
21	36	内 塚 聖 方 古 墳	二階堂字内塚	円	20			横穴式石室 石室1	直 72	△	明治中期調査、1953年 調査
22	36	八 丁 塚 古 墳	二階堂字八丁山	円	24	○		横穴式石室 (長方形)	(横置)刀子、鉄鏡、鍬鍬片、鏡、須 恵器、小形器 (横置)刀子、刀子、鉄鏡、金環、 磨玉等玉、磨玉、土師器、須恵器、 有蓋埴、無蓋埴	○	○ 1964年調査、1984年調 査
23	36	西 谷 古 墳	二階堂字西谷	円	22	○		横穴式石室 (長方形、無飾)	人骨、瓦片、刀子、鉄鏡、ガラス 玉、須恵器	×	○ 1951年調査、1983年調 査
24	36	西 谷 2 号 墳	二階堂字西谷	円	22	○		横穴式石室 (長方形)		×	○ 1964年調査
25	36	西 原 古 墳	二階堂字西原新	円	24	○		横穴式石室 (長方形、七字形)	人骨、刀子、刀子、鉄鏡、鍬鍬 片、玉、須恵器、杯	×	○ 1932年調査、1984年調 査
26	36	新 淵 古 墳	二階堂字新淵新	円	35	○		横穴式石室 (長方形、無飾)	人骨、鹿角、刀子、鉄鏡、磨玉、 玉、磨玉、須恵器、埴輪、須 恵器、有蓋埴、無蓋埴	×	○ 1981年調査
27	36	吉 山 古 墳	二階堂字吉山新	円	29	○		横穴式石室 (長方形、無飾)	円筒火刀、鹿角、刀子、鉄鏡、鍬 鍬片、金環、鍬鍬、磨玉、横置式 フラスコ等玉、ガラス小玉、砥石、土 師器、須恵器	×	○ 1988年調査
28	36	笠 塚 1 号 墳	二階堂字笠塚	円	21	○		横穴式石室	(横置)土師器	○	○ 1989年調査
29	36	笠 塚 2 号 墳	二階堂字笠塚	円	17	○				○	
30	36	畠 前 公 園 古 墳	大塚子山	不 明					自然石の可能性あり	△	
31	36	京 原 古 墳	大塚子原	不 明					自然石の可能性あり	△	
32	36	大 山 古 墳	二階堂字西谷	不 明					自然石の可能性あり	△	○ 1984年調査
33	36	武 平 塚 南 方 古 墳	下飯野字下平	不 明			門内			△	
34	36	下 谷 古 墳	下飯野字下谷	円	20	○		横穴式石室 (長方形、七字形)	刀子、鉄鏡、ガラス小玉、須恵器、埴 輪片	×	○ 1989年調査
35	36	柳 塚 古 墳	下飯野字柳塚	円				横穴式石室?		×	
36	36	か ず 塚 古 墳	下飯野字か崎	前方後円	横置式	門内				○	
37	36	神 山 古 墳	下飯野字神山	円	20				円筒2段(無蓋前方後円墳と鑑定)	×	○ 1989年調査
37-1	36	● 1 号 墳		円	20		水堀直線2			×	
37-2	36	● 2 号 墳		円	17					×	
38	36	内 田 横 穴 郭	西大田内田一田 西大田	横 穴					7号郭(基礎確認(堀、池の跡を示す 基礎あり)) 円筒2段(土器に土器片が散在)	○	○ 戦国古墳
39	37	網 根 岡 聖 古 墳	網根郷/台	前方後円	横置式				後円部の土器(墳丘上に土器片が散 在)をもちつた土器が散在	○	
40	37	下 平 治 横 穴 郭	上飯野字平治	横 穴					3基		
41	37	東 風 谷 聖 横 穴 郭	網根郷字東風谷山	横 穴					14基		
42	37	東 風 谷 聖 古 墳	網根郷字東風谷山	横 穴					円筒2基(東風谷内横穴郭群上)		
43	37	赤 旗 横 穴 郭	網根郷字赤旗	横 穴					16基(堀の跡は確認あり)		
44	37	池 田 横 穴 郭	網根郷字池田	横 穴					6基		
45	37	池 田 横 穴 郭	網根郷字池田	横 穴					円筒2基(池田横穴郭群上)		
46	37	若 南 横 穴 郭	網根郷字若南	横 穴					6基(堀の上に土器片が散在あり)		
47	37	藤 子 谷 横 穴 郭	網根郷字藤子谷	横 穴					25基(堀の跡は確認あり)		
48	37	人 谷 横 穴 郭	網根郷	横 穴					1基		
49	37	赤 旗 横 穴 郭	網根郷字赤旗	横 穴					8基(網根側あり)		
50	36	下 谷 横 穴 郭	網根郷字下谷	横 穴					5基		
51	36	小 久 保 横 穴 郭	小久保西谷	横 穴					1基		
52	36	西 谷 横 穴 郭	網根郷西谷	横 穴					3基		

番号	調査年度	名 称	所 在 地	地 形	遺構・出土状況	周長	地 盤	内 部 施 設	備 考	調査年度	
53	36	戸倉遺穴	前瀬戸岩	横穴				6基			
54	36	鹿堂遺穴	前瀬戸岩	横穴				1基			
55	36	熊田遺穴	前瀬戸岩	横穴				4基	×		
56	36	鬼ヶ谷遺穴	中平鬼ヶ谷	横穴				4基(庭の縁石あり、馬具痕跡)			
57	36	赤天遺穴	小久保字赤天	横穴				2基	1基消滅		
58	36	赤天山遺穴	小久保字赤天	横穴				5基			
59	36	赤天山古墳	前方便門		83	円	築穴式石室	(1927年出土)刀剣類一箇、刀、鏃、破鏡、長坂石刀子 (1975年出土)土坪青片、剣、流刀、鏡類	○	1927、1975年調査史記	
60	36	向原遺穴	小久保字向原	横穴				6基		1979年調査	
60-1	36	向原1号横穴	小久保字向原	内堀跡あり 7×4形式	長さ5.0 幅2.5			無銘古陶器灰 土灰あり	灰刀、刀子、鏃、鏃、銅網、土器部群	×	1979年調査
60-2	36	2号横穴	〃	長さ5.5 7×4形式	幅2.5			無銘無銘灰		×	〃
60-3	36	3号横穴	〃	長さ不明 7×4形式	幅2.7			無銘灰		×	〃
60-4	36	4号横穴	〃	長さ5.6 7×4形式	幅2.4			無銘古陶器灰 区画石列あり	人骨、貝殻、土器類、鏡類等	×	〃
60-5	36	5号横穴	〃	長さ不明 7×4形式	幅2.8			無銘古陶器灰		×	〃
60-6	36	6号横穴	〃	長さ不明 7×4形式	幅2.9			無銘古陶器灰	人骨、貝殻、鉄鏃、鏡類等	×	〃
61	36	向原古墳群	小久保字赤天					前方後円墳2基、円墳1基			
61-1	36	1号墳	〃	円	16	一基		未確認跡?	内堀跡の認定視察点あり	×	1980年調査史記⑩4
61-2	36	2号墳	〃	前方後円	50				内堀跡、建物ともに使用されたと自然の可能性あり	×	〃
61-3	36	3号墳	〃	前方後円?						○	1980年調査史記⑩4
62	36	山岸遺穴	小久保字山岸	横穴				12基(3、8-12号増設)			
62-1	36	1号横穴	〃	両端正方形 7×4形式	長さ2.3 幅2.8			両端無銘灰	人骨、貝殻	×	1979年調査史記⑩7
62-2	36	2号横穴	〃	両端長方形 7×4形式	長さ2.8 幅3.4			無銘古陶器灰		×	〃
62-3	36	3号横穴	〃	両端正方形 7×4形式	長さ2.3 幅3.9			無銘古陶器灰 漆器残骸あり		○	1979年地誌
62-4	36	4号横穴	〃	両端長方形 7×4形式	長さ2.8 幅3.8			無銘古陶器灰 漆器残骸あり		○	〃
63	36	藤倉遺穴	小久保字藤倉	横穴				11基			
64	37	番倉作遺穴	番倉作	横穴				1基			
65	37	新井遺穴	新井	横穴				11基			史料誌
65-1	37	1号横穴	〃	両端正方形 7×4形式	長さ2.1 幅2.2			両端無銘灰	「大同元年」/「世宗」の縁刻文字あり	○	1962年調査
65-10	37	10号横穴	〃	両端正方形 7×4形式	長さ2.1 幅2.3			両端無銘灰	「永」の縁刻文字あり	○	〃
65-11	37	11号横穴	〃	横穴				縁刻画あり		○	〃
66	37	雁倉遺穴	中平谷	横穴				2基			
67	37	早乙女遺穴	上早乙女	横穴				8基			
68	37	公家町遺穴	上早乙女	横穴				5基(5基無銘無銘灰タイプ主群)			
69	37	西の崎遺穴	上早乙女の崎	横穴				3基			
70	37	近瀬遺穴	近瀬小久保	横穴				20基			
71	37	高根遺穴	小久保字高根	横穴				2基(両基に古墳状掘起あり)			
72	37	釜淵遺穴	小久保字釜淵	横穴				2基			
73	37	福品古墳	小久保字福品	円?	12			裾が金銀錯で装束著しく自然石の可能性もあり		△	
74	37	奥田遺穴	小久保字奥田	横穴				5基			
75	37	下谷ヶ谷遺穴	小久保字下谷ヶ谷	横穴				6基			
76	37	横取A遺穴	小久保字横取	横穴				4基			現状
77	37	横取B遺穴	小久保字横取	横穴				5基			
78	37	吉ヶ谷遺穴	小久保字吉ヶ谷	横穴				2基			
79	37	小久保谷遺穴	小久保字谷	横穴				6基(増設)			
80	37	西金ヶ谷遺穴	小久保字西金ヶ谷	横穴				3基(1基消滅)			
81	37	荻井作遺穴	小久保字荻井作	横穴				8基			1985年調査

番号	国名 地区	名称	所在地	地形	面積(㎡) 或長さ(メートル)	周長	種類	内部施設	観 望 要	遺存品	備 考
B1-1	37	碧井寺 1 号横穴	小久保字碧井	両端石形 F=A形	長さ6 幅3.1			×横台2枚床	鉄鍔、鉄釘、Φ、用治不判鉄製品、貝類	×	×
B1-2	37	" " 2 号横穴	" "	両端正方形 F=A形	長さ2.0 幅2.0			×無柱台無段床	刀子、土師器、須恵器瓦片	×	×
B1-3	37	" " 3 号横穴	" "	両端正方形 F=B形	長さ3 幅2.2			×無柱台無段床 敷石あり	刀、刀子、土師器、須恵器、貝類、 「彼文」の刻文字あり	×	×
B1-4	37	" " 4 号横穴	" "	片端正方形 F=A形	長さ4 幅2.4			×無柱台無段床 区画溝あり	土師器片、須恵器片、銅貨、貝類	×	×
B1-5	37	" " 5 号横穴	" "	両端正方形 F=A形	長さ2.6 幅2.6			×無柱台無段床	土師器片、須恵器片	×	×
B1-6	37	" " 6 号横穴	" "	片短造台形 F=A形	長さ2 幅2.6			×隔壁有茶 区画溝あり	刀子、鉄鍔	×	×
B2	37	富 芝 横 穴	小久保字富芝	横 穴					1基		
B3	37	中 庭 谷 横 穴	小久保字中庭谷	横 穴					2基		
B4	37	下 野 入 横 穴	小久保原田	横 穴					12基		
B4-2	37	" " 2 号横穴	" "	横 穴					「龍」の刻文字あり	○	○
B5	37	下堀入大塚山古墳	小久保字大塚	円	20	横穴				◎	
B6	37	北 上 横 穴	龜美字北上	横 穴					5基		
B7	37	谷 根 横 穴	龜田字谷根	横 穴					2基		
B8	37	龜 田 A 横 穴	龜田字大作	横 穴					6基(個別あり)12~6号建設		
B9	37	龜 田 B 横 穴	龜田字大作	横 穴					8基	×	×
B10	37	龜 田 C 横 穴	龜田字丹原原	横 穴					6基	×	×
B11	37	龜 田 下 吉 塚	龜田字下吉	円						×	未調査済
B12	37	比叡神社墓穴群	成実字比叡神社	横 穴					4基(後者がやぐらに改造)		1977年実地調査
B13	37	青 木 横 穴	龜美字青木	横 穴					5基		
B14	37	柳 畑 古 墳 群	龜田字柳畑						円径3基(年間約1回)、銅鍔等古墳。 一本松古墳も同一古墳群に属する		
B15	37	藤 城 横 穴	龜田字永島	円	17				横穴式石室?	○	
B16	37	一 本 松 古 墳	龜田字一本松	円	15				直方	×	1972年調査
B17	37	熊 出 寺 横 穴	鶴岡字古熊						5基		×
B18	37	古 部 横 穴	鶴岡字古部						2基		
B19	37	谷 富 里 A 横 穴	鶴岡字谷富里	横 穴					5基		
B20	37	谷 富 里 B 横 穴	鶴岡字谷富里	横 穴					2基(1基消滅)		
B21	37	谷 富 里 C 横 穴	鶴岡字谷富里	横 穴					1基		
B22	37	神 倉 横 穴	宝蔵寺字神倉	横 穴					1基		◎ 1977年調査
B23-1	37	" " 1 号横穴	" "	両端造台形 F=A形	長さ4.8 幅3.1			×無柱台1枚床	刀子片、須恵器片、貝類	×	×
B23-2	37	" " 2 号横穴	" "	両端正方形 F=A形	長さ3 幅3.4			×石棺台1枚床	人骨、刀子片、鉄鍔片、土師器、貝類	×	×
B23-3	37	" " 3 号横穴	" "	両端正方形 F=A形	長さ3.5 幅2.7			×左棺台1枚床	人骨、刀子片、鉄鍔片、土師器、貝類	×	×
B23-4	37	" " 4 号横穴	" "	両端正方形 F=A形	長さ2.2 幅2.3			×右棺台1枚床	刀子片、刀子片、鉄鍔片、須恵器片 儀、貝類	×	×
B23-5	37	" " 5 号横穴	" "	片短造正方形 F=A形	長さ3.0 幅2.9			×左棺台1枚床	人骨、刀子片、刀子片、鉄鍔片、馬具 片、籠、刀、斧、矛、鉞、銅鍔、銅鎧 残片、辰土製物等。朱色印子土。ガ ラス小玉、須恵器、砂管、灰瓶 類、煎	×	×
B23-6	37	" " 6 号横穴	" "	両短造長方形 F=A形	長さ7.4 幅4.4			×両棺台2枚床 儀、貝類	人骨、馬具、釘、須恵器、埴、 土師器	×	×
B23-7	37	" " 7 号横穴	" "	片短造長方形 F=A形	長さ2.2 幅2.2			×左棺台1枚床	須恵器片数葉	×	×
B23-8	37	" " 8 号横穴	" "	片短造長方形 F=A形	長さ2.7 幅2.0			×石棺台1枚床	刀子片、土師器、須恵器片数葉	×	×
B33	37	大 坊 古 墳	宝蔵寺大字坊	円	12				横断面図の現状を示し、塚の可能性あり	○	
B34	42A	宮 下 横 穴	八幡字下	横 穴					4基		
B35	42A	神 の 作 横 穴	八幡字神の作	横 穴					1基		
B36	42A	北 谷 横 穴	姥毛字北谷	横 穴					1基		埋没
B37	42B	熊 谷 崎 横 穴	熊谷崎	横 穴					4基		
B38	42C	山 崎 横 穴	熊谷崎	横 穴					22基		
B39	42D	富 士 見 古 墳 群	熊谷崎土見台						円径2基		

番号	図面番号	名称	所在地	地形状	面積(㎡)	用途	内部施設	備 考	調査年度	備 考
109-1	42B	〃 1号墳	〃	円	10	〇			〇 1962年度調査	
109-2	42B	〃 2号墳	〃	円	16	〇		(南側)円筒埴輪、土師器、鉄、瓦	〇 1966年度調査	
110	42B	井古墳群	牧野寺井				円筒埴輪			
110-1	42B	〃 1号墳	〃	円		〇				
110-2	42B	〃 2号墳	〃	円	30	〇		灰層のみの出土	〇 1969年度調査	
111	42B	白旗大穴群	白旗字白旗	横 穴			22基			
112	42B	大溝古墳群	牧野字大溝				円筒埴輪(10~20m級、各古墳とも底面見)			
113	42B	大溝第1横穴群	牧野字白旗	横 穴			1基			大溝A横穴群
113-1	42B	〃 1-1号横穴	〃	両端正方形 F-A型天井	長3.6 幅3.5		〇の半円台3階床	刀、鉄鏃、鉄製射、土師器、漆器、鉄、銅、銅の鍍金銅あり	〇 1952年度調査	
113-2	42B	大溝 1-2号横穴	〃	両端正方形 F-A型天井	長3.3 幅3.5		銅製無階床	鉄鏃、土師器、(銅の鍍金銅あり)	〇	
114	42B	大溝第2横穴群	牧野字大溝	横 穴			20基			1972年調査調査 大溝B横穴群
115	42B	大溝第3横穴群	牧野字大溝	横 穴			34基			黒土師 大溝C横穴群
115-1	42B	〃 第1号横穴	〃	両端正方形 F-A型天井	長3.4 幅3.9		階床(7)無階床	土師器群	〇 1972年度調査	
115-2	42B	〃 第2号横穴	〃	両端正方形 F-A型天井	長4.0 幅4.0		無階2階床		〇	
115-3	42B	〃 第3号横穴	〃	両端正方形 F-A型天井	長3.2 幅4.0		無階台無階床 区画跡あり	横土師器群	〇	
115-4	42B	〃 第4号横穴	〃	両端正方形 F-A型天井	長2.6 幅3.0		〇の半円台無階床	土師器群	〇	
115-5	42B	大溝第7号横穴	〃	両端正方形 F-A型天井	長3.6 幅2.4		無階1階床 排水溝あり	人骨、鉄鏃、漆器、漆器、鉄、銅	〇 1952年度調査	
115-6	42B	〃 第19号横穴	〃	半円形正方形 F-A型天井	長2.2 幅2.7		左階台1階床	人骨、金環、土師器、漆器、漆器	〇	
115-7	42B	大溝第24号横穴	〃	河内型正方形 F-A型天井	長1.8 幅2.2		無階無階床	人骨、漆器、土師器、貝殻	〇	
116	42B	大溝第3号横穴	牧野字大溝	横 穴			10基			1972年調査調査⑤ 大溝D横穴群
117	42B	町田古墳群	牧野字町田	円	6		横穴式石室?	水田中にあり(南側)に砂礫層が露出する部分あり	△	
118	42B	水神A横穴群	牧野字水神	横 穴			2基(遺跡跡あり)			
119	42B	水神B横穴群	牧野字水神	横 穴			3基			
120	42B	水神C横穴群	牧野字水神	横 穴			3基			
121	42B	水神北古墳	牧野字水神	円	12				〇	
122	42B	水神中古墳	牧野字水神	円	10			塚の可能性あり		
123	42B	水神南古墳	牧野字水神	円	20				〇	
124	42B	藤原古墳	更和町藤原	円	8				〇	
125	42B	上北古墳	更和町上北	円?	10			水田中にあり、墳丘低平	〇	
126	42B	藤原古墳	更和町藤原	円	13			水田中にあり、墳丘低平	〇	
127	42B	藤原古墳	加藤字藤原	円	10			墳丘上に石祠	△	
128	42B	藤原古墳	加藤字藤原	横 穴			1基		〇	
129	42B	入山横穴群	加藤字入山	横 穴			11基、塚形等建造の横穴あり			
130	42B	藤原下横穴群	加藤字下	横 穴			12基			
131	42B	本郷寺横穴群	加藤字本郷	横 穴			3基			
132	42B	高山古墳群	更和町高山				円筒埴輪(位置は本郷寺古墳)南側古墳の中心には鉄鏃を穿するものあり		1981年調査	
133	42B	高山古墳群	更和町高山	横 穴			40基			1976年調査調査① 横穴のみ実測調査
134	42B	藤原古墳	更和町藤原	円	12		墳跡に石祠		〇	
135	42B	砂塚第1横穴群	更和町砂塚	横 穴			8基		〇 1971年度調査	
136	42B	〃 3号横穴	〃	F-A型天井	長4.5 幅3.0		1階床	土師器、漆器、漆器	〇	
138	42B	〃 5号横穴	〃	円	長3.5 幅2.5			鉄刀、小玉	〇	
138	42B	砂塚第2横穴群	〃	横 穴			7基		〇	

番号	図面番号	名称	所在地	地形状	面積(㎡)	用途	内部施設	備 考	調査年度	備 考
139	42B	〃 11号横穴	加藤字砂塚	両端正方形 天井不明	長3.7 幅2.7		無階台1階床	横土師器群、漆		〇
139-1	42B	砂塚第2-11号横穴	加藤字砂塚	両端正方形 F-A型天井	長3.0 幅4.0		両階台2階床	鉄鏃、土師器		〇
137-1	42B	〃 1号横穴	〃	無階長方形 天井不明	幅2.0 (全長1.0)		無階台1階床			〇
137-2	42B	〃 2号横穴	〃	無階長方形 天井不明	幅2.7 幅3.2		無階1階床	勾玉(桃形、楕円、水島)、水島切子玉、勾玉(楕円、ガラス水島)、青白玉、ガラス小玉、漆器遺跡	〇	
137-3	42B	〃 3号横穴	〃	無階長方形 F-A型天井	長1.4 幅0.9		無階台無階床			〇
137-4	42B	〃 4号横穴	〃	長方形 天井不明	幅2.9 幅3.2		無階台無階床	土師器群、漆器、漆器	〇	
137-5	42B	〃 5号横穴	〃	無階長方形 天井不明	幅3.1 幅3.0		無階台無階床	横刀、鏡片、鉄鏃、漆器、漆器	〇	
137-6	42B	〃 6号横穴	〃	形跡不明			左階台1階床			〇
137-7	42B	〃 7号横穴	〃	形跡不明 F-A型天井			〇の半円台2階床	横土師器群、ガラス小玉	〇	
137-8	42B	〃 8号横穴	〃	形跡不明			古階台1階床			〇
137-9	42B	〃 9号横穴	〃	両端正方形 天井不明	長3.6 幅3.8		〇の半円台3階床	土師器、漆器、漆器	〇	
137-10	42B	〃 10号横穴	〃	片側長方形 F-A型天井	幅2.4 幅2.3		左階台1階床	横土師器群	〇	
137-11	42B	〃 11号横穴	〃	両端長方形 天井不明	幅2.7 幅2.3		左1階台2階床	ガラス小玉、漆器、漆器、漆器、漆器	〇	
137-12	42B	〃 12号横穴	〃	両端長方形 F-A型天井	幅2.4 幅2.8		両階台2階床 遺跡跡あり	貝殻	〇	
137-13	42B	〃 13号横穴	〃	両端長方形 F-A型天井	幅3.0 幅3.3		無階台1階床 排水溝あり	人骨、貝殻	〇	
138	42B	小 堀 穴	坂井字小堀	横 穴			1基			建設
139	42B	半 堀 穴	坂井字半堀	横 穴			円筒埴輪(10m級)に底に溝あり1ヶ所 14基(右階床タイプ主体)			
140	42B	牛 堀 穴	坂井字牛堀	横 穴			円筒埴輪(30m級)1基、10m級3基			
141	42B	見 堀 穴	坂井字見堀	横 穴			6基(右階床タイプ主体)			
142	42B	見 堀 穴	坂井字見堀	横 穴			5基(4基確認)		〇	
143	42B	見 堀 穴	坂井字見堀	横 穴			1基		〇	
144	42B	見 堀 穴	坂井字見堀	横 穴			6基			
145	42B	見 堀 穴	坂井字見堀	横 穴			1基		〇	
146	42B	見 堀 穴	坂井字見堀	横 穴			横土上に古墳、古墳を整理した塚の可能性あり		〇	
147	42B	小 堀 穴	坂井字小堀	横 穴			3基			
148	42B	大 堀 穴	坂井字大堀	横 穴			1基(付注に遺跡跡の可能性がある)		〇	
149	42B	作 堀 穴	坂井字作堀	横 穴			1基		〇	
150	42B	大 堀 穴	坂井字大堀	横 穴			3基		〇	
151	42B	大 堀 穴	坂井字大堀	横 穴			6基(4基確認)		〇	
152	42B	大 堀 穴	坂井字大堀	横 穴			1基		〇	
153	42B	小 堀 穴	坂井字小堀	横 穴			2基		〇	
154	42B	小 堀 穴	坂井字小堀	横 穴			〇		〇	
155	42B	小 堀 穴	坂井字小堀	横 穴			横穴式石室?	横土上に神社が建ち、古墳は整理した塚の可能性あり	△	
156	42B	小 堀 穴	坂井字小堀	横 穴			5基			
157	42B	小 堀 穴	坂井字小堀	横 穴			2基(1基確認)			
158	42B	小 堀 穴	坂井字小堀	横 穴			2基			
159	42B	小 堀 穴	坂井字小堀	横 穴			6基			
160	42B	小 堀 穴	坂井字小堀	横 穴			9基(右階床タイプ主体)			
161	42B	小 堀 穴	坂井字小堀	横 穴			〇		〇	
162	42B	小 堀 穴	坂井字小堀	横 穴			6基			
163	42B	小 堀 穴	坂井字小堀	横 穴			4基			
164	42B	小 堀 穴	坂井字小堀	横 穴			3基			
165	42B	小 堀 穴	坂井字小堀	横 穴			1基			
166	42B	小 堀 穴	坂井字小堀	横 穴			1基			

番号	国名	名称	所在地	地形	面積(㎡)	用途	内部施設	備 考	通称	備考
167	42A	金谷谷分合儀大洞	金谷字分合	横 穴			2基		○	
168	42A	横 谷 横 穴	金谷字丹戸谷	横 穴			6基			

■大 多 喜 町

番号	国名	名称	所在地	地形	面積(㎡)	用途	内部施設	備 考	通称	備考
1	39	熊山崎之台古墳群	熊山字熊之台				円墳2基			
3	39	熊山古墳群	熊山字市崎台				円墳2基			
3-1	39	“ 1号墳	“	円	周囲正28.3m	○			×	
3-2	39	“ 2号墳	“	円		○			×	
3-3	39	“ 3号墳	“	円		○			×	
4	39	愛宕山古墳群	熊山字新町				土部墓(円)。石製墓品(京瓦内蔵)			
6	39	熊山内岡台道跡	熊山字内岡台				前道円墳1基内蔵2基			
12	40	台 古 墳 群	下大多喜谷				前方後円墳1基内蔵1基			
13	40	高 谷 古 墳 群	下大多喜谷				円墳20基			
2	39	熊山崎之台横穴群	熊山字熊之台	横 穴			4基			
5	39	愛宕山 横 穴 群	熊山字熊之台	横 穴			27基			
7	39	熊山古墳群	町字熊山	横 穴			3基			
8	39	熊山 横 穴 群	熊山	横 穴			5基			
9	39	下内田古墳群	熊山字下内田	横 穴			熊山字下内田			
10	39	広 見 横 穴	小宮字広見	横 穴						
11	39	宮ノ森横穴	小宮字宮ノ森	横 穴						
14	40	高 谷 横 穴 群	下大多喜字上谷	横 穴			3光群、6基			
15	40	百 崎 前 道 跡	百崎字百崎前	横 穴						

■夷 隅 町

番号	国名	名称	所在地	地形	面積(㎡)	用途	内部施設	備 考	通称	備考
1	40	飯 塚 横 穴	飯塚字飯塚183	横 穴			1基			
2	40	行先寺下横穴群	飯塚字行先寺下23	横 穴			3基 人常			
3	40	飯 塚 下 横 穴 群	飯塚字飯塚153	横 穴			3基			
4	40	上 野 横 穴 群	作田字上野129	横 穴			17基			
4-4	40	“ 4号横穴	“	両端、前方形 フーA形	長3.1m 幅2.8m		無形台棺床 (朝方置き横床)		○	
4-3	40	“ 3号横穴	“	右片袖 横力形 フーA形	長2.3m 幅3.6m		右L字横台棺床 (朝方置き横床)		○	
4-3-4	40	“ B4号横穴	“	両端、前方形 フーA形	長1.9m 幅2.7m		両端台棺床 (朝方置き横床)		○	
5	40	飯 月 横 穴	飯塚字飯塚181	横 穴			飯塚(平土・堤岸・奥膳)		×	
6	40	谷 古 墳 群	高宇1007				円墳3基			
7	40	飯ノ谷古墳	高宇等ノ谷1016	前方後円墳						
8	40	込 立 谷 横 穴	込立字込立谷1004	横 穴						
9	40	込 立 上 横 穴	込立字込立1036	横 穴						
10	40	込 立 上 横 穴 群	込立字込立1043	横 穴			2基			
11	40	上 光 寺 横 穴 群	松久字上光寺289	横 穴			2基			
12	40	京 横 穴 群	神龍字京50-1	横 穴			3基			
13	40	三 軒 町 横 穴	神龍字三軒町288	横 穴						
14	40	宮ノ下 横 穴	神龍字宮ノ下607	横 穴						
15	40	宮ノ下 横 穴 群	神龍字宮ノ下445	横 穴			2基			
16	40	宮ノ下 横 穴 群	神龍字宮ノ下430	横 穴			3基			
17	40	新 富 田 横 穴 群	小高字新富田50-1	横 穴			4基			
18	40	新 富 田 横 穴 群	小高字新富田50-1	横 穴			2基			
19	40	新 富 田 横 穴 群	小高字新富田50-1	横 穴			3基			
20	40	新 富 田 横 穴 群	小高字新富田49-1	横 穴			3基			
21	40	谷 上 横 穴 群	小高字谷上278	横 穴			4基			
22	40	谷 上 横 穴 群	小高字谷上279	横 穴						

番号	国名	名称	所在地	地形	面積(㎡)	用途	内部施設	備 考	通称	備考
23	40	宮ノ下 横 穴 群	小高字宮ノ下246	横 穴			4基			
24	40	横 谷 横 穴 群	小高字横谷1-1	横 穴			2基			

■御 宿 町

番号	国名	名称	所在地	地形	面積(㎡)	用途	内部施設	備 考	通称	備考
1	40	岩 屋 口 横 穴 群	御宿字岩屋口	横 穴			4基			
2	40	供 養 寺 横 穴	六軒町字六軒町	横 穴						

■大 原 町

番号	国名	名称	所在地	地形	面積(㎡)	用途	内部施設	備 考	通称	備考
1	40	大 門 台 横 穴 群	山田西區4045	横 穴	3基	×				
2	40	長 尾 横 穴 群	高谷	横 穴						
2-1	40	“ 1号横穴	“	正 方 形 フーA形	長5.1m 幅3.3m		右側台棺床 (朝方置き横床)			
2-2	40	“ 2号横穴	“	アーチ形	幅3.2m					
3	40	佐 賀 横 穴 群	熊山54	横 穴						
3-2	40	“ 2号横穴	“	両端、前方形 フーA形	長1.9m 幅2.7m 幅3.2m		隔壁を有する。			
3-3	40	“ 3号横穴	“	左片袖 フーA形	長2.1m 幅3.1m 幅3.4m					
4	40	飯 塚 横 穴 群	飯塚34	横 穴						
4-4	40	飯 塚 横 穴 群	飯塚	横 穴						
5-1	40	“ 1号横穴	“	両端、前方形 フーA形	長3.2m 幅2.9m 幅4.7m		無形台棺床		○	
5-2	40	“ 9号横穴	“	両端、前方形 フーA形	長1.9m 幅2.4m 幅3.4m		3段床式 (朝方置き横床)		○	
5-10	40	“ 10号横穴	“	両端、前方形 フーA形	長2.4m 幅3.6m 幅3.5m		コノ字横台棺床 (朝方置き横床)		○	
5-12	40	“ 12号横穴	“	両端、前方形 フーA形	長2.8m 幅3.1m 幅3.5m		両端 (御宿(飯塚)区画)		○	
5-13	40	“ 13号横穴	“	両端、前方形 フーA形	長1.9m 幅2.5m 幅3.3m		隔壁を有する。		○	
5-14	40	“ 14号横穴	“	両端、前方形 フーA形	長1.5m 幅2.4m 幅3.4m		隔壁を有する。			
5-15	40	“ 15号横穴	“	両端、前方形 フーA形	長2.0m 幅2.7m 幅3.5m		右L字横床 (無形、御宿(飯塚)区画) 隔壁を有する。		○	
6	41A	宮ノ下 横 穴	山田西區宮ノ下	横 穴						
7	41A	下 光 寺 谷 横 穴 群	高谷	横 穴						
7-1	41A	“ 1号横穴	“	両端、前方形 フーA形	長2.2m 幅2.6m 幅3.4m				○	
8	41A	飯 塚 横 穴 群	下市飯塚	横 穴						
8-1	41A	“ 1号横穴	“	両端、前方形 フーA形	長1.9m 幅2.5m 幅3.5m		コノ字横台棺床 (朝方置き横床)		○	
8-4	41A	“ 4号横穴	“	両端、前方形 フーA形	長2.3m 幅2.6m 幅3.4m		無形(無形) 隔壁を有する。			
9	41A	飯 塚 横 穴 群	下市飯塚3147	横 穴						
9-4	41A	“ 4号横穴	“	両端、前方形 フーA形	長2.4m 幅3.1m 幅3.1m				○	
9-5	41A	“ 5号横穴	“	両端、前方形 フーA形	長2.1m 幅2.3m 幅3.4m				○	
9-6	41A	“ 6号横穴	“	両端、前方形 フーA形	長3.5m 幅2.7m 幅3.4m		コノ字横台棺床 (朝方置き横床)		○	
10	41A	電 光 地 横 穴 群	上布	横 穴						

番号	図号	名称	所在地	地形状	面積 (㎡)	周長 (m)	内部施設	概要	通車 数	備考
10-1	41A	〃 1号横穴	〃	両端・前方 D-A形	長1.9m 幅1.7m (長短1.6m)		竈を有する。		〇	
10-4	41A	〃 4号横穴	〃	両端・前方 D-A形	長2.1m 幅2.4m (長短1.8m)		竈床(無縁積床) 竈を有する。		〇	
10-6	41A	〃 8号横穴	〃	両端・前方 D-A形	長2.1m 幅2.2m (長短1.8m)		竈床 (排水区域) 竈を有する。		〇	
10-7	41A	〃 7号横穴	〃	両端・前方 D-A形	長1.9m 幅1.8m (長短1.6m)		竈を有する。		〇	
10-8	41A	〃 8号横穴	〃	両端・前方 D-A形	長1.7m 幅1.7m (長短1.6m)		竈を有する。		〇	
10-10	41A	〃 10号横穴	〃	両端・前方 D-A形	長1.8m 幅2.0m (長短1.3m)		〃		〇	
11	41B	長尾横穴群	大井油岡谷	横穴				7基		
12	41B	谷倉台横穴群	若船字台381	横穴				13基	〇	8基焼没

■神 町

番号	図号	名称	所在地	地形状	面積 (㎡)	周長 (m)	内部施設	概要	通車 数	備考
1	40	谷上横穴群	谷上字神田716	横穴				3基	2基焼没	
2	40	谷上横穴群	世間字神田717	横穴				2基	〇	1基焼没
3	40	南原谷横穴群	世間字南原谷284	横穴				5基	〇	1基焼没
4	40	金月横穴群	世間字月306	横穴				5基	〇	1基焼没
4-2	40	〃 2号横穴	〃	両端・前方 D-A形	長3.4m 幅3.6m (長短1.4m)		奥接合横穴 (有り抜き積床)		〇	
5	40	岡谷横穴群	谷上字岡谷154	横穴				4基	〇	4基焼没
6	40	横前横穴群	谷上字横前23	横穴				6基	〇	5基焼没
7	40	横木谷横穴群	世間字横木谷267	横穴				2基	〇	8基焼没
8	40	平入横穴群	世間字平入664	横穴				17基	〇	8基焼没
9	40	矢竹横穴群	世間字矢竹880	横穴				4基	〇	21
10	40	中流横穴群	中流字谷181	横穴					〇	
10-1	40	〃 1号横穴	〃	両端・前方 D-A形	長2.4m 幅3.0m (長短1.3m)		両接合横穴		〇	
10-2	40	〃 2号横穴	〃	両端・前方 D-A形	長2.1m 幅3.0m (長短1.8m)		両接合横穴 (有り抜き積床)		〇	
10-4	40	〃 4号横穴	〃	両端・前方 D-A形	長3.1m 幅3.7m (長短1.6m)		両接合横穴 (有り抜き積床)		〇	
11	40	横尾横穴群	世間字5反田188	横穴				7基	〇	21
11-3	40	〃 3号横穴	〃	両端・前方 D-A形	長3.6m 幅3.3m (長短1.6m)		奥接合横穴		〇	
11-7	40	〃 7号横穴	〃	両端・前方 D-A形	長1.9m 幅2.4m (長短1.4m)		奥接合横穴 (有縁・無縁積床)		〇	
12	41C	白井横穴群	赤井字白井131	横穴				5基		
13	41C	東内横穴群	三門字東内136	横穴				3基		
14	41C	東前横穴群	三門字東前137	横穴				25基		
14-1	41C	〃 1号横穴	〃	両端・前方 D-A形	長2.0m 幅1.7m (長短1.6m)		両接合 (有り抜き積床) 竈を有する。	七郎部(平)、横尾部(平)、人等	×	
14-2	41C	〃 2号横穴	〃	両端・前方 D-A形	長2.1m 幅2.0m (長短1.6m)		両接合 (有り抜き積床) 竈を有する。	横尾部(平)、横尾部(平)、人等	×	
14-3	41C	〃 3号横穴	〃	両端・前方 D-A形	長2.3m 幅3.4m (長短1.6m)		両接合 (有り抜き積床) 竈を有する。	土郎部(平)、横尾部(平)、人等	×	
14-4	41C	〃 4号横穴	〃	両端・前方 D-A形	長1.8m 幅3.3m (長短1.6m)		両接合 (有り抜き積床) 竈を有する。	土郎部(平)、横尾部(平)、人等	×	
14-5	41C	〃 5号横穴	〃	両端・前方 D-A形	長2.0m 幅3.0m (長短1.1m)		両接合 (有り抜き積床) 竈を有する。	土郎部(平)、横尾部(平)、人等	×	

番号	図号	名称	所在地	地形状	面積 (㎡)	周長 (m)	内部施設	概要	通車 数	備考
15	41C	三門古墳(正解)	三門字古墳39	横穴				竈・竈・竈	×	
16	41C	横木横穴群	横木字横木外313	横穴				2基	〇	
17	41C	小島ノ鼻横穴	小島字小島ノ鼻	横穴					〇	

■勝 浦 市

番号	図号	名称	所在地	地形状	面積 (㎡)	周長 (m)	内部施設	概要	通車 数	備考
1	45A	小島横穴	長行市小島	横穴					〇	
2	45B	長尾横穴群	守谷字長尾	横穴				8基		
2-1	45B	〃 1号横穴	〃	両端・前方 D-A形	長2.6m			人等	△	
2-2	45B	〃 2号横穴	〃	両端・前方 D-A形	長2.6m			横尾部(長尾部)、横尾部、人等	△	
2-3	45B	〃 3号横穴	〃	両端・前方 D-A形	長3.0m			土郎部(平)、横尾部(長尾部)	〇	
2-4	45B	〃 4号横穴	〃	両端・前方 D-A形	長2.6m				〇	
2-5	45B	〃 5号横穴	〃	両端・前方 D-A形	長3.2m			横尾部(平)	△	
2-6	45B	〃 6号横穴	〃	両端・前方 D-A形	長2.9m				〇	
2-7	45B	〃 7号横穴	〃	両端・前方 D-A形	長3.8m			土郎部(平)、横尾部(長尾部)、横尾部、横尾部	△	
2-8	45B	〃 8号横穴	〃	両端・前方 D-A形	長2.1m				△	
3	45B	長尾横穴群	守谷字長尾	横穴					〇	
4	45B	横尾横穴群	守谷字長尾	横穴					〇	
5	45B	横尾横穴群	守谷字長尾	横穴				2基	△	

■天津小湊町

番号	図号	名称	所在地	地形状	面積 (㎡)	周長 (m)	内部施設	概要	通車 数	備考
1	46A	山ノ尾横穴群	山ノ尾字山ノ尾	横穴				石塔	横尾部	
2	46A	山ノ尾横穴群	山ノ尾字山ノ尾	横穴						

■鶴 川 市

番号	図号	名 称	所 在 地	構 形	横穴の 開口部 の長さ	周長	内部施設	概 要	通車 数	備 考
1	44A	大山 洞 穴 群	古文字洞跡	横 穴				4基		
2	45A	金 塚 古 墳	古田字和原	円 墳	25×3m				○	
3	46A	毛 無 古 墳	主馬字藤原王敷	円 墳						
4	46A	細 野 古 墳	大志字上ノ原	円 墳					×	
5	45A	玄 塚 北 古 墳	広輪字小松原	円 墳					×	
6	45A	広 輪 東 古 墳	広輪字上広輪	円 墳					×	
7	45A	広 輪 第 1 号 古 墳	広輪字中広輪	円 墳			割立式舟形石棺	板刀・刀子・鉄鏡		
8	45A	広 輪 第 2 号 古 墳	広輪字上広輪	円 墳	37×3m			土師器	○	
9	45A	玄 塚 塚 古 墳	広輪字臼井戸	円 墳	20×1.5m				○	
10	45B	新 越 大 穴 穴 群	新越大字大淵	横 穴				3基		
11	45B	西 風 早 穴 穴	新越大字西風早	横 穴					×	

番号	名称	所在地	形式	構造	内部施設	備 考
9	43A 坂井ヶ谷東横穴	電島平 坂井ヶ谷	横穴			1979年度
10	43A 大畑東横穴	下佐久間字 新田	横穴		1番洞組合棟(無 蓋)含む。	18基。文型平面型が正方形と横穴の 小形横穴を含む。
11	43A 坂井ヶ谷北横穴	下佐久間字 横ヶ谷	横穴			風化著しく、数基は中 ぐら転用
12	43A 坂井ヶ谷南横穴	下佐久間 横ヶ谷	横穴			
13	43A 新田横穴	下佐久間 平田	横穴			△ 後世の掘り

富山町

番号	名称	所在地	形式	構造	内部施設	備 考
1	43A 原田東横穴	久志字豊田	横穴		東方棟門(東)部門2基	×
2	43A 市本横穴	高崎字内水	横穴		4基。無蓋。文型無蓋。横穴。天 井平置。	○
3	43B 大谷横穴	高崎字大谷	横穴		3基。	○ 1基半壊
4	43B 藤原横穴	高崎字芝	横穴		3基。	△ 風化・腐蝕著しい。
5	43B 鬼ヶ谷横穴	高崎字鬼ヶ谷	横穴		2基。	
6	43B 小瀬横穴	小瀬	横穴			○

富浦町

番号	名称	所在地	形式	構造	内部施設	備 考
1	43B 山崎横穴	南谷字山崎	横穴		2基。文型無蓋。正方形と 横穴。文型無蓋。正方形 の2タイプ天井平置	○
2	43B 高田横穴	豊岡字高田	横穴		文型無蓋。正方形。天井平 置	○
3	43B 高田西横穴	豊岡字高田	横穴		1基のみ。奥部は (室内)横穴。天井平 置	○ 風化やや著しい。
4	43B 高田西横穴	豊岡字高田	横穴		3基。文型。文型無蓋。横 穴。天井平置	○ 1基石部有り。1基半壊
5	43B 谷東横穴	豊岡字谷	横穴		4基。無蓋。文型。文型 無蓋。横穴の2タイプ。 奥部は天井平置。天井平 置。天井平置	△ 腐蝕・風化著しい。
6	43B 谷西横穴	豊岡字谷	横穴		6基。文型。文型。文型。文 型。横穴。横穴。横穴。横 穴。天井平置	○ 奥部・横穴著しい。1基 壊
7	43B 谷南横穴	豊岡字谷	横穴		6基。無蓋。文型。文型。文 型。横穴。横穴。横穴。横 穴。天井平置	○
8	43B 和田横穴	豊岡字和田	横穴		4基。無蓋。文型。文型。文 型。横穴。横穴。横穴。横 穴。天井平置	○
9	43B 大谷横穴	豊岡字四反田	横穴		7基。	○ 1基吹き抜け。4基破 壊不可能
10	43B 藤原南横穴	豊岡字藤原	横穴		2基。	△ 腐蝕・風化著しい。
11	43B 藤原北横穴	豊岡字藤原	横穴		5基。文型。文型。文型。文 型。天井平置	○
12	43B 野ヶ谷横穴	豊岡字野ヶ谷	横穴		3基。無蓋。文型。文型。文 型。横穴。横穴。横穴。横 穴。天井平置	○
13	43B 豊岡横穴	豊岡字豊岡	横穴		3基。無蓋。文型。文型。文 型。横穴。横穴。横穴。横 穴。天井平置	○
14	43B 沢又A～D横穴	豊岡字沢又	横穴		A部(3基)B部(3基)C部 (12基)D部(5基)。無蓋。 文型。文型。文型。文型。文 型。横穴。横穴。横穴。横 穴。天井平置	○
15	43B 内生基横穴	内生字内生	横穴		3基	
16	43B 大ノ目横穴	内生字大ノ目	横穴			
17	43B 桑作横穴	内生字桑作	横穴			
18	43B 大武田横穴	多田長字武田	横穴		崖ノ。刀ノ。崖ノ。崖ノ。崖ノ	×

三芳村

番号	名称	所在地	形式	構造	内部施設	備 考
1	44B 王木横穴	上郷字王木	横穴			21基
2	44B 東横穴	西中文字東	横穴			門横基
3	44B 古横穴	本郷字古	横穴			7基
4	44B 延命寺山横穴	本郷字延命寺	横穴			
5	44B 平島横穴	中文字平島	横穴			2基
6	44B 明石古墳	明石字平ノ谷	横穴			
7	44B 明石横穴	明石288	横穴			
8	44B 奥之内横穴	奥之内字奥之内	横穴		奥之内横穴多数	○ 奥之内全壊
9	44B 佐戸横穴	奥之内字佐戸	横穴			36基
9-2	44B 〃 2号横穴	奥之内字佐戸	横穴			○ 奥之内全壊
9-3	44B 〃 3号横穴	奥之内字佐戸	横穴			○ 奥之内全壊
9-4	44B 〃 4号横穴	奥之内字佐戸	横穴			○ 奥之内全壊
9-5	44B 〃 5号横穴	奥之内字佐戸	横穴			○ 奥之内全壊
9-6	44B 〃 6号横穴	奥之内字佐戸	横穴			○ 奥之内全壊
9-7	44B 〃 7号横穴	奥之内字佐戸	横穴			○ 奥之内全壊
9-11	44B 〃 11号横穴	奥之内字佐戸	横穴			○ 奥之内全壊
9-12	44B 〃 12号横穴	奥之内字佐戸	横穴			○ 奥之内全壊
9-13	44B 〃 13号横穴	奥之内字佐戸	横穴			○ 奥之内全壊
9-14	44B 〃 14号横穴	奥之内字佐戸	横穴			○ 奥之内全壊
9-15	44B 〃 15号横穴	奥之内字佐戸	横穴			○ 奥之内全壊
10	44B 坂方横穴	坂方字坂方	横穴			2基
11	44B 大田横穴	大田字大田	横穴			5基
11-2	44B 〃 2号横穴	大田字大田	横穴			○
11-3	44B 〃 3号横穴	大田字大田	横穴			○
11-4	44B 〃 4号横穴	大田字大田	横穴			○
11-5	44B 〃 5号横穴	大田字大田	横穴			○
11-6	44B 〃 6号横穴	大田字大田	横穴			○
12	44B 谷津横穴	谷津字谷津	横穴			20基
12-2	44B 〃 B-1号横穴	谷津字谷津	横穴			○
12-3	44B 〃 B-2号横穴	谷津字谷津	横穴			○
12-4	44B 〃 B-3号横穴	谷津字谷津	横穴			○
12-5	44B 〃 B-5号横穴	谷津字谷津	横穴			○
12-6	44B 〃 B-7号横穴	谷津字谷津	横穴			○
12-7	44B 〃 C-1号横穴	谷津字谷津	横穴			○
12-8	44B 〃 C-2号横穴	谷津字谷津	横穴			○
12-9	44B 〃 C-3号横穴	谷津字谷津	横穴			○
12-10	44B 〃 C-4号横穴	谷津字谷津	横穴			○
12-11	44B 〃 C-5号横穴	谷津字谷津	横穴			○

番号 図号	名称	所在地	形式	規模 (延床・高さ)	内部施設	築年	遷移 年	備考
12-C-41B 6	〃 C-6号機穴	〃	両袖・不整形 ア-ナ形	長3.0m・幅4.0m (全長)3.5m	左L字階段(室内階段)	〃	〇	
12-C-41B 7	〃 C-7号機穴	〃	両袖・不整形 ア-ナ形	長3.7m・幅3.9m (全長)4.4m	両袖階段(室内階段)	〃	〇	
12-C-41B 8	〃 C-8号機穴	〃	両袖・不整形 ア-ナ形	長3.7m・幅3.7m (全長)3.7m	両袖合階段・右階段 (無縁階段・室内階段)	〃	〇	
12-C-41B 9	〃 C-9号機穴	〃	両袖・不整形 ア-ナ形	長3.0m・幅2.3m (全長)3.3m	無縁合階段	〃	〇	
12-C-41B 10	〃 C-10号機穴	〃	不整形 ア-ナ形	長2.6m・幅2.3m (全長)2.6m	〃	〃	〇	
12-C-41B 12	〃 C-12号機穴	〃	両袖・翼力形 家型定形	長3.7m・幅3.6m (全長)4.5m	〃	〃	〇	
12-C-41B 13	〃 C-13号機穴	〃	不整形 ア-ナ形	長4.4m・幅3.7m (全長)4.4m	〃	〃	〇	
13-44B	清水谷 機穴	熊谷寺清水谷	機穴	〃	特設土間階段・ 機内階段含む。	3基	〇	
14-44B	六代 機穴	熊谷寺六代	機穴	〃	〃	21基	〇	2基増設
15-44B	西入 機穴	熊谷寺西入	機穴	〃	〃	12基	〇	
16-44B	川辺 機穴	熊谷寺川辺	機穴	〃	〃	2基	〇	
17-44B	田畑 機穴	熊谷寺田畑	機穴	〃	〃	2基	〇	
18-44B	和田 機穴	熊谷寺和田	機穴	〃	〃	2基	〇	
19-44B	長原 機穴	熊谷寺長原	機穴	〃	〃	2基	〇	
20-44B	北戸 機穴	熊谷寺北戸	機穴	〃	〃	8基	〇	
20-1-44B	〃 1号機穴	〃	逆台形 ア-ナ形	長3.2m・幅3.2m (全長)3.2m	両袖合階段(無縁階段)	〃	〇	
20-2-44B	〃 2号機穴	〃	不整形 ア-ナ形	長2.5m・幅3.4m (全長)3.5m	無縁合階段	〃	〇	
20-3-44B	〃 3号機穴	〃	不整形 ア-ナ形	長4.3m・幅3.4m (全長)4.3m	両袖合階段(室内階段)	〃	〇	
20-4-44B	〃 4号機穴	〃	両袖・逆台形 ア-ナ形	長4.9m・幅3.5m (全長)4.3m	両袖合階段(別荘階段)	〃	〇	
20-5-44B	〃 5号機穴	〃	右片袖・不整形 ア-ナ形	長4.0m・幅4.4m (全長)4.6m	左L字階段(室内階段)	〃	〇	
20-6-44B	〃 6号機穴	〃	両袖・不整形 ア-ナ形	長4.0m・幅4.5m (全長)4.6m	右L字階段(別荘階段)	〃	〇	
20-9-44B	〃 8号機穴	〃	左片袖・不整形 ア-ナ形	長4.2m・幅3.7m (全長)4.9m	無縁合階段	〃	〇	
21-44B	寺ノ宮神社機穴群	山名寺花見台	機穴	〃	〃	3基	〇	
21-1-44B	〃 1号機穴	〃	両袖・ ア-ナ形	〃	両袖合階段(別荘階段)	〃	〇	
21-2-44B	〃 2号機穴	〃	両袖・ ア-ナ形	〃	無縁合階段	〃	〇	
21-3-44B	〃 3号機穴	〃	両袖・翼力形 ア-ナ形	長4.5m・幅3.3m (全長)4.3m	両袖合階段(別荘階段)	〃	〇	
21-4-44B	〃 4号機穴	〃	両袖・翼力形 平形	長3.5m・幅4.2m (全長)4.3m	右袖合階段(別荘階段)	〃	〇	
22-44B	熊谷山 機穴	山名寺山岡	機穴	〃	〃	3基	〇	
23-44B	熊谷山 機穴	山名寺熊谷山	機穴	〃	〃	3基	〇	
24-44B	平沢 機穴	山名寺平沢	機穴	〃	〃	6基	〇	
25-44B	大谷 機穴	山名寺大谷	機穴	〃	〃	4基	〇	
26-44B	鬼ノ作 機穴	山名寺鬼ノ作	機穴	〃	〃	15基	〇	
27-44B	倉ノ作 機穴	山名寺倉ノ作1747-2	機穴	〃	〃	16基	〇	
27-1-44B	〃 1号機穴	〃	不整形 ア-ナ形	長2.2m・幅2.1m (全長)2.2m	左L字階段(室内階段)	〃	〇	
27-2-44B	〃 2号機穴	〃	不整形 ア-ナ形	長3.0m・幅3.9m (全長)3.9m	左L字階段(室内階段)	〃	〇	
27-3-44B	〃 3号機穴	〃	不整形 ア-ナ形	長3.8m・幅3.8m (全長)3.8m	両袖合階段(室内階段)	〃	〇	
27-9-44B	〃 9号機穴	〃	不整形 平形	長4.2m・幅3.9m (全長)4.2m	〃 (無縁階段)	〃	〇	
27-10-44B	〃 10号機穴	〃	不整形 平形	長2.5m・幅1.8m (全長)2.5m	〃	〃	〇	
27-11-44B	〃 11号機穴	〃	不整形 ア-ナ形	長2.8m・幅3.2m (全長)3.2m	左袖階段(室内階段)	〃	〇	

番号 図号	名称	所在地	形式	規模 (延床・高さ)	内部施設	築年	遷移 年	備考
27-12-44B	〃 12号機穴	〃	不整形 ア-ナ形	長2.7m・幅2.5m (全長)2.7m	両袖合階段(無縁階段)	〃	〇	
27-13-44B	〃 13号機穴	〃	不整形 ア-ナ形	長1.9m・幅2.1m (全長)1.9m	両袖合階段(無縁階段)	〃	〇	
27-14-44B	〃 14号機穴	〃	逆台形 ア-ナ形	長1.9m・幅2.2m (全長)1.9m	〃	〃	〇	
27-15-44B	〃 15号機穴	〃	不整形 ア-ナ形	長4.4m・幅2.7m (全長)4.4m	〃	〃	〇	
27-16-44B	〃 16号機穴	〃	逆台形 ア-ナ形	長2.6m・幅1.9m (全長)2.6m	〃	〃	×	

熊 山 市

番号 図号	名称	所在地	形式	規模 (延床・高さ)	内部施設	築年	遷移 年	備考
1-43B	熊 山 機穴	熊谷寺熊山567機	機穴	〃	〃	3基	〇	
2-43B	大庭久 機穴	川北寺大庭久	機穴	〃	〃	2基	〇	
3-43B	助 作 機穴	小原寺助作	機穴	〃	〃	3基	〇	
4-43B	助 作 機穴	〃	機穴	〃	〃	3基	〇	
5-43B	助 作 機穴	〃	機穴	〃	〃	4基	〇	
6-43B	宮ノ入 機穴	小原寺宮ノ入	機穴	〃	〃	28基	〇	数基増設
7-43B	宮ノ入 機穴	〃	機穴	〃	〃	6基	〇	
8-43B	山 岸 機穴	正木寺山岸	機穴	〃	〃	5基	〇	急傾斜に位置するため内部階段。
9-43B	熊 山 機穴	小原寺熊山	門機	5×1m	〃	〃	〇	
10-44B	上 野 村 機穴	正木寺上野村	機穴	〃	〃	15基	〇	一部増設
11-44B	上 野 村 機穴	〃	機穴	〃	〃	5基	〇	
12-44B	上 野 村 機穴	正木寺上野村	前方後円墳	20×20m	〃	〃	〇	
13-44B	熊 山 機穴	高井寺熊山	門機	10×20m	〃	〃	〇	
14-44B	宮 野 古 墳	宮野寺古墳	門機	〃	〃	〃	〇	市野史跡美名「天子塚」
15-44B	熊 山 機穴	熊谷寺熊山	機穴	〃	〃	〃	〇	
16-44B	江 田 機穴	江田	機穴	〃	室内階段多数・ 別荘階段2基含む。	36基、太田河内あり、熊 美形・逆台形の2タイプ。 穴形ア-ナ・ア-ナ形含む。	〇	数基増設
17-44B	宮 野 古 墳	熊谷寺宮野古	機穴	〃	階段を含む機穴含む。	40基、家庭天井を有する機穴含む。	〇	
18-44B	角 田 機穴	大井寺角田	機穴	〃	家庭天井を有する機穴含む。	〃	〇	
19-47-44B	中 行 谷 機穴	出野寺中行谷	機穴	〃	〃	5基	〇	
20-47-44B	倉 野 古 墳	大井寺倉野	門機	〃	熊野大井・主殿・後殿・ 人等	〃	×	熊野
21-47-44B	大 塚 機穴	大神宮大塚	機穴	〃	〃	4基	△	増設らしい。
22-47-44B	宮 野 古 墳	大神宮宮野	機穴	〃	〃	5基、両端有する機穴含む。	〇	
23-48-44B	熊 山 機穴	熊谷寺熊山	門機	〃	〃	〃	×	熊野
24-48-44B	熊 山 機穴	熊谷寺熊山	機穴	〃	〃	37基	〇	
25-48-44B	熊 山 機穴	熊谷寺熊山	機穴	〃	〃	38基	〇	
26-48-44B	大 塚 機穴	大神宮大塚	機穴	〃	〃	5基、家庭天井・階段を 有する機穴含む。	〇	
27-48-44B	宮 野 古 墳	熊谷寺宮野古	機穴	〃	〃	大井・増設	〇	
28-48-44B	熊 山 機穴	熊谷寺熊山	機穴	〃	〃	〃	〇	
29-48-44B	熊 山 機穴	熊谷寺熊山	機穴	〃	〃	16基、増設を含む。	〇	
30-48-44B	熊 山 機穴	熊谷寺熊山	機穴	〃	〃	4基	〇	
31-48-44B	熊 山 機穴	熊谷寺熊山	機穴	〃	〃	9基	〇	
32-48-44B	熊 山 機穴	熊谷寺熊山	機穴	〃	〃	2基	〇	
33-48-44B	熊 山 機穴	熊谷寺熊山	機穴	〃	〃	6基	〇	
34-48-44B	熊 山 機穴	熊谷寺熊山	機穴	〃	〃	10基	〇	数基増設
35-48-44B	熊 山 機穴	熊谷寺熊山	機穴	〃	〃	3基	〇	
36-48-44B	熊 山 機穴	熊谷寺熊山	機穴	〃	〃	6基	〇	増設や多い。
37-48-44B	大 塚 機穴	大神宮大塚	門機	15×20m	〃	〃	〇	

■和田町

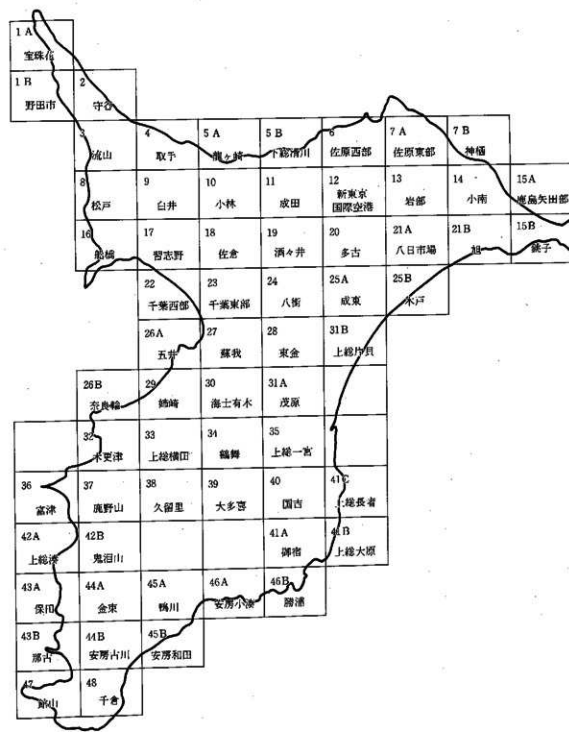
番号 図号	名称	所在地	形式	規模 (延床・長・幅)	内部施設	概要	床面積	備考
1 44日	寺 田 穴 群	寺田字寺田	横穴		無跡台棺床	2基。土室、両端正方形、天井平型1基含む。	0	
2 45日	井 田 穴 群	小川字井田	横穴		壁内棺床	2基	0	
3 45日	西 田 穴 群	小川字西田	横穴			6基		
4 45日	向 田 穴 群	小川字向田	横穴		壁内棺床2基含む。	3基。土室、龍形、天井平型2基含む。	0	
5 45日	高 田 穴 群	高田字大塚	横穴					

■丸山町

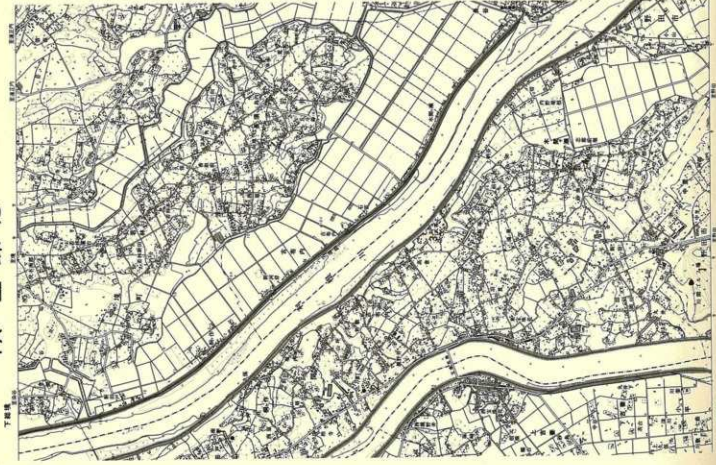
番号 図号	名称	所在地	形式	規模 (延床・長・幅)	内部施設	概要	床面積	備考
1 44日	清水 穴 群	丸山町字田1	横穴		壁内棺床含む	6基	2基埋没	
2 44日	安 永 寺 穴 群	丸山町字清水	横穴			13基	0 1基埋没	
3 44日	堀 穴 群	堀	横穴			2基		
4 44日	吉 見 穴 群	角ヶ谷	横穴		無跡棺台棺床、壁内棺床など多数。	12基	0 1基埋没	
5 44日	堀 穴 群	堂谷	横穴		無跡棺床、壁内棺床多数。	17基。埋没形多い。	0 6基埋没	
6 44日	加 茂 第 1 穴 群	加茂字第1	横穴					
7 44日	加 茂 第 2 穴 群	加茂字第2	横穴					
8 44日	加 茂 第 3 穴 群	加茂字第3	横穴					
9 44日	神 門 第 1 穴 群	加茂字神門1	横穴					
10 44日	神 門 第 2 穴 群	加茂字神門2	横穴					
11 44日	崎 山 穴 群	崎	横穴			2基		
12 44日	大 沼 第 1 穴 群	安馬場163地	横穴		無跡棺床1基含む。	6基	4基埋没	
13 44日	大 沼 第 2 穴 群	安馬場170地	横穴			4基	2基埋没	
14 44日	大 沼 第 3 穴 群	安馬場	横穴		壁内棺1基含む	3基	0	
15 44日	岩 赤 穴 群	岩赤字岩赤	横穴					
16 44日	西 原 穴 群	西原字池田	横穴			2基		
17 44日	二ツ塚 古墳	二ツ塚	円墳				0 一基埋没	
18 44日	高 岡 穴 群	高岡ヶ谷字高岡181地	横穴			3基	2基埋没	
19 44日	大 塚 穴 群	小戸字大塚	横穴			2基		
20 44日	関 谷 第 1 穴 群	小戸字関谷1	横穴			6基		
21 44日	関 谷 第 2 穴 群	小戸字関谷2	横穴			4基		
22 44日	小 谷 穴 群	石室字谷3	横穴			2基		
24 44日	大 岡 穴 群	大岡字大字大岡	横穴		無跡棺台棺床、壁内棺床など多数。	22基	0 やぐら再利用1基含む	
25 44日	F 東野第1穴穴群	石室字F東野3	横穴			25基	0	
26 44日	F 東野第2穴穴群	石室字F東野2	横穴		無跡・割込棺台棺床含む。	5基	0 1基全壊	
27 44日	下 東野第3穴穴群	石室字下東野1	横穴		無跡棺台棺床、壁内棺床など多数。	14基。無跡棺台棺床、壁内棺床など多数。	5基全壊	
28 44日	下 小谷第1穴穴群	石室字下小谷3	横穴			2基		
29 44日	下 小谷第2穴穴群	石室字下小谷1-2	横穴			11基		
30 44日	永 野 台 1 号 墳	石室字永野281-1	円墳		木棺直葬	横穴(埋葬室)、玉頸(玉頸等三、ガラス小玉)埋藏(門前・形像)	× 現在削平	
31 44日	永 野 台 2 号 墳	石室字永野281-1	前方後円墳			玉頸、埴輪		
32 44日	永 野 台 第 1 穴 群	石室字永野			埋藏を有する横穴1基を含む。	4基	△	
33 44日	永 野 台 第 2 穴 群	石室字永野1-2			壁内棺床含む。	5基	△	
34 44日	石 室 穴 群	石室			無跡棺床、割込棺床を含む。	7基	0	
35 44日	谷 田 穴 群	丸山町				4基		

■千倉町

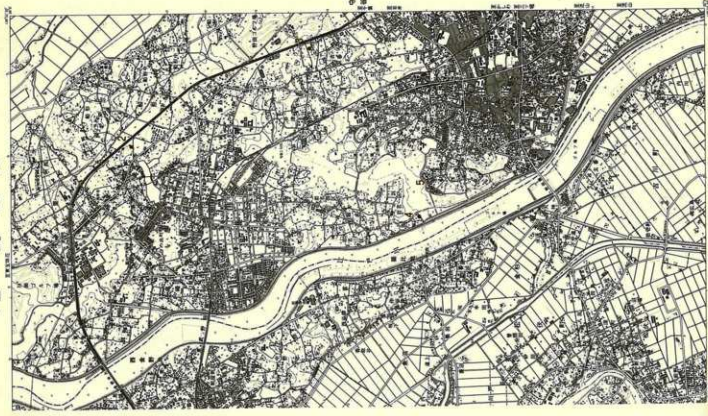
番号 図号	名称	所在地	形式	規模 (延床・長・幅)	内部施設	概要	床面積	備考
1 48	保 作 穴 群	字田字保作	横穴				11基	
2 48	下 下 穴 群	字田字下下松	横穴				2基	
3 48	一 反 田 穴 群	字田字一反田	横穴				2基	
4 48	崎 谷 穴 群	大塚字崎谷	横穴				7基	
5 48	谷 穴 群	北瀬崎字上ノ原	横穴				4基	
6 48	大 和 田 古 墳	大和字大和田	円墳		18×3m		0	
7 48	本 郷 上ノ原古墳群	字田字本郷地	円墳			前方後円墳1基、円墳3基、方墳1基	0	
7-3 48	〃 3 号 墳	〃	円墳		18×3m		0	
8 48	日 内 重 蔵 穴 群	大塚字重蔵前621	横穴			5基	0	
8-4 48	〃 4 号 穴 群	〃	違合形平、型		長1.3・幅3.0m(全長)4.9m	奥持台棺床(直葬用)	0	
9 48	安 永 寺 古 墳	久保字安永寺	円墳		8×1m	須恵寺(平瓦、鉄製品)	0	



1A 宝珠花

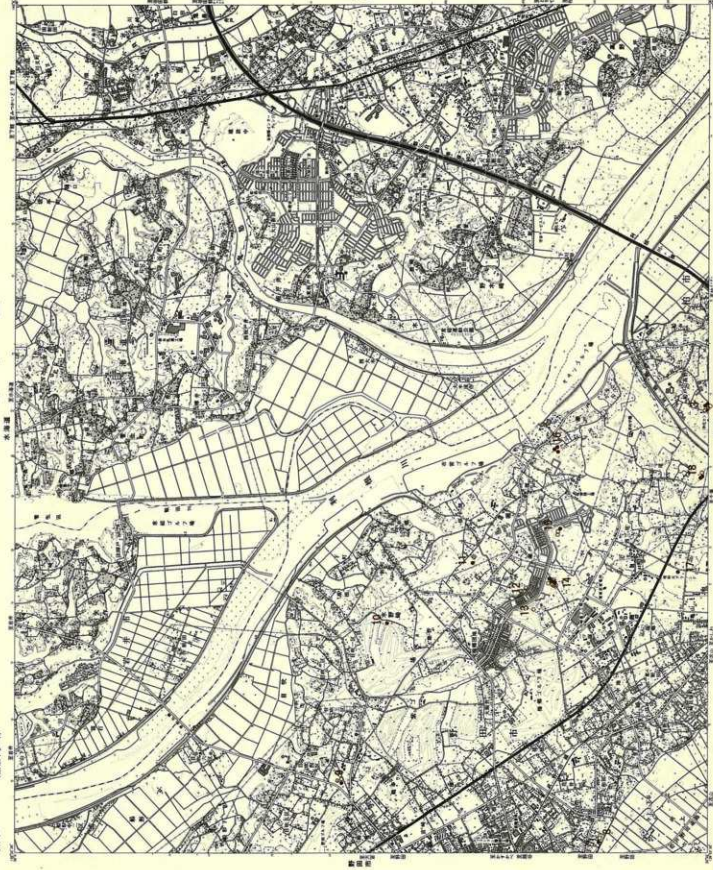


1B 野田市



1:25,000 地形図 N-54-25-1-1
(国土地理院)

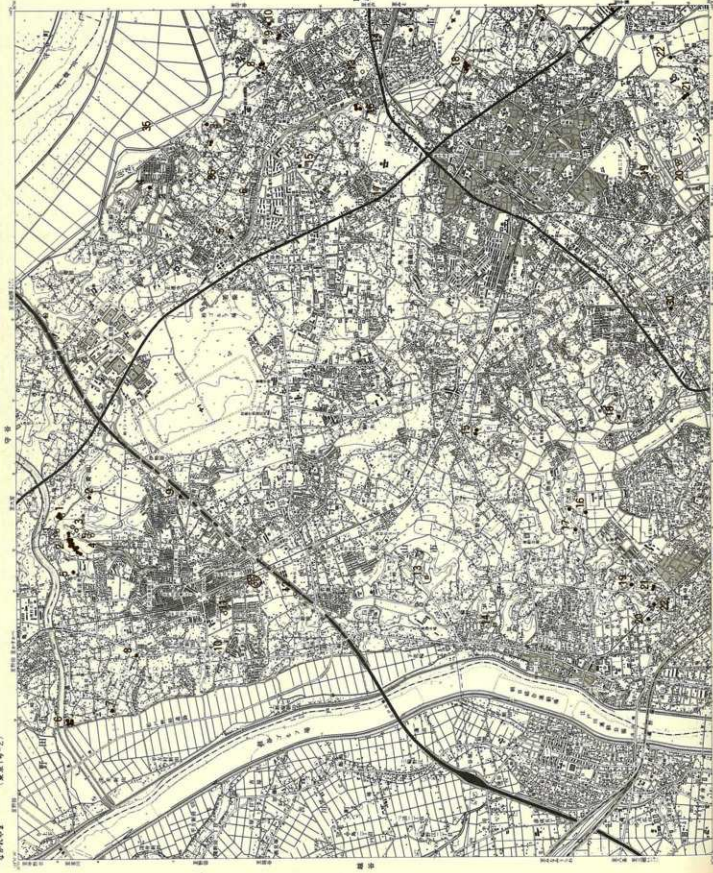
2 中谷



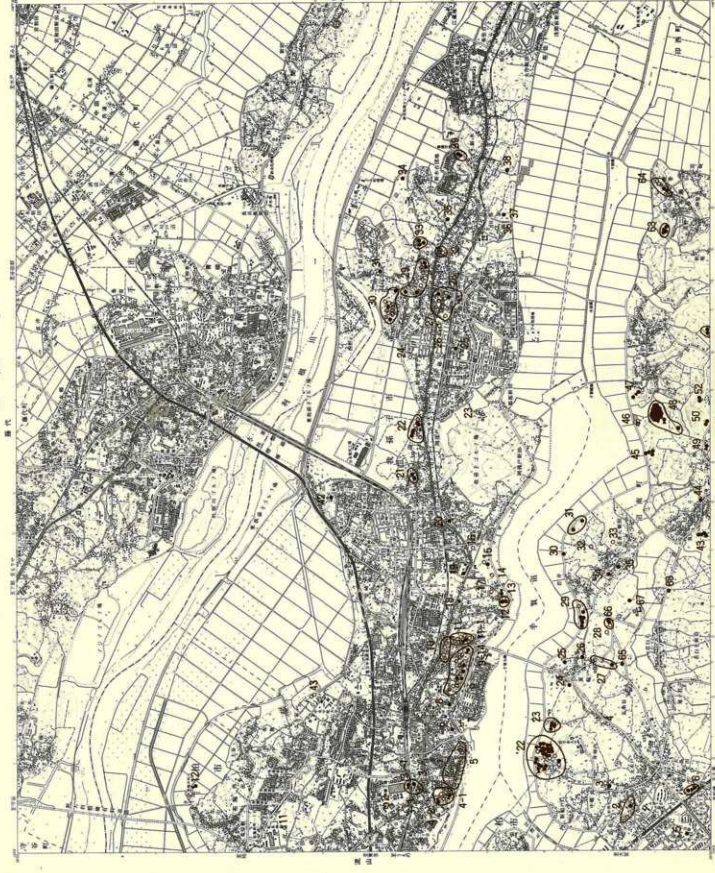
1:25,000 地形図 N-54-25-1-1
(国土地理院)

1. 国土地理院
2. 国土地理院
3. 国土地理院
4. 国土地理院
5. 国土地理院
6. 国土地理院
7. 国土地理院
8. 国土地理院
9. 国土地理院
10. 国土地理院
11. 国土地理院
12. 国土地理院
13. 国土地理院
14. 国土地理院
15. 国土地理院
16. 国土地理院
17. 国土地理院
18. 国土地理院
19. 国土地理院
20. 国土地理院
21. 国土地理院
22. 国土地理院
23. 国土地理院
24. 国土地理院
25. 国土地理院
26. 国土地理院
27. 国土地理院
28. 国土地理院
29. 国土地理院
30. 国土地理院
31. 国土地理院
32. 国土地理院
33. 国土地理院
34. 国土地理院
35. 国土地理院
36. 国土地理院
37. 国土地理院
38. 国土地理院
39. 国土地理院
40. 国土地理院
41. 国土地理院
42. 国土地理院
43. 国土地理院
44. 国土地理院
45. 国土地理院
46. 国土地理院
47. 国土地理院
48. 国土地理院
49. 国土地理院
50. 国土地理院
51. 国土地理院
52. 国土地理院
53. 国土地理院
54. 国土地理院
55. 国土地理院
56. 国土地理院
57. 国土地理院
58. 国土地理院
59. 国土地理院
60. 国土地理院
61. 国土地理院
62. 国土地理院
63. 国土地理院
64. 国土地理院
65. 国土地理院
66. 国土地理院
67. 国土地理院
68. 国土地理院
69. 国土地理院
70. 国土地理院
71. 国土地理院
72. 国土地理院
73. 国土地理院
74. 国土地理院
75. 国土地理院
76. 国土地理院
77. 国土地理院
78. 国土地理院
79. 国土地理院
80. 国土地理院
81. 国土地理院
82. 国土地理院
83. 国土地理院
84. 国土地理院
85. 国土地理院
86. 国土地理院
87. 国土地理院
88. 国土地理院
89. 国土地理院
90. 国土地理院
91. 国土地理院
92. 国土地理院
93. 国土地理院
94. 国土地理院
95. 国土地理院
96. 国土地理院
97. 国土地理院
98. 国土地理院
99. 国土地理院
100. 国土地理院

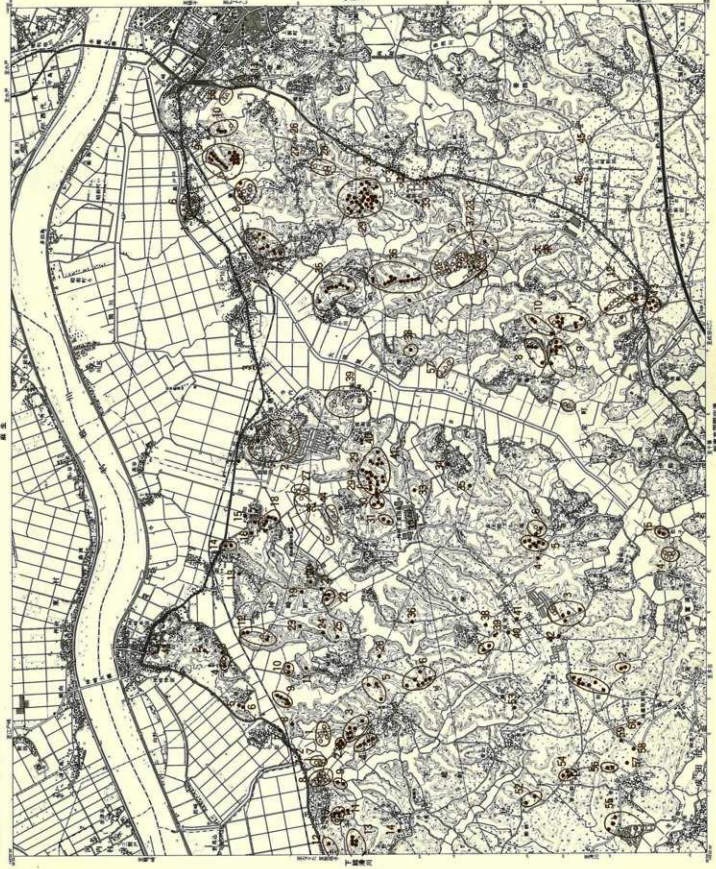
3 流 山



4 取 手

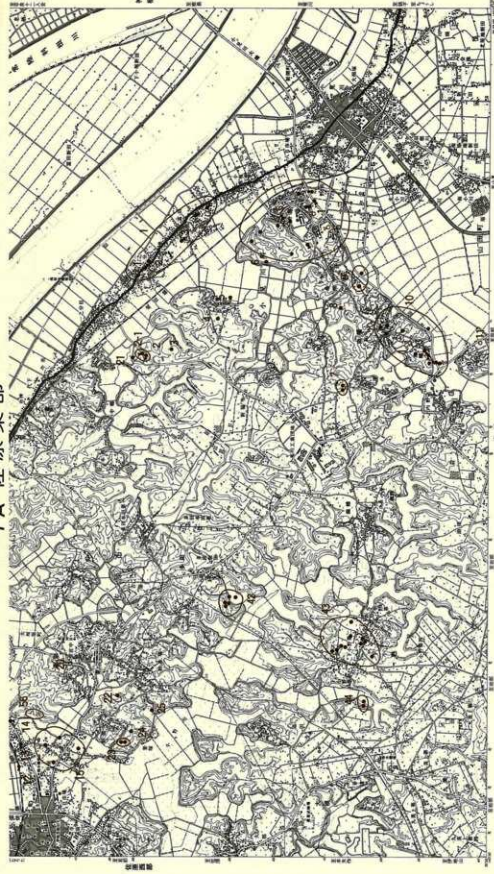


6 佐原西部

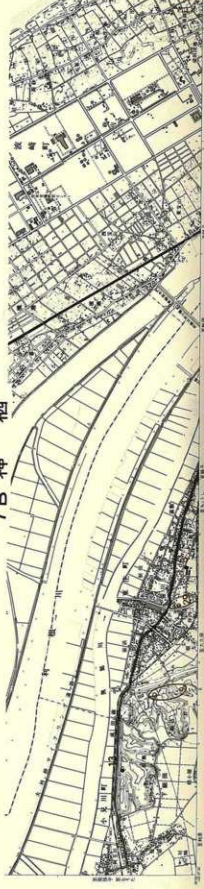


1:25,000 佐原西部

7A 佐原東部

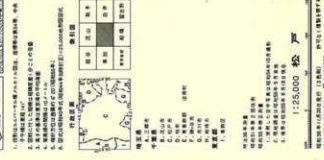


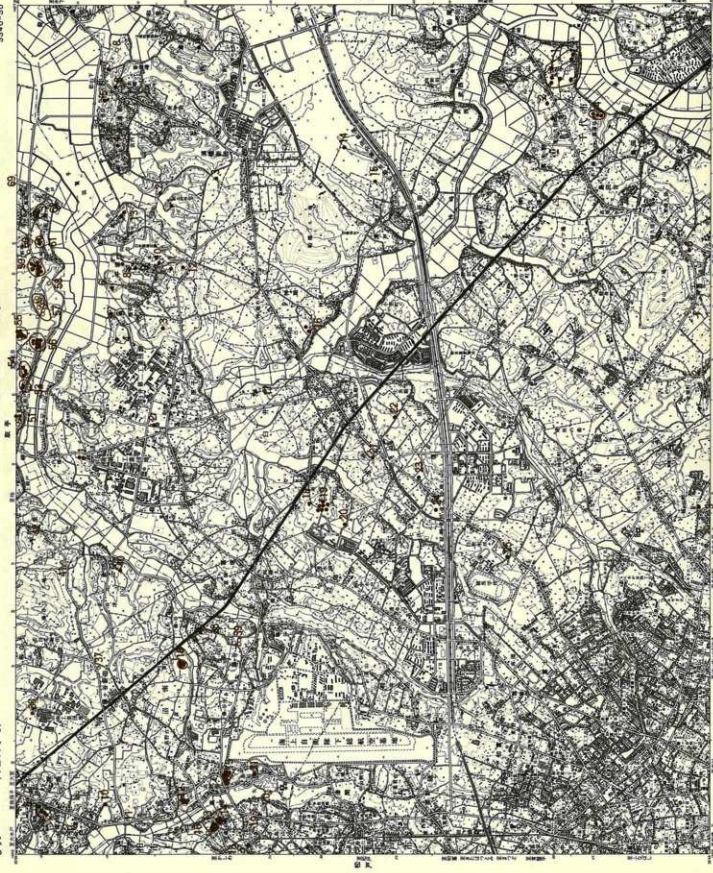
7B 神栖



1:25,000 地形図 NI-54-25-2-1
5分図 (国土地理院)

8 松戸



[illegible]

姓名	性别	年龄	职业	住址	电话
王德胜	男	45	教师	XX路XX号	XXXX
李小红	女	32	护士	XX路XX号	XXXX
张小明	男	28	学生	XX路XX号	XXXX
赵大伟	男	50	工人	XX路XX号	XXXX
孙丽娟	女	40	医生	XX路XX号	XXXX
周国强	男	35	工程师	XX路XX号	XXXX
吴小芳	女	25	会计	XX路XX号	XXXX
郑大刚	男	48	经理	XX路XX号	XXXX
陈小红	女	38	教授	XX路XX号	XXXX
周小明	男	22	程序员	XX路XX号	XXXX
吴大伟	男	55	农民	XX路XX号	XXXX
孙丽娟	女	42	作家	XX路XX号	XXXX
周国强	男	30	律师	XX路XX号	XXXX
吴小芳	女	20	歌手	XX路XX号	XXXX
郑大刚	男	40	画家	XX路XX号	XXXX
陈小红	女	35	科学家	XX路XX号	XXXX
周小明	男	25	记者	XX路XX号	XXXX
吴大伟	男	52	厨师	XX路XX号	XXXX
孙丽娟	女	45	舞蹈家	XX路XX号	XXXX
周国强	男	33	建筑师	XX路XX号	XXXX
吴小芳	女	23	模特	XX路XX号	XXXX
郑大刚	男	43	音乐家	XX路XX号	XXXX
陈小红	女	33	天文学家	XX路XX号	XXXX
周小明	男	23	历史学家	XX路XX号	XXXX
吴大伟	男	53	生物学家	XX路XX号	XXXX
孙丽娟	女	43	化学家	XX路XX号	XXXX
周国强	男	33	物理学家	XX路XX号	XXXX
吴小芳	女	23	数学家	XX路XX号	XXXX
郑大刚	男	43	哲学家	XX路XX号	XXXX
陈小红	女	33	社会学家	XX路XX号	XXXX
周小明	男	23	政治学家	XX路XX号	XXXX
吴大伟	男	53	经济学家	XX路XX号	XXXX
孙丽娟	女	43	环境学家	XX路XX号	XXXX
周国强	男	33	海洋学家	XX路XX号	XXXX
吴小芳	女	23	气象学家	XX路XX号	XXXX
郑大刚	男	43	地质学家	XX路XX号	XXXX
陈小红	女	33	天文学家	XX路XX号	XXXX
周小明	男	23	历史学家	XX路XX号	XXXX
吴大伟	男	53	生物学家	XX路XX号	XXXX
孙丽娟	女	43	化学家	XX路XX号	XXXX
周国强	男	33	物理学家	XX路XX号	XXXX
吴小芳	女	23	数学家	XX路XX号	XXXX
郑大刚	男	43	哲学家	XX路XX号	XXXX
陈小红	女	33	社会学家	XX路XX号	XXXX
周小明	男	23	政治学家	XX路XX号	XXXX
吴大伟	男	53	经济学家	XX路XX号	XXXX
孙丽娟	女	43	环境学家	XX路XX号	XXXX
周国强	男	33	海洋学家	XX路XX号	XXXX
吴小芳	女	23	气象学家	XX路XX号	XXXX
郑大刚	男	43	地质学家	XX路XX号	XXXX
陈小红	女	33	天文学家	XX路XX号	XXXX
周小明	男	23	历史学家	XX路XX号	XXXX
吴大伟	男	53	生物学家	XX路XX号	XXXX
孙丽娟	女	43	化学家	XX路XX号	XXXX
周国强	男	33	物理学家	XX路XX号	XXXX
吴小芳	女	23	数学家	XX路XX号	XXXX
郑大刚	男	43	哲学家	XX路XX号	XXXX
陈小红	女	33	社会学家	XX路XX号	XXXX
周小明	男	23	政治学家	XX路XX号	XXXX
吴大伟	男	53	经济学家	XX路XX号	XXXX
孙丽娟	女	43	环境学家	XX路XX号	XXXX
周国强	男	33	海洋学家	XX路XX号	XXXX
吴小芳	女	23	气象学家	XX路XX号	XXXX
郑大刚	男	43	地质学家	XX路XX号	XXXX
陈小红	女	33	天文学家	XX路XX号	XXXX
周小明	男	23	历史学家	XX路XX号	XXXX
吴大伟	男	53	生物学家	XX路XX号	XXXX
孙丽娟	女	43	化学家	XX路XX号	XXXX
周国强	男	33	物理学家	XX路XX号	XXXX
吴小芳	女	23	数学家	XX路XX号	XXXX
郑大刚	男	43	哲学家	XX路XX号	XXXX
陈小红	女	33	社会学家	XX路XX号	XXXX
周小明	男	23	政治学家	XX路XX号	XXXX
吴大伟	男	53	经济学家	XX路XX号	XXXX
孙丽娟	女	43	环境学家	XX路XX号	XXXX
周国强	男	33	海洋学家	XX路XX号	XXXX
吴小芳	女	23	气象学家	XX路XX号	XXXX
郑大刚	男	43	地质学家	XX路XX号	XXXX
陈小红	女	33	天文学家	XX路XX号	XXXX
周小明	男	23	历史学家	XX路XX号	XXXX
吴大伟	男	53	生物学家	XX路XX号	XXXX
孙丽娟	女	43	化学家	XX路XX号	XXXX
周国强	男	33	物理学家	XX路XX号	XXXX
吴小芳	女	23	数学家	XX路XX号	XXXX
郑大刚	男	43	哲学家	XX路XX号	XXXX
陈小红	女	33	社会学家	XX路XX号	XXXX
周小明	男	23	政治学家	XX路XX号	XXXX
吴大伟	男	53	经济学家	XX路XX号	XXXX
孙丽娟	女	43	环境学家	XX路XX号	XXXX
周国强	男	33	海洋学家	XX路XX号	XXXX
吴小芳	女	23	气象学家	XX路XX号	XXXX
郑大刚	男	43	地质学家	XX路XX号	XXXX
陈小红	女	33	天文学家	XX路XX号	XXXX
周小明	男	23	历史学家	XX路XX号	XXXX
吴大伟	男	53	生物学家	XX路XX号	XXXX
孙丽娟	女	43	化学家	XX路XX号	XXXX
周国强	男	33	物理学家	XX路XX号	XXXX
吴小芳	女	23	数学家	XX路XX号	XXXX
郑大刚	男	43	哲学家	XX路XX号	XXXX
陈小红	女	33	社会学家	XX路XX号	XXXX
周小明	男	23	政治学家	XX路XX号	XXXX
吴大伟	男	53	经济学家	XX路XX号	XXXX
孙丽娟	女	43	环境学家	XX路XX号	XXXX
周国强	男	33	海洋学家	XX路XX号	XXXX
吴小芳	女	23	气象学家	XX路XX号	XXXX
郑大刚	男	43	地质学家	XX路XX号	XXXX
陈小红	女	33	天文学家	XX路XX号	XXXX
周小明	男	23	历史学家	XX路XX号	XXXX
吴大伟	男	53	生物学家	XX路XX号	XXXX
孙丽娟	女	43	化学家	XX路XX号	XXXX
周国强	男	33	物理学家	XX路XX号	XXXX
吴小芳	女	23	数学家	XX路XX号	XXXX
郑大刚	男	43	哲学家	XX路XX号	XXXX
陈小红	女	33	社会学家	XX路XX号	XXXX
周小明	男	23	政治学家	XX路XX号	XXXX
吴大伟	男	53	经济学家	XX路XX号	XXXX
孙丽娟	女	43	环境学家	XX路XX号	XXXX
周国强	男	33	海洋学家	XX路XX号	XXXX
吴小芳	女	23	气象学家	XX路XX号	XXXX
郑大刚	男	43	地质学家	XX路XX号	XXXX
陈小红	女	33	天文学家	XX路XX号	XXXX
周小明	男	23	历史学家	XX路XX号	XXXX
吴大伟	男	53	生物学家	XX路XX号	XXXX
孙丽娟	女	43	化学家	XX路XX号	XXXX
周国强	男	33	物理学家	XX路XX号	XXXX
吴小芳	女	23	数学家	XX路XX号	XXXX
郑大刚	男	43	哲学家	XX路XX号	XXXX
陈小红	女	33	社会学家	XX路XX号	XXXX
周小明	男	23	政治学家	XX路XX号	XXXX
吴大伟	男	53	经济学家	XX路XX号	XXXX
孙丽娟	女	43	环境学家	XX路XX号	XXXX
周国强	男	33	海洋学家	XX路XX号	XXXX
吴小芳	女	23	气象学家	XX路XX号	XXXX
郑大刚	男	43	地质学家	XX路XX号	XXXX
陈小红	女	33	天文学家	XX路XX号	XXXX
周小明	男	23	历史学家	XX路XX号	XXXX
吴大伟	男	53	生物学家	XX路XX号	XXXX
孙丽娟	女	43	化学家	XX路XX号	XXXX
周国强	男	33	物理学家	XX路XX号	XXXX
吴小芳	女	23	数学家	XX路XX号	XXXX
郑大刚	男	43	哲学家	XX路XX号	XXXX
陈小红	女	33	社会学家	XX路XX号	XXXX
周小明	男	23	政治学家	XX路XX号	XXXX
吴大伟	男	53	经济学家	XX路XX号	XXXX
孙丽娟	女	43	环境学家	XX路XX号	XXXX
周国强	男	33	海洋学家	XX路XX号	XXXX
吴小芳	女	23	气象学家	XX路XX号	XXXX
郑大刚	男	43	地质学家	XX路XX号	XXXX
陈小红	女	33	天文学家	XX路XX号	XXXX
周小明	男	23	历史学家	XX路XX号	XXXX
吴大伟	男	53	生物学家	XX路XX号	XXXX
孙丽娟	女	43	化学家	XX路XX号	XXXX
周国强	男	33	物理学家	XX路XX号	XXXX
吴小芳	女	23	数学家	XX路XX号	XXXX
郑大刚	男	43	哲学家	XX路XX号	XXXX
陈小红	女	33	社会学家	XX路XX号	XXXX
周小明	男	23	政治学家	XX路XX号	XXXX
吴大伟	男	53	经济学家	XX路XX号	XXXX
孙丽娟	女	43	环境学家	XX路XX号	XXXX
周国强	男	33	海洋学家	XX路XX号	XXXX
吴小芳	女	23	气象学家	XX路XX号	XXXX
郑大刚	男	43	地质学家	XX路XX号	XXXX
陈小红	女	33	天文学家	XX路XX号	XXXX
周小明	男	23	历史学家	XX路XX号	XXXX
吴大伟	男	53	生物学家	XX路XX号	XXXX
孙丽娟	女	43	化学家	XX路XX号	XXXX
周国强	男	33	物理学家	XX路XX号	XXXX
吴小芳	女	23	数学家	XX路XX号	XXXX
郑大刚	男	43	哲学家	XX路XX号	XXXX
陈小红	女	33	社会学家	XX路XX号	XXXX
周小明	男	23	政治学家	XX路XX号	XXXX
吴大伟	男	53	经济学家	XX路XX号	XXXX
孙丽娟	女	43	环境学家	XX路XX号	XXXX
周国强	男	33	海洋学家	XX路XX号	XXXX
吴小芳	女	23	气象学家	XX路XX号	XXXX
郑大刚	男	43	地质学家	XX路XX号	XXXX
陈小红	女	33	天文学家	XX路XX号	XXXX
周小明	男	23	历史学家	XX路XX号	XXXX
吴大伟	男	53	生物学家	XX路XX号	XXXX
孙丽娟	女	43	化学家	XX路XX号	XXXX
周国强	男	33	物理学家	XX路XX号	XXXX
吴小芳	女	23	数学家	XX路XX号	XXXX
郑大刚	男	43	哲学家	XX路XX号	XXXX
陈小红	女	33	社会学家	XX路XX号	XXXX
周小明	男	23	政治学家	XX路XX号	XXXX
吴大伟	男	53	经济学家	XX路XX号	XXXX
孙丽娟	女	43	环境学家	XX路XX号	XXXX
周国强	男	33	海洋学家	XX路XX号	XXXX
吴小芳	女	23	气象学家	XX路XX号	XXXX
郑大刚	男	43	地质学家	XX路XX号	XXXX
陈小红	女	33	天文学家	XX路XX号	XXXX
周小明	男	23	历史学家	XX路XX号	XXXX
吴大伟	男	53	生物学家	XX路XX号	XXXX
孙丽娟	女	43	化学家	XX路XX号	XXXX
周国强	男	33	物理学家	XX路XX号	XXXX
吴小芳	女	23	数学家	XX路XX号	XXXX
郑大刚	男	43	哲学家	XX路XX号	XXXX
陈小红	女	33	社会学家	XX路XX号	XXXX
周小明	男	23	政治学家	XX路XX号	XXXX
吴大伟	男	53	经济学家	XX路XX号	XXXX
孙丽娟	女	43	环境学家	XX路XX号	XXXX
周国强	男	33	海洋学家	XX路XX号	XXXX
吴小芳	女	23	气象学家	XX路XX号	XXXX
郑大刚	男	43	地质学家	XX路XX号	XXXX
陈小红	女	33	天文学家	XX路XX号	XXXX
周小明	男	23	历史学家	XX路XX号	XXXX
吴大伟	男	53	生物学家	XX路XX号	XXXX
孙丽娟	女	43	化学家	XX路XX号	XXXX
周国强	男	33	物理学家	XX路XX号	XXXX
吴小芳	女	23	数学家	XX路XX号	XXXX
郑大刚	男	43	哲学家	XX路XX号	XXXX
陈小红	女	33	社会学家	XX路XX号	XXXX
周小明	男	23	政治学家	XX路XX号	XXXX
吴大伟	男	53	经济学家	XX路XX号	XXXX
孙丽娟	女	43	环境学家	XX路XX号	XXXX
周国强	男	33	海洋学家	XX路XX号	XXXX
吴小芳	女	23	气象学家	XX路XX号	XXXX
郑大刚	男	43	地质学家	XX路XX号	XXXX
陈小红	女	33	天文学家	XX路XX号	XXXX
周小明	男	23	历史学家	XX路XX号	XXXX
吴大伟	男	53	生物学家	XX路XX号	XXXX
孙丽娟	女	43	化学家	XX路XX号	XXXX
周国强	男	33	物理学家	XX路XX号	XXXX
吴小芳	女	23	数学家	XX路XX号	XXXX
郑大刚	男	43	哲学家	XX路XX号	XXXX
陈小红	女	33	社会学家	XX路XX号	XXXX
周小明	男	23	政治学家	XX路XX号	XXXX
吴大伟	男	53	经济学家	XX路XX号	XXXX
孙丽娟	女	43	环境学家	XX路XX号	XXXX
周国强	男	33	海洋学家	XX路XX号	XXXX
吴小芳	女	23	气象学家	XX路XX号	XXXX
郑大刚	男	43	地质学家	XX路XX号	XXXX
陈小红	女	33	天文学家	XX路XX号	XXXX
周小明	男	23	历史学家	XX路XX号	XXXX
吴大伟	男	53	生物学家	XX路XX号	XXXX
孙丽娟	女	43	化学家	XX路XX号	XXXX
周国强	男	33	物理学家	XX路XX号	XXXX
吴小芳	女	23	数学家	XX路XX号	XXXX
郑大刚	男	43	哲学家	XX路XX号	XXXX
陈小红	女	33	社会学家	XX路XX号	XXXX
周小明	男	23	政治学家	XX路XX号	XXXX
吴大伟	男	53	经济学家	XX路XX号	XXXX
孙丽娟	女	43	环境学家	XX路XX号	XXXX
周国强	男	33	海洋学家	XX路XX号	XXXX
吴小芳	女	23	气象学家	XX路XX号	XXXX
郑大刚	男	43	地质学家	XX路XX号	XXXX
陈小红	女	33	天文学家	XX路XX号	XXXX
周小明	男	23	历史学家	XX路XX号	XXXX
吴大伟	男	53	生物学家	XX路XX号	XXXX
孙丽娟	女	43	化学家	XX路XX号	XXXX
周国强	男	33	物理学家	XX路XX号	XXXX
吴小芳	女	23	数学家	XX路XX号	XXXX
郑大刚	男	43	哲学家	XX路XX号	XXXX
陈小红	女	33	社会学家	XX路XX号	XXXX
周小明	男	23	政治学家	XX路XX号	XXXX
吴大伟	男	53	经济学家	XX路XX号	XXXX
孙丽娟	女	43	环境学家	XX路XX号	XXXX
周国强	男	33	海洋学家	XX路XX号	XXXX
吴小芳	女	23	气象学家	XX路XX号	XXXX
郑大刚	男	43	地质学家	XX路XX号	XXXX
陈小红	女	33	天文学家	XX路XX号	XXXX
周小明	男	23	历史学家	XX路XX号	XXXX
吴大伟	男	53	生物学家	XX路XX号	XXXX
孙丽娟	女	43	化学家	XX路XX号	XXXX
周国强	男	33	物理学家	XX路XX号	XXXX
吴小芳	女	23	数学家	XX路XX号	XXXX
郑大刚</					



1. 労働者は、労働契約に基づき、労働者の権利を行使し、労働者の義務を履行する。
2. 労働者は、労働契約に基づき、労働者の権利を行使し、労働者の義務を履行する。
3. 労働者は、労働契約に基づき、労働者の権利を行使し、労働者の義務を履行する。
4. 労働者は、労働契約に基づき、労働者の権利を行使し、労働者の義務を履行する。
5. 労働者は、労働契約に基づき、労働者の権利を行使し、労働者の義務を履行する。

行經圖



行經圖

行經圖	行經圖	行經圖
行經圖	行經圖	行經圖
行經圖	行經圖	行經圖



中國畫

A. 畫景詩詞
B. 山水
C. 雜畫
D. 人物
E. 花鳥
F. 雜畫

1. 山水詩
2. 雜畫詩

[illegible]

1. 姓名: 王明
 2. 性别: 男
 3. 年龄: 25
 4. 职业: 教师
 5. 籍贯: 浙江杭州
 6. 民族: 汉族
 7. 婚姻状况: 未婚
 8. 学历: 本科
 9. 毕业院校: 浙江大学
 10. 专业: 教育学
 11. 学位: 学士
 12. 工作单位: 杭州市教育局
 13. 联系电话: 13800000000
 14. 电子邮箱: wangming@163.com
 15. 身份证号: 330101199801010001
 16. 血型: O型
 17. 身高: 175cm
 18. 体重: 70kg
 19. 视力: 正常
 20. 听力: 正常
 21. 健康状况: 良好
 22. 兴趣爱好: 阅读、运动、旅游
 23. 自我评价: 性格开朗、为人正直、责任心强
 24. 求职意向: 教师、行政人员
 25. 备注: 本人诚实守信，工作认真负责，有较强的团队协作精神。

[illegible]

1. 投票はユニバーサル・マン・フル・システムで、投票者は14歳、中央
予備校は第14校。
2. 投票に付しては投票の記録を保持し合ふことの問題。
3. 両方の選挙は東京市の平均所得。
4. 東京市の平均所得は12,000円。
5. 選挙区は投票の75% (第14校)。

4. 图中阴影部分表示的时区是 ()

甲	乙
丙	丁



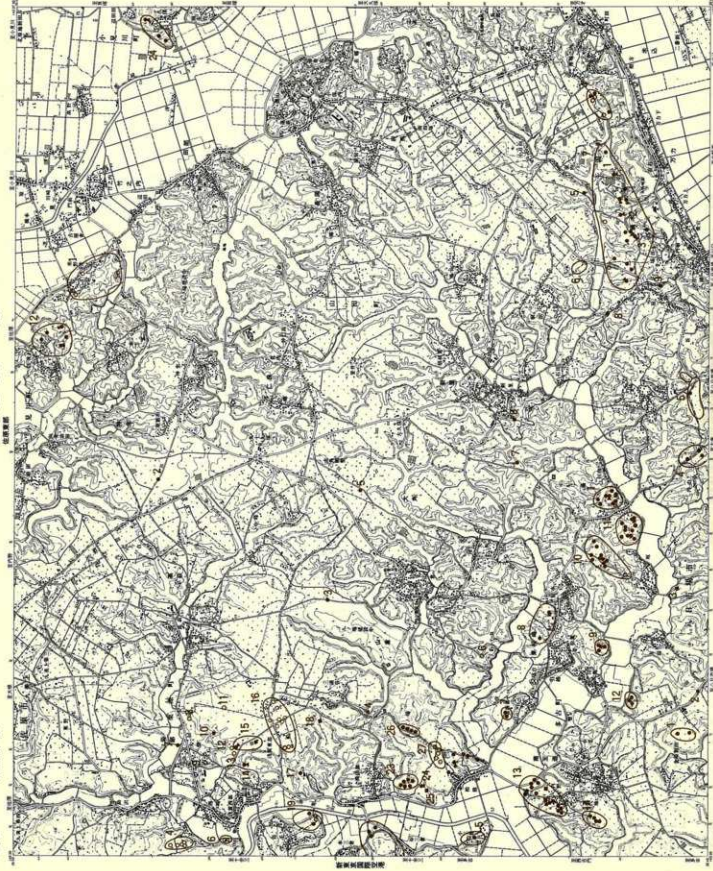
千島湖

A. 旧通湖 B. 新通湖 C. 新通湖 D. 新通湖

2. 该湖位于 A. 吉林省 B. 辽宁省 C. 黑龙江省 D. 内蒙古自治区

[illegible]





15A 鹿島矢田部



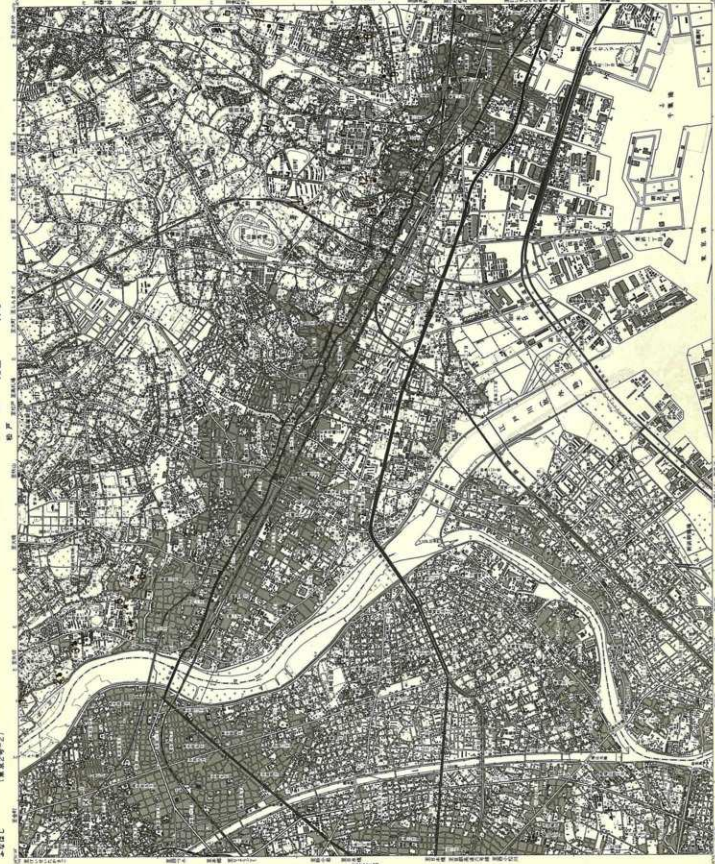
1:25,000 地形図 N154-B-2-4
1:25,000 地形図 N154-B-2-4

15B 銚子



1:25,000 地形図 N154-B-2-2
1:25,000 地形図 N154-B-2-2

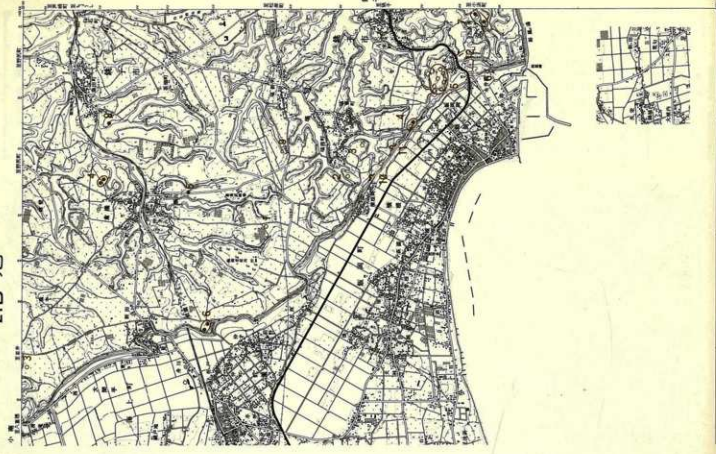
16 船橋

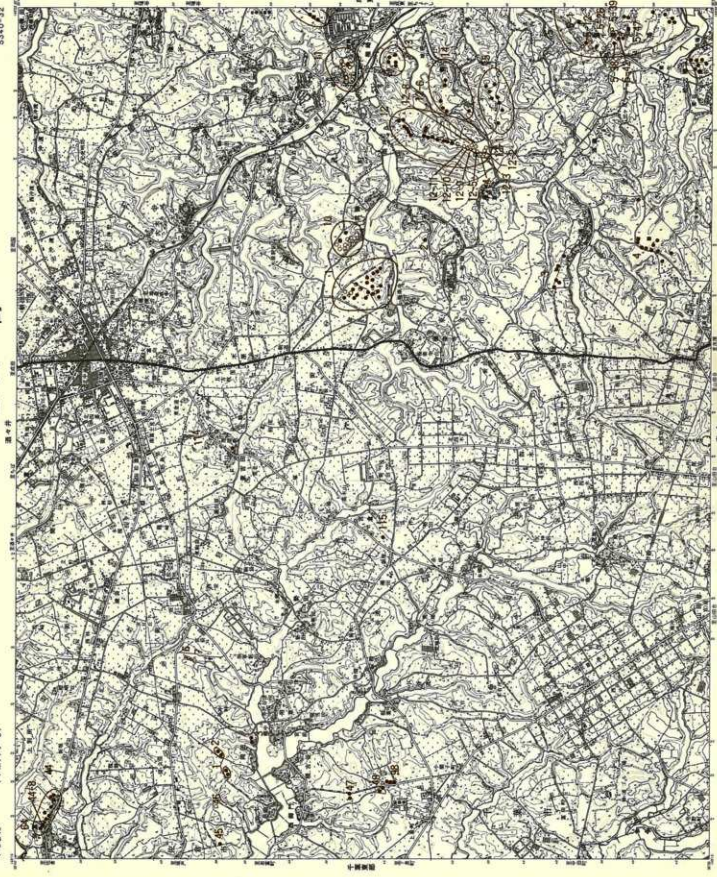


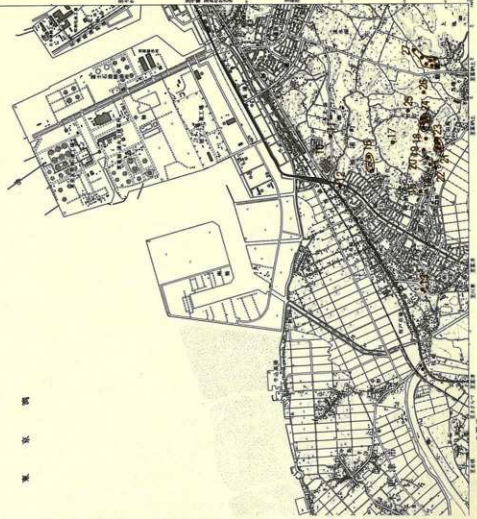
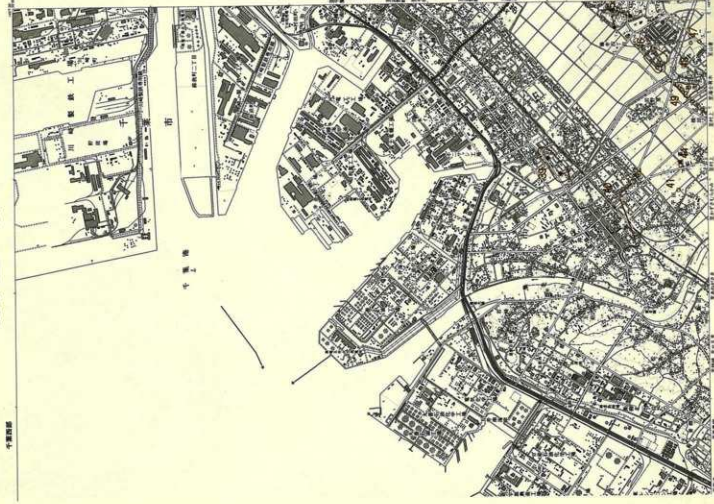
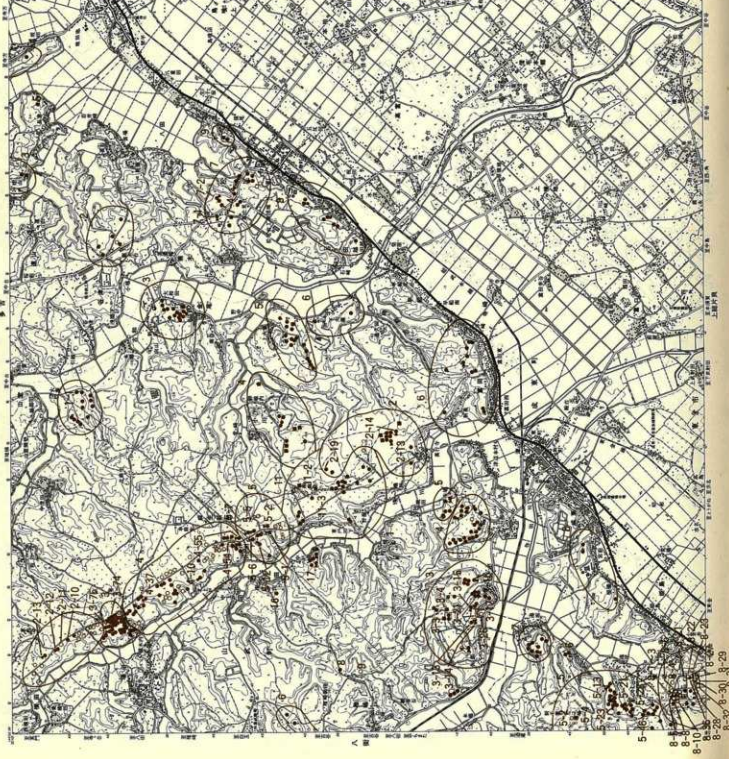


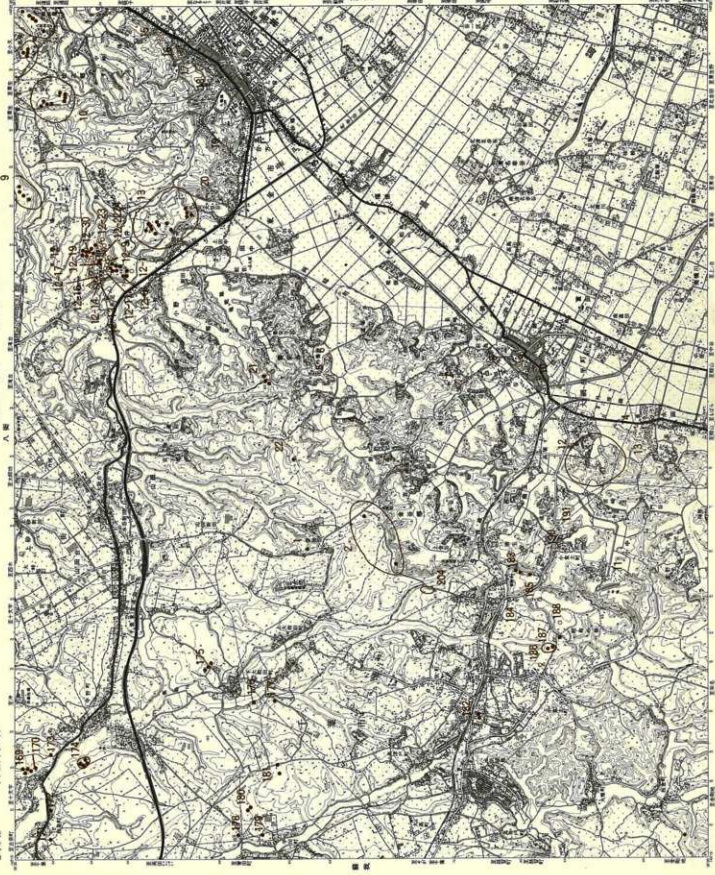
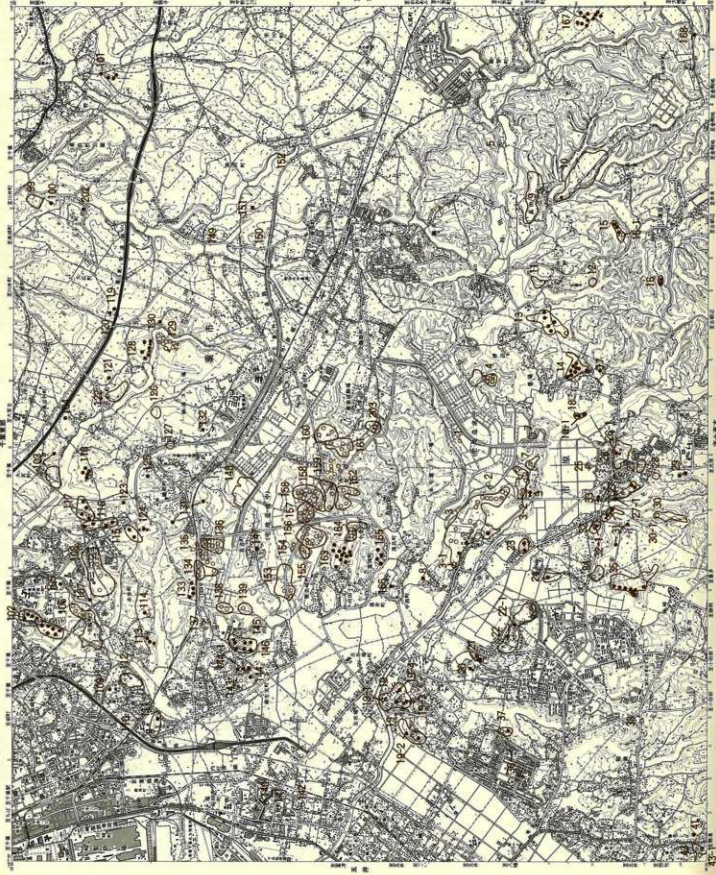
NI-54-19-10-2
(千重10号-2)







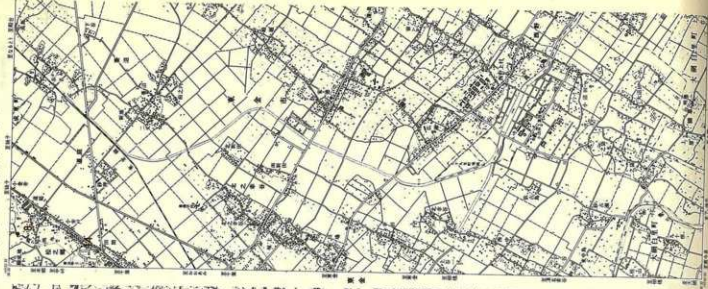
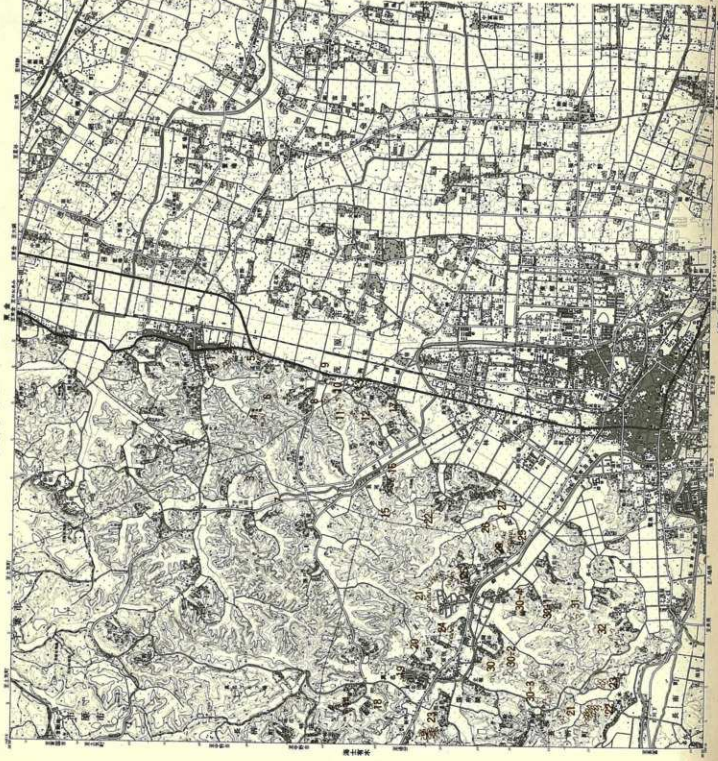






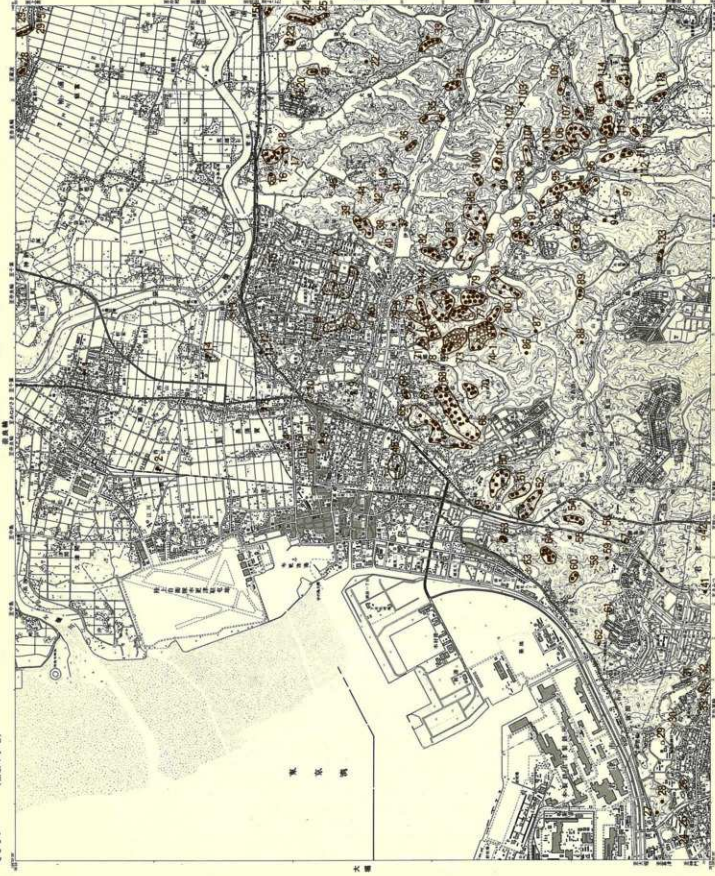
2

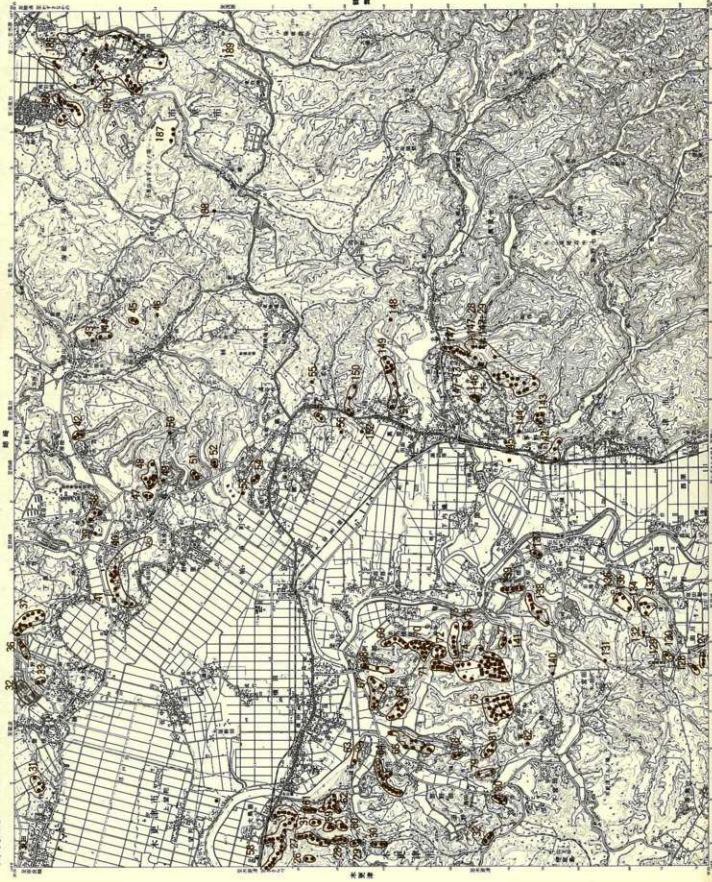




1:25,000 地形図 NH-54-25-A-2
番号54

32 木更津



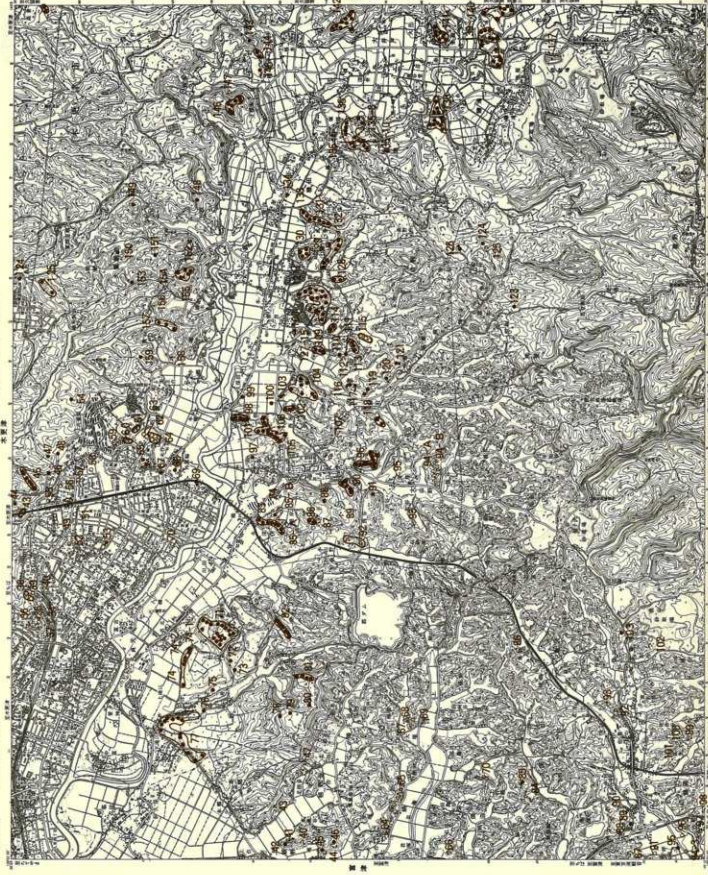


1:25,000 上総横田
集積部 N=54-19-16-4
かつまふた (半量 16 号)



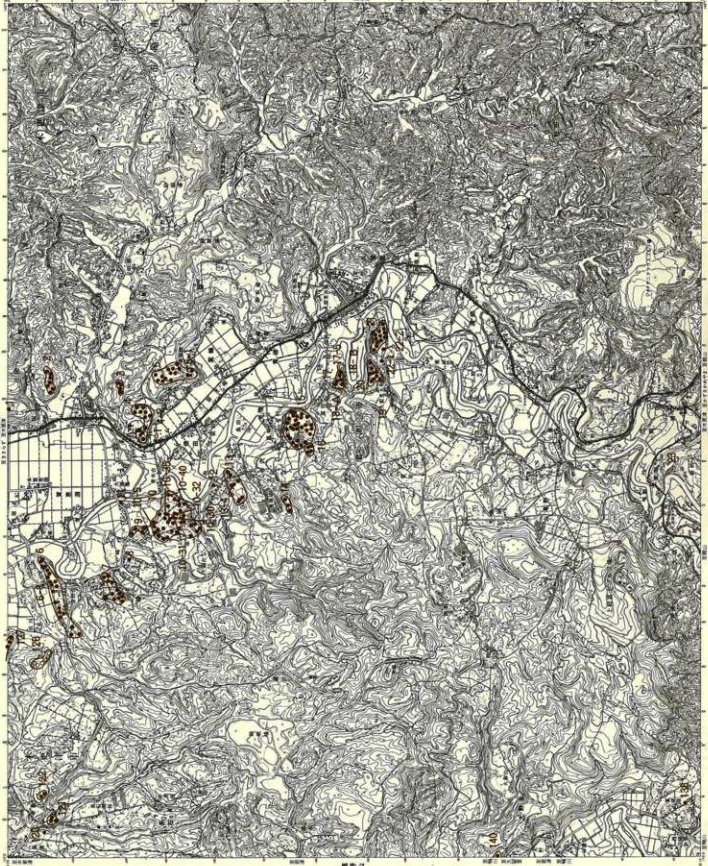
1:25,000 鶴舞
集積部 N=54-19-16-2
つるまふた (半量 16 号)



[illegible]

1:25,000 鹿野山

1000 100 10 1



● ● ● ● ●

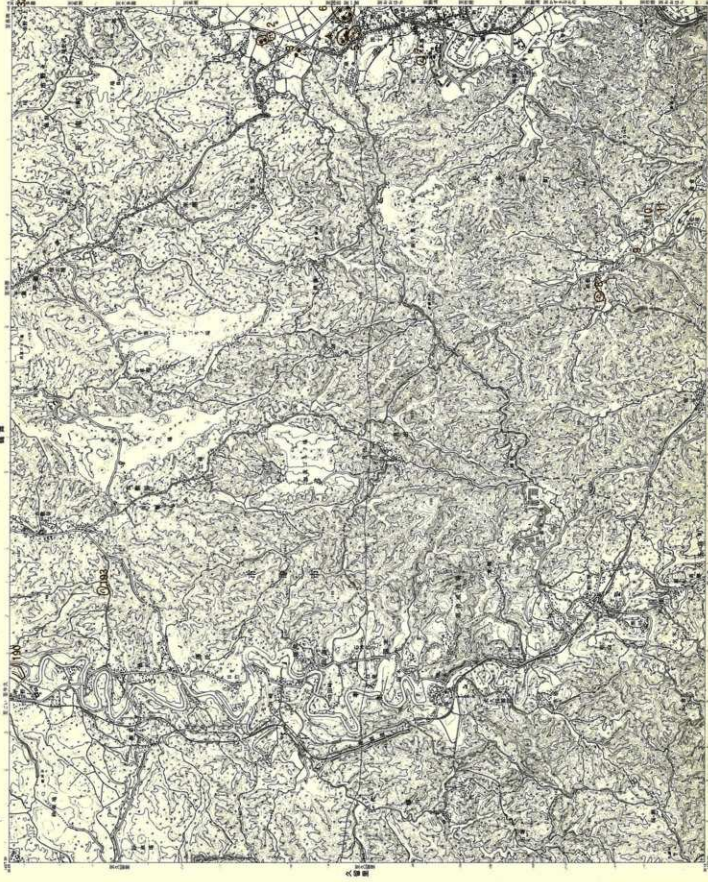
● 2017 年 10 月 1 日起实施

2. 研究調查資料的整理、分析與報告

1:25,000 久留里

2008年11月20日發行 (三週刊)
第100期 第1000頁 第1000頁

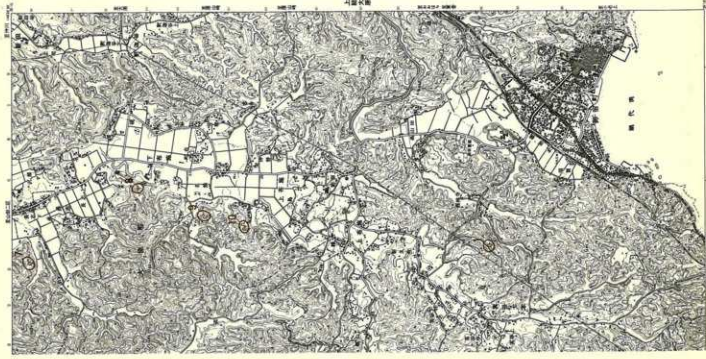
39 大 多 喜



40 国 吉



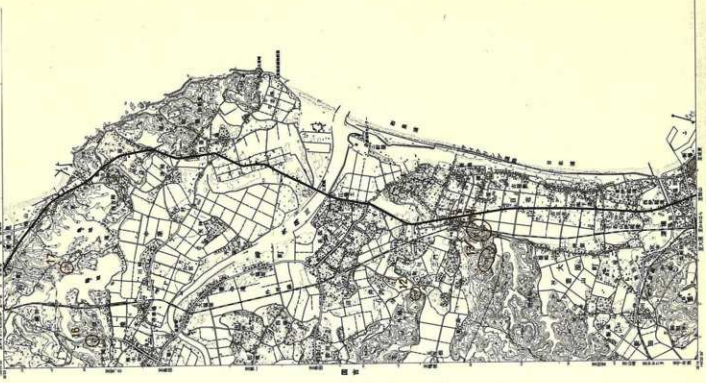
41A 御 宿



41B 上 総 大 原



41C 上 総 長 者



42A 上 総 湫



42B 鬼 沼 山



43A 保田



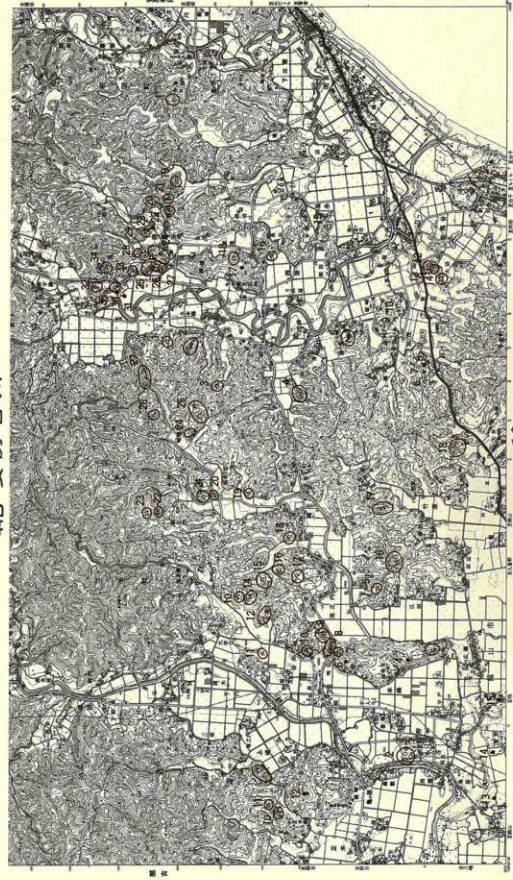
43B 那古



44A 金東



44B 安房古川



45A 鴨 川

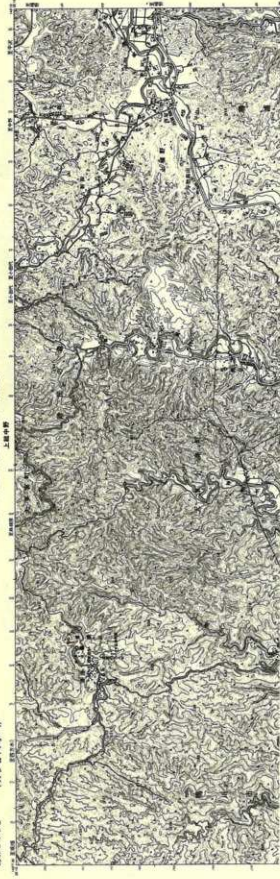


45B 安房和田



46A 安房小湊

正統200番地 11-25-25-14-1
新田200番地 11-25-25-14-1



46B 勝 浦

正統200番地 11-25-25-14-1
新田200番地 11-25-25-14-1





千葉県所在古墳詳細分布調査報告書

平成2年3月31日発行

発行者 千葉県教育委員会

編集者 千葉県教育庁文化課
千葉市中央4丁目13番28号

印刷所 旭印刷株式会社
